



System i

プログラミング

CICS Transaction Server for i5/OS コマンド

バージョン 6 リリース 1







System i

プログラミング

**CICS Transaction Server for i5/OS コマンド**

バージョン 6 リリース 1

#### ご注意

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、335 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM CICS Transaction Server for i5/OS (プロダクト番号 5761-DFH) のバージョン 6、リリース 1、モディフィケーション 0 に適用されます。また、改訂版で断りがない限り、それ以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。このバージョンは、すべての RISC モデルで稼働するとは限りません。また CISC モデルでは稼働しません。

IBM 発行のマニュアルに関する情報のページ

<http://www.ibm.com/jp/manuals/>

こちらから、日本語版および英語版のオンライン・ライブラリーをご利用いただけます。また、マニュアルに関するご意見やご感想を、上記ページよりお送りください。今後の参考にさせていただきます。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： System i  
Programming  
CICS Transaction Server for i5/OS commands  
Version 6 Release 1

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2008.2

© Copyright International Business Machines Corporation 1998, 2008. All rights reserved.

---

## 目次

CICS CVT項目の追加 (ADDCICSCVT) . . . 1	CICSグループの作成 (CRTCICSGRP) 199
CICS DCT項目の追加 (ADDCICSDCT) . . . 9	CICSマップ作成 (CRTCICSMAP) . . . 203
CICS FCT項目の追加 (ADDCICSFCT) 17	CICSグループの削除 (DLTCICSGRP) 207
CICS GLT項目の追加 (ADDCICSGLT) 25	CICSのダンプ (DMPICICS) . . . . . 209
CICS JCT項目の追加 (ADDCICSJCT) . . . 29	CICS CVTの表示 (DSPICICSCVT) . . . 211
CICS PCT項目の追加 (ADDCICSPCT) 35	CICS DCTの表示 (DSPICICSDCT) . . . 215
CICS PPT項目の追加 (ADDCICSPPT) 41	CICS FCTの表示 (DSPICICSFCT) . . . 219
CICS SIT項目の追加 (ADDCICSSIT) . . . 47	CICS GLTの表示 (DSPICICSGLT) . . . 223
CICS TCS項目の追加 (ADDCICSTCS) 61	CICS JCTの表示 (DSPICICSJCT) . . . 227
CICS TCT項目の追加 (ADDCICSTCT) 67	CICS PCTの表示 (DSPICICSPCT) . . . 229
CICS TST項目の追加 (ADDCICSTST) . . . 77	CICS PPTの表示 (DSPICICSPPT) . . . 233
CICS CVT項目の変更 (CHGCICSCVT) 81	CICS SITの表示 (DSPICICSSIT) . . . . 237
CICS DCT項目の変更 (CHGCICSDCT) 89	CICS状況表示 (DSPICICSSTS) . . . . 239
CICS FCT項目の変更 (CHGCICSFCT) 97	CICS TCSの表示 (DSPICICSTCS) . . . 241
CICSグループの変更 (CHGCICSGRP) 107	CICS TCTの表示 (DSPICICSTCT) . . . 245
CICS JCT項目の変更 (CHGCICSJCT) 109	CICS TSTの表示 (DSPICICSTST) . . . 249
CICS PCT項目の変更 (CHGCICSPCT) 115	CICSの終了 (ENDCICS) . . . . . 253
CICS PPT項目の変更 (CHGCICSPPT) 121	CICSユーザー終了 (ENDCICSUSR) . . . 255
CICS SIT項目の変更 (CHGCICSSIT) 127	CICSグループの導入 (INSCICSGRP) 257
CICS状況変更 (CHGCICSSTS) . . . . 141	CICSテーブルの初期化 (INZCICS) . . . 259
CICS TCS項目の変更 (CHGCICSTCS) 143	CICSトレースの印刷 (PRTCICSTRC) 261
CICS TCT項目の変更 (CHGCICSTCT) 149	CICS CVT項目の除去 (RMVICICSCVT) 265
CICS TST項目の変更 (CHGCICSTST) 159	CICS DCT項目の除去 (RMVICICSDCT) 269
CICS ILE Cオブジェクトの作成 (CRTCICSC) . . . . . 163	CICS FCT項目の除去 (RMVICICSFCT) 271
CICSプログラムの作成 (CRTCICSCBL) 179	CICS GLT項目の除去 (RMVICICSGLT) 273
	CICS JCT項目の除去 (RMVICICSJCT) 277

<b>CICS PCT項目の除去 (RMVCICSPCT)</b>	<b>279</b>	<b>CICS GLTの処理 (WRKCICSGLT)</b>	<b>. . . 311</b>
<b>CICS PPT項目の除去 (RMVCICSPPT)</b>	<b>283</b>	<b>CICSグループの処理 (WRKCICSGRP)</b>	<b>315</b>
<b>CICS SIT項目の除去 (RMVCICSSIT)</b>	<b>285</b>	<b>CICS JCTの処理 (WRKCICSJCT)</b>	<b>. . . 317</b>
<b>CICS TCS項目の除去 (RMVCICSTCS)</b>	<b>287</b>	<b>CICS PCTの処理 (WRKCICSPCT)</b>	<b>. . . 319</b>
<b>CICS TCT項目の除去 (RMVCICSTCT)</b>	<b>289</b>	<b>CICS PPTの処理 (WRKCICSPPT)</b>	<b>. . . 323</b>
<b>CICS TST項目の除去 (RMVCICSTST)</b>	<b>291</b>	<b>CICS SITの処理 (WRKCICSSIT)</b>	<b>. . . 325</b>
<b>CICSグループの保管 (SAVCICSGRP)</b>	<b>293</b>	<b>CICS状況処理 (WRKCICSSTS)</b>	<b>. . . . 327</b>
<b>CICSの開始 (STRCICS)</b>	<b>. . . . . 297</b>	<b>CICS TCSの処理 (WRKCICSTCS)</b>	<b>. . . 329</b>
<b>CICSユーザーの開始 (STRCICSUSR)</b>	<b>301</b>	<b>CICS TCTの処理 (WRKCICSTCT)</b>	<b>. . . 331</b>
<b>CICS CVTの処理 (WRKCICSCVT)</b>	<b>. . . 303</b>	<b>CICS TSTの処理 (WRKCICSTST)</b>	<b>. . . 333</b>
<b>CICS DCTの処理 (WRKCICSDCT)</b>	<b>. . . 307</b>	<b>付録. 特記事項</b>	<b>. . . . . 335</b>
<b>CICS FCTの処理 (WRKCICSFCT)</b>	<b>. . . 309</b>		

---

## CICS CVT項目の追加 (ADDCICSCVT)

### 実行可能場所:

- バッチ・ジョブ (\*BATCH)
- 対話式ジョブ (\*INTERACT)
- バッチ・プログラム (\*BPGM)
- 対話式プログラム (\*IPGM)
- バッチ REXX プロシージャ (\*BREXX)
- 対話式 REXX プロシージャ (\*IREXX)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (\*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

CVTに項目を追加するためには、CICS変換ベクトル・テーブル追加(ADDCICSCVT) コマンドを使用してください。

変換ベクトル・テーブル(CVT)項目は、EBCDICからASCIIへのデータ変換用のテンプレート、または他のCICSシステムで使用されるコード・ページおよび文字セットがSystem i5で使用されるものと異なっている時にデータ変換用のテンプレートを定義します。データ変換は、データを送信するシステムで定義しなければなりません。データ変換は次の場合に必要です。

- ファイル制御コマンド
- 一時データ待ち行列コマンド
- 一時記憶域待ち行列コマンド
- STARTコマンド
- LINKコマンド

データは、CVTで事前定義されたテンプレートにしたがって変換されます。テンプレートは、データのタイプ、レコード内の配置方法、および必要な変換のタイプを記述します。データに英字フィールドおよび数字フィールドが入っている場合には、レコード内の各フィールドごとにテンプレートを定義する必要があることがあります。

次の3つのタイプの変換テンプレートがあります。

- ファイル・キーの変換の場合には、キー変換データ(KEYINF)パラメーターを使用してください。このタイプの変換を使用できるのは、キー順ファイルの場合だけです。
- 定義済みの選択基準に応じての変換形式データの変換の場合には、選択基準(SLTCTL) パラメーターを使用してください。
- 他の変換テンプレートがデータと一致しない時に適用する省略時の変換の場合には、変換情報(CNVINF)パラメーターを使用してください。

上

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
<b>LIB</b>	ライブラリー	通信名, *LIBL, *CURLIB	必須, 定位置 1
<b>GROUP</b>	グループ	通信名	必須, 定位置 2
<b>CMDTYPE</b>	API コマンド タイプ	*FILE, *TDQUEUE, *TSQUEUE, *START, *LINK	必須, 定位置 3
<b>RSRCID</b>	資源 ID	文字値	必須, 定位置 4
<b>CNVCHRID</b>	文字識別コード	要素リスト	必須, 定位置 5
	要素 1: コード ページ	1-65535	
	要素 2: グラフィック 文字セット	0-65535, *CCSID	
<b>CNVINF</b>	変換情報	値 (最大 30 回の繰り返し): 要素リスト	オプション, 定位置 6
	要素 1: 開始位置	0-65535, <u>0</u>	
	要素 2: 変換 タイプ	* <u>CHAR</u> , *PACKED, *BINARY, *IDC, *INTEL	
	要素 3: 変換長	1-65535, <u>1</u>	
	要素 4: ユーザー指定 DBCSデータ	* <u>NO</u> , *YES	
<b>KEYINF</b>	キー変換データ	値 (最大 30 回の繰り返し): 要素リスト	オプション, 定位置 7
	要素 1: 開始位置	0-65535, <u>0</u>	
	要素 2: 変換 タイプ	* <u>CHAR</u> , *PACKED, *BINARY, *IDC, *INTEL	
	要素 3: 変換長	1-65535, <u>1</u>	
	要素 4: ユーザー指定 DBCSデータ	* <u>NO</u> , *YES	
<b>SLTCTL</b>	選択基準	値 (最大 30 回の繰り返し): 要素リスト	オプション, 定位置 8
	要素 1: 開始位置	0-65535, <u>0</u>	
	要素 2: 文字または16進数形式	* <u>CHAR</u> , *HEX	
	要素 3: 比較する値	文字値	
	要素 4: 開始位置	値 (最大 30 回の繰り返し): 0-65535, <u>0</u>	
	要素 5: 変換 タイプ	値 (最大 30 回の繰り返し): * <u>CHAR</u> , *PACKED, *BINARY, *IDC, *INTEL	
	要素 6: 変換長	値 (最大 30 回の繰り返し): 1-65535, <u>1</u>	
	要素 7: ユーザー指定 DBCSデータ	値 (最大 30 回の繰り返し): * <u>NO</u> , *YES	

上

## ライブラリー (LIB)

グループが入っているライブラリーの名前を入力してください。考えられる値は次の通りです。



- **\*LIBL:** グループが入っている最初のライブラリーを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。
- **\*CURLIB:** 現行ライブラリーにグループが入っています。現行ライブラリーが指定されない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。
- **ライブラリー名:** グループが入っているライブラリーの名前。

上

---

## グループ (GROUP)

このCVT項目を追加するグループの名前を入力してください。

**グループ名:** グループ名は最大10桁の長さとすることができます。最初の文字は、英字または特殊文字¥, @, #の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## API コマンド タイプ (CMDTYPE)

この項目をユーザー・データ変換のために使用するEXEC CICSコマンドのタイプを示します。このフィールドは、このCVT項目を識別するために資源識別コード・フィールドと一緒に使用されます。

指定できる値は次の通りです：

- **\*FILE:** ファイル制御コマンド。
- **\*TDQUEUE:** 一時データ待ち行列コマンド。
- **\*TSQUEUE:** 一時記憶域待ち行列コマンド。
- **\*START:** STARTコマンド。
- **\*LINK:** LINKコマンド。

上

---

## 資源 I D (RSRCID)

EXEC CICSコマンド・タイプと関連した資源識別コードを入力してください。このフィールドは、このCVT項目を識別するためにコマンド・タイプ・フィールドと一緒に使用されます。この資源識別コードは、次のように、該当するテーブル内に項目があるはずですが。

### CMDTYPE

CICSテーブル

### \*TDQUEUE

宛先管理テーブル

### \*START

プログラム管理テーブル

**\*FILE** ファイル管理テーブル

## \*TSQUEUE

一時記憶テーブル

## \*LINK

処理プログラム・テーブル

**資源識別コード:** \*TDQUEUEまたは\*STARTのコマンド・タイプの場合は、資源識別コードの最大長は4文字です。コマンド・タイプ\*FILE, \*TSQUEUE,または\*LINKの場合には、資源識別コードの最大長は8桁です。キーボード上の任意の文字を入力できますが、小文字および特殊文字はアポストロフィで囲まなければなりません。

アポストロフィを入力するための十分なスペースがない時には、追加の文字を入力できるようにする拡張フィールド・サイズを取得するために、最初の文字位置にアンパーサンド(&)を入力してください。ブランクは受け入れられますが、項目が制御領域に対して定義されている時には、ブランクの後の文字は無視されません。たとえば、'AB G'は制御領域内では'AB'として扱われます。

16進数文字はアポストロフィで囲まなければならない、大文字のXが先行していなければなりません。たとえば、X'A1A2A3A4'です。16進数値は受け入れられますが、値が印刷可能文字でない場合には、その項目は制御領域に定義される時に拒否されます。

上

---

## 文字識別コード (CNVCHRID)

リモート・システムで使用される文字データ表現用のコード・ページおよび文字セットを入力してください。

表現は、コード・ページと文字セットの対によって、あるいはCCSIDによって指定することができます。

このフィールドには2つの要素があります。指定できる値は次の通りです：

### • 要素1：コード・ページ

リモート・システムによって使用される表現のコード・ページまたはCCSID。

- **コード・ページ:** コード・ページ識別コード (1-65535の範囲内の数値) を入力してください。要素2には適切な文字セットを指定しなければなりません。
- **CCSID:** CCSID (1-65535の範囲内の数値) を入力してください。要素2は、0に設定するか、あるいは特殊値\*CCSIDとして指定しなければなりません。

### • 要素2：グラフィック文字セット

変換によって使用されるグラフィック文字セットを入力するか、あるいは要素1がコード・ページではなくCCSIDを表現する場合には特殊値\*CCSIDを指定してください

- **文字セット:** 適切な文字セット識別コード (2-65535の範囲内の数値) を入力してください。
- **\*CCSID, 0, 1:** 要素1にはCCSIDが入っています。

制御領域に導入されている時は、指定のコード・ページと文字セットの対の変換テーブルが見つからず、指定のコード・ページがサポートされるCCSIDとして認識される場合には、コード・ページはCCSIDとして指定されたものとして扱われます。

上

---

## 変換情報 (CNVINF)

このフィールドは省略時の変換テンプレートを定義します。選択基準フィールドで定義されている選択基準を満たさないデータの変換情報を定義するためには、このフィールドを使用してください。

注: 変換キー・フィールドにキー情報フィールドを使用してください。

次のものを指定してください。

- レコード中のデータの位置。
- フィールドのデータ・タイプ。
- データの長さ。
- データにシフト・アウト/シフト・イン(SO/SI)文字が入っているかどうか。

このフィールドには4つの要素があります。指定できる値は次の通りです。

### • 要素1：開始位置 (オフセット)

変換するデータの開始のレコード内の位置。

- 0:変換はファイルの始めから開始されます。
- オフセット: 0-65535の範囲内の数値。

### • 要素2：変換のタイプ

フィールドで実行する変換のタイプ。

- \*CHAR:データは英字であり、文字識別コード(CNVCHRID)パラメーターに指定されているコード・ページからシステム値に指定されているi5/OSコード・ページに変換されます。
- \*PACKED:データはパック10進数形式であり、変換されません。
- \*BINARY:データは2進数形式であり、変換されません。
- \*IDC:データは漢字形式であり、CNVCHRID フィールドに指定されている文字セットからシステム値に指定されているi5/OSコード・ページに変換されます。
- \*INTEL:データはINTEL形式であり、バイトを反転することによって変換されます。フィールドの長さは2または4としかすることはできません。

### • 要素3：変換の長さ

変換するフィールドの長さ (バイト数)。

- 1:1バイトのデータ長が変換されます。
- 長さ: 1-65535の範囲内の数値を入力してください。データがINTEL形式の場合には、このフィールドには2または4を入れなければなりません。

### • 要素4：ユーザー指定の漢字データ(SO/SI)

フィールドにタイプ\*CHARが指定されている場合にのみ有効なこの要素は、変換されるデータにSO/SI区切り文字を入れるかどうかを指示します。言語が漢字基礎となっている言語でない場合に、SO/SI区切り文字が使用される時には、SO区切り文字の前でSI区切り文字の後のデータだけが変換されます。

- \*NO:データにSO/SI文字はありません。
- \*YES:データにSO/SI文字があります。

---

## キー変換データ (KEYINF)

このフィールドは、1つのキー・フィールドの変換テンプレートを定義します。次のものを指定してください。

- レコード中のキー・フィールドの位置。
- キーの長さ。
- キーに適用する変換のタイプ。

このパラメーターを使用できるのは、コマンド・タイプ\*FILEが指定されている場合、およびファイルがキーを使用してアクセスされる場合だけです。すなわち、これはキー順データ・セット(KSDS)です。

注: FCT項目はキーの位置を定義します。

指定できる値は次の通りです。

### • 要素1：開始位置（オフセット）

キー・フィールドのレコード内の位置。

- 0:キーはレコードの始めにあります。
- **offset**:レコードの始めからのキーの位置（バイト数）を指定する、0-65535の範囲内の数値。

### • 要素2：変換のタイプ

フィールドで実行する変換のタイプ。

- **\*CHAR**:データは英字であり、CNVCHRIDフィールドに指定されているコード・ページからシステム値に指定されているi5/OSコード・ページに変換されます。
- **\*PACKED**:データはパック10進数形式であり、変換されません。
- **\*BINARY**:データは2進数形式であり、変換されません。
- **\*IDC**:データは漢字形式であり、CNVCHRID フィールドに指定されている文字セットからシステム値に指定されているi5/OSコード・ページに変換されます。
- **\*INTEL**:データはINTEL形式であり、バイトを反転することによって変換されます。フィールドの長さは2または4としかすることはできません。

### • 要素3：変換の長さ

変換するフィールドの長さ（バイト数）。

- 1:1バイトのデータ長が変換されます。
- **長さ**: 1-65535の範囲内の数値を入力してください。データがINTEL形式の場合には、このフィールドには2または4を入れなければなりません。

### • 要素4：ユーザー指定の漢字データ(SO/SI)

フィールドにタイプ\*CHARが指定されている場合にのみ有効なこの要素は、変換されるデータにSO/SI区切り文字を入れるかどうかを指示します。言語が漢字基礎となっている言語でない場合に、SO/SI区切り文字が使用される時には、SO区切り文字の前でSI区切り文字の後のデータだけが変換されます。

- **\*NO**:データにSO/SI文字はありません。
- **\*YES**:データにSO/SI文字があります。

## 選択基準 (SLTCTL)

他のCICSシステムとやり取りするユーザー・データ内の各フィールドについて、選択基準および変換情報を入力してください。選択基準は、関連した変換情報を使用するためにユーザー・データ内で検査される位置および値から成ります。変換情報は、フィールドの位置と長さ、およびそのフィールドに適用される変換のタイプから成ります。

注: ユーザー・データが選択基準に指定された条件を満たしていない時には、ユーザー・データを変換するために変換情報(CNVINF)フィールドが使用されます。

指定できる値は次の通りです。

- **要素 1 : 開始位置 (オフセット)**

データの比較を開始するレコード内の位置。

- 0:比較はレコードの始めから開始されます。
- **オフセット**: バイトによるデータの始めの位置を指定する, 0- 65535の範囲内の数値を入力してください。

- **要素 2 : 文字または16進数形式**

選択データが文字または16進数データであるかどうかを指示します。

- \*CHAR:文字データ。
- \*HEX: 16進数データ。

- **要素 3 : 比較する値 (テキストに対して)**

対応した変換情報を使用するために、データを比較するための値。

- **テキスト**: 英数字および最高254カラムの文字または127カラムの16 進数。

### 選択情報(SLTINF)

選択基準が一致した時に使用される、ユーザー・データの各フィールドの変換情報。

指定できる値は次の通りです。

- **要素 1 : 開始位置 (オフセット)**

データの変換を開始するレコード内の位置。

- 0:データの変換がレコードの始めから開始されます。
- **オフセット**: バイトによるレコードの始めからの位置を指定する, 0-65535の範囲内の数値。

- **要素 2 : 変換のタイプ**

フィールドで実行する変換のタイプ。

- \*CHAR:データは英字であり, CNVCHRIDフィールドに指定されているコード・ページからシステム値に指定されているi5/OSコード・ページに変換されます。
- \*PACKED:データはパック10進数形式であり, 変換されません。
- \*BINARY:データは2進数形式であり, 変換されません。

- **\*IDC:**データは漢字形式であり、CNVCHRID フィールドに指定されている文字セットからシステム値に指定されているi5/OSコード・ページに変換されます。
- **\*INTEL:**データはINTEL形式であり、バイトを反転することによって変換されます。フィールドの長さは2または4としかすることはできません。

- **要素3：変換の長さ**

変換するフィールドの長さ（バイト数）。

- 1:1 バイトのデータ長が変換されます。
- **長さ：** 1-65535の範囲内の数値を入力してください。データがINTEL形式の場合には、このフィールドには2または4を入れなければなりません。

- **要素4：ユーザー指定の漢字データ(SO/SI)**

フィールドにタイプ\*CHARが指定されている場合にのみ有効なこの要素は、変換されるデータにSO/SI区切り文字を入れるかどうかを指示します。言語が漢字基礎となっている言語でない場合に、SO/SI区切り文字が使用される時には、SO区切り文字の前でSI区切り文字の後のデータだけが変換されます。

- **\*NO:**データにSO/SI文字はありません。
- **\*YES:**データにSO/SI文字があります。

上

---

## 例

なし

上

---

## エラー・メッセージ

不明

上

## CICS DCT項目の追加 (ADDCICSDCT)

実行可能場所:

- バッチ・ジョブ (\*BATCH)
- 対話式ジョブ (\*INTERACT)
- バッチ・プログラム (\*BPGM)
- 対話式プログラム (\*IPGM)
- バッチ REXX プロシージャ (\*BREXX)
- 対話式 REXX プロシージャ (\*IREXX)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (\*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

DCTに項目を追加するためには、CICS宛先管理テーブル追加(ADDCICSDCT)コマンドを使用してください。

各DCT項目は、データを送信できる宛先を定義します。CICSシステムでは、宛先は一時データ(TD)待ち行列です。次の4タイプの宛先があります。

- 区画内、これはローカルCICS領域に存在する
- 区画外、これはローカルCICS領域外に存在する
- リモート、別のCICSシステムに存在する
- 間接、別のDCT項目によって制御された宛先を指す

各一時データ待ち行列ごとに1つのDCT項目を作成します。

また、DCTを使用して、区画内TD待ち行列をトランザクションの自動開始(ATI)用に使用できるかどうかを定義します。

上

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
LIB	ライブラリー	通信名, *LIBL, *CURLIB	必須, 定位置 1
GROUP	グループ	通信名	必須, 定位置 2
DEST	宛先	通信名	必須, 定位置 3
TYPE	タイプ	*EXTERNAL, *INDIRECT, *INTERNAL, *REMOTE	必須, 定位置 4
DESTSTS	状況	*ENABLED, *DISABLED	オプション, 定位置 5
RECOVER	回復可能	*NO, *YES	オプション, 定位置 6
TRGLVL	ATIトリガー・レベル	0-32767, 0	オプション, 定位置 7
TRANSID	トランザクション	文字値, '___'	オプション, 定位置 8
DEVTYPE	CICS装置標識	*TERMINAL, *FILE	オプション, 定位置 9
CICSDEV	CICS装置	通信名, *DEST	オプション, 定位置 10



キーワード	記述	選択項目	ノーツ
FILE	ファイル	修飾オブジェクト名	オプション、定位置 11
	修飾子 1: ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MBR	メンバー	名前, *FIRST	オプション、定位置 12
OPENOPTION	ファイル処理	*INPUT, *OUTPUT, *READBACK	オプション、定位置 13
RCDFMT	レコード様式	*FIXED, *VARIABLE	オプション、定位置 14
STGDEV	装置	*DASD, *TAPE, *DISKETTE, *PRINTER	オプション、定位置 15
RMTDEST	リモート宛先	通信名, *DEST	オプション、定位置 16
SYSID	リモート CICS システム	通信名	オプション、定位置 17
LENGTH	最大レコード長	0-32767, 0	オプション、定位置 18
PHYDEST	間接宛先	通信名	オプション、定位置 19

上

## ライブラリー (LIB)

グループが入っているライブラリーの名前を入力してください。考えられる値は次の通りです。

- **\*LIBL:** グループが入っている最初のライブラリーを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。
- **\*CURLIB:** 現行ライブラリーにグループが入っています。現行ライブラリーが指定されない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。
- **ライブラリー名:** グループが入っているライブラリーの名前。

上

## グループ (GROUP)

この宛先管理テーブル項目を追加するグループの名前を入力してください。

- **グループ名:** グループ名は最大10桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

## 宛先 (DEST)

宛先識別コードを入力してください。この識別コードは、一時データ待ち行列にアクセスするためにEXEC CICSコマンドの中で使用されます。この識別コードはまた、このDCT項目を識別するために使用される名前でもあります。

- **宛先:** 宛先識別コードは最大4桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字 ¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上



---

## タイプ (TYPE)

一時データ待ち行列のタイプを入力してください。

指定できる値は次の通りです：

- **\*INTERNAL:**区画内宛先，すなわちCICS制御領域内の宛先を指示します。
- **\*INDIRECT:**間接宛先，すなわち内部，外部，またはリモート宛先としてDCTに定義済みの別の宛先を指す論理宛先を指示します。これによって，複数の論理宛先を1つの物理宛先に組み合わせることができます。
- **\*EXTERNAL:**区画外宛先，すなわちCICS制御領域外にあるが，CICS制御領域に割り振られた宛先を指示します。
- **\*REMOTE:** リモート宛先，すなわち別のシステムまたは領域上の宛先であり，内部宛先としてDCTに定義されます。

上

---

## 状況 (DESTSTS)

宛先識別コードを使用できるかどうかを示します。このパラメーターは，内部宛先の場合，すなわちタイプ・フィールドが**\*INTERNAL**になっている時には無効です。

指定できる値は次の通りです：

- **\*ENABLED:**この宛先識別コードを使用することができます。タイプ・フィールドに**\*EXTERNAL**が入っている場合には，この一時データ待ち行列は実行時システムが導入される時にオープンされます。
- **\*DISABLED:**この宛先識別コードを使用することができません。タイプ・フィールドに**\*EXTERNAL**が入っている場合には，この一時データ待ち行列は実行時システムが導入される時にオープンされません。

上

---

## 回復可能 (RECOVER)

宛先識別コードと関連した一時データ待ち行列が回復可能であるかどうかを示します。このフィールドは，内部宛先の場合，すなわちタイプ・フィールドが**\*INTERNAL**になっている時にのみ有効です。

注：このDCT項目がCSMTを定義している場合には，このフィールドは**\*NO**でなければなりません。

指定できる値は次の通りです：

- **\*NO:**一時データ待ち行列が回復可能ではありません。
- **\*YES:**一時データ待ち行列が回復可能です。

上

---

## ATIトリガー・レベル (TRGLVL)

待ち行列に蓄積されたレコードを処理するトランザクションを自動的に開始するために、待ち行列に蓄積するレコードの数を入力してください。これは自動トランザクション開始(ATI)といわれるものです。このフィールドは、内部宛先の場合、すなわちタイプ・フィールドが\*INTERNALになっている時のみ有効です。

トランザクション識別コードがトランザクション識別コード・フィールドに指定されます。

指定できる値は次の通りです：

- 0:この宛先のATIありません。
- トリガー・レベル：0-32767の範囲の数を入力してください。

上

---

## トランザクション (TRANSID)

待ち行列内のレコード数がトリガー・レベルに達した時に開始するトランザクションの名前を入力してください。このフィールドは、トリガー・レベル・フィールドが0の場合には無効です。

- **トランザクションID:**トランザクションIDは最大4桁の長さとしてすることができます。キーボード上の任意の文字を入力できますが、小文字および特殊文字はアポストロフィで囲まなければなりません。

アポストロフィを入力するための十分なスペースがない時には、追加の文字を入力できるようにする拡張フィールド・サイズを取得するために、最初の文字位置にアンパーサンド(&)を入力してください。ブランクは受け入れられますが、項目が制御領域に対して定義されている時には、ブランクの後の文字は無視されます。たとえば、'AB G'は制御領域内では'AB'として扱われます。

16進数文字はアポストロフィで囲まなければならず、大文字のXが先行していなければなりません。たとえば、X'A1A2A3A4'です。16進数値は受け入れられますが、値が印刷可能文字でない場合には、その項目は制御領域に定義される時に拒否されます。

上

---

## CICS装置標識 (DEVTYPE)

端末識別コードをATIトランザクション識別コードと関連づけるかどうかを示します。このパラメーターは、トリガー・レベル・フィールドが0の場合には無効です。

指定できる値は次の通りです：

- \***TERMINAL:**端末識別コードがトランザクション識別コードと関連づけられます。
- \***FILE:**端末識別コードはCICSトランザクション識別コードと関連づけられません。

上

---

## CICS装置 (CICSDEV)

ATIトランザクションを実行するために使用する端末の識別コードを入力してください。このフィールドは、装置タイプ・フィールドが\*TERMINALの時にのみ有効です。

指定できる値は次の通りです：

- \*DEST:宛先フィールドに入力された識別コードが端末識別コードとして使用されます。
- 端末ID: 端末IDは最大4桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## ファイル (FILE)

宛先識別コードによって使用されるファイルの名前を入力してください。このフィールドは、区画外宛先の場合、すなわちタイプ・フィールドが\*EXTERNALの時にのみ有効です。

使用できるライブラリーの値は次の通りです：

- \*LIBL: ファイルを見つけるために、CICS制御領域と対応するジョブのライブラリー・リストが使用されます。
- \*CURLIB: ファイルを見つけるために、CICS制御領域と対応するジョブの現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。
- ライブラリー名: ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

ファイル名: ファイルの名前を指定してください。

上

---

## メンバー (MBR)

宛先識別コードによって使用されるメンバーの名前を入力してください。このフィールドは、区画外宛先の場合、すなわちタイプ・フィールドが\*EXTERNALの時にのみ有効です。

指定できる値は次の通りです：

- \*FIRST: メンバーは指定されません。最初のメンバーが使用されます。
- メンバー名: メンバーの名前を指定してください。

上

---

## ファイル処理 (OPENOPTION)

ファイルをどのように処理するかを示します。すなわち、次の通りです：

- 正方向読み取り専用入力ファイル
- 書き出し専用出力ファイル
- 逆方向読み取り専用入力ファイル

このパラメーターは、区画外宛先の場合、すなわちタイプ・フィールドに\*EXTERNALが入っている時のみ有効です。

指定できる値は次の通りです：

- **\*INPUT:**ファイルが、正方向にだけ読み取られる入力用に使用されます。
- **\*OUTPUT:**ファイルが出力用に使用されます。
- **\*READBACK:**ファイルが逆方向にだけ読み取られる入力用に使用されます。

上

---

## レコード様式 (RCDFMT)

ファイルのレコード様式を示します。このフィールドは、区画外宛先の場合、すなわちタイプ・フィールドが\*EXTERNALの時のみ有効です。

指定できる値は次の通りです：

- **\*FIXED:**ファイル中のすべてのレコードが同じ長さをもっています。
- **\*VARIABLE:**ファイル中のレコードは可変長です。

上

---

## 装置 (STGDEV)

ファイルの記憶媒体を示します。このパラメーターは、区画外宛先の場合、すなわちタイプ・フィールドに\*EXTERNALが入っている時のみ有効です。

指定できる値は次の通りです：

- **\*DASD:**ファイルはディスク記憶装置上にあります。
- **\*TAPE:**ファイルは磁気テープ上にあります。
- **\*DISKETTE:**ファイルはディスクケット上にあります。
- **\*PRINTER:**ファイルは印刷装置に書き出されます。

上

---

## リモート宛先 (RMTDEST)

リモート・システム上で宛先の認識に使用される識別コードを入力してください。このフィールドは、リモート宛先の場合、すなわちタイプ・フィールドが\*REMOTEの時のみ有効です。

指定できる値は次の通りです：

- **\*DEST:**宛先識別コード・フィールドに入力した識別コードが使用されます。
- **リモート宛先：**宛先識別コードは最大4桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @,または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## リモート CICS システム (SYSID)

リモート・システム識別コードを入力してください。システムはリモートTCS内に項目をもっていない限りなりません。このフィールドは、リモート宛先の場合、すなわちタイプ・フィールドが\*REMOTEの時のみ有効です。

- **システム識別コード**：システム識別コードは最大4桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @,または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## 最大レコード長 (LENGTH)

一時データ待ち行列内のレコードの最大長（バイト数）を入力してください。この値は、リモート・システム内の待ち行列に指定された値と同じものでなければなりません。このフィールドは、リモート待ち行列の場合、すなわちタイプ・フィールドが\*REMOTEの時のみ有効です。

指定できる値は次の通りです：

- **0**：アプリケーション・プログラム内のEXEC CICS READQ TDまたはWRITEQ TDコマンドにLENGTHパラメーターが指定されます。
- **長さ**：0-32767の範囲の数を入力してください。

上

---

## 間接宛先 (PHYDEST)

このDCT項目が指す宛先の識別コードを入力してください。この識別コードは、待ち行列を\*INTERNAL, \*EXTERNAL,または\*REMOTEとして定義しているDCT項目をもっているはずですが。このフィールドは、間接宛先の場合、すなわちタイプ・フィールドが\*INDIRECTの時のみ有効です。

- **間接宛先**：識別コードは最大4桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @,または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## 例

なし

上

---

## エラー・メッセージ

不明

上



## CICS FCT項目の追加 (ADDCICSFCT)

実行可能場所:

- バッチ・ジョブ (\*BATCH)
- 対話式ジョブ (\*INTERACT)
- バッチ・プログラム (\*BPGM)
- 対話式プログラム (\*IPGM)
- バッチ REXX プロシージャ (\*BREXX)
- 対話式 REXX プロシージャ (\*IREXX)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (\*EXEC) の使用

パラメーター

例  
エラー・メッセージ

スレッド・セーフ: いいえ

ファイル管理テーブル(FCT)に項目を追加するためには、CICSファイル管理テーブル追加(ADDCICSFCT)コマンドを使用してください。FCTは、CICSまたはアプリケーション・プログラムによって使用されるすべてのファイル（ローカルとリモートの両方）を定義します。すべてのファイルはVSAM ファイル・タイプの1つに適合していなければなりません。

- キー順データ・セット(KSDS),すなわち各レコードは事前定義キーによってアクセスされます。
- 入力順データ・セット(ESDS),すなわち各レコードはその相対バイト・アドレスによってアクセスされません。
- 相対レコード・データ・セット(RRDS),すなわち各レコードはそのレコード番号によってアクセスされます。

上

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
LIB	ライブラリー	通信名, *LIBL, *CURLIB	必須, 定位置 1
GROUP	グループ	通信名	必須, 定位置 2
FILEID	CICS ファイル	通信名	必須, 定位置 3
SYSID	リモート CICS システム	通信名, *NONE	オプション, 定位置 4
RMTFILE	リモートCICSファイル	通信名, *FILEID	オプション, 定位置 5
RMTKEYLEN	リモート・キーの最大長	0-32767, 0	オプション, 定位置 6
RMTLENGTH	リモート最大レコード長	1-32767, 1	オプション, 定位置 7
FILE	ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 8
	修飾子 1: ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MBR	メンバー	名前, *FIRST	オプション, 定位置 9
RCDFMT	レコード様式	*FIXED, *VARIABLE	オプション, 定位置 10
FILESTS	状況	*ENABLED, *DISABLED, *CLOSED	オプション, 定位置 11
ACCMTH	アクセス方式	*KEY, *ENTRY, *REL	オプション, 定位置 12
RECOVER	回復可能	*YES, *NO	オプション, 定位置 13

キーワード	記述	選択項目	ノート
CLRFILE	ファイルの消去	*NO, *YES	オプション, 定位置 14
ACCPATH	アクセス・パス	*FILE, *ARRIVAL	オプション, 定位置 15
RCDACT	ファイル処理	要素リスト	オプション, 定位置 16
	要素 1: 追加可能	*NOADD, *ADD	
	要素 2: 走査検索可能	*NOBROWSE, *BROWSE	
	要素 3: 削除可能	*NODLT, *DLT	
	要素 4: 読み取り可能	*NOREAD, *READ	
	要素 5: 更新可能	*NOUPD, *UPD	
JRNCTL	ジャーナル処理	要素リスト	オプション, 定位置 17
	要素 1: 番号	0-99, 0	
	要素 2: 読み取り専用操作	*NOREADONLY, *READONLY	
	要素 3: 読み取り更新操作	*NOREADUPD, *READUPD	
	要素 4: 新規書き出し操作	*WRTNEW, *NOWRTNEW	
	要素 5: 書き出し更新操作	*WRTUPD, *NOWRTUPD	

上

## ライブラリー (LIB)

グループが入っているライブラリーの名前を入力してください。考えられる値は次の通りです。

- **\*LIBL:** グループが入っている最初のライブラリーを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。
- **\*CURLIB:** 現行ライブラリーにグループが入っています。現行ライブラリーが指定されない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。
- **ライブラリー名:** グループが入っているライブラリーの名前。

上

## グループ (GROUP)

このFCT項目を追加するグループの名前を入力してください。

- **グループ名:** グループ名は最大10桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

## CICS ファイル (FILEID)

このファイルが認識される名前を入力してください。これは、EXEC CICSファイル管理コマンドの中で使用される名前です。この名前は、このFCT項目を識別するためにも使用されます。

- **ファイル識別コード:** ファイル識別コードは最大8桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。



---

## リモート CICS システム (SYSID)

このフィールドはリモート・ファイルの場合にのみ必要です。

ファイルが入っているシステムの識別コードを入力してください。システム識別コードは、端末管理システム・テーブル項目をもっていなければなりません。このフィールドにローカル・システムが入っている場合には、項目は\*NONEが入力されたかのように扱われます。

指定できる値は次の通りです：

- \*NONE:ファイルはローカル・システムに保留中です。
- システム識別コード：システム識別コードは最大4桁の長さとしてすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @,または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## リモートCICSファイル (RMFILE)

ファイルがリモート・システム上で認識される識別コードを入力してください。このフィールドは、ローカル・ファイルの場合、すなわちシステム識別コード・フィールドに\*NONEが入っている時には正しくありません。

指定できる値は次の通りです：

- \*FILEID:ファイル識別コード・フィールドに入力された名前がリモート・ファイル名として使用されます。
- リモート・ファイル：最大8桁の長さのファイル識別コード。最初の文字は英字または特殊文字¥, @,または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## リモート・キーの最大長 (RMTKEYLEN)

ファイルのキー・フィールドの長さ（バイト数）を入力してください。このフィールドはキー順データ・セットの場合にのみ有効です。値は、リモート・システムのFCT 項目で指定されたものと同じでなければなりません。

このフィールドは、ローカル・ファイルの場合、すなわちシステム識別コード・フィールドが\*NONEの時には無効です。

指定できる値は次の通りです：

- 0:ファイルはキー・フィールドを持っていません。これは、入力順データ・セットおよび相対レコード・データ・セットの場合に入力しなければならない値です。
- リモート・キーの長さ：0-32767の範囲内の数値。入力順および相対レコード・データ・セットの場合には、ゼロ(0)を指定しなければなりません。

---

## リモート最大レコード長 (RMTLENGTH)

ファイルの最大レコード・サイズの長さ (バイト数) を入力してください。指定する値は、リモート・システム内におけるファイルと関連したレコードのサイズと一致するものでなければなりません。このフィールドは、ローカル・システムの場合、すなわちシステム識別コード・フィールドが\*NONEの時には無効です。

指定できる値は次の通りです：

- 1:ファイルのレコード長は1です。
- リモート・レコード長： 1-32767の範囲の数値。

上

---

## ファイル (FILE)

このファイル識別コードによって使用されるファイルのライブラリーおよびファイル名を入力してください。このフィールドは、ローカル・ファイルの場合、すなわちシステム識別コード・フィールドが\*NONEの時にのみ有効です。

- 次のライブラリーの値の1つを指定してください。
  - \*LIBL:ファイルを見つけるために、CICS制御領域と対応するジョブのライブラリー・リストが使用されます。
  - \*CURLIB:ファイルを見つけるために、CICS制御領域と対応するジョブの現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。
  - ライブラリー名：ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。
- ファイル名：ファイルの名前を指定してください。

上

---

## メンバー (MBR)

このファイル識別コードによって使用されるファイル内のメンバーの名前を入力してください。このフィールドは、ローカル・ファイルの場合、すなわちシステム識別コード・フィールドが\*NONEの時にのみ有効です。

指定できる値は次の通りです：

- \*FIRST:ファイル・メンバーは指定されません。ファイル中の最初のメンバーが使用されます。
- メンバー名：ファイル・メンバーの名前を指定してください。

上

---

## レコード様式 (RCDFMT)

ファイルのレコード様式が固定長または可変長のいずれであるかを示します。このフィールドは、ローカル・ファイルの場合、すなわちシステム識別コード・フィールドが\*NONEの時にのみ有効です。

指定できる値は次の通りです：

- \*FIXED:ファイル中のすべてのレコードが同じ長さをもっています。
- \*VARIABLE:ファイル中のレコードは可変長です。

上

---

## 状況 (FILESTS)

ファイル識別コードを使用できるかどうかを示します。このフィールドは、ローカル・ファイルの場合、すなわちシステム識別コード・フィールドが\*NONEの時にのみ有効です。

指定できる値は次の通りです：

- \*ENABLED:ファイルを使用することができます。
- \*DISABLED: ファイルは使用可能になるまで使用できません。
- \*CLOSED:ファイルはオープンされるまで使用できません。

上

---

## アクセス方式 (ACCMTH)

ファイルにアクセスするために使用する方式を入力してください。このフィールドは、ローカル・ファイルの場合、すなわちシステム識別コード・フィールドが\*NONEの時にのみ有効です。

指定できる値は次の通りです：

- \*KEY:ファイルのレコードはキーによってアクセスされます。ファイルはKSDSでなければなりません。
- \*ENTRY: ファイル中のレコードは項目順序番号でアクセスされます。ファイルはESDSでなければなりません。
- \*REL: ファイル中のレコードは相対レコード番号でアクセスされます。ファイルはRRDSでなければなりません。

注: アクセス・パス・フィールドに\*ARRIVALを入力した場合には、このフィールドは無視されます。

上

---

## 回復可能 (RECOVER)

ファイル識別コードと関連したファイルが回復可能であるかどうかを示します。このフィールドは、ローカル・ファイルの場合、すなわちシステム識別コード・フィールドが\*NONEの時にのみ有効です。

指定できる値は次の通りです：

- \*YES:ファイルは回復可能です。
- \*NO:ファイルは回復可能ではありません。

---

## ファイルの消去 (CLRFILE)

このファイル識別コードが最初にオープンされた時にファイルを消去するかどうかを示します。このフィールドは、ローカル・ファイルの場合、すなわちシステム識別コード・フィールドが\*NONEの時にのみ有効です。

指定できる値は次の通りです：

- \*NO:オープン時にファイルを消去しません。
- \*YES:オープン時にファイルを消去します。

上

---

## アクセス・パス (ACCPATH)

ファイル識別コードと関連したファイルを到着順（順次）に処理するか、あるいはアクセス方式フィールド内の値に従って（すなわち、キー、項目順序番号、または相対レコード番号によって）処理するかを示します。このフィールドは、ローカル・ファイルの場合、すなわちシステム識別コード・フィールドが\*NONEの時にのみ有効です。

注: ACCMTH(\*KEY)を指定した時には、ACCPATH(\*ARRIVAL)は正しくありません。

指定できる値は次の通りです：

- \*FILE:ファイルはアクセス方式フィールドの値に応じて処理されます。
- \*ARRIVAL: ファイルはアクセス方式フィールドの値と関係なく、到着順（順次）に処理されます。

上

---

## ファイル処理 (RCDACT)

ファイル中のレコードを追加、参照、削除、読み取り、または更新できるかどうかを示します。このフィールドは、ローカル・ファイルの場合、すなわちシステム識別コード・フィールドに\*NONEが入っている時には正しくありません。

このフィールドに対して5つの要素があります。指定できる値は次の通りです：

- **要素1：追加可能**

レコードをファイルに追加できるかどうかを指示します。

- \*NOADD:レコードを追加することはできません。
- \*ADD:レコードを追加することができます。

- **要素2：走査検索可能**

レコードを走査検索できるかどうかを指示します。

- \*NOBROWSE:レコードを走査検索することはできません。
- \*BROWSE:レコードを走査検索することができます。

- **要素 3 : 削除可能**

レコードを削除できるかどうかを指示します。

- \*NODLT:レコードを削除することはできません。
- \*DLT:レコードを削除することができます。

- **要素 4 : 読み取り可能**

レコードを読み取りできるかどうかを指示します。

- \*NOREAD:レコードを読み取ることはできません。(走査検索または更新機能のいずれかが指定されない限り、これが省略時の値です。)
- \*READ:レコードを読み取ることができます。

- **要素 5 : 更新可能**

レコードを更新できるかどうかを指示します。

- \*NOUPD:レコードを更新することはできません。
- \*UPD:レコードを更新することができます。

上

---

## ジャーナル処理 (JRNCTL)

このファイルと一緒に使用するジャーナル・ファイルの番号、およびジャーナル処理するREADおよびWRITE操作を指定します。このフィールドは、ローカル・ファイルの場合、すなわちシステム識別コード・フィールドが\*NONEの時にのみ有効です。

このフィールドに対して5つの要素があります。指定できる値は次の通りです：

- **要素 1 : ジャーナル番号**

このファイルでのREADおよびWRITE活動を記録するために使用されるジャーナル番号。ジャーナル番号は、ジャーナル管理テーブル項目を介してファイルと対応していなければなりません。

- 0:このファイル識別コードに対してジャーナル処理は行なわれません。
- **ジャーナル番号** : 1-99の範囲の数値。

- **要素 2 : 読み取り専用操作**

読み取り専用操作をジャーナル処理するかどうかを指示します。

- \*NOREADONLY:読み取り専用操作はジャーナル処理されません。
- \*READONLY:読み取り専用操作はジャーナル処理されます。

- **要素 3 : 読み取り更新操作**

読み取り更新操作をジャーナル処理するかどうかを指示します。

- \*NOREADUPD:読み取り更新操作はジャーナル処理されません。
- \*READUPD:読み取り更新操作はジャーナル処理されます。

- **要素 4 : 新規書き出し操作**

新規書き出し操作をジャーナル処理するかどうかを指示します。

- \*WRTNEW:新規書き出し操作はジャーナル処理されます。

- \*NOWRTNEW:新規書き出し操作はジャーナル処理されません。

• **要素5：書き出し更新操作**

書き出し更新操作をジャーナル処理するかどうかを指示します。

- \*WRTUPD:書き出し更新操作はジャーナル処理されます。

- \*NOWRTUPD:書き出し更新操作はジャーナル処理されません。

上

---

**例**

なし

上

---

**エラー・メッセージ**

不明

上

---

## CICS GLT項目の追加 (ADDCICSGLT)

実行可能場所:

- バッチ・ジョブ (\*BATCH)
- 対話式ジョブ (\*INTERACT)
- バッチ・プログラム (\*BPGM)
- 対話式プログラム (\*IPGM)
- バッチ REXX プロシージャ (\*BREXX)
- 対話式 REXX プロシージャ (\*IREXX)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (\*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

項目をGLTに追加するためには、CICSグループ・リスト・テーブル追加(ADDCICSGLT)コマンドを使用してください。

各資源定義はグループに属していなければならず、各グループはグループ別リストに属していなければなりません。GLTそのものはグループに割り当てられていなければなりません。GLTのライブラリーおよびグループはSITの中で指定され、必要な資源定義を選択するためにシステム始動時に使用されます。

複数のGLTを作成することができますが、各GLTは別のグループに割り当てられていなければなりません。SITの中で名前を指定されたGLTだけがシステム始動時に使用されます。

始動時に、GLTの各項目が読み取られ、資源はGLTおよびSITを除くグループから導入されます。SITのGLTGRPパラメーターに指定されているグループに属している資源を導入したい場合には、そのグループの名前をそれ自身のGLTに追加しなければなりません。

各GLT項目は次のことを指定します。

- GLTのライブラリー名およびグループ名
- システム始動時に導入するグループのライブラリー名およびグループ名。

上

---

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
LIB	ライブラリー	通信名, *LIBL, *CURLIB	必須, 定位置 1
GROUP	グループ	通信名	必須, 定位置 2
INSLIB	導入 ライブラリー	通信名, *LIBL, *CURLIB	必須, 定位置 3
INSGRP	導入 グループ	通信名	必須, 定位置 4

上

---

## ライブラリー (LIB)

グループが入っているライブラリーの名前を入力してください。考えられる値は次の通りです。

- **\*LIBL:** グループが入っている最初のライブラリーを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。
- **\*CURLIB:** 現行ライブラリーにグループが入っています。現行ライブラリーが指定されない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。
- **ライブラリー名:** グループが入っているライブラリーの名前。

上

---

## グループ (GROUP)

GLT項目を追加するグループの名前。

- **グループ名:** グループ名は最大10桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## 導入 ライブラリー (INSLIB)

制御領域の開始時に使用するグループが入っているi5/OSライブラリーの名前。これは、GLT項目の名前の最初の部分としても知られています。

注: INSLIB(QCICS)が指定された時には、INSGRPはIBM CICSグループでなければなりません。

使用可能なINSLIBの値は次の通りです。

- **\*LIBL:** グループを見つけるために制御領域と対応するジョブのライブラリー・リストが使用されます。
- **\*CURLIB:** グループを見つけるために制御領域と対応するジョブの現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。
- **ライブラリー名:** グループが入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

---

## 導入グループ (INSGRP)

制御領域の開始時に使用するグループで、テーブルが入っているもの。これは、GLT項目の名前の2番目の部分としても知られています。

注: INSLIB(QCICS)を指定する時には、これはIBMグループの1つでなければなりません。

次は、任意選択で提供されるトランザクションを導入するために使用するグループを説明しています。

### グループ

提供されるトランザクション

### AEGEDF

CEBR -一時記憶域待ち行列の走査検索



## **AEGEDF**

CEDF -実行診断機能

## **AEGINTER**

CECI -コマンド・レベル解釈プログラム機能

## **AEGINTER**

CECS -コマンド・レベル構文検査機能

## **AEGISC**

CMPX -ローカル待ち行列化シッパー

## **AEGISC**

CPMI -同期レベル1ミラー・トランザクション

## **AEGISC**

CRSR -中継トランザクション

## **AEGISC**

CRTE -トランザクション経路指定

## **AEGISC**

CVMI -同期レベル1ミラー・トランザクション

## **AEGOPER**

CEMT -マスター端末機能

## **AEGSPI**

CEDA -オンライン資源定義機能

- **グループ名:**グループ名は最大10桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## **例**

なし

上

---

## **エラー・メッセージ**

不明

上



## CICS JCT項目の追加 (ADDCICSJCT)

実行可能場所:

- バッチ・ジョブ (\*BATCH)
- 対話式ジョブ (\*INTERACT)
- バッチ・プログラム (\*BPGM)
- 対話式プログラム (\*IPGM)
- バッチ REXX プロシージャ (\*BREXX)
- 対話式 REXX プロシージャ (\*IREXX)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (\*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

JCTに項目を追加するためには、CICSジャーナル管理テーブル追加(ADDCICSJCT) コマンドを使用してください。

ファイルがFCTに定義されている時には、そのファイルの活動をジャーナル処理するかどうかを指定することができ、またジャーナル・ファイルのIDを指定することができます。ジャーナル・ファイルは1-99の範囲の番号によって識別されます。JCTでは、各ジャーナル・ファイルの特性を定義します。

上

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
LIB	ライブラリー	通信名, *LIBL, *CURLIB	必須, 定位置 1
GROUP	グループ	通信名	必須, 定位置 2
JFILE	番号	1-99	必須, 定位置 3
JRNSTS	状況	*ENABLED, *DISABLED	オプション, 定位置 4
JRN SWT	自動切り替え	*YES, *NO	オプション, 定位置 5
JRN LIB	ジャーナル ライブラリー	名前	オプション, 定位置 6
RECLMT	レコード容量	1-99999, <u>1</u>	オプション, 定位置 7
NEWJRN	始動時ジャーナル切り替え	*NO, *YES	オプション, 定位置 8
USRJOB	切替え時のユーザー・ジョブ投入	名前, *NONE	オプション, 定位置 9
SBMUSRJOB	遮断時のユーザー・ジョブの投入	*NO, *YES	オプション, 定位置 10
JRN FILE	ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 11
	修飾子 1: ファイル	名前	
	修飾子 2: ジャーナル ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
JRN MBR	メンバー	名前, *FIRST	オプション, 定位置 12

上

---

## ライブラリー (LIB)

グループが入っているライブラリーの名前を入力してください。考えられる値は次の通りです。

- **\*LIBL:** グループが入っている最初のライブラリーを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。
- **\*CURLIB:** 現行ライブラリーにグループが入っています。現行ライブラリーが指定されない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。
- **ライブラリー名:** グループが入っているライブラリーの名前。

上

---

## グループ (GROUP)

このJCT項目を追加するグループの名前を入力してください。

- **グループ名:** グループ名は最大10桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## 番号 (JFILE)

ユーザー・ジャーナル番号を入力してください。このユーザー・ジャーナルは、ファイル活動の自動ジャーナル処理にも使用することができます。この番号は、このJCT項目を識別するためにも使用されます。

- **ジャーナル:** 1から99までの範囲の数値。

上

---

## 状況 (JRNSTS)

ジャーナル番号を使用できるかどうかを示します。

指定できる値は次の通りです：

- **\*ENABLED:** ジャーナル番号を使用することができます。
- **\*DISABLED:** ジャーナル番号を使用することができません。

上

---

## 自動切り替え (JRNSWT)

ジャーナルがいっぱいになった時にジャーナルを次のファイル生成に自動的に切り替えられるかどうかを示します。

指定できる値は次の通りです：

- **\*YES:** ジャーナルは、満杯になった時に自動的に交換されます。
- **\*NO:** ジャーナルは、満杯になった時に自動的に交換されません。

---

## ジャーナル ライブラリー (JRNLIB)

ジャーナルが入るi5/OSライブラリー名。このフィールドは、JRNSWTフィールドが\*YESの時にのみ有効です。

注: 使用されるi5/OSファイル名は、CICS制御領域によって生成されます。i5/OSファイル名はマスクAEGJCNNXXXで構成されます。ここで、NNはジャーナル番号で、XXXは生成番号です。

- **ライブラリー名:**最大長は10桁です。最初の文字は英字または特殊文字¥, @,または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## レコード容量 (RECLMT)

ジャーナルの次の生成に切り替えるために蓄積されるレコードの数。このフィールドは、JRNSWTフィールドが\*YESの時にのみ有効です。

指定できる値は次の通りです:

- 1:ジャーナルは1レコードが累計されるごとに1回交換されます。
- **ファイル当たりのレコード数:** 1-99999の範囲の数値。

上

---

## 始動時ジャーナル切り替え (NEWJRN)

CICS制御領域が開始された時にジャーナルが次の生成に切り替えられるかどうかを示します。このフィールドは、JRNSWTフィールドが\*YESの時にのみ有効です。

指定できる値は次の通りです:

- \*NO: ジャーナルが満杯になった時にだけ交換します。
- \*YES: CICS制御領域が正常に開始された時、およびジャーナルが満杯になった時に交換します。

上

---

## 切替え時のユーザー・ジョブ投入 (USRJOB)

ジャーナルが切り替えられた時にSBMUSRJOB CLコマンドを介して投入されるi5/OSプログラム。このフィールドは、JRNSWTフィールドが\*YESの時にのみ有効です。

注: このi5/OS投入済みプログラムはパラメーターを受け入れないので、プログラム・オブジェクトはCICS制御領域と対応するライブラリー・リストに存在していなければなりません。

指定できる値は次の通りです。

- \*NONE: ジャーナルが切り替えられた時にi5/OSジョブは投入されません。

- **交換時ジョブ投入:**最大長は10カラムです。最初の文字は英字または特殊文字¥, @,または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## 遮断時のユーザー・ジョブの投入 (SBMUSRJOB)

CICS制御領域が終了した時にi5/OSジョブが投入されるかどうかを示します。これは、USRJOBフィールドが\*NONEの時には無効です。

指定できる値は次の通りです。

- **\*NO:** CICS制御領域が終了した時に、i5/OSジョブを投入しません。
- **\*YES:** CICS制御領域が終了した時に、i5/OSジョブを投入します。

上

---

## ファイル (JRNFILE)

ジャーナル番号によって使用されるファイルの名前。このフィールドは、JRNSWTフィールドが\*NOの時のみ有効です。

使用できるライブラリーの値は次の通りです：

- **\*LIBL:**ファイルを見つけるために、CICS制御領域と対応するジョブのライブラリー・リストが使用されます。
- **\*CURLIB:**ファイルを見つけるために、CICS制御領域と対応するジョブの現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。
- **ライブラリー名:**ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

ジャーナル名：ファイルの名前を指定してください。

上

---

## メンバー (JRNMBR)

ジャーナル番号によって使用されるファイル内のメンバーの名前。このフィールドは、JRNSWTフィールドが\*NOの時のみ有効です。

指定できる値は次の通りです：

- **\*FIRST:**ファイル・メンバーは指定されません。ファイル中の最初のメンバーが使用されます。
- **ジャーナル・メンバー名:**ファイル・メンバーの名前を指定してください。

上

---

## 例

なし

---

## エラー・メッセージ

不明





## CICS PCT項目の追加 (ADDCICSPCT)

実行可能場所:

- バッチ・ジョブ (\*BATCH)
- 対話式ジョブ (\*INTERACT)
- バッチ・プログラム (\*BPGM)
- 対話式プログラム (\*IPGM)
- バッチ REXX プロシージャ (\*BREXX)
- 対話式 REXX プロシージャ (\*IREXX)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (\*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター

例

エラー・メッセージ

項目をPCTに追加するためには、CICSプログラム管理テーブル追加(ADDCICSPCT)コマンドを使用してください。

プログラム管理テーブル(PCT)には、このシステムから実行できる各トランザクションの定義が入っています。各ローカル・トランザクションは、プログラム処理テーブル(PPT)に定義されたプログラムとリンクされていなければなりません。各リモート・トランザクションは、端末管理テーブル（システム項目）(TCS)に定義された、対応するシステム識別コードをもっていなければなりません。

上

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
LIB	ライブラリー	通信名, *LIBL, *CURLIB	必須, 定位置 1
GROUP	グループ	通信名	必須, 定位置 2
TRANSID	トランザクション	文字値	必須, 定位置 3
SYSID	リモート CICS システム	通信名, *NONE	オプション, 定位置 4
RMTRANSID	リモート トランザクション	文字値, *TRANSID	オプション, 定位置 5
PGMID	CICS プログラム	通信名	オプション, 定位置 6
TRANSTS	状況	*ENABLED, *DISABLED	オプション, 定位置 7
PURGE	実行時に除去可能	*YES, *NO	オプション, 定位置 8
WAITTIME	最大デッドロック待機時間	0-7000, 0	オプション, 定位置 9
IDLETIME	最大装置入出力待機時間	0-7000, 0	オプション, 定位置 10
DUMP	異常終了時のダンプ	*YES, *NO	オプション, 定位置 11
TWASIZE	トランザクション作業域サイズ	0-32767, 0	オプション, 定位置 12
SCRNSZE	使用画面サイズ	*DFT, *ALT	オプション, 定位置 13
LCLQUEUE	ローカル・システム待機	*YES, *NO	オプション, 定位置 14
UCTRN	自動大文字変換	*NO, *YES	オプション, 定位置 15

上

---

## ライブラリー (LIB)

グループが入っているライブラリーの名前を入力してください。考えられる値は次の通りです。

- **\*LIBL:** グループが入っている最初のライブラリーを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。
- **\*CURLIB:** 現行ライブラリーにグループが入っています。現行ライブラリーが指定されない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。
- **ライブラリー名:** グループが入っているライブラリーの名前。

上

---

## グループ (GROUP)

このPCT項目を追加するグループの名前を入力してください。

- **グループ名:** グループ名は最大10桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## トランザクション (TRANSID)

処理プログラム・テーブルで定義されたプログラムを開始するために使用されるトランザクション識別コードを入力してください。この名前は、このPCT項目を識別するためにも使用されます。

- **トランザクションID:** トランザクションIDは最大4桁の長さとすることができます。キーボード上の任意の文字を入力できますが、小文字および特殊文字はアポストロフィで囲まなければなりません。

アポストロフィを入力するための十分なスペースがない時には、追加の文字を入力できるようにする拡張フィールド・サイズを取得するために、最初の文字位置にアンパーサンド(&)を入力してください。ブランクは受け入れられますが、項目が制御領域に対して定義されている時には、ブランクの後の文字は無視されます。たとえば、'AB G'は制御領域内では'AB'として扱われます。

16進数文字はアポストロフィで囲まなければならない、大文字のXが先行していなければなりません。たとえば、X'A1A2A3A4'です。16進数値は受け入れられますが、値が印刷可能文字でない場合には、その項目は制御領域に定義される時に拒否されます。

上

---

## リモート CICS システム (SYSID)

リモート・トランザクションの場合に、そのトランザクションを所有しているシステムの識別コードを入力してください。システムはTCS項目をもっているはずで。

指定できる値は次の通りです：

- **\*NONE:** トランザクションはローカル・システムで保留中です。

- **システム識別コード**: システム識別コードは最大4桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @,または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## リモート トランザクション (RMTTRANSID)

トランザクションがリモート・システム上で認識される識別コードを入力してください。このフィールドは、ローカル・システムの場合、すなわちシステム識別コード・フィールドが\*NONEの時には無効です。

指定できる値は次の通りです:

- **\*TRANSID**: ローカルおよびリモート・トランザクション識別コードは同じです。このPCT項目のトランザクション識別コード・フィールドの内容が使用され。
- **リモート・トランザクションID**: リモート・トランザクションIDは最大4桁の長さとすることができます。キーボード上の任意の文字を入力できますが、小文字および特殊文字はアポストロフィで囲まなければなりません。

アポストロフィを入力するための十分なスペースがない時には、追加の文字を入力できるようにする拡張フィールド・サイズを取得するために、最初の文字位置にアンパーサンド(&)を入力してください。ブランクは受け入れられますが、項目が制御領域に対して定義されている時には、ブランクの後の文字は無視されます。たとえば、'AB G'は制御領域内では'AB'として扱われます。

16進数文字はアポストロフィで囲まなければならない、大文字のXが先行していなければなりません。たとえば、X'A1A2A3A4'です。16進数値は受け入れられますが、値が印刷可能文字でない場合には、その項目は制御領域に定義される時に拒否されます。

上

---

## CICS プログラム (PGMID)

トランザクションが使用された時に開始するプログラムの識別コードを入力してください。プログラムはPPTに定義されていなければなりません。このフィールドは、ローカル・トランザクションの場合、すなわちシステム識別コード・フィールドが\*NONEの時にのみ有効です。

- **プログラムID**: プログラムIDは最大8桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @,または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## 状況 (TRANSTS)

トランザクションを使用できるかどうかを示します。

指定できる値は次の通りです:

- **\*ENABLED**: トランザクションを使用することができます。
- **\*DISABLED**: トランザクションを使用できません。

---

## 実行時に除去可能 (PURGE)

トランザクションを除去できるかどうかを示します。

指定できる値は次の通りです：

- **\*YES:** トランザクションを除去することができます。
- **\*NO:** トランザクションを除去することができません。

---

## 最大デッドロック待機時間 (WAITTIME)

トランザクションをデッドロック状態にしておける時間の長さ（秒数）を入力してください。形式はMMSSです。

指定できる値は次の通りです：

- 0: トランザクションは、無制限の時間でデッドロック状態にすることができます。
- **デッドロック・タイムアウト：** 0-7000（70分）の範囲の数値を入力してください。

---

## 最大装置入出力待機時間 (IDLETIME)

トランザクションが端末入力または出力を待っている時間の長さ（秒数）を入力してください。形式はMMSSです。

指定できる値は次の通りです：

- 0: トランザクションは、無制限の時間で端末装置の入力または出力を待機することができます。
- **読み取りタイムアウト：** 0-7000（70分）の範囲の数値。

---

## 異常終了時のダンプ (DUMP)

トランザクションが異常終了した時にトランザクション・ダンプが取られるかどうかを示します。このフィールドは、ローカル・システムの場合、すなわちシステム識別コード・フィールドが\*NONEの時のみ有効です。

指定できる値は次の通りです：

- **\*YES:** トランザクション・ダンプは、トランザクションの異常終了時に取られます。
- **\*NO:** トランザクション・ダンプは、トランザクションの異常終了時に取られません。

---

## トランザクション作業域サイズ (TWSIZE)

関連したトランザクション作業域(TWA)のサイズを入力してください。このフィールドは、ローカル・システムの場合、すなわちシステム識別コード・フィールドが\*NONEの時にのみ有効です。

指定できる値は次の通りです：

- 0:トランザクションと対応するTWAがありません。
- **TWAサイズ**：0-32767の範囲の数値。

上

---

## 使用画面サイズ (SCRNSZE)

このトランザクションを実行している端末に対して省略時の画面サイズまたは代替画面サイズのどちらを使用するかを示します。

指定できる値は次の通りです：

- \*DFT:省略時の画面サイズが使用されます。
- \*ALT:代替画面サイズが使用されます。

上

---

## ローカル・システム待機 (LCLQUEUE)

ローカル・システムでの待ち行列化を実行するかどうかを示します。

指定できる値は次の通りです：

- \*YES:ローカル・システム待ち合わせが実行されます。
- \*NO:ローカル・システム待ち合わせは実行されません。

上

---

## 自動大文字変換 (UCTRN)

このトランザクションへの端末入力をこのトランザクションが実行される端末側で大文字に変換するかどうかを示します。

使用可能なUCTRN値は次の通りです：

- \*NO:端末入力大文字変換は、各個別端末ごとに端末管理テーブルで有効となっているUCTRN設定値に属していることを指定します。
- \*YES:端末から小文字で入力されたデータは、このトランザクションに渡される前に大文字に変換されることを指定します。

上

---

## 例

なし

上

---

## エラー・メッセージ

不明

上

## CICS PPT項目の追加 (ADDCICSPPT)

実行可能場所:

- バッチ・ジョブ (\*BATCH)
- 対話式ジョブ (\*INTERACT)
- バッチ・プログラム (\*BPGM)
- 対話式プログラム (\*IPGM)
- バッチ REXX プロシージャ (\*BREXX)
- 対話式 REXX プロシージャ (\*IREXX)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (\*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

PPTに項目を追加するためには、CICS処理プログラム・テーブル追加(ADDCICSPPT)コマンドを使用してください。

処理プログラム・テーブル(PPT)は、PCTに保留されているトランザクション識別コードで呼び出すことができるプログラムを定義します。次のための項目を作成する必要があります。

- ローカル・トランザクションIDによって呼び出されたすべてのプログラム。これらのプログラムはローカルまたはリモートとすることができます。
- EXEC CICS LINKまたはEXEC CICS XCTLコマンドによって呼び出されたすべてのプログラム。
- ローカル・システムで使用されたすべてのBMSマップ・セットおよびユーザー空間。

上

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
LIB	ライブラリー	通信名, *LIBL, *CURLIB	必須, 定位置 1
GROUP	グループ	通信名	必須, 定位置 2
PGMID	CICS プログラム	通信名	必須, 定位置 3
CICSMAP	BMSマップ・セット	*NO, *YES	オプション, 定位置 4
SYSID	リモート CICS システム	通信名, *NONE	オプション, 定位置 5
RMTPGMID	リモート CICS プログラム	通信名, *PGMID	オプション, 定位置 6
PGMOBJ	プログラム オブジェクト	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 7
	修飾子 1: プログラム オブジェクト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
CICSDEBUG	CICSのデバッグ	*DEBUG, *NODEBUG	オプション, 定位置 10
APISET	APIコマンド	*FULLAPI, *DPLSUBSET	オプション, 定位置 11
TRANSID	トランザクション	文字値, *NONE	オプション, 定位置 12
PGMSTS	状況	*ENABLED, *DISABLED	オプション, 定位置 8
PGMLNG	呼び出し規則	*COBOL, *C	オプション, 定位置 9

---

## ライブラリー (LIB)

グループが入っているライブラリーの名前を入力してください。考えられる値は次の通りです。

- **\*LIBL:** グループが入っている最初のライブラリーを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。
- **\*CURLIB:** 現行ライブラリーにグループが入っています。現行ライブラリーが指定されない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。
- **ライブラリー名:** グループが入っているライブラリーの名前。

上

---

## グループ (GROUP)

このPPT項目を追加するグループの名前。

- **グループ名:** グループ名は最大10桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## CICS プログラム (PGMID)

i5/OSプログラム・オブジェクトを開始するために使用されるプログラム識別コードを入力します。このフィールドは、このPPT項目を識別するためにも使用されます。

- **プログラムID:** プログラムIDは最大8桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## BMSマップ・セット (CICSMAP)

PGMIDフィールドで識別されたプログラムがBMSマップ・セットまたはユーザー空間のどちらであるかを示します。

指定できる値は次の通りです：

- **\*NO:** プログラム識別コードはBMSマップ・セットまたはユーザー空間ではありません。これはアプリケーション・プログラムです。
- **\*YES:** プログラム識別コードはBMSマップ・セットまたはユーザー空間です。

上



---

## リモート CICS システム (SYSID)

プログラムを所有しているシステムの識別コードを入力してください。システムはTCS項目をもっているはずですが、このフィールドは、アプリケーション・プログラムを定義しているPPT項目の場合、すなわちCICSMAPフィールドが\*NOの時にのみ有効です。

指定できる値は次の通りです：

- \*NONE:プログラムはローカル・システムに保留中です。
- **システム識別コード**：システム識別コードは最大4桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @,または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## リモート CICS プログラム (RMTPGMID)

プログラムがリモート・システム上で認識される識別コードを入力してください。このフィールドは、ローカル・システムの場合、すなわちシステム識別コード・フィールドが\*NONEの時には無効です。

指定できる値は次の通りです：

- \*PGMID:ローカルおよびリモート・プログラム識別コードは同じです。リモート・プログラムをアクセスするためにローカル識別コードが使用されます。
- **リモート・プログラム識別コード**：プログラム識別コードは最大8桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @,または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## プログラム オブジェクト (PGMOBJ)

プログラム識別コードによって使用されるi5/OSプログラム・オブジェクトまたはユーザー・スペース・オブジェクトの名前を入力します。このフィールドは、ローカル・システムの場合、すなわちシステム識別コード・フィールドが\*NONEの時にのみ有効です。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

- \*LIBL: i5/OSプログラム・オブジェクトまたはユーザー・スペース・オブジェクトを見つけるために、CICS制御領域と関連するジョブのライブラリー・リストが使用されます。
- \*CURLIB: i5/OSプログラム・オブジェクトまたはユーザー・スペース・オブジェクトを見つけるために、CICS制御領域と対応するジョブの現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。
- **ライブラリー名**: i5/OSプログラム・オブジェクトまたはユーザー・スペース・オブジェクトが入っているライブラリーの名前を指定してください。

**オブジェクト名**i5/OSプログラム・オブジェクトまたはユーザー・スペース・オブジェクトの名前を指定してください。

上

---

## CICSのデバッグ (CICSDEBUG)

i5/OSプログラム・オブジェクトの実行時にCICS提供トランザクションCEDFを使用できるかどうかを示します。このフィールドは、CICSMAPフィールドがローカル・システムに保留されているアプリケーション・プログラムを参照している時、すなわちCICSMAPフィールドに\*NOが入っていて、システムIDフィールドに\*NONEが入っている時のみ有効です。

指定できる値は次の通りです。

- **\*DEBUG:** i5/OSプログラム・オブジェクトでCEDFを使用することができます。
- **\*NODEBUG:** i5/OSプログラム・オブジェクトでCEDFを使用することができません。

上

---

## APIコマンド (APISET)

EXEC CICSコマンドをアプリケーション・プログラム内で実行できるかどうかを示します。このフィールドは、CICSMAPフィールドがローカル・システムに保留されているアプリケーション・プログラムを参照している時、すなわちCICSMAPフィールドに\*NOが入っていて、システム識別コード・フィールドに\*NONEが入っている時のみ有効です。

注: プログラム識別コードがAEGで始まっている場合には、このフィールドには\*FULLAPIが入っていません。

指定できる値は次の通りです:

- **\*FULLAPI:** アプリケーション・プログラムですべてのEXEC CICS コマンドを使用することができます。
- **\*DPLSUBSET:** 分散プログラミング・リンク・サブセットで指定されたEXEC CICSコマンドしかアプリケーション・プログラムで使用することができません。

上

---

## トランザクション (TRANSID)

分散プログラムのリンク時にプログラムが実行される時の一時変更トランザクション識別コードを入力してください。このトランザクション識別コードは固有のPPT項目をもっているはずですが、このパラメーターは、ローカル・システムの場合、すなわちシステム識別コード・フィールドが\*NONEの時には無効です。

指定できる値は次の通りです。

- **\*NONE:** 使用される一時変更トランザクション識別コードがありません。
- **トランザクションID:** トランザクションIDは最大4桁の長さとすることができます。キーボード上の任意の文字を入力できますが、小文字および特殊文字はアポストロフィで囲まなければなりません。

アポストロフィを入力するための十分なスペースがない時には、追加の文字を入力できるようにする拡張フィールド・サイズを取得するために、最初の文字位置にアンパーサンド(&)を入力してください。ブランクは受け入れられますが、項目が制御領域に対して定義されている時には、ブランクの後の文字は無視されます。たとえば、'AB G'は制御領域内では'AB'として扱われます。

16進数文字はアポストロフィで囲まなければならない、大文字のXが先行していなければなりません。たとえば、X'A1A2A3A4'です。16進数値は受け入れられますが、値が印刷可能文字でない場合には、その項目は制御領域に定義される時に拒否されます。

上

---

## 状況 (PGMSTS)

プログラム識別コードを使用できるかどうかを示します。

指定できる値は次の通りです：

- **\*ENABLED:**このプログラム識別コードを使用することができます。
- **\*DISABLED:**このプログラム識別コードを使用することはできません。

上

---

## 呼び出し規則 (PGMLNG)

プログラム・オブジェクトを呼び出すために使用されるプログラム言語規則を入力してください。これによって、CICSがプログラム・オブジェクトにパラメーターを渡す方法が決定されます。

- **\*COBOL:** CICSは、CICS COBOL呼び出し規則を使用してプログラム・オブジェクトを呼び出します。
- **\*C:** CICS は、CICS C呼び出し規則を使用してプログラム・オブジェクトを呼び出します。

上

---

## 例

なし

上

---

## エラー・メッセージ

不明

上



## CICS SIT項目の追加 (ADDCICSSIT)

実行可能場所:

- バッチ・ジョブ (\*BATCH)
- 対話式ジョブ (\*INTERACT)
- バッチ・プログラム (\*BPGM)
- 対話式プログラム (\*IPGM)
- バッチ REXX プロシージャ (\*BREXX)
- 対話式 REXX プロシージャ (\*IREXX)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (\*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

SITに項目を追加するためには、CICSシステム初期設定テーブル追加(ADDCICSSIT)コマンドを使用してください。

システム初期設定テーブル(SIT)は、システムの初期始動条件および制御パラメーターを指定するために使用されます。このグループのSIT項目がすでに存在している場合には、追加は正しくありません。

常に1セットの条件だけがシステムに適用されるので、グループ当たりおよびグループ・リスト・テーブル(GLT)当たり、1つのSIT項目しか使用することはできません。必要な数のSIT項目を作成できますが、各SIT項目は異なったグループおよび異なったGLTに属していなければなりません。

上

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
LIB	ライブラリー	通信名, *LIBL, *CURLIB	必須, 定位置 1
GROUP	グループ	通信名	必須, 定位置 2
GLTLIB	GLT ライブラリー	通信名, *LIBL, *CURLIB	オプション, 定位置 3
GLTGRP	GLT グループ	通信名, *NONE	オプション, 定位置 4
WRKARASIZE	共通作業域のサイズ	0-3584, <u>512</u>	オプション, 定位置 5
APPLID	アプリケーション	通信名, <u>DBDCCICS</u>	オプション, 定位置 6
DATFORM	日付の形式	*MMDDYY, *DDMMYY, *YYMMDD	オプション, 定位置 7
DUMP	CICSシステム・ダンプ使用可	*YES, *NO	オプション, 定位置 8
DEVCTL	CICS装置処理	要素リスト	オプション, 定位置 9
	要素 1: CICS 装置マスク	文字値, *DFT	
	要素 2: 自動導入非活動限界	0-180000, <u>0</u>	
	要素 3: 装置従属接尾部	*DDS, *NODDS	
FILECTL	ファイル処理	要素リスト	オプション, 定位置 10
	要素 1: オープンされているファイル最大数	0-32767, <u>0</u>	
	要素 2: オープン・ファイル非活動限界	0-1440, <u>0</u>	

キーワード	記述	選択項目	ノート
INTRCCTL	内部トレース処理	要素リスト	オプションナル, 定位置 11
	要素 1: トレース・バッファの最大項目数	125-10000, <u>125</u>	
	要素 2: 始動時に活動状態	*NO, *YES	
	要素 3: いっぱいの時の折り返し	*YES, *NO	
AUXTRCCTL	補助トレース処理	要素リスト	オプションナル, 定位置 12
	要素 1: 始動時に活動状態	*NO, *YES	
	要素 2: 自動切り替え	*YES, *NO	
	要素 3: 補助トレースAオブジェクト	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: 補助トレースAオブジェクト	通信名	
	修飾子 2: ライブラリー	通信名, *CURLIB	
	要素 4: 補助トレースBオブジェクト	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: 補助トレースBオブジェクト	通信名	
	修飾子 2: ライブラリー	通信名, *CURLIB	
USRTRC	始動時のユーザー・トレース活動中	*NO, *YES	オプションナル, 定位置 13
TSCTL	一時記憶域処理	要素リスト	オプションナル, 定位置 14
	要素 1: 経過限界	0-512, <u>0</u>	
	要素 2: データ回復	*YES, *NO	
SHRSTG	共用記憶域情報	要素リスト	オプションナル, 定位置 15
	要素 1: LSO記憶域要件	要素リスト	
	要素 1: サイズ	10-16000, <u>10</u>	
	要素 2: エクステント・サイズ	0-16000, <u>0</u>	
	要素 3: 最大エクステント数	0-32767, <u>0</u>	
	要素 2: システム記憶域所要量	要素リスト	
	要素 1: サイズ	46-16000, <u>46</u>	
	要素 2: エクステント・サイズ	0-16000, <u>0</u>	
	要素 3: 最大エクステント数	0-32767, <u>0</u>	
	要素 3: ユーザー記憶域所要量	要素リスト	
	要素 1: サイズ	3-16000, <u>3</u>	
	要素 2: エクステント・サイズ	0-16000, <u>0</u>	
	要素 3: 最大エクステント数	0-32767, <u>0</u>	
	NONSHRSTG	非共用記憶域処理	
要素 1: LSO記憶域要件		要素リスト	
要素 1: サイズ		7-16000, <u>7</u>	
要素 2: エクステント・サイズ		0-16000, <u>0</u>	
要素 3: 最大エクステント数		0-32767, <u>0</u>	
要素 2: システム記憶域所要量		要素リスト	
要素 1: サイズ		7-16000, <u>7</u>	
要素 2: エクステント・サイズ		0-16000, <u>0</u>	
要素 3: 最大エクステント数		0-32767, <u>0</u>	
要素 3: ユーザー記憶域所要量		要素リスト	
要素 1: サイズ		5-16000, <u>5</u>	
要素 2: エクステント・サイズ		0-16000, <u>0</u>	
要素 3: 最大エクステント数		0-32767, <u>0</u>	
ITVCTL		インターバル制御機能処理	要素リスト
	要素 1: 活動状態のCICS シェルの最大数	1-32767, <u>5</u>	
	要素 2: 活動状態のCICS シェルの最小数	1-32767, <u>2</u>	

キーワード	記述	選択項目	ノート
TDCTL	一時データ情報	要素リスト	オプション、定位置 18
	要素 1: ATIユーザー・プロファイル	単純名, <u>*INVOKER</u>	
	要素 2: データ回復	<u>*YES</u> , *NO	
DSCOMP	データ・ストリーム圧縮	<u>*ALL</u> , *NONE, 3270, 5250	オプション、定位置 19
TCPPORT	TCPポート番号	1-65535, <u>*NONE</u> , *CICS	オプション、定位置 20
INLTRN	初期トランザクション	通信名, <u>*NO</u> , *EXT	オプション、定位置 21

上

---

## ライブラリー (LIB)

グループが入っているライブラリーの名前を入力してください。考えられる値は次の通りです。

- **\*LIBL:** グループが入っている最初のライブラリーを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。
- **\*CURLIB:** 現行ライブラリーにグループが入っています。現行ライブラリーが指定されない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。
- **ライブラリー名:** グループが入っているライブラリーの名前。

上

---

## グループ (GROUP)

このSIT項目を追加するグループの名前を入力してください。

**グループ名:** グループ名は最大10桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## GLT ライブラリー (GLTLIB)

グループ・リスト・テーブルを保留しているグループが入っているi5/OS ライブラリーの名前を入力します。この名前は、このSIT項目を識別するためにも使用されます。

指定できる値は次の通りです。

- **\*LIBL:** グループが入っている最初のi5/OSライブラリーを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。
- **\*CURLIB:** 現行ライブラリーにグループが入っています。現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。
- **ライブラリー名:** グループが入っているi5/OSライブラリーの名前を指定してください。

上

---

## GLT グループ (GLTGRP)

グループ・リスト・テーブルが入っているグループの名前を入力してください。グループ・リスト・テーブルに指定されたすべてのグループは、CICS制御領域が開始された時に使用されます。

指定できる値は次の通りです：

- \*NONE:グループ・リスト・テーブルは使用されません。
- **グループ名**：グループ名は最大10桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @,または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## 共通作業域のサイズ (WRKARASIZE)

共通システム域(CSA)の共通作業域(CWA)部分のサイズを入力してください。

指定できる値は次の通りです：

- 512:共通作業域は512バイトです。
- **CWAサイズ**: 0-3584の範囲の数値。

上

---

## アプリケーション (APPLID)

CICS制御領域のVTAMアプリケーション識別コードを入力してください。

指定できる値は次の通りです：

- DBDCCICS:これが、CICS制御領域について使用される省略時のVTAMアプリケーション識別コードです。
- **VTAMアプリケーション識別コード**：VTAM アプリケーション識別コードは最大8桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @,または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## 日付の形式 (DATFORM)

EXEC CICS FORMATTIMEコマンドが出された時にCICS制御領域のシステム日付がどのように形式設定されるかを示します。

指定できる値は次の通りです：

- \*MMDDYY:月，日，年。
- \*DDMMYY:日，月，年。
- \*YYMMDD:年，月，日。

上



---

## CICSシステム・ダンプ使用可 (DUMP)

CICS制御領域のダンプを取ることができるかどうかを示します。

指定できる値は次の通りです：

- **\*YES:** CICS制御領域ダンプを取ることができます。
- **\*NO:** CICS制御領域ダンプを取ることができません。

上

---

## CICS装置処理 (DEVCTL)

端末管理パラメーターを入力してください。

指定できる値は次の通りです。

### • 要素1：CICS装置マスク

ユーザーがCICS制御領域にサインオンする時に端末IDを生成するために、TCTの装置IDフィールドに指定されているi5/OS 装置名のどのカラムを使用するかを識別します。数字は、ゼロと相対するオフセットを使用して識別されます。すなわち1は、i5/OS装置名の2番目の数字です。

**注:** 文字の1つが非数値の時には、文字はCICS端末IDのその位置に使用されます。たとえば、端末装置マスク= 0A5B, i5/OS装置名= XYZ1234567, CICS端末ID = XA3B。

- **\*DFT:** 端末装置マスクは、i5/OS装置記述の最後の4カラムの非ブランク文字から構成されます。
- **端末装置マスク:** 端末装置マスクは最大4カラムの長さとすることができます。文字は英数字または特殊文字¥, @,または#の1つとすることができます。
- **要素2：自動導入非活動限界**

シェルが終了した後のアイドル時間。すなわち自動導入端末装置が削除されます。形式はHHMMSSです。

- **0:** セッションの終了と同時に自動導入端末装置を削除します。
- **HHMMSS:** 0-180000の範囲の数値。すなわち最高18時間のアイドル時間です。
- **要素3:** 装置依存の接尾部づけ。

装置依存の接尾部づけが使用可能であるかどうか。

- **\*DDS:** 装置依存の接尾部づけが使用可能です。BMSは常にマップ・セットの接尾部付きバージョンをロードしようとします。使用される接尾部は、次の方法によって決まります。トランザクションが代替画面サイズを使用している場合には、BMSは代替接尾部をもっているマップ・バージョンをロードしようとします。ロードが正常に実行されない（またはトランザクションが代替画面サイズを使用していない）場合には、BMSは省略時のマップ・セットの接尾部をもっているバージョンをロードしようとします。これも正常に実行されない場合には、BMSは接尾部のないバージョンをロードしようとします。
- **\*NODDS:** BMSはマップ・セットの接尾部付きバージョンをロードしません。このオプションの指定により、接尾部付きバージョンの検索が避けられます。

上

---

## ファイル処理 (FILECTL)

ファイル制御機能によって使用されるパラメーターを入力してください。

指定できる値は次の通りです：

- **要素 1：オープンされている最大ファイル数**

タスク終了時にCICSシェルに対してオープンされたままにするファイルの最大数。

- 0:無制限の数のファイルをオープンされたままにすることができます。
- **最大オープン数**：0-32767の範囲の数値。

- **要素 2：オープンされているファイルの非活動限界**

非活動のファイルをオープンされたままにできる時間（分数）。

- 0:活動のないファイルをオープンされたままにできる時間に制限はありません。
- **分数**：0-1440（24時間）の範囲の数値。

上

---

## 内部トレース処理 (INTTRCCTL)

内部トレース機能によって使用される制御パラメーターを入力してください。

指定できる値は次の通りです：

- **要素 1：トレース・バッファの最大項目数**

内部トレース・バッファに使用可能な項目の最大数。ここに入力された数値は、AUXTRCCTL 任意指定パラメーター要素 3 および 4 に指定された各補助トレース空間オブジェクトの最大項目数も制御します。

- 125:内部トレース・バッファに最大125項目を使用することができます。
- **トレース・バッファ項目数**：125-10000の範囲の数値。

- **要素 2：始動時に活動状態**

CICS制御領域が開始された時に内部トレースを活動状態にするかどうかを指示します。

- \*NO:トレースは活動状態になりません。
- \*YES:トレースが活動状態になります。

- **要素 3：いっぱいの時の折り返し**

内部トレース・バッファがいっぱいになった時に内部トレースを折り返すかどうかを指示します。

- \*YES:内部トレース項目は折り返されます。
- \*NO:内部トレースは停止します。

上

---

## 補助トレース処理 (AUXTRCCTL)

補助トレース機能で使用する制御パラメーターを指定しました。

指定できる値は次の通りです。

### 要素 1 : 始動時に活動状態

CICS制御領域が開始された時に補助トレースを活動状態にするかどうかを指示します。

- \*NO:トレースは活動状態になりません。
- \*YES:トレースが活動状態になります。

### 要素 2 : 自動切り替え

補助トレース・ユーザー・スペースがいっぱいになった時に行う動作を指示します。

- \*YES:トレース・ユーザー・スペースが切り替えられます。
- \*NO:補助トレースは停止します。

### 要素 3 : 補助トレース・ファイル 1

補助トレース機能によって使用される最初のi5/OSユーザー・スペース・オブジェクトの名前。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

- \*CURLIB: i5/OSユーザー・スペース・オブジェクトを見つけるために、CICS制御領域と対応するジョブの現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。
  - ライブラリー名: i5/OSユーザー・スペース・オブジェクトが入っているライブラリーの名前を指定してください。
- 補助トレース 1 : i5/OSユーザー・スペース・オブジェクトの名前を指定してください。

### 要素 4 : 補助ファイル 2

補助トレース機能によって利用される2番目のi5/OSユーザー・スペース・オブジェクトの名前。

注: これは、要素 3 (補助トレース 1) で指定されたi5/OSユーザー・スペース・オブジェクトと同じにすることはできません。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

- \*CURLIB: i5/OSユーザー・スペース・オブジェクトを見つけるために、CICS制御領域と対応するジョブの現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。
  - ライブラリー名: i5/OSユーザー・スペース・オブジェクトが入っているライブラリーの名前を指定してください。
- 補助トレース 2 : i5/OSユーザー・スペース・オブジェクトの名前を指定してください。

上

---

## 始動時のユーザー・トレース活動中 (USRTRC)

CICS制御領域が開始された時にユーザー・トレース項目を作成できるかどうかを示します。

指定できる値は次の通りです：

- **\*NO:**ユーザー・トレース項目は作成されません。
- **\*YES:**ユーザー・トレース項目が作成されます。

上

---

## 一時記憶域処理 (TSCTL)

一時記憶域機能で使用するパラメーターを入力してください。ウォーム・スタート時に、回復可能な一時記憶域待ち行列がすべて回復されます。

使用できる値は、次の通りです。

### 要素 1 : TS経過限界

CICS制御領域の緊急再始動時に、一時記憶域回復プログラムによって使用される一時記憶域データの経過限界。指定された限界より古いデータは回復されません。値は日数で指定されます。

- 0:すべてのデータが回復されます。
- **一時記憶域経過 :** 0-512の範囲の数値。

### 要素 2 : 一時記憶域待ち行列の回復

CICS制御領域の緊急再始動時に、一時記憶域待ち行列を回復するかどうかを指示します。

- **\*YES:**一時記憶域待ち行列を回復します。
- **\*NO:**一時記憶域待ち行列を回復しません。

上

---

## 共用記憶域情報 (SHRSTG)

共用記憶域要件を入力してください。

注：各3タイプの共用記憶域の考えられる最大サイズは、16,775,216です。最大サイズを計算するためには、次のものを加算してください。サイズ\* 1024,およびエクステント・サイズ\*最大エクステント\* 1024。

使用可能なLSO記憶域要件の値は次の通りです：

### 要素 1 : LSOサイズ

Kバイトで表したCICSローカル空間オブジェクト(LSO)のサイズ。

- 10: CICS LSOは10Kバイトの記憶域を使用して定義されます。
- **LSOサイズ :** 10-16000の範囲の数値。

### 要素 2 : LSOエクステント・サイズ

Kバイトで表したCICS LSOエクステントのサイズ。

- 0: CICS LSOはいっぱいになった時に拡張されません。
- **LSOエクステント・サイズ**： 0-16000の範囲の数値。

### 要素3：LSO最大エクステント

CICS LSO最大拡張可能回数。

- 0: CICS LSOはいっぱいになった時に拡張されません。
- **LSOエクステント**： 0-32767の範囲の数値。

使用可能なシステム記憶域所要量の値は、次の通りです：

### 要素4：システム・サイズ

Kバイトで表したCICSシステム空間オブジェクトのサイズ。

- 46: CICSシステム空間オブジェクトが46Kバイトの記憶域で定義されます。
- **システム・サイズ**： 46-16000の範囲の数値。

### 要素5：システム・エクステント・サイズ

Kバイトで表したCICSシステム空間オブジェクトのエクステントのサイズ。

- 0: CICSシステム空間オブジェクトはいっぱいになった時に拡張されません。
- **システム・エクステント・サイズ**： 0-16000の範囲の数値。

### 要素6：システム最大エクステント

CICSシステム空間オブジェクト最大拡張可能回数。

- 0: CICSシステム空間オブジェクトはいっぱいになった時に拡張されません。
- **システム・エクステント**： 0-32767の範囲の数値。

使用可能なユーザー記憶域所要量の値は、次の通りです：

### 要素7：ユーザー・サイズ

Kバイトで表したCICSユーザー空間オブジェクトのサイズ。

- 3: CICSユーザー空間オブジェクトが3Kバイトの記憶域で定義されます。
- **ユーザー・サイズ**： 3-16000の範囲の数値。

### 要素8：ユーザー・エクステント・サイズ

Kバイトで表したCICSユーザー空間オブジェクトのエクステントのサイズ。

- 0: CICSユーザー空間オブジェクトはいっぱいになった時に拡張されません。
- **ユーザー・エクステント・サイズ**： 0-16000の範囲の数値。

### 要素9：ユーザー最大エクステント

CICSユーザー空間オブジェクト最大拡張可能回数。

- 0: CICSユーザー空間オブジェクトはいっぱいになった時に拡張されません。
- **ユーザー・エクステント**： 0-32767の範囲の数値。

上

---

## 非共用記憶域処理 (NONSHRSTG)

非共用記憶域要件を入力してください。

注：3タイプの各非共用記憶域を16,775,216とすることができる、最大サイズ。最大サイズを計算するためには、次のものを加算してください。サイズ\* 1024,およびエクステント・サイズ\*最大エクステント\* 1024。

使用可能なLSO記憶域要件の値は次の通りです：

- **要素1：LSOサイズ**

Kバイトで表したCICS LSOのサイズ。

- 7: CICS LSOが7Kバイトの記憶域で定義されます。
- **LSOサイズ**： 7-16000の範囲の数値。

- **要素2：LSOエクステント・サイズ**

Kバイトで表したCICS LSOエクステントのサイズ。

- 0: CICS LSOはいっぱいになった時に拡張されません。
- **LSOエクステント・サイズ**： 0-16000の範囲の数値。

- **要素3：LSO最大エクステント**

CICS LSO最大拡張可能回数。

- 0: CICS LSOはいっぱいになった時に拡張されません。
- **LSOエクステント**： 0-32767の範囲の数値。

使用可能なシステム記憶域所要量の値は、次の通りです：

- **要素4：システム・サイズ**

Kバイトで表したCICSシステム空間オブジェクトのサイズ。

- 7: CICSシステム空間オブジェクトが7Kバイトの記憶域で定義されます。
- **システム・サイズ**： 7-16000の範囲の数値。

- **要素5：システム・エクステント・サイズ**

Kバイトで表したCICSシステム空間オブジェクトのエクステントのサイズ。

- 0: CICSシステム空間オブジェクトはいっぱいになった時に拡張されません。
- **システム・エクステント・サイズ**： 0-16000の範囲の数値。

- **要素6：システム最大エクステント**

CICSシステム空間オブジェクト最大拡張可能回数。

- 0: CICSシステム空間オブジェクトはいっぱいになった時に拡張されません。
- **システム・エクステント**： 0-32767の範囲の数値。

使用可能なユーザー記憶域所要量の値は、次の通りです：

- **要素7：ユーザー・サイズ**

Kバイトで表したCICSユーザー空間オブジェクトのサイズ。

- 5: CICSユーザー空間オブジェクトが5Kバイトの記憶域で定義されます。
- **ユーザー・サイズ**： 5-16000の範囲の数値。

#### 要素8：ユーザー・エクステント・サイズ

Kバイトで表したCICSユーザー空間オブジェクトのエクステントのサイズ。

- 0: CICSユーザー空間オブジェクトはいっぱいになった時に拡張されません。
- **ユーザー・エクステント・サイズ**： 0-16000の範囲の数値。

#### 要素9：ユーザー最大エクステント

CICSユーザー空間オブジェクト最大拡張可能回数。

- 0: CICSユーザー空間オブジェクトはいっぱいになった時に拡張されません。
- **ユーザー・エクステント**： 0-32767の範囲の数値。

上

---

## インターバル制御機能処理 (ITVCTL)

間隔制御機能で 사용되는パラメーターを入力してください。

指定できる値は次の通りです：

#### 要素1：活動状態のCICSシェルの最大数

- 同時に活動状態にできる、間隔制御機能によって使用されるバッチ・ユーザー・シェルの最大数。
- 5:5つのバッチ・ユーザー・シェルを同時に活動状態にすることができます。
- **バッチ・シェルの最大数**： 1-32767の範囲の数値。

#### 要素2：活動状態のCICSシェルの最小数

活動状態のまま残る、間隔制御機能によって使用されるバッチ・ユーザー・シェルの数。

- 2:2つのバッチ・ユーザー・シェルが常に活動状態となります。
- **バッチ・シェルの最小数**： 1-要素1（活動状態のCICSシェルの最大数）の範囲の数値。

上

---

## 一時データ情報 (TDCTL)

緊急再始動時に一時データ機能で 사용되는制御パラメーターを入力してください。ウォーム・スタート時に、回復可能な一時データ待ち行列がすべて回復可能となります。

使用できる値は、次の通りです。要素1：ATIユーザー・プロファイル

- 一時データ・トリガー・レベルに達した時に、自動的に開始されるトランザクションと対応するi5/OSユーザー・プロファイル。
- \*INVOKER:一時データ・トリガー・レベルに達する原因となったシェルと対応するi5/OSユーザー・プロファイルを使用します。



- **ユーザー・プロファイル**：ユーザープロファイル名は最大 10カラムの長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @,または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

## 要素2：データ回復

CICS制御領域の緊急再始動時に一時データ待ち行列を回復するかどうかを指示します。

- **\*YES**:一時データ待ち行列を回復します。
- **\*NO**:一時データ待ち行列を回復しません。

上

---

## データ・ストリーム圧縮 (DSCOMP)

データ・ストリーム圧縮を使用可能にする装置タイプを示します。

指定できる値は次の通りです：

- **\*ALL**:すべての装置タイプに対してデータ・ストリーム圧縮が使用可能であることを指定します。
- **\*NONE**:任意の装置タイプに対してデータ・ストリーム圧縮が使用可能でないことを指定します。
- **3270**: 3270装置タイプに対しデータ・ストリーム圧縮が使用可能であることを指定します。
- **5250**: 5250装置タイプに対しデータ・ストリーム圧縮が使用可能であることを指定します。

上

---

## TCPポート番号 (TCPPORT)

CICS TCP/IP LISTENERを制御領域の始動時に開始する必要があるかどうかと、開始する場合にCICSクライアントがそのLISTENERへの接続に使用するTCPポートを指定します。

指定できる値は次の通りです：

- **\*NONE**: CICS TCP/IP LISTENERは使用されません。
- **\*CICS**: CICS TCP/IP LISTENERは、CICSクライアントがサービス・テーブルのIBM-CICS項目に指定されたポート番号のTCP/IPを使用して接続できるように、制御領域の始動時に開始されます。
- **TCPポート番号**: 1-65535の範囲の数値。このパラメーターに値を指定すると、CICS TCP/IP LISTENERは、CICSクライアントが指定されたポート番号のTCP/IPを使用して接続できるように、制御領域の始動時に開始されます。

上

---

## 初期トランザクション (INLTRN)

CICS制御領域で初期設定処理が完了した直後に呼び出されるトランザクションの名前を入力してください。

— トランザクションは別個のバッチ・ジョブで実行されます。デフォルトでは、QBATCHサブシステムの下です。ジョブ名はトランザクションの場合「AEGINLTRN」ですが、CICS以外のプログラムの場合は「AEGEXTPGM」が使用されます。



— トランザクションはプログラム管理テーブル(PCT)に定義された項目を必要とし、そのプログラム・オブジェクトは処理プログラム・テーブル(PPT)に定義された項目を必要とし、いずれもローカル・システムに保管されている必要があります。

— CICS以外のプログラム・オブジェクトは「EXTPGM」という名前であり、そのライブラリーは、CICS制御領域が実行されるジョブのライブラリー・リストに存在している必要があります。

単一値

- \*NO: CICS制御領域が開始された後で、トランザクションが自動的に呼び出されません。
- \*EXT: CICS以外のプログラム「EXTPGM」は、CICS制御領域が開始された後で自動的に呼び出されます。CICS以外のプログラムは、通常のバッチ・ジョブで実行されます。
- **トランザクション名:** トランザクションの名前を指定してください。トランザクションは、バッチ・ジョブの下のシェルで実行されます。

上

---

## 例

なし

上

---

## エラー・メッセージ

不明

上



## CICS TCS項目の追加 (ADDCICSTCS)

実行可能場所:

- バッチ・ジョブ (\*BATCH)
- 対話式ジョブ (\*INTERACT)
- バッチ・プログラム (\*BPGM)
- 対話式プログラム (\*IPGM)
- バッチ REXX プロシージャ (\*BREXX)
- 対話式 REXX プロシージャ (\*IREXX)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (\*EXEC) の使用

パラメーター

例  
エラー・メッセージ

スレッド・セーフ: いいえ

TCSに項目を追加するためには、CICS端末管理システム・テーブル追加(ADDCICSTCS)コマンドを使用してください。

端末管理システム・テーブルは、リモートCICSシステムの特徴、およびローカルとリモート・システム間の接続の明細を指定するために使用されます。このテーブルの項目は次の通りです：

- リモート・システムとのリンクを定義します。これは、機能積み込み、分散プログラム・リンク(DPL)、または分散トランザクション処理用にローカル・アプリケーションによって使用することができます。また、トランザクション経路指定用にシステムが使用することもできます。
- リモート資源が存在しているシステムを識別するために、他のテーブル項目のSYSIDオプションで使用することができます。
- リモート資源のロケーションを識別するために、EXEC CICSコマンドのSYSIDオプションで使用することができます。

上

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
LIB	ライブラリー	通信名, *LIBL, *CURLIB	必須, 定位置 1
GROUP	グループ	通信名	必須, 定位置 2
SYSID	リモート CICS システム	通信名	必須, 定位置 3
NETWORK	ネットワーク	通信名, *SYSID	オプション, 定位置 4
MODE	モード	通信名, *NETATR	オプション, 定位置 5
CDEPAGE	コード ページ	1-65535, *SYSVAL	オプション, 定位置 6
SYSSTS	状況	*ENABLED, *DISABLED	オプション, 定位置 7
SNDPFX	アウトバウンド・セッション接頭部	通信名, *NONE	オプション, 定位置 8
SNLMT	使用可能なアウトバウンド・セッション	0-999	オプション, 定位置 9
RCVPFX	インバウンド・セッション接頭部	通信名, *NONE	オプション, 定位置 10
RCVLMT	使用可能なインバウンド・セッション	0-999	オプション, 定位置 11
INDSYS	間接 CICS システム	通信名, *NONE	オプション, 定位置 12

キーワード	記述	選択項目	ノート
RMTNETID	リモート・ネットワーク標識	通信名, *NETATR, *LOC, *NONE	オプション, 定位置 13

上

---

## ライブラリー (LIB)

グループが入っているライブラリーの名前を入力してください。考えられる値は次の通りです。

- **\*LIBL:** グループが入っている最初のライブラリーを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。
- **\*CURLIB:** 現行ライブラリーにグループが入っています。現行ライブラリーが指定されない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。
- **ライブラリー名:** グループが入っているライブラリーの名前。

上

---

## グループ (GROUP)

TCSテーブル項目を追加するグループの名前。

- **グループ名:** グループ名は最大10桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## リモート CICS システム (SYSID)

CICS制御領域と通信できるリモートCICSシステムを識別するために使用されるシステム識別コード。これはTCS項目の名前です。

- **システム識別コード:** システム識別コードは最大4桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## ネットワーク (NETWORK)

他のCICSシステムを識別するために使用されるネットワーク名。これは、CICSシステムを始動するために使用されるCICSシステム初期設定テーブルに指定されているAPPLIDと同じものでなければなりません。

指定できる値は次の通りです:

- **\*SYSID:** 4つのブランクの接尾語付きのシステム識別コードがネットワーク名として使用されます。
- **ネットワーク:** ネットワークは最大8文字とすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

---

## モード (MODE)

モード名として渡される名前。

考えられる値は次の通りです。

- \*NETATR: ネットワーク属性に指定された通りの省略時のモード名が使用されます。
- **モード名:**最大長は8桁です。最初の文字は英字または特殊文字¥, @,または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## コードページ (CDEPAGE)

データの変換に使用するコード・ページ。

考えられる値は次の通りです。

- \*SYSVAL: System i5のコード・ページを使用します。
- **コード・ページ:** 1以上で65535以下の数字でなければなりません。

上

---

## 状況 (SYSSTS)

CICS端末管理システム・テーブル項目がCICS実行時資源テーブル定義の接続管理機能に対して定義される時、CICSユーザーがCICS制御領域内でCICS /400システム識別コードを使用できるかどうかを示します。

指定できる値は次の通りです:

- \*ENABLED: CICSユーザーがCICSシステム識別コードを使用することができます。
- \*DISABLED: CICSユーザーはCICSシステム識別コードを使用できません。

上

---

## アウトバウンド・セッション接頭部 (SNDPFX)

アウトバウンド・セッション（回線接続）が固有のセッション名を確立するために会話識別コードの最初の部分として使用される接頭部。

注: SNDPFXがRCVPFXの値と同じ値をもっている時には、SNDLMTは1にセットされ、RCVLMTは0にセットされます。

指定できる値は次の通りです:

- \*NONE:アウトバウンド・セッションはありません。
- **アウトバウンド・セッション接頭部:**最大長は2桁です。最初の文字は英字または特殊文字¥, @,または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

---

## 使用可能なアウトバウンド・セッション (SNDLMT)

接続済みのCICSシステムが使用できる、同時に活動状態が可能なアウトバウンド・セッション（回線接続）の数。

使用可能なアウトバウンド・セッション：0-999の範囲の数値を入力してください。

注：SNDPFXが1文字の時には、値は999より大きくしてはいけません。そうでない場合は、値は99より大きくしてはいけません。

---

## インバウンド・セッション接頭部 (RCVPFX)

インバウンド・セッション（回線接続）が固有のセッション名を確立するために会話識別コードの最初の部分として使用される接頭部。

注：SNDPFXがRCVPFXの値と同じ値をもっている時には、SNDLMTは1にセットされ、RCVLMTは0にセットされます。

指定できる値は次の通りです：

- \*NONE:インバウンド・セッションはありません。
- **インバウンド・セッション接頭部**：最大長は2桁です。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

---

## 使用可能なインバウンド・セッション (RCVLMT)

接続済みのCICSシステムが使用できる、同時に活動状態が可能なインバウンド・セッション（回線接続）の数。

使用可能なインバウンド・セッション：0-999の範囲の数値を入力してください。

注：RCVPFXが1文字の時には、値は999より小さいか等しくなければなりません。そうでない場合は、値は99より小さいか等しくなければなりません。

---

## 間接 CICS システム (INDSYS)

このCICSシステムが他のCICSシステムを使用してCICS制御領域との通信を中継するかどうかを示します。

使用できる値は次の通りです。

- \***NONE**: CICSシステムは直接CICS制御領域と通信することができます。

- システム識別コード：長さは4桁です。最初の文字は英字または特殊文字¥, @,または#の1つでなければなりません。残りの文字は英数字または特殊文字¥, @,または#の1つとすることができます。

上

---

## リモート・ネットワーク標識 (RMTNETID)

他のCICSシステムに対して使用するリモート・ネットワーク識別コードを入力してください。

指定できる値は次の通りです：

- **\*NETATR:** ネットワーク属性に指定されたリモート・ネットワーク識別コードが使用されます。
- **\*LOC:** 他のCICSシステムのリモート・ネットワーク識別コードを使用することができます。複数のリモート・ネットワーク識別コードが他のCICSシステムと関連している場合には、システムは自動的にリモート・ネットワーク識別コードを選択します。
- **\*NONE:** リモート・ネットワーク識別コードは使用されません。
- **リモート・ネットワークID:** リモート・ネットワーク識別コードは最大8文字とすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @,または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## 例

なし

上

---

## エラー・メッセージ

不明

上





## CICS TCT項目の追加 (ADDCICSTCT)

### 実行可能場所:

- バッチ・ジョブ (\*BATCH)
- 対話式ジョブ (\*INTERACT)
- バッチ・プログラム (\*BPGM)
- 対話式プログラム (\*IPGM)
- バッチ REXX プロシージャ (\*BREXX)
- 対話式 REXX プロシージャ (\*IREXX)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (\*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

TCTに項目を追加するためには、CICS端末管理テーブル追加(ADDCICSTCT)コマンドを使用してください。TCTを使用して次のものを定義します。

- このシステムで実行中のトランザクションによって使用されることがある、表示端末装置または印刷装置の特性。端末装置はローカルまたはリモートとすることができます。
- 自動導入（自動導入）用のモデル端末装置。大部分の端末装置は共通の複数の特性をもっていて、それらの資源定義は同一であるので、TCTを使用して多数の端末装置に適用するモデル定義を作成することができます。このモデルは、システムが開始される時に必要な端末装置定義を作成するために、CICSによって使用されます。
- トランザクションの自動開始用に使用される端末装置。

上

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
LIB	ライブラリー	通信名, *LIBL, *CURLIB	必須, 定位置 1
GROUP	グループ	通信名	必須, 定位置 2
CICSDEV	CICS装置	通信名	必須, 定位置 3
SYSID	リモート CICS システム	通信名, *NONE	オプション, 定位置 4
RMTDEV	リモート CICS装置	通信名, *CICSDEV	オプション, 定位置 5
DEVTYPE	装置 タイプ	<u>5250</u> , 3270, 3270P, 3270J, 3270JP, 3151, SCS	オプション, 定位置 6
PRTFILE	印刷ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 7
	修飾子 1: 印刷ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
DEVD	装置記述	名前	オプション, 定位置 8
DEVMODEL	自動導入モデル	* <u>TERMINAL</u> , *MODEL, *BOTH	オプション, 定位置 9
NETWORK	ネットワーク	通信名, * <u>CICSDEV</u>	オプション, 定位置 10
ALTSUFFIX	代替マップ設定接尾部	0-9, * <u>NONE</u>	オプション, 定位置 11
DEVSTS	状況	* <u>ENABLED</u> , *DISABLED	オプション, 定位置 12
ATISTS	ATIのサポート	* <u>NO</u> , *YES	オプション, 定位置 13

キーワード	記述	選択項目	ノート
TTISTS	トランザクション開始サポート	*NO, *YES	オプション, 定位置 14
USRARASIZE	ユーザー域のサイズ	0-255, 0	オプション, 定位置 15
DEVCHRID	文字識別コード	要素リスト	オプション, 定位置 16
	要素 1: コード ページ	1-65535, *SYSVAL	
	要素 2: グラフィック 文字セット	1-65535, *SYSVAL	
TRANSID	トランザクション	文字値, *ANY	オプション, 定位置 17
KATAKANA	半角カタカナのサポート	*NO, *YES	オプション, 定位置 18
SOSI	ユーザー指定 DBCSデータ	*NO, *YES	オプション, 定位置 19
UNATTEND	不在時モード	*NO, *YES	オプション, 定位置 20
UCTRN	自動大文字変換	*NO, *YES, *TRANID	オプション, 定位置 21
ALTSCN	代替画面サイズ	*NONE, 24X80, 27X132	オプション, 定位置 22
VALIDATION	妥当性検査機能	*NO, *YES	オプション, 定位置 23
LIGHTPEN	ライト・ペンのサポート	*NO, *YES	オプション, 定位置 24
SHIP	別のCICSシステムへの送信	*NO, *YES	オプション, 定位置 25
DEVACQ	ATI獲得	*NO, *YES	オプション, 定位置 26
DSCOMP	データ・ストリーム圧縮	*SITVAL, *NO	オプション, 定位置 27

上

## ライブラリー (LIB)

グループが入っているライブラリーの名前を入力してください。考えられる値は次の通りです。

- **\*LIBL:** グループが入っている最初のライブラリーを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。
- **\*CURLIB:** 現行ライブラリーにグループが入っています。現行ライブラリーが指定されない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。
- **ライブラリー名:** グループが入っているライブラリーの名前。

上

## グループ (GROUP)

TCT項目を追加するリモート・グループの名前を入力してください。

- **グループ名:** グループ名は最大10桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

## CICS装置 (CICSDEV)

装置を処理するために使用される端末。このフィールドはこのTCT項目を識別するために使用されます。

- **端末ID:** 端末IDは最大4桁の長さとしてすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## リモート CICS システム (SYSID)

装置が入っているTCSテーブルに定義されているリモート・システム識別コードの名前。

注: 制御領域が同じシステム識別コードをもっている時に、この項目はSYSID(\*NONE)が指定されたかのように、実行時資源テーブル定義端末管理機能に導入されます。

使用可能なSYSID値は次の通りです。

- **\*NONE:** 端末装置は、使用中の同じ制御領域に対して定義されます。
- **システム識別コード:** システム識別コードは最大4桁の長さとしてすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## リモート CICS装置 (RMTDEV)

端末がリモート・システム内で認識される名前。このフィールドはSYSID(\*NONE)が指定された時には無効です。

使用可能なRMTDEV値は次の通りです。

- **\*CICSDEV:** TCTと対応する端末装置が使用されます。
- **リモート端末:** リモート端末は最大4桁の長さとしてすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## 装置タイプ (DEVTYPE)

CICS端末のタイプ。

使用可能なDEVTYPE値は次の通りです。

- **5250:** 5250データ・ストリームをサポートする端末装置。
- **3270:** 3270データ・ストリームをサポートする端末装置。
- **3270P:** 3270データ・ストリームをサポートする印刷装置。
- **3270J:** 2バイト使用可能表示装置。
- **3270JP:** 2バイト使用可能印刷装置。
- **3151:** ASCII表示装置。
- **SCS:** SCSデータ・ストリームをサポートする印刷装置。

---

## 印刷ファイル (PRTFILE)

この端末で使用される印刷スプール・ファイルの名前。これは、DEVTYPEがSCS, 3270P,または3270JPとして指定された時にのみ有効です。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

- **\*LIBL:**ファイルを見つけるために、制御領域と対応するジョブのライブラリー・リストが使用されます。
- **\*CURLIB:**ファイルを見つけるために、制御領域と対応するジョブの現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。
- **ライブラリー名:**ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

印刷ファイル名: ファイルの名前を指定してください。

---

## 装置記述 (DEVD)

端末装置と関連付けられているi5/OS装置名。これは、SYSID(\*NONE)が指定されて、DEVTYPE(SCS)およびDEVMODEL(\*MODEL)が指定されない時にのみ必要です。

- **装置記述:**装置記述は最大10桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @,または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

---

## 自動導入モデル (DEVMODEL)

端末を自動導入するためにこの端末をモデルとして使用できるかどうかを示します。これは、DEVTYPE(5250), DEVTYPE(3270), DEVTYPE(3270J),またはDEVTYPE(3151) が指定された時にのみ有効です。

使用可能なDEVMODEL値は次の通りです。

- **\*TERMINAL:**端末装置は、自動導入以降の端末装置に対するモデルとして使用することはできません。
- **\*MODEL:**端末装置は、自動導入端末装置に対するモデルとしてしか使用することはできません。
- **\*BOTH:**端末装置は、自動導入以降の端末装置に対するモデルとして使用することができます。

---

## ネットワーク (NETWORK)

論理装置がネットワーク内のどこでも認識されるように論理装置を識別するために使用される記号ネットワーク名。この名前はVTAMシステム定義に与えられ、ノード初期設定ブロック(NIB)を作成するために使用されます。これはDEVMODEL(\*MODEL)が指定された時には無効です。

使用できるネットワークの値は次の通りです。

- \*CICSDEV: 4つのブランクの接尾語付きの端末装置が記号ネットワーク名として使用されます。
- **ネットワーク**: ネットワークは最大8文字とすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## 代替マップ設定接尾部 (ALTSUFFIX)

この装置の代替接尾部を指定する数値を入力してください。

指定できる値は次の通りです:

- \*NONE: 装置はユーザー定義の代替接尾部をもちません。
- 0-9: トランザクションが代替画面サイズを使用している場合には、この数値接尾部がBMSによってマップ・セット名に付加されます。(あるいは省略時の値と代替画面サイズが同じ場合)。

上

---

## 状況 (DEVSTS)

TCT項目が実行時資源テーブル定義の端末制御機能に対して定義された時に制御領域が端末を使用できるかどうかを示します。

使用可能なDEVSTS値は次の通りです。

- \*ENABLED: 制御領域によって端末装置を使用することができます。
- \*DISABLED: 制御領域によって端末装置を使用することはできません。

上

---

## ATIのサポート (ATISTS)

端末をATIトランザクションまたはISCセッションのどちらに使用できるかを示します。ISCセッションは、他のCICSシステムと通信するために端末を代替機能として使用するトランザクションのためのものです。

使用可能なATISTS値は次の通りです。

- \*NO: 制御領域ATI機能によって端末装置を使用することはできません。
- \*YES: 制御領域ATI機能によって端末装置を使用することができます。

上

---

## トランザクション開始サポート (TTISTS)

端末がトランザクションを開始できるかどうかを示します。

注: ATISTS(\*NO)が指定された時には、このパラメーターは\*YESでなければなりません。

使用可能なTTISTS値は次の通りです。

- \*YES: 端末装置はトランザクションを開始することができます。
- \*NO: 端末装置はトランザクションを開始することができません。

上

---

## ユーザー域のサイズ (USRARASIZE)

端末と関連したユーザー域の長さ。

使用可能なUSRARASIZE値は次の通りです。

- 0: ユーザー域は使用されません。
- ユーザー域の長さ: ユーザー域の長さは0以上で255以下の数字でなければなりません。

上

---

## 文字識別コード (DEVCHRID)

端末で使用するコード・ページおよび文字セット。

使用可能なDEVCHRID値は次の通りです。

- 要素1: コード・ページ

使用されるコード・ページ。

- \*SYSVAL: System i5のコード・ページを使用します。
- コード・ページ: コード・ページは1以上で65535以下の数字でなければなりません。

要素2: 文字セット

使用されるグラフィック文字セット。

- \*SYSVAL: System i5の文字セットを使用します。
- 文字セット: 文字セットは1以上で65535以下の数字でなければなりません。

上

---

## トランザクション (TRANSID)

PCTに定義されているトランザクション識別コード（これが端末で実行できる唯一のトランザクションである時）。

使用可能なTRANSID値は次の通りです。

- \*ANY: 端末装置で任意のトランザクションを実行することができます。

- **トランザクションID:**トランザクションIDは最大4桁の長さとしてすることができます。キーボード上の任意の文字を入力できますが、小文字および特殊文字はアポストロフィで囲まなければなりません。

アポストロフィを入力するための十分なスペースがない時には、追加の文字を入力できるようにする拡張フィールド・サイズを取得するために、最初の文字位置にアンパーサンド(&)を入力してください。ブランクは受け入れられますが、項目が制御領域に対して定義されている時には、ブランクの後の文字は無視されます。たとえば、'AB G'は制御領域内では'AB'として扱われます。

16進数文字はアポストロフィで囲まなければならない、大文字のXが先行していなければなりません。たとえば、X'A1A2A3A4'です。16進数値は受け入れられますが、値が印刷可能文字でない場合には、その項目は制御領域に定義される時に拒否されます。

上

---

## 半角カタカナのサポート (KATAKANA)

カタカナ・サポートが必要であるかどうかを示します。カタカナ端末は大文字小文字混合出力を表示できません。上段シフト文字は英大文字として現れますが、下段シフト文字はカタカナ文字として現れます。マップが表示される端末でカタカナ・サポートが必要な場合には、CASE=MIXEDオプションが指定されているBMSフィールド内のローマ字の小文字は、BMSによって自動的に大文字に変換されます。

ユーザー作成のアプリケーションはこの端末属性を照会し、追加のサポートを提供することがあります。

指定できる値は次の通りです:

- **\*NO:**端末はカタカナ・サポートを必要としません。
- **\*YES:**端末はカタカナ・サポートを必要とします。

上

---

## ユーザー指定 DBCSデータ (SOSI)

端末が混合EBCDIC/DBCSフィールド機能を備えているかどうかを示します。

使用可能なSOSI値は次の通りです。

- **\*NO:**端末装置は、EBCDIC/DBCS混合フィールド機能を持っていません。
- **\*YES:**端末装置は、EBCDIC/DBCS混合フィールド機能を持っています。

上

---

## 不在時モード (UNATTEND)

端末の操作モードが不在時であるかどうかを示します。

使用可能なUNATTEND値は次の通りです。

- **\*NO:**端末装置は操作の在席モードを持っています。
- **\*YES:**端末装置は操作の不在時モードを持っています。

上



---

## 自動大文字変換 (UCTRN)

端末入力を大文字に変換するかどうかを示します。

使用可能なUCTRN値は次の通りです。

- **\*NO:** 端末装置から小文字で入力されたデータを大文字に変換しないことを指定します。指定のプログラムの実行の場合には、プログラム管理テーブルのUCTRN値によってこれを一時変更することができます。
- **\*YES:** 端末装置から小文字で入力されたデータを大文字に変換することを指定します。
- **\*TRANID:** 端末装置から入力された小文字を含むトランザクションIDを大文字に変換することを指定します。他のすべての入力はUCTRN=\*NOとして処理されます。

上

---

## 代替画面サイズ (ALTSCN)

端末装置と関連する代替画面の高さおよび幅を示します。

使用可能なALTSCN値は次の通りです。

- **\*NONE:** 代替画面サイズは使用されません。
- **24X80:** 代替画面サイズとして24行および80桁が使用されます。
- **27X132:** 代替画面サイズとして27行および132桁が使用されます。

上

---

## 妥当性検査機能 (VALIDATION)

端末が妥当性検査機能を備えているかどうかを示します。これは全桁入力と入力必須から成ります。

使用可能なVALIDATION値は次の通りです。

- **\*NO:** 端末装置は妥当性検査機能をもっていません。
- **\*YES:** 端末装置は妥当性検査機能をもっています。

上

---

## ライト・ペンのサポート (LIGHTPEN)

端末がライト・ペン機能を備えているかどうかを示します。

使用可能なLIGHTPEN値は次の通りです。

- **\*NO:** 端末装置はライト・ペン機能をもっていません。
- **\*YES:** 端末装置はライト・ペン機能をもっています。

上



---

## 別のCICSシステムへの送信 (SHIP)

端末定義をリモートCICSシステムにシップできるかどうかを示します。

使用可能なSHIPの値は次の通りです。

- **\*NO:** 端末装置定義をリモートCICSシステムへシップすることはできません。
- **\*YES:** 端末装置定義をリモートCICSシステムへシップすることができます。

上

---

## ATI獲得 (DEVACQ)

制御領域によって自動的に開始されるトランザクションが端末を獲得するかどうかを示します。

使用可能なDEVACQ値は次の通りです。

- **\*NO:** 制御領域ATI機能は、端末装置が確立状態になるまでトランザクションの開始を待機します。
- **\*YES:** 制御領域ATI機能は、トランザクションの開始前にまだ端末装置が確立状態になっていない場合には、端末装置を確立します。

上

---

## データ・ストリーム圧縮 (DSCOMP)

この端末に対してデータ・ストリーム圧縮を実行できるかどうかを示します。

指定できる値は次の通りです:

- **\*SITVAL:** システム初期設定テーブルのDSCOMPキーワードに指定された値によって、この端末装置に対してデータ・ストリーム圧縮を実行できることを指定します。
- **\*NO:** この端末装置でデータ・ストリーム圧縮を実行してはならないことを指定します。

上

---

## 例

なし

上

---

## エラー・メッセージ

不明

上



---

## CICS TST項目の追加 (ADDCICSTST)

実行可能場所:

- バッチ・ジョブ (\*BATCH)
- 対話式ジョブ (\*INTERACT)
- バッチ・プログラム (\*BPGM)
- 対話式プログラム (\*IPGM)
- バッチ REXX プロシージャ (\*BREXX)
- 対話式 REXX プロシージャ (\*IREXX)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (\*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

TSTに項目を追加するためには、CICS一時記憶テーブル追加(ADDCICSTST)コマンドを使用してください。

一時記憶域待ち行列は、後の検索用にデータを保管するためにアプリケーション・プログラムによって使用されるファイルです。回復可能なすべての記憶域待ち行列、およびすべてのリモート一時記憶域待ち行列に対して、一時記憶テーブル(TST)項目を作成しなければなりません。ローカルの回復不能な一時記憶域待ち行列では、TSTを作成する必要はありません。

TST項目は、フルネームに対する接頭部として使用できる総称名で作成することができ、これはアプリケーション・プログラムによってEXEC CICS一時記憶域コマンドに指定されます。この接頭部によって、1つの項目を作成して多くの一時記憶域待ち行列に適用することができます。CICSは、接頭部と関連したTST項目を使用することになります。したがって、TS待ち行列名に、あいまいな点がないように注意しなければなりません。

上

---

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
LIB	ライブラリー	通信名, *LIBL, *CURLIB	必須, 定位置 1
GROUP	グループ	通信名	必須, 定位置 2
TSQUEUE	待ち行列	通信名	必須, 定位置 3
TYPE	タイプ	*RECOVERABLE, *REMOTE	必須, 定位置 4
SYSID	リモート CICS システム	通信名	オプション, 定位置 5
RMTQUEUE	リモート 待ち 行列名	通信名, *TSQUEUE	オプション, 定位置 6

上

---

## ライブラリー (LIB)

グループが入っているライブラリーの名前を入力してください。考えられる値は次の通りです。

- **\*LIBL:** グループが入っている最初のライブラリーを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。
- **\*CURLIB:** 現行ライブラリーにグループが入っています。現行ライブラリーが指定されない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。
- **ライブラリー名:** グループが入っているライブラリーの名前。

上

---

## グループ (GROUP)

このTST項目を追加するグループの名前を入力してください。

- **グループ名:** グループ名は最大10桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## 待ち行列 (TSQUEUE)

待ち行列の完全名または部分的な総称名のいずれかを入力してください。これは、EXEC CICS一時記憶域コマンドの中で使用される名前です。この名前は、このTST項目を識別するためにも使用されます。

- **待ち行列接頭部:** 待ち行列接頭部は最大8桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

総称名では、ABCなどの待ち行列名の一部が使用されます。

上

---

## タイプ (TYPE)

一時記憶域待ち行列が回復可能であるかまたはリモートであることを示します。

指定できる値は次の通りです:

- **\*RECOVERABLE:** 一時記憶域待ち行列は回復可能です。
- **\*REMOTE:** 一時記憶域待ち行列はリモートです。

上

---

## リモート CICS システム (SYSID)

一時記憶域待ち行列を所有しているシステムの識別コードを入力してください。システムはTCS項目をもっているはずですが、このフィールドは、リモート待ち行列の場合、すなわちタイプ・フィールドが\*REMOTEの時にのみ有効です。

- **システム識別コード:** システム識別コードは最大4桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

---

## リモート待ち行列名 (RMTQUEUE)

一時記憶域待ち行列がリモート・システム上で認識される名前を入力してください。このフィールドは、リモート待ち行列の場合、すなわちタイプ・フィールドが\*REMOTEの時にのみ有効です。

可能なRMTQUEUE値は次の通りです。

- \*TSQUEUE: ローカルとリモートの一時記憶域待ち行列名は同じです。TSQUEUEフィールドの名前が使用されます。
- **リモート待ち行列**: 一時記憶域待ち行列名は最大 8 桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の 1 つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の 1 つとすることができます。

上

---

## 例

なし

上

---

## エラー・メッセージ

不明

上



---

## CICS CVT項目の変更 (CHGCICSCVT)

### 実行可能場所:

- バッチ・ジョブ (\*BATCH)
- 対話式ジョブ (\*INTERACT)
- バッチ・プログラム (\*BPGM)
- 対話式プログラム (\*IPGM)
- バッチ REXX プロシージャ (\*BREXX)
- 対話式 REXX プロシージャ (\*IREXX)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (\*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

CVT内の項目を変更するためには、CICS変換ベクトル・テーブル変更(CHGCICSCVT)コマンドを使用してください。

変換ベクトル・テーブル(CVT)項目は、EBCDICからASCIIへのデータ変換用のテンプレート、または他のCICSシステムで使用されるコード・ページおよび文字セットがSystem i5システムで使用されるものとは異なっている時にデータ変換用のテンプレートを定義します。データ変換は、データを送信するシステムで定義しなければなりません。データ変換は次の場合に必要です。

- ファイル制御コマンド
- 一時データ待ち行列コマンド
- 一時記憶域待ち行列コマンド
- STARTコマンド
- LINKコマンド

データは、CVTで事前定義されたテンプレートにしたがって変換されます。テンプレートは、データのタイプ、レコード内の配置方法、および必要な変換のタイプを記述します。データに英字フィールドおよび数字フィールドが入っている場合には、レコード内の各フィールドごとにテンプレートを定義する必要があることがあります。

次の3つのタイプの変換テンプレートがあります。

- ファイル・キーの変換の場合には、キー変換データ(KEYINF)パラメーターを使用してください。このタイプの変換を使用できるのは、キー順ファイルの場合だけです。
- 定義済みの選択基準に依じての可変形式データの変換の場合には、選択基準(SLTCTL)パラメーターを使用してください。
- 他の変換テンプレートがデータと一致しない時に適用する省略時の変換の場合には、変換情報(CNVINF)パラメーターを使用してください。

上

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
<b>LIB</b>	ライブラリー	通信名, *LIBL, *CURLIB	必須, 定位置 1
<b>GROUP</b>	グループ	通信名	必須, 定位置 2
<b>CMDTYPE</b>	API コマンド タイプ	*FILE, *TDQUEUE, *TSQUEUE, *START, *LINK	必須, 定位置 3
<b>RSRCID</b>	資源 ID	文字値	必須, 定位置 4
<b>CNVCHRID</b>	文字識別コード	要素リスト	オプション, 定位置 5
	要素 1: コード ページ	1-65535, *SAME	
	要素 2: グラフィック 文字セット	0-65535, *SAME, *CCSID	
<b>CNVINF</b>	変換情報	値 (最大 30 回の繰り返し): 要素リスト	オプション, 定位置 6
	要素 1: 開始位置	0-65535, *SAME	
	要素 2: 変換 タイプ	*SAME, *CHAR, *PACKED, *BINARY, *IDC, *INTEL	
	要素 3: 変換長	1-65535, *SAME	
	要素 4: ユーザー指定 DBCSデータ	*SAME, *NO, *YES	
<b>KEYINF</b>	キー変換データ	値 (最大 30 回の繰り返し): 要素リスト	オプション, 定位置 7
	要素 1: 開始位置	0-65535, *SAME	
	要素 2: 変換 タイプ	*SAME, *CHAR, *PACKED, *BINARY, *IDC, *INTEL	
	要素 3: 変換長	1-65535, *SAME	
	要素 4: ユーザー指定 DBCSデータ	*SAME, *NO, *YES	
<b>SLTCTL</b>	選択基準	値 (最大 30 回の繰り返し): 要素リスト	オプション, 定位置 8
	要素 1: 開始位置	0-65535, *SAME	
	要素 2: 文字または16進数形式	*SAME, *CHAR, *HEX	
	要素 3: 比較する値	文字値, *SAME	
	要素 4: 開始位置	値 (最大 30 回の繰り返し): 0-65535, *SAME	
	要素 5: 変換 タイプ	値 (最大 30 回の繰り返し): *SAME, *CHAR, *PACKED, *BINARY, *IDC, *INTEL	
	要素 6: 変換長	値 (最大 30 回の繰り返し): 1-65535, *SAME	
	要素 7: ユーザー指定 DBCSデータ	値 (最大 30 回の繰り返し): *SAME, *NO, *YES	

上

## ライブラリー (LIB)

グループが入っているライブラリーの名前を入力してください。考えられる値は次の通りです。



- **\*LIBL:** グループが入っている最初のライブラリーを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。
- **\*CURLIB:** 現行ライブラリーにグループが入っています。現行ライブラリーが指定されない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。
- **ライブラリー名:** グループが入っているライブラリーの名前。

上

---

## グループ (GROUP)

変更するCVT項目が入っているグループの名前を入力してください。

**グループ名:** グループ名は最大10桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## API コマンド タイプ (CMDTYPE)

この項目をユーザー・データ変換のために使用するEXEC CICSコマンドのタイプを示します。このフィールドは、このCVT項目を識別するために資源識別コード・フィールドと一緒に使用されます。

指定できる値は次の通りです：

- **\*FILE:** ファイル制御コマンド。
- **\*TDQUEUE:** 一時データ待ち行列コマンド。
- **\*TSQUEUE:** 一時記憶域待ち行列コマンド。
- **\*START:** STARTコマンド。
- **\*LINK:** LINKコマンド。

上

---

## 資源 I D (RSRCID)

EXEC CICSコマンド・タイプと関連した資源識別コードを入力してください。このフィールドは、このCVT項目を識別するためにコマンド・タイプ・フィールドと一緒に使用されます。この資源識別コードは、次のように、該当するテーブル内に項目があるはずで

### CMDTYPE

CICSテーブル

### \*TDQUEUE

宛先管理テーブル

### \*START

プログラム管理テーブル

**\*FILE** ファイル管理テーブル

## \*TSQUEUE

一時記憶テーブル

## \*LINK

処理プログラム・テーブル

**資源識別コード:** \*TDQUEUEまたは\*STARTのコマンド・タイプの場合は、資源識別コードの最大長は4文字です。コマンド・タイプ\*FILE, \*TSQUEUE,または\*LINKの場合には、資源識別コードの最大長は8桁です。キーボード上の任意の文字を入力できますが、小文字および特殊文字はアポストロフィで囲まなければなりません。

アポストロフィを入力するための十分なスペースがない時には、追加の文字を入力できるようにする拡張フィールド・サイズを取得するために、最初の文字位置にアンパーサンド(&)を入力してください。ブランクは受け入れられますが、項目が制御領域に対して定義されている時には、ブランクの後の文字は無視されません。たとえば、'AB G'は制御領域内では'AB'として扱われます。

16進数文字はアポストロフィで囲まなければならない、大文字のXが先行していなければならない。たとえば、X'A1A2A3A4'です。16進数値は受け入れられますが、値が印刷可能文字でない場合には、その項目は制御領域に定義される時に拒否されます。

上

---

## 文字識別コード (CNVCHRID)

リモート・システムで使用される文字データ表現用のコード・ページおよび文字セットを入力してください。

表現は、コード・ページと文字セットの対によって、あるいはCCSIDによって指定することができます。

このフィールドには2つの要素があります。指定できる値は次の通りです：

### • 要素1：コード・ページ

リモート・システムによって使用される表現のコード・ページまたはCCSID。

- \*SAME:現在CVT項目に指定されている値を保持します。
- **コード・ページ**：コード・ページ識別コード（1-65535の範囲内の数値）を入力してください。要素2には適切な文字セットを指定しなければなりません。
- **CCSID**：CCSID（1-65535の範囲内の数値）を入力してください。要素2は、0に設定するか、あるいは特殊値\*CCSIDとして指定しなければなりません。

### • 要素2：グラフィック文字セット

変換によって使用されるグラフィック文字セットを入力するか、あるいは要素1がコード・ページではなくCCSIDを表現する場合には特殊値\*CCSIDを指定してください

- \*SAME:現在CVT項目に指定されている値を保持します。
- **文字セット**：適切な文字セット識別コード（2-65535の範囲内の数値）を入力してください。
- \*CCSID, 0, 1:要素1にはCCSIDが入っています。

制御領域に導入されている時は、指定のコード・ページと文字セットの対の変換テーブルが見つからず、指定のコード・ページがサポートされるCCSIDとして認識される場合には、コード・ページはCCSIDとして指定されたものとして扱われます。

## 変換情報 (CNVINF)

このフィールドは省略時の変換テンプレートを定義します。選択基準フィールドで定義されている選択基準を満たさないデータの変換情報を定義するためには、このフィールドを使用してください。

注: 変換キー・フィールドにキー情報フィールドを使用してください。

次のものを指定してください。

- レコード中のデータの位置。
- フィールドのデータ・タイプ。
- データの長さ。
- データにシフト・アウト/シフト・イン(SO/SI)文字が入っているかどうか。

このフィールドには4つの要素があります。指定できる値は次の通りです。

### • 要素1：開始位置（オフセット）

変換するデータの開始のレコード内の位置。

- \*SAME:現在CVT項目に指定されている値を保持します。
- オフセット： 0-65535の範囲内の数値。

### • 要素2：変換のタイプ

フィールドで実行する変換のタイプ。

- \*SAME:現在CVT項目に指定されている値を保持します。
- \*CHAR:データは英字であり、文字ID (CNVCHRID)パラメーターに指定されているコード・ページからシステム値に指定されているi5/OSコード・ページに変換されます。
- \*PACKED:データはパック10進数形式であり、変換されません。
- \*BINARY:データは2進数形式であり、変換されません。
- \*IDC:データは漢字形式であり、CNVCHRID フィールドに指定されている文字セットからシステム値に指定されているi5/OSコード・ページに変換されます。
- \*INTEL:データはINTEL形式であり、バイトを反転することによって変換されます。フィールドの長さは2または4としかすることはできません。

### • 要素3：変換の長さ

変換するフィールドの長さ（バイト数）。

- \*SAME:現在CVT項目に指定されている値を保持します。
- 長さ： 1-65535の範囲内の数値を入力してください。データがINTEL形式の場合には、このフィールドには2または4を入れなければなりません。

### • 要素4：ユーザー指定の漢字データ(SO/SI)

フィールドにタイプ\*CHARが指定されている場合にのみ有効なこの要素は、変換されるデータにSO/SI区切り文字を入れるかどうかを指示します。言語が漢字基礎となっている言語でない場合に、SO/SI区切り文字が使用される時には、SO区切り文字の前でSI区切り文字の後のデータだけが変換されます。

- \*SAME: CICSに現在指定された値。

- \*NO:データにSO/SI文字はありません。
- \*YES:データにSO/SI文字があります。

上

---

## キー変換データ (KEYINF)

このフィールドは、1つのキー・フィールドの変換テンプレートを定義します。次のものを指定してください。

- レコード中のキー・フィールドの位置。
- キーの長さ。
- キーに適用する変換のタイプ。

このパラメーターを使用できるのは、コマンド・タイプ\*FILEが指定されている場合、およびファイルがキーを使用してアクセスされる場合だけです。すなわち、これはキー順データ・セット(KSDS)です。

注: FCT項目はキーの位置を定義します。

指定できる値は次の通りです。

- **要素1 : 開始位置 (オフセット)**

キー・フィールドのレコード内の位置。

- \*SAME:現在CVT項目に指定されている値を保持します。
- **offset**:レコードの始めからのキーの位置 (バイト数) を指定する、0-65535の範囲内の数値。

- **要素2 : 変換のタイプ**

フィールドで実行する変換のタイプ。

- \*SAME:現在CVT項目に指定されている値を保持します。
- \*CHAR:データは英字であり、CNVCHRIDフィールドに指定されているコード・ページからシステム値に指定されているi5/OSコード・ページに変換されます。
- \*PACKED:データはパック10進数形式であり、変換されません。
- \*BINARY:データは2進数形式であり、変換されません。
- \*IDC:データは漢字形式であり、CNVCHRIDフィールドに指定されている文字セットからシステム値に指定されているi5/OSコード・ページに変換されます。
- \*INTEL:データはINTEL形式であり、バイトを反転することによって変換されます。フィールドの長さは2または4としかすることはできません。

- **要素3 : 変換の長さ**

変換するフィールドの長さ (バイト数)。

- \*SAME:現在CVT項目に指定されている値を保持します。
- **長さ**: 1-65535の範囲内の数値を入力してください。データがINTEL形式の場合には、このフィールドには2または4を入れなければなりません。

- **要素4 : ユーザー指定の漢字データ(SO/SI)**

フィールドにタイプ\*CHARが指定されている場合にのみ有効なこの要素は、変換されるデータにSO/SI区切り文字を入れるかどうかを指示します。言語が漢字基礎となっている言語でない場合に、SO/SI区切り文字が使用される時には、SO区切り文字の前でSI区切り文字の後のデータだけが変換されます。

- \*SAME:現在CVT項目に指定されている値を保持します。
- \*NO:データにSO/SI文字はありません。
- \*YES:データにSO/SI文字があります。

上

---

## 選択基準 (SLTCTL)

他のCICSシステムとやり取りするユーザー・データ内の各フィールドについて、選択基準および変換情報を入力してください。選択基準は、関連した変換情報を使用するためにユーザー・データ内で検査される位置および値から成ります。変換情報は、フィールドの位置と長さ、およびそのフィールドに適用される変換のタイプから成ります。

注: ユーザー・データが選択基準に指定された条件を満たしていない時には、ユーザー・データを変換するために変換情報(CNVINF)フィールドが使用されます。

指定できる値は次の通りです。

### • 要素 1 : 開始位置 (オフセット)

データの比較を開始するレコード内の位置。

- \*SAME:現在CVT項目に指定されている値を保持します。
- オフセット: バイトによるデータの始めの位置を指定する、0- 65535の範囲内の数値を入力してください。

### • 要素 2 : 文字または16進数形式

選択データが文字または16進数データであるかどうかを指示します。

- \*SAME:現在CVT項目に指定されている値を保持します。
- \*CHAR:文字データ。
- \*HEX: 16進数データ。

### • 要素 3 : 比較する値 (テキストに対して)

対応した変換情報を使用するために、データを比較するための値。

- \*SAME:現在CVT項目に指定されている値を保持します。
- テキスト: 英数字および最高254カラムの文字または127カラムの16進数。

## 選択情報(SLTINF)

選択基準が一致した時に使用される、ユーザー・データの各フィールドの変換情報。

指定できる値は次の通りです。

### - 要素 1 : 開始位置 (オフセット)

データの変換を開始するレコード内の位置。

- \*SAME:現在CVT項目に指定されている値を保持します。

- オフセット：バイトによるレコードの始めからの位置を指定する，0-65535の範囲内の数値。

#### - 要素2：変換のタイプ

フィールドで実行する変換のタイプ。

- \*SAME:現在CVT項目に指定されている値を保持します。
- \*CHAR:データは英字であり，CNVCHRIDフィールドに指定されているコード・ページからシステム値に指定されているコード・ページに変換されます。
- \*PACKED:データはパック10進数形式であり，変換されません。
- \*BINARY:データは2進数形式であり，変換されません。
- \*IDC:データは漢字形式であり，CNVCHRIDフィールドに指定されている文字セットからシステム値に指定されているコード・ページに変換されます。
- \*INTEL:データはINTEL形式であり，バイトを反転することによって変換されます。フィールドの長さは2または4としかすることはできません。

#### - 要素3：変換の長さ

変換するフィールドの長さ（バイト数）。

- \*SAME:現在CVT項目に指定されている値を保持します。
- 長さ：1-65535の範囲内の数値を入力してください。データがINTEL形式の場合には，このフィールドには2または4を入れなければなりません。

#### - 要素4：ユーザー指定の漢字データ(SO/SI)

フィールドにタイプ\*CHARが指定されている場合にのみ有効なこの要素は，変換されるデータにSO/SI区切り文字を入れるかどうかを指示します。言語が漢字基礎となっている言語でない場合に，SO/SI区切り文字が使用される時には，SO区切り文字の前でSI区切り文字の後のデータだけが変換されます。

- \*SAME:現在CVT項目に指定されている値を保持します。
- \*NO:データにSO/SI文字はありません。
- \*YES:データにSO/SI文字があります。

上

---

## 例

なし

上

---

## エラー・メッセージ

不明

上

## CICS DCT項目の変更 (CHGCICSDCT)

実行可能場所:

- バッチ・ジョブ (\*BATCH)
- 対話式ジョブ (\*INTERACT)
- バッチ・プログラム (\*BPGM)
- 対話式プログラム (\*IPGM)
- バッチ REXX プロシージャ (\*BREXX)
- 対話式 REXX プロシージャ (\*IREXX)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (\*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

DCT項目を変更するためには、CICS宛先管理テーブル変更(CHGCICSDCT)コマンドを使用してください。

各DCT項目は、データを送信できる宛先を定義します。CICSシステムでは、宛先は一時データ(TD)待ち行列です。次の4タイプの宛先があります。

- 区画内、これはローカルCICS領域に存在する
- 区画外、これはローカルCICS領域外に存在する
- リモート、別のCICSシステムに存在する
- 間接、別のDCT項目によって制御された宛先を指す

また、DCTは、区画内TD待ち行列をトランザクションの自動開始(ATI)用に使用できるかどうかを定義します。

上

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
LIB	ライブラリー	通信名, *LIBL, *CURLIB	必須, 定位置 1
GROUP	グループ	通信名	必須, 定位置 2
DEST	宛先	通信名	必須, 定位置 3
TYPE	タイプ	*SAME, *EXTERNAL, *INDIRECT, *INTERNAL, *REMOTE	オプション, 定位置 4
DESTSTS	状況	*SAME, *ENABLED, *DISABLED	オプション, 定位置 5
RECOVER	回復可能	*SAME, *NO, *YES	オプション, 定位置 6
TRGLVL	ATIトリガー・レベル	0-32767, *SAME	オプション, 定位置 7
TRANSID	トランザクション	文字値, *SAME	オプション, 定位置 8
DEVTYPE	CICS装置標識	*SAME, *TERMINAL, *FILE	オプション, 定位置 9
CICSDEV	CICS装置	通信名, *SAME, *DEST	オプション, 定位置 10



キーワード	記述	選択項目	ノート
FILE	ファイル	修飾オブジェクト名	オプション、定位置 11
	修飾子 1: ファイル	名前, *SAME	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *SAME, *LIBL, *CURLIB	
MBR	メンバー	名前, *SAME, *FIRST	オプション、定位置 12
OPENOPTION	ファイル処理	*SAME, *INPUT, *OUTPUT, *READBACK	オプション、定位置 13
RCDFMT	レコード様式	*SAME, *FIXED, *VARIABLE	オプション、定位置 14
STGDEV	装置	*SAME, *DASD, *TAPE, *DISKETTE, *PRINTER	オプション、定位置 15
RMTDEST	リモート宛先	通信名, *SAME, *DEST	オプション、定位置 16
SYSID	リモート CICS システム	通信名, *SAME	オプション、定位置 17
LENGTH	最大レコード長	0-32767, *SAME	オプション、定位置 18
PHYDEST	間接宛先	通信名, *SAME	オプション、定位置 19

上

## ライブラリー (LIB)

グループが入っているライブラリーの名前を入力してください。考えられる値は次の通りです。

- **\*LIBL:** グループが入っている最初のライブラリーを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。
- **\*CURLIB:** 現行ライブラリーにグループが入っています。現行ライブラリーが指定されない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。
- **ライブラリー名:** グループが入っているライブラリーの名前。

上

## グループ (GROUP)

変更するDCT項目が入っているグループの名前を入力してください。

- **グループ名:** グループ名は最大10桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

## 宛先 (DEST)

宛先識別コードを入力してください。この識別コードは、一時データ待ち行列にアクセスするためにEXEC CICSコマンドの中で使用されます。この識別コードはまた、このDCT項目を識別するために使用される名前でもあります。

- **宛先:** 宛先識別コードは最大4桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字 ¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上



---

## タイプ (TYPE)

一時データ待ち行列のタイプを入力してください。

指定できる値は次の通りです：

- **\*SAME:**現在DCT項目に指定された値を保存します。
- **\*INTERNAL:**区画内宛先，すなわちCICS制御領域内の宛先を指示します。
- **\*INDIRECT:**間接宛先，すなわち内部，外部，またはリモート宛先としてDCTに定義済みの別の宛先を指す論理宛先を指示します。これによって，複数の論理宛先を1つの物理宛先に組み合わせることができます。
- **\*EXTERNAL:**区画外宛先，すなわちCICS制御領域外にあるが，CICS制御領域に割り振られた宛先を指示します。
- **\*REMOTE:**リモート宛先，すなわち別のシステムまたは領域にある先を指示します。

上

---

## 状況 (DESTSTS)

宛先識別コードを使用できるかどうかを示します。このフィールドは，区画内宛先の場合，すなわちタイプ・フィールドが**\*INTERNAL**の時には無効です。

指定できる値は次の通りです：

- **\*SAME:**現在DCT項目に指定された値を保存します。
- **\*ENABLED:**この宛先識別コードを使用することができます。タイプ・フィールドに**\*EXTERNAL**が入っている場合には，この一時データ待ち行列は実行時システムが導入される時にオープンされます。
- **\*DISABLED:**この宛先識別コードを使用することができません。タイプ・フィールドに**\*EXTERNAL**が入っている場合には，この一時データ待ち行列は実行時システムが導入される時にオープンされません。

上

---

## 回復可能 (RECOVER)

宛先識別コードと関連した一時データ待ち行列が回復可能であるかどうかを示します。このパラメーターは，区画内宛先の場合，すなわちタイプ・フィールドが**\*INTERNAL**の時にのみ有効です。

注：このDCT項目がCSMTを定義している場合には，このフィールドは**\*NO**でなければなりません。

指定できる値は次の通りです：

- **\*SAME:**現在DCT項目に指定された値を保存します。
- **\*NO:**一時データ待ち行列が回復可能ではありません。
- **\*YES:**一時データ待ち行列が回復可能です。

上

---

## ATIトリガー・レベル (TRGLVL)

待ち行列に蓄積されたレコードを処理するトランザクションを自動的に開始するために、待ち行列に蓄積するレコードの数を入力してください。これは自動トランザクション開始(ATI)といわれるものです。このフィールドは、区画内宛先の場合、すなわちタイプ・フィールドが\*INTERNALになっている時のみ有効です。

トランザクション識別コードがトランザクション識別コード・フィールドに指定されます。

指定できる値は次の通りです：

- \*SAME:現在DCT項目に指定された値を保存します。
- トリガー・レベル：0-32767の範囲の数を入力してください。

上

---

## トランザクション (TRANSID)

レコード数がトリガー・レベルに達した時に開始するトランザクションの名前を入力してください。このフィールドは、トリガー・レベル・フィールドが0の場合には無効です。

指定できる値は次の通りです：

- \*SAME:現在DCT項目に指定された値を保存します。
- トランザクションID:トランザクションIDは最大4桁の長さとすることができます。キーボード上の任意の文字を入力できますが、小文字および特殊文字はアポストロフィで囲まなければなりません。

アポストロフィを入力するための十分なスペースがない時には、追加の文字を入力できるようにする拡張フィールド・サイズを取得するために、最初の文字位置にアンパサンド(&)を入力してください。ブランクは受け入れられますが、項目が制御領域に対して定義されている時には、ブランクの後の文字は無視されます。たとえば、'AB G'は制御領域内では'AB'として扱われます。

16進数文字はアポストロフィで囲まなければならない、大文字のXが先行していなければならない。たとえば、X'A1A2A3A4'です。16進数値は受け入れられますが、値が印刷可能文字でない場合には、その項目は制御領域に定義される時に拒否されます。

上

---

## CICS装置標識 (DEVTYPE)

端末識別コードをATIトランザクション識別コードと関連づけるかどうかを示します。このフィールドは、トリガー・レベル・フィールドが0の時には無効です。

指定できる値は次の通りです：

- \*SAME:現在DCT項目に指定された値を保存します。
- \*TERMINAL:端末識別コードがトランザクション識別コードと関連づけられます。
- \*FILE:端末識別コードはトランザクション識別コードと関連づけられません。

上

---

## CICS装置 (CICSDEV)

ATIトランザクションを実行するために使用する端末の識別コードを入力してください。このフィールドは、装置タイプ・フィールドが\*TERMINALの時にのみ有効です。

指定できる値は次の通りです：

- **\*SAME:**現在DCT項目に指定された値を保存します。
- **\*DEST:**宛先フィールドに入力された識別コードが端末識別コードとして使用されます。
- **端末ID:**端末IDは最大4桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## ファイル (FILE)

宛先識別コードによって使用されるファイルの名前を入力してください。このフィールドは、区画外宛先の場合、すなわちタイプ・フィールドが\*EXTERNALの時にのみ有効です。

使用できるライブラリーの値は次の通りです：

- **\*SAME:**現在DCT項目に指定された値を保存します。
- **\*LIBL:**ファイルを見つけるために、CICS制御領域と対応するジョブのライブラリー・リストが使用されます。
- **\*CURLIB:**ファイルを見つけるために、CICS制御領域と対応するジョブの現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。
- **ライブラリー名:**ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

使用できるファイル名の値は次の通りです：

- **\*SAME:**現在DCT項目に指定された値を保存します。
- **ファイル名:**ファイルの名前を指定してください。

上

---

## メンバー (MBR)

宛先識別コードによって使用されるメンバーの名前を入力してください。このフィールドは、区画外宛先の場合、すなわちタイプ・フィールドが\*EXTERNALの時にのみ有効です。

指定できる値は次の通りです：

- **\*SAME:**現在DCT項目に指定された値を保存します。
- **\*FIRST:**メンバーは指定しません。最初のメンバーが使用されます。
- **メンバー名:**メンバーの名前を指定してください。

上

---

## ファイル処理 (OPENOPTION)

ファイルをどのように処理するかを示します。すなわち、次の通りです：

- 正方向読み取り専用入力ファイル
- 書き出し専用出力ファイル
- 逆方向読み取り専用入力ファイル

このパラメーターは、区画外宛先の場合、すなわちタイプ・フィールドに\*EXTERNALが入っている時のみ有効です。

指定できる値は次の通りです：

- \*SAME:現在DCT項目に指定された値を保存します。
- \*INPUT:ファイルが、正方向にだけ読み取られる入力用に使用されます。
- \*OUTPUT:ファイルが出力用に使用されます。
- \*READBCK:ファイルが逆方向にだけ読み取られる入力用に使用されます。

上

---

## レコード様式 (RCDFMT)

ファイルのレコード様式を示します。このフィールドは、区画外宛先の場合、すなわちタイプ・フィールドが\*EXTERNALの時のみ有効です。

指定できる値は次の通りです：

- \*SAME:現在DCT項目に指定された値を保存します。
- \*FIXED:ファイル中のすべてのレコードが同じ長さをもっています。
- \*VARIABLE:ファイル中のレコードは可変長です。

上

---

## 装置 (STGDEV)

ファイルの記憶媒体を示します。このフィールドは、区画外宛先の場合、すなわちタイプ・フィールドが\*EXTERNALの時のみ有効です。

指定できる値は次の通りです：

- \*SAME:現在DCT項目に指定された値を保存します。
- \*DASD:ファイルはディスク記憶装置上にあります。
- \*TAPE:ファイルは磁気テープ上にあります。
- \*DISKETTE:ファイルはディスクケット上にあります。
- \*PRINTER:ファイルは印刷装置に書き出されます。

上

---

## リモート宛先 (RMTDEST)

リモート・システム上で宛先の認識に使用される識別コードを入力してください。このフィールドは、リモート宛先の場合、すなわちタイプ・フィールドが\*REMOTEの時にのみ有効です。

指定できる値は次の通りです：

- \*SAME:現在DCT項目に指定された値を保存します。
- \*DEST:宛先識別コード・フィールドに入力した識別コードが使用されます。
- **リモート宛先**：宛先識別コードは最大4桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @,または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## リモート CICS システム (SYSID)

リモート・システム識別コードを入力してください。システムはリモートTCS内に項目をもっていなければなりません。このフィールドは、リモート宛先の場合、すなわちタイプ・フィールドが\*REMOTEの時にのみ有効です。

指定できる値は次の通りです：

- \*SAME:現在DCT項目に指定された値を保存します。
- **システム識別コード**：システム識別コードは最大4桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @,または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## 最大レコード長 (LENGTH)

一時データ待ち行列内のレコードの最大長（バイト数）を入力してください。この値は、リモート・システム内の待ち行列に指定された値と同じものでなければなりません。このフィールドは、リモート待ち行列の場合、すなわちタイプ・フィールドが\*REMOTEの時にのみ有効です。

指定できる値は次の通りです：

- \*SAME:現在DCT項目に指定された値を保存します。
- 0:アプリケーション・プログラム内のEXEC CICS READQ TDまたはWRITEQ TDコマンドにLENGTHパラメーターが指定されます。
- **長さ**：0-32767の範囲の数を入力してください。

上

---

## 間接宛先 (PHYDEST)

このDCT項目が指す宛先の識別コードを入力してください。この識別コードは、待ち行列を\*INTERNAL, \*EXTERNAL, または\*REMOTEとして定義しているDCT項目をもっているはずですが。このフィールドは、間接宛先の場合、すなわちタイプ・フィールドが\*INDIRECTの時にのみ有効です。

指定できる値は次の通りです：

- \*SAME: 現在DCT項目に指定された値を保存します。
- **間接宛先**：識別コードは最大4桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## 例

なし

上

---

## エラー・メッセージ

不明

上

## CICS FCT項目の変更 (CHGCICSFCT)

実行可能場所:

- バッチ・ジョブ (\*BATCH)
- 対話式ジョブ (\*INTERACT)
- バッチ・プログラム (\*BPGM)
- 対話式プログラム (\*IPGM)
- バッチ REXX プロシージャ (\*BREXX)
- 対話式 REXX プロシージャ (\*IREXX)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (\*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

FCT内の項目を変更するためには、CICSファイル管理テーブル変更(CHGCICSFCT) コマンドを使用してください。

ファイル管理テーブル(FCT)は、CICSまたはアプリケーション・プログラムのいずれかによって使用される、すべてのファイル、すなわちローカルおよびリモートの両方を定義します。すべてのファイルはVSAMファイル・タイプの1つに適合していなければなりません。

- キー順データ・セット、すなわち各レコードは事前定義キーによってアクセスされます。
- 入力順データ・セット、すなわち各レコードはその相対バイト・アドレスによってアクセスされます。
- 相対レコード・データ・セット、すなわち各レコードはそのレコード番号によってアクセスされます。

上

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
LIB	ライブラリー	通信名, *LIBL, *CURLIB	必須, 定位置 1
GROUP	グループ	通信名	必須, 定位置 2
FILEID	CICS ファイル	通信名	必須, 定位置 3
SYSID	リモート CICS システム	通信名, *SAME, *NONE	オプション, 定位置 4
RMTFILE	リモートCICSファイル	通信名, *SAME, *FILEID	オプション, 定位置 5
RMTKEYLEN	リモート・キーの最大長	0-32767, *SAME	オプション, 定位置 6
RMTLENGTH	リモート最大レコード長	1-32767, *SAME	オプション, 定位置 7
FILE	ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 8
	修飾子 1: ファイル	名前, *SAME	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *SAME, *LIBL, *CURLIB	
MBR	メンバー	名前, *SAME, *FIRST	オプション, 定位置 9
RCDFMT	レコード様式	*SAME, *FIXED, *VARIABLE	オプション, 定位置 10
FILESTS	状況	*SAME, *ENABLED, *DISABLED, *CLOSED	オプション, 定位置 11
ACCMTH	アクセス方式	*SAME, *KEY, *ENTRY, *REL	オプション, 定位置 12
RECOVER	回復可能	*SAME, *YES, *NO	オプション, 定位置 13

キーワード	記述	選択項目	ノート
CLRFILE	ファイルの消去	<u>*SAME</u> , *NO, *YES	オプション, 定位置 14
ACCPATH	アクセス・パス	<u>*SAME</u> , *FILE, *ARRIVAL	オプション, 定位置 15
RCDACT	ファイル処理	要素リスト	オプション, 定位置 16
	要素 1: 追加可能	<u>*SAME</u> , *NOADD, *ADD	
	要素 2: 走査検索可能	<u>*SAME</u> , *NOBROWSE, *BROWSE	
	要素 3: 削除可能	<u>*SAME</u> , *NODLT, *DLT	
	要素 4: 読み取り可能	<u>*SAME</u> , *NOREAD, *READ	
要素 5: 更新可能	<u>*SAME</u> , *NOUPD, *UPD		
JRNCTL	ジャーナル処理	要素リスト	オプション, 定位置 17
	要素 1: 番号	0-99, <u>*SAME</u>	
	要素 2: 読み取り専用操作	<u>*SAME</u> , *NOREADONLY, *READONLY	
	要素 3: 読み取り更新操作	<u>*SAME</u> , *NOREADUPD, *READUPD	
	要素 4: 新規書き出し操作	<u>*SAME</u> , *WRTNEW, *NOWRTNEW	
要素 5: 書き出し更新操作	<u>*SAME</u> , *WRTUPD, *NOWRTUPD		

上

## ライブラリー (LIB)

グループが入っているライブラリーの名前を入力してください。考えられる値は次の通りです。

- **\*LIBL:** グループが入っている最初のライブラリーを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。
- **\*CURLIB:** 現行ライブラリーにグループが入っています。現行ライブラリーが指定されない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。
- **ライブラリー名:** グループが入っているライブラリーの名前。

上

## グループ (GROUP)

変更するFCT項目が入っているグループの名前を入力してください。

- **グループ名:** グループ名は最大10桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

## CICS ファイル (FILEID)

このファイルが認識される名前を入力してください。これは、EXEC CICSファイル管理コマンドの中で使用される名前です。この名前は、このFCT項目を識別するためにも使用されます。

- **ファイル識別コード:** ファイル識別コードは最大8桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。



---

## リモート CICS システム (SYSID)

ファイルが入っているシステムの識別コードを入力してください。このシステム識別コードは、ローカル端末管理システム・テーブル項目をもっているものでなければなりません。このフィールドにローカル・システムの識別コードが入っている場合には、この項目は\*NONEが入力されているかのように扱われます。

指定できる値は次の通りです：

- \*SAME:現在FCT項目に指定されたシステムIDを保存します。
- \*NONE:ファイルはローカル・システムで保留中です。
- システム識別コード：システム識別コードは最大4桁の長さとしてすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @,または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## リモートCICSファイル (RMTFILE)

ファイルがリモート・システム上で認識される識別コードを入力してください。このフィールドは、ローカル・ファイルの場合、すなわちシステム識別コード・フィールドに\*NONEが入っている時は無効です。

指定できる値は次の通りです：

- \*SAME:現在このFCT項目に指定された値を保存します。
- \*FILEID:ファイル識別コード・フィールドに入力された名前がリモート・ファイル名として使用されます。
- リモート・ファイル：最大8桁の長さのファイル識別コード。最初の文字は英字または特殊文字¥, @,または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## リモート・キーの最大長 (RMTKEYLEN)

ファイルのキー・フィールドの長さ（バイト数）を入力してください。このフィールドはキー順データ・セットの場合にのみ有効です。値は、リモート・システムのFCT項目で指定されたものと同じでなければなりません。

このフィールドは、ローカル・ファイルの場合、すなわちシステム識別コード・フィールドに\*NONEが入っている時は無効です。

指定できる値は次の通りです：

- \*SAME:現在FCT項目に指定された値を保存します。
- リモート・キーの長さ：0-32767の範囲内の数値。入力順および相対レコード・データ・セットの場合には、ゼロ(0)を指定しなければなりません。

上

---

## リモート最大レコード長 (RMTLENGTH)

ファイルの最大レコード・サイズの長さ（バイト数）を入力してください。指定する値は、リモート・システム内におけるファイルと関連したレコードのサイズと一致するものでなければなりません。このフィールドは、ローカル・ファイルの場合、すなわちシステム識別コード・フィールドに\*NONEが入っている時は無効です。

指定できる値は次の通りです：

- \*SAME:現在このFCT項目に指定された値を保存します。
- リモート・レコード長：1-32767の範囲の数値。

上

---

## ファイル (FILE)

このファイル識別コードによって使用されるファイルのライブラリーおよびファイル名を入力してください。このフィールドは、ローカル・ファイルの場合、すなわちシステム識別コード・フィールドが\*NONEの時にのみ有効です。

- 次のライブラリー値の1つを指定してください。
  - \*SAME:現在このFCT項目に指定された値を保存します。
  - \*LIBL:ファイルを見つけるために、CICS制御領域と対応するジョブのライブラリー・リストが使用されます。
  - \*CURLIB:ファイルを見つけるために、CICS制御領域と対応するジョブの現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。
  - **ライブラリー名**：ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。
- 次の名前の値の1つを指定してください。
  - \*SAME:現在このFCT項目に指定された名前を保存します。
  - **ファイル名**：ファイルの名前を指定してください。

上

---

## メンバー (MBR)

このファイル識別コードによって使用されるファイル内のメンバーの名前を入力してください。このフィールドは、ローカル・ファイルの場合、すなわちシステム識別コード・フィールドが\*NONEの時にのみ有効です。

指定できる値は次の通りです：

- \*SAME:現在このFCT項目に指定された値を保存します。
- \*FIRST:ファイル・メンバーは指定されません。ファイル中の最初のメンバーが使用されます。
- **メンバー名**：ファイル・メンバーの名前を指定してください。

上

---

## レコード様式 (RCDFMT)

ファイルのレコード様式が固定長または可変長のいずれであるかを示します。このフィールドは、ローカル・ファイルの場合、すなわちシステム識別コード・フィールドが\*NONEの時にのみ有効です。

指定できる値は次の通りです：

- **\*SAME:**現在このFCT項目に指定された値を保存します。
- **\*FIXED:**ファイル中のすべてのレコードが同じ長さをもっています。
- **\*VARIABLE:**ファイル中のレコードは可変長です。

上

---

## 状況 (FILESTS)

ファイル識別コードを使用できるかどうかを示します。このフィールドは、ローカル・ファイルの場合、すなわちシステム識別コード・フィールドが\*NONEの時にのみ有効です。

指定できる値は次の通りです：

- **\*SAME:**現在このFCT項目に指定された値を保存します。
- **\*ENABLED:**ファイルを使用することができます。
- **\*DISABLED:** ファイルは使用可能になるまで使用できません。
- **\*CLOSED:** ファイルがオープンされるまで使用することができません。

上

---

## アクセス方式 (ACCMTH)

ファイルにアクセスするために使用する方式を入力してください。このフィールドは、ローカル・ファイルの場合、すなわちシステム識別コード・フィールドが\*NONEの時にのみ有効です。

指定できる値は次の通りです：

- **\*SAME:**現在このFCT項目に指定された値を保存します。
- **\*KEY:**ファイル中のレコードはキーによってアクセスされます。ファイルはKSDSでなければなりません。
- **\*ENTRY:** ファイル中のレコードは項目順序番号でアクセスされます。ファイルはESDSでなければなりません。
- **\*REL:** ファイル中のレコードは相対レコード番号でアクセスされます。ファイルはRRDSでなければなりません。

注：アクセス・パス・フィールドに\*ARRIVALを入力した場合には、このフィールドは無視されます。

上

---

## 回復可能 (RECOVER)

CICSファイル識別コードと関連したファイルが回復可能であるかどうかを示します。このパラメーターは、ローカル・ファイルの場合、すなわちシステム識別コード・フィールドが\*NONEの時にのみ有効です。

指定できる値は次の通りです：

- \*SAME:現在このFCT項目に指定された値を保存します。
- \*YES:ファイルは回復可能です。
- \*NO:ファイルは回復可能ではありません。

上

---

## ファイルの消去 (CLRFILE)

このファイル識別コードが最初にオープンされた時にファイルを消去するかどうかを示します。このフィールドは、ローカル・ファイルの場合、すなわちシステム識別コード・フィールドが\*NONEの時にのみ有効です。

指定できる値は次の通りです：

- \*SAME:現在このFCT項目に指定された値を保存します。
- \*NO:オープン時にファイルを消去しません。
- \*YES:オープン時にファイルを消去します。

上

---

## アクセス・パス (ACCPATH)

ファイル識別コードと関連したファイルを到着順（順次）に処理するか、あるいはアクセス方式フィールド内の値に従って（すなわち、キー、項目順序番号、または相対レコード番号によって）処理するかを示します。このフィールドは、ローカル・ファイルの場合、すなわちシステム識別コード・フィールドが\*NONEの時にのみ有効です。

注：ACCMTH(\*KEY)を指定した時には、ACCPATH(\*ARRIVAL)は正しくありません。

指定できる値は次の通りです：

- \*SAME:現在このFCT項目に指定された値を保存します。
- \*FILE:ファイルはアクセス方式フィールドの値に応じて処理されます。
- \*ARRIVAL: ファイルはアクセス方式フィールドの値と関係なく、到着順（順次）に処理されます。

上

---

## ファイル処理 (RCDACT)

ファイル内のレコードを追加、参照、削除、読み取り、または更新できるかどうかを示します。このフィールドは、ローカル・ファイルの場合、すなわちシステム識別コード・フィールドが\*NONEの時にのみ有効です。

このフィールドに対して5つの要素があります。指定できる値は次の通りです：

- **要素1：追加可能**

レコードをファイルに追加できるかどうかを指示します。

- \*SAME:現在このFCT項目に指定された値を保存します。
- \*NOADD:レコードを追加することはできません。
- \*ADD:レコードを追加することができます。

- **要素2：走査検索可能**

ファイル中のレコードを走査検索できるかどうかを指示します。

- \*SAME:現在このFCT項目に指定された値を保存します。
- \*NOBROWSE:レコードを走査検索することはできません。
- \*BROWSE:レコードを走査検索することができます。

- **要素3：削除可能**

ファイル中のレコードを削除できるかどうかを指示します。

- \*SAME:現在このFCT項目に指定された値を保存します。
- \*NODLT:レコードを削除することはできません。
- \*DLT:レコードを削除することができます。

- **要素4：読み取り可能**

ファイル中のレコードを読み取ることができるかどうかを指示します。

- \*SAME:現在このFCT項目に指定された値を保存します。
- \*NOREAD:レコードを読み取ることはできません。(走査検索または更新機能が指定されない限り、これが省略時の値です。)
- \*READ:レコードを読み取ることができます。

- **要素5：更新可能**

ファイル中のレコードを更新できるかどうかを指示します。

- \*SAME:現在このFCT項目に指定された値を保存します。
- \*NOUPD:レコードを更新することはできません。
- \*UPD:レコードを更新することができます。

上

---

## ジャーナル処理 (JRNCTL)

このファイルと一緒に使用するジャーナル・ファイルの番号、およびジャーナル処理するREADおよびWRITE操作を指定します。このフィールドは、ローカル・ファイルの場合、すなわちシステム識別コード・フィールドが\*NONEの時のみ有効です。

指定できる値は次の通りです：

### • 要素1：ジャーナル番号

このファイルでのREADおよびWRITE活動を記録するために使用されるジャーナル番号。ジャーナル番号は、ジャーナル管理テーブル項目を介してファイルと対応していなければなりません。

- \*SAME:現在このFCT項目に指定された値を保存します。
- ジャーナル：1-99の範囲のジャーナル番号。指定された値が0の場合には、このファイル識別コードに対してジャーナル処理は行なわれません。

### • 要素2：読み取り専用操作

読み取り専用操作をジャーナル処理するかどうかを指示します。

- \*SAME:現在このFCT項目に指定された値を保存します。
- \*NOREADONLY:読み取り専用操作はジャーナル処理されません。
- \*READONLY:読み取り専用操作はジャーナル処理されます。

### • 要素3：読み取り更新操作

読み取り更新操作をジャーナル処理するかどうかを指示します。

- \*SAME:現在このFCT項目に指定された値を保存します。
- \*NOREADUPD:読み取り更新操作はジャーナル処理されません。
- \*READUPD:読み取り更新操作はジャーナル処理されます。

### • 要素4：新規書き出し操作

新規書き出し操作をジャーナル処理するかどうかを指示します。

- \*SAME:現在このFCT項目に指定された値を保存します。
- \*NOWRTNEW:新規書き出し操作はジャーナル処理されません。
- \*WRTNEW:新規書き出し操作はジャーナル処理されます。

### • 要素5：書き出し更新操作

書き出し更新操作をジャーナル処理するかどうかを指示します。

- \*SAME:現在このFCT項目に指定された値を保存します。
- \*NOWRTUPD:書き出し更新操作はジャーナル処理されません。
- \*WRTUPD:書き出し更新操作はジャーナル処理されます。

上

---

## 例

なし

上

---

## エラー・メッセージ

不明

上





---

## CICSグループの変更 (CHGCICSGRP)

実行可能場所:

- バッチ・ジョブ (\*BATCH)
- 対話式ジョブ (\*INTERACT)
- バッチ・プログラム (\*BPGM)
- 対話式プログラム (\*IPGM)
- バッチ REXX プロシージャ (\*BREXX)
- 対話式 REXX プロシージャ (\*IREXX)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (\*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

グループと関連したすべてのテーブルを説明するテキストを変更するためには、CICS/400グループ変更 (CHGCICSGRP) コマンドを使用してください。

上

---

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
LIB	ライブラリー	通信名, *LIBL, *CURLIB	必須, 定位置 1
GROUP	グループ	通信名	必須, 定位置 2
TEXT	記述	文字値, *SAME, *BLANK	オプション, 定位置 3

上

---

## ライブラリー (LIB)

グループが入っているライブラリーの名前を入力してください。考えられる値は次の通りです。

- **\*LIBL:** グループが入っている最初のライブラリーを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。
- **\*CURLIB:** 現行ライブラリーにグループが入っています。現行ライブラリーが指定されない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。
- **ライブラリー名:** グループが入っているライブラリーの名前。

上

---

## グループ (GROUP)

変更するグループの名前を入力してください。

- **グループ名:**グループ名は最大10桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## 記述 (TEXT)

グループを説明するテキストを入力してください。

指定できる値は次の通りです：

- **\*SAME:**グループと関連したテキストは変更されません。
- **\*BLANK:**グループと関連したテキストはありません。
- **テキスト：**グループを記述する最大50桁の文字ストリングを指定してください。先行または後書きのブランクを使用するためには、ストリングをアポストロフィで囲んでください。

上

---

## 例

なし

上

---

## エラー・メッセージ

不明

上

## CICS JCT項目の変更 (CHGCICSJCT)

実行可能場所:

- バッチ・ジョブ (\*BATCH)
- 対話式ジョブ (\*INTERACT)
- バッチ・プログラム (\*BPGM)
- 対話式プログラム (\*IPGM)
- バッチ REXX プロシージャ (\*BREXX)
- 対話式 REXX プロシージャ (\*IREXX)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (\*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

JCT項目を変更するためには、CICSジャーナル管理テーブル変更(CHGCICSJCT) コマンドを使用してください。

ファイルがFCTに定義されている時には、そのファイルの活動をジャーナル処理するかどうかを指定することができます。またジャーナル・ファイルのIDを指定することができます。ジャーナル・ファイルは1-99の範囲の番号によって識別されます。JCTでは、各ジャーナル・ファイルの特性を定義します。

上

### パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
LIB	ライブラリー	通信名, *LIBL, *CURLIB	必須, 定位置 1
GROUP	グループ	通信名	必須, 定位置 2
JFILE	番号	1-99	必須, 定位置 3
JRNSTS	状況	*SAME, *ENABLED, *DISABLED	オプション, 定位置 4
JRN SWT	自動切り替え	*SAME, *YES, *NO	オプション, 定位置 5
JRN LIB	ジャーナル ライブラリー	名前, *SAME	オプション, 定位置 6
RECLMT	レコード容量	0-99999, *SAME	オプション, 定位置 7
NEWJRN	始動時ジャーナル切り替え	*SAME, *NO, *YES	オプション, 定位置 8
USRJOB	切替え時のユーザー・ジョブ投入	名前, *SAME, *NONE	オプション, 定位置 9
SBMUSRJOB	遮断時のユーザー・ジョブの投入	*SAME, *NO, *YES	オプション, 定位置 10
JRN FILE	ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 11
	修飾子 1: ファイル	名前, *SAME	
	修飾子 2: ジャーナル ライブラリー	名前, *SAME, *LIBL, *CURLIB	
JRN MBR	メンバー	名前, *SAME, *FIRST	オプション, 定位置 12

上

---

## ライブラリー (LIB)

グループが入っているライブラリーの名前を入力してください。考えられる値は次の通りです。

- **\*LIBL:** グループが入っている最初のライブラリーを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。
- **\*CURLIB:** 現行ライブラリーにグループが入っています。現行ライブラリーが指定されない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。
- **ライブラリー名:** グループが入っているライブラリーの名前。

上

---

## グループ (GROUP)

変更するJCT項目が入っているグループの名前を入力してください。

- **グループ名:** グループ名は最大10桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## 番号 (JFILE)

ユーザー・ジャーナル番号を入力してください。このユーザー・ジャーナルは、ファイル活動の自動ジャーナル処理にも使用することができます。この番号は、このJCT項目を識別するためにも使用されます。

- **ジャーナル:** 1から99までの範囲の数値。

上

---

## 状況 (JRNSTS)

ジャーナル番号を使用できるかどうかを示します。

指定できる値は次の通りです：

- **\*SAME:** 現在JCT項目に指定された値を保存します。
- **\*ENABLED:** ジャーナル番号を使用することができます。
- **\*DISABLED:** ジャーナル番号を使用することができません。

上

---

## 自動切り替え (JRNSWT)

ジャーナルがいっぱいになった時にジャーナルを次のファイル生成に自動的に切り替えられるかどうかを示します。

指定できる値は次の通りです：

- **\*SAME:** 現在JCT項目に指定された値を保存します。

- **\*YES:** ジャーナルがいっぱいになった時に自動的に交換されます。
- **\*NO:** ジャーナルは、満杯になった時に自動的に交換されません。

上

---

## ジャーナル ライブラリー (JRNLIB)

ジャーナルが入るi5/OSライブラリー名。このフィールドは、JRNSWTフィールドが\*YESの時にのみ有効です。

注: 使用されるi5/OSファイル名は、CICS制御領域によって生成されます。i5/OSファイル名はマスクAEGJCNNXXXで構成されます。ここで、NNはジャーナル番号で、XXXは生成番号です。

指定できる値は次の通りです。

- **\*SAME:** 現在JCT項目に指定された値を保持します。
- **ライブラリー名:** 最大長は10桁です。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## レコード容量 (RECLMT)

ジャーナルの次の生成に切り替えるために蓄積されるレコードの数。このフィールドは、JRNSWTフィールドが\*YESの時にのみ有効です。

指定できる値は次の通りです:

- **\*SAME:** 現在JCT項目に指定された値を保存します。
- **ファイル当たりのレコード数:** 1-99999の範囲の数値。

上

---

## 始動時ジャーナル切り替え (NEWJRN)

CICS制御領域が開始された時にジャーナルが次の生成に切り替えられるかどうかを示します。このフィールドは、JRNSWTフィールドが\*YESの時にのみ有効です。

指定できる値は次の通りです:

- **\*SAME:** 現在JCT項目に指定された値を保存します。
- **\*NO:** ジャーナルがいっぱいになった時にだけ交換します。
- **\*YES:** CICS制御領域が正常に開始された時、およびジャーナルが満杯になった時に交換します。

上

---

## 切替え時のユーザー・ジョブ投入 (USRJOB)

ジャーナルが切り替えられた時にSBMUSRJOB CLコマンドを介して投入されるi5/OSプログラム。このフィールドは、JRNSWTフィールドが\*YESの時にのみ有効です。

注: このi5/OS投入済みプログラムはパラメーターを受け入れないので、プログラム・オブジェクトはCICS制御領域と対応するライブラリー・リストに存在していなければなりません。

指定できる値は次の通りです。

- **\*SAME:**現在JCT項目に指定された値を保持します。
- **\*NONE:** i5/OSジョブは、ジャーナルが切り替えられた時に投入されません。
- **交換時ジョブ投入:**最大長は10カラムです。最初の文字は英字または特殊文字¥, @,または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## 遮断時のユーザー・ジョブの投入 (SBMUSRJOB)

CICS制御領域が終了した時にi5/OSジョブが投入されるかどうかを示します。これは、USRJOBフィールドが\*NONEの時には無効です。

指定できる値は次の通りです。

- **\*SAME:**現在JCT項目に指定された値を保持します。
- **\*NO:** CICS制御領域が終了した時に、i5/OSジョブを投入しません。
- **\*YES:** CICS制御領域が終了した時に、i5/OSジョブを投入します。

上

---

## ファイル (JRNFILE)

ジャーナル番号によって使用されるファイルの名前。このフィールドは、JRNSWTフィールドが\*NOの時のみ有効です。

使用できるライブラリーの値は次の通りです：

- **\*SAME:**現在JCT項目に指定された値を保存します。
- **\*LIBL:**ファイルを見つけるために、CICS制御領域と対応するジョブのライブラリー・リストが使用されます。
- **\*CURLIB:**ファイルを見つけるために、CICS制御領域と対応するジョブの現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。
- **ライブラリー名：**ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

使用できるファイル名の値は次の通りです：

- **\*SAME:**現在JCT項目に指定された値を保存します。
- **ジャーナル名：**ファイルの名前を指定してください。

上

---

## メンバー (JRNMBR)

ジャーナル番号によって使用されるファイル内のメンバーの名前。このフィールドは、JRNSWTフィールドが\*NOの時にのみ有効です。

指定できる値は次の通りです：

- \*SAME:現在JCT項目に指定された値を保存します。
- \*FIRST:ファイル・メンバーは指定されません。ファイル中の最初のメンバーが使用されます。
- ジャーナル・メンバー名：ファイル・メンバーの名前を指定してください。

上

---

## 例

なし

上

---

## エラー・メッセージ

不明

上





## CICS PCT項目の変更 (CHGCICSPCT)

実行可能場所:

- バッチ・ジョブ (\*BATCH)
- 対話式ジョブ (\*INTERACT)
- バッチ・プログラム (\*BPGM)
- 対話式プログラム (\*IPGM)
- バッチ REXX プロシージャ (\*BREXX)
- 対話式 REXX プロシージャ (\*IREXX)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD  
API (\*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

PCTの項目を変更するためには、CICSプログラム管理テーブル変更 ( CHGCICSPCT) コマンドを使用してください。

プログラム管理テーブル(PCT)には、このシステムから実行できる各トランザクションの定義が入っています。各ローカル・トランザクションは、プログラム処理テーブル(PPT)に定義されたプログラムとリンクされていなければなりません。各リモート・トランザクションは、端末管理テーブル (システム項目) (TCS) に定義された、対応するシステム識別コードをもっていなければなりません。

上

### パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
LIB	ライブラリー	通信名, *LIBL, *CURLIB	必須, 定位置 1
GROUP	グループ	通信名	必須, 定位置 2
TRANSID	トランザクション	文字値	必須, 定位置 3
SYSID	リモート CICS システム	通信名, *SAME, *NONE	オプション, 定位置 4
RMTRANSID	リモート トランザクション	文字値, *SAME, *TRANSID	オプション, 定位置 5
PGMID	CICS プログラム	通信名, *SAME	オプション, 定位置 6
TRANSTS	状況	*SAME, *ENABLED, *DISABLED	オプション, 定位置 7
PURGE	実行時に除去可能	*SAME, *YES, *NO	オプション, 定位置 8
WAITTIME	最大デッドロック待機時間	0-7000, *SAME	オプション, 定位置 9
IDLETIME	最大装置入出力待機時間	0-7000, *SAME	オプション, 定位置 10
DUMP	異常終了時のダンプ	*SAME, *YES, *NO	オプション, 定位置 11
TWASIZE	トランザクション作業域サイズ	0-32767, *SAME	オプション, 定位置 12
SCRNSZE	使用画面サイズ	*SAME, *DFT, *ALT	オプション, 定位置 13
LCLQUEUE	ローカル・システム待機	*SAME, *YES, *NO	オプション, 定位置 14
UCTRN	自動大文字変換	*SAME, *NO, *YES	オプション, 定位置 15

上

---

## ライブラリー (LIB)

グループが入っているライブラリーの名前を入力してください。考えられる値は次の通りです。

- **\*LIBL:** グループが入っている最初のライブラリーを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。
- **\*CURLIB:** 現行ライブラリーにグループが入っています。現行ライブラリーが指定されない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。
- **ライブラリー名:** グループが入っているライブラリーの名前。

上

---

## グループ (GROUP)

変更するPCT項目が入っているグループの名前を入力してください。

- **グループ名:** グループ名は最大10桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## トランザクション (TRANSID)

変更するPCT項目のトランザクション識別コードを入力してください。

- **トランザクションID:** トランザクションIDは最大4桁の長さとすることができます。キーボード上の任意の文字を入力できますが、小文字および特殊文字はアポストロフィで囲まなければなりません。

アポストロフィを入力するための十分なスペースがない時には、追加の文字を入力できるようにする拡張フィールド・サイズを取得するために、最初の文字位置にアンパーサンド(&)を入力してください。ブランクは受け入れられますが、項目が制御領域に対して定義されている時には、ブランクの後の文字は無視されます。たとえば、'AB G'は制御領域内では'AB'として扱われます。

16進数文字はアポストロフィで囲まなければならず、大文字のXが先行していなければなりません。たとえば、X'A1A2A3A4'です。16進数値は受け入れられますが、値が印刷可能文字でない場合には、その項目は制御領域に定義される時に拒否されます。

上

---

## リモート CICS システム (SYSID)

トランザクションを所有しているリモート・システムの名前を入力してください。

指定できる値は次の通りです：

- **\*SAME:** 現在PCT項目に指定されている値を保持します。
- **\*NONE:** トランザクションはローカル・システムに保留中です。
- **システム識別コード:** システム識別コードは最大4桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

---

## リモート トランザクション (RMTTRANSID)

トランザクションがリモート・システム上で認識される識別コードを入力してください。このフィールドは、ローカル・システムの場合、すなわちシステム識別コード・フィールドが\*NONEの時には無効です。

指定できる値は次の通りです：

- **\*SAME:**現在PCT項目に指定されている値を保持します。
- **\*TRANSID:**ローカルおよびリモート・トランザクション識別コードが同じです。トランザクション識別コード・フィールドの名前が使用されます。
- **リモート・トランザクションID:**リモート・トランザクションIDは最大4桁の長さとすることができます。キーボード上の任意の文字を入力できますが、小文字および特殊文字はアポストロフィで囲まなければなりません。

アポストロフィを入力するための十分なスペースがない時には、追加の文字を入力できるようにする拡張フィールド・サイズを取得するために、最初の文字位置にアンパーサンド(&)を入力してください。ブランクは受け入れられますが、項目が制御領域に対して定義されている時には、ブランクの後の文字は無視されます。たとえば、'AB G'は制御領域内では'AB'として扱われます。

16進数文字はアポストロフィで囲まなければならない、大文字のXが先行していなければなりません。たとえば、X'A1A2A3A4'です。16進数値は受け入れられますが、値が印刷可能文字でない場合には、その項目は制御領域に定義される時に拒否されます。

上

---

## CICS プログラム (PGMID)

このトランザクション識別コードによって開始するプログラムの名前を入力してください。このプログラムはPPT項目をもっているはずですが、このフィールドは、ローカル・システムの場合、すなわちシステム識別コード・フィールドが\*NONEの時にのみ有効です。

指定できる値は次の通りです：

- **\*SAME:**現在PCT項目に指定されている値を保持します。
- **プログラムID:**プログラムIDは最大8桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @,または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## 状況 (TRANSTS)

トランザクションを使用できるかどうかを示します。

指定できる値は次の通りです：

- **\*SAME:**現在PCT項目に指定されている値を保持します。
- **\*ENABLED:**トランザクションを使用することができます。

- **\*DISABLED:** トランザクションを使用することができません。

上

---

## 実行時に除去可能 (PURGE)

トランザクションを除去できるかどうかを示します。

指定できる値は次の通りです：

- **\*SAME:** 現在PCT項目に指定されている値を保持します。
- **\*YES:** トランザクションを除去することができます。
- **\*NO:** トランザクションを除去することができません。

上

---

## 最大デッドロック待機時間 (WAITTIME)

トランザクションをデッドロック状態にしておける時間の長さ（秒数）を入力してください。形式はMMSSです。

指定できる値は次の通りです：

- **\*SAME:** 現在PCT項目に指定されている値を保持します。
- **デッドロック・タイムアウト：** 0-7000（70分）の範囲の数値を入力してください。指定された値が0の時には、トランザクション識別コードを無制限の時間でデッドロック状態にすることができます。

上

---

## 最大装置入出力待機時間 (IDLETIME)

トランザクションが端末入力または出力を待っている時間の長さ（秒数）を入力してください。形式はMMSSです。

指定できる値は次の通りです：

- **\*SAME:** 現在PCT項目に指定されている値を保持します。
- **読み取りタイムアウト：** 0-7000（70分）の範囲の数値。指定された値が0の時には、トランザクション識別コードは、無制限の時間で端末装置の入力または出力を待機することができます。

上

---

## 異常終了時のダンプ (DUMP)

トランザクションが異常終了した時にトランザクション・ダンプが取られるかどうかを示します。このフィールドは、ローカル・システムの場合、すなわちシステム識別コード・フィールドが\*NONEの時のみ有効です。

指定できる値は次の通りです：

- **\*SAME:** 現在PCT項目に指定されている値を保持します。

- **\*YES:** トランザクション・ダンプが取られます。
- **\*NO:** トランザクション・ダンプは取られません。

上

---

## トランザクション作業域サイズ (TWSIZE)

関連したトランザクション作業域(TWA)のサイズを入力してください。このフィールドは、ローカル・システムの場合、すなわちシステム識別コード・フィールドが\*NONEの時にのみ有効です。

指定できる値は次の通りです：

- **\*SAME:** 現在PCT項目に指定されている値を保存します。
- **TWAサイズ：** 0-32767の範囲の数値。トランザクションと対応するTWAがない場合には、0を入力してください。

上

---

## 使用画面サイズ (SCRNSZE)

トランザクションを実行するために端末と関連した省略時の画面サイズまたは代替画面サイズのどちらを使用するかを示します。

指定できる値は次の通りです：

- **\*SAME:** 現在PCT項目に指定されている値を保持します。
- **\*DFT:** 省略時の画面サイズが使用されます。
- **\*ALT:** 代替画面サイズが使用されます。

上

---

## ローカル・システム待機 (LCLQUEUE)

ローカル・システムでの待ち行列化を実行するかどうかを示します。

指定できる値は次の通りです：

- **\*SAME:** 現在PCT項目に指定されている値を保持します。
- **\*YES:** ローカル・システム待ち合わせが実行されます。
- **\*NO:** ローカル・システム待ち合わせは実行されません。

上

---

## 自動大文字変換 (UCTRN)

このトランザクションへの端末入力をこのトランザクションが実行される端末側で大文字に変換するかどうかを示します。

使用可能なUCTRN値は次の通りです：

- **\*SAME:** 現在、プログラム管理テーブルに指定された値が適用されることを指定します。

- **\*NO:** 端末入力大文字変換は、各個別端末ごとに端末管理テーブルで有効となっているUCTRN設定値に属していることを指定します。
- **\*YES:** 端末から小文字で入力されたデータは、このトランザクションに渡される前に大文字に変換されることを指定します。

上

---

## 例

なし

上

---

## エラー・メッセージ

不明

上

## CICS PPT項目の変更 (CHGCICSPPT)

実行可能場所:

- バッチ・ジョブ (\*BATCH)
- 対話式ジョブ (\*INTERACT)
- バッチ・プログラム (\*BPGM)
- 対話式プログラム (\*IPGM)
- バッチ REXX プロシージャ (\*BREXX)
- 対話式 REXX プロシージャ (\*IREXX)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (\*EXEC) の使用

パラメーター

例  
エラー・メッセージ

スレッド・セーフ: いいえ

PPTの項目を変更するためには、CICS処理プログラム・テーブル変更(CHGCICSPPT)コマンドを使用してください。

処理プログラム・テーブル(PPT)は、PCTに保留されているトランザクション識別コードで呼び出すことができるプログラムを定義します。PPT項目は次のことを定義することができます。

- ローカル・トランザクションIDプログラムによって呼び出されたプログラム。プログラムはローカルまたはリモートとすることができます。
- EXEC CICS LINKまたはEXEC CICS XCTLコマンドによって呼び出されたプログラム。
- ローカル・システムで使用されたBMSマップ・セットおよびユーザー空間。

上

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
LIB	ライブラリー	通信名, *LIBL, *CURLIB	必須, 定位置 1
GROUP	グループ	通信名	必須, 定位置 2
PGMID	CICS プログラム	通信名	必須, 定位置 3
CICSMAP	BMSマップ・セット	*SAME, *NO, *YES	オプション, 定位置 4
SYSID	リモート CICS システム	通信名, *SAME, *NONE	オプション, 定位置 5
RMTPGMID	リモート CICS プログラム	通信名, *SAME, *PGMID	オプション, 定位置 6
PGMOBJ	プログラム オブジェクト	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 7
	修飾子 1: プログラム オブジェクト	名前, *SAME	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *SAME, *LIBL, *CURLIB	
CICSDEBUG	CICSのデバッグ	*SAME, *DEBUG, *NODEBUG	オプション, 定位置 10
APISET	APIコマンド	*SAME, *FULLAPI, *DPLSUBSET	オプション, 定位置 11
TRANSID	トランザクション	文字値, *SAME, *NONE	オプション, 定位置 12
PGMSTS	状況	*SAME, *ENABLED, *DISABLED	オプション, 定位置 8
PGMLNG	呼び出し規則	*SAME, *COBOL, *C	オプション, 定位置 9

---

## ライブラリー (LIB)

グループが入っているライブラリーの名前を入力してください。考えられる値は次の通りです。

- **\*LIBL:** グループが入っている最初のライブラリーを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。
- **\*CURLIB:** 現行ライブラリーにグループが入っています。現行ライブラリーが指定されない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。
- **ライブラリー名:** グループが入っているライブラリーの名前。

上

---

## グループ (GROUP)

変更するPPT項目が入っているグループの名前を入力してください。

- **グループ名:** グループ名は最大10桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## CICS プログラム (PGMID)

i5/OSプログラム・オブジェクトを開始するために使用されるプログラム識別コードを入力します。このフィールドは、このPPT項目を識別するためにも使用されます。

- **プログラムID:** プログラムIDは最大8桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## BMSマップ・セット (CICSMAP)

PGMIDフィールドで識別されたプログラムがBMSマップ・セットまたはユーザー空間のどちらであるかを示します。

指定できる値は次の通りです：

- **\*SAME:** 現在PPT項目に指定されている値を保存します。
- **\*NO:** プログラム識別コードはBMSマップ・セットまたはユーザー空間ではありません。これはアプリケーション・プログラムです。
- **\*YES:** プログラム識別コードはBMSマップ・セットまたはユーザー空間です。

上



---

## リモート CICS システム (SYSID)

プログラムを所有しているリモート・システムの識別コードを入力してください。このフィールドは、アプリケーション・プログラムを定義するPPT項目の場合、すなわちCICSMAPフィールドに\*NOが入っている時にのみ有効です。このフィールドは、ローカル・システムの場合、すなわちシステム識別コード・フィールドに\*NONEが入っている時は無効です。

指定できる値は次の通りです：

- **\*SAME:**現在PPT項目に指定されている値を保存します。
- **\*NONE:**プログラムはローカル・システムに保留中です。
- **システム識別コード：**システム識別コードは最大4桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @,または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## リモート CICS プログラム (RMTPGMID)

プログラムがリモート・システム上で認識される識別コードを入力してください。このフィールドは、ローカル・システムの場合、すなわちシステム識別コード・フィールドが\*NONEの時には無効です。

指定できる値は次の通りです：

- **\*SAME:**現在PPT項目に指定されている値を保存します。
- **\*PGMID:**ローカルおよびリモート・プログラム識別コードが同じです。プログラムをアクセスするためにローカル識別コードが使用されます。
- **リモート・プログラム識別コード：**プログラム識別コードは最大8桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @,または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## プログラム オブジェクト (PGMOBJ)

プログラム識別コードによって使用されるi5/OSプログラム・オブジェクトまたはユーザー・スペース・オブジェクトの名前を入力します。このフィールドは、ローカル・システムの場合、すなわちシステム識別コード・フィールドが\*NONEの時にのみ有効です。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

- **\*SAME:**現在PPT項目に指定されている値を保持します。
- **\*LIBL:** i5/OSプログラム・オブジェクトまたはユーザー・スペース・オブジェクトを見つけるために、CICS制御領域と対応するジョブのライブラリー・リストが使用されます。
- **\*CURLIB:** i5/OSプログラム・オブジェクトまたはユーザー・スペース・オブジェクトを見つけるために、CICS制御領域と対応するジョブの現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。
- **ライブラリー名:** i5/OSプログラム・オブジェクトまたはユーザー・スペース・オブジェクトが入っているライブラリーの名前を指定してください。

使用できるオブジェクトの値は次の通りです。

- **\*SAME:**現在PPT項目に指定されている値を保持します。
- **オブジェクト名** i5/OSプログラム・オブジェクトまたはユーザー・スペース・オブジェクトの名前を指定してください。

上

---

## CICSのデバッグ (CICSDEBUG)

i5/OSプログラム・オブジェクトの実行時にCICS提供トランザクションCEDFを使用できるかどうかを示します。このフィールドは、CICSMAPフィールドがローカル・システムに保留されているアプリケーション・プログラムを参照している時、すなわちCICSMAPフィールドに\*NOが入っていて、システムIDフィールドに\*NONEが入っている時にのみ有効です。

指定できる値は次の通りです。

- **\*SAME:**現在PPT項目に指定されている値を保持します。
- **\*DEBUG:** i5/OSプログラム・オブジェクトでCEDFを使用することができます。
- **\*NODEBUG:** i5/OSプログラム・オブジェクトでCEDFを使用できません。

上

---

## APIコマンド (APISET)

EXEC CICSコマンドをアプリケーション・プログラム内で実行できるかどうかを示します。このフィールドは、CICSMAPフィールドがローカル・システムに保留されているアプリケーション・プログラムを参照している時、すなわちCICSMAPフィールドに\*NOが入っていて、システム識別コード・フィールドに\*NONEが入っている時にのみ有効です。

注：プログラム識別コードがAEGで始まっている場合には、このフィールドには\*FULLAPIが入っていません。

指定できる値は次の通りです：

- **\*SAME:**現在PPT項目に指定されている値を保存します。
- **\*FULLAPI:**アプリケーション・プログラムですべてのEXEC CICSコマンドを使用することができます。
- **\*DPLSUBSET:**分散プログラミング・リンク・サブセットで指定されたEXEC CICSコマンドしかアプリケーション・プログラムで使用できません。

上

---

## トランザクション (TRANSID)

分散プログラムのリンク時にプログラムが実行される時の一時変更トランザクション識別コードを入力してください。このトランザクション識別コードは固有のPPT項目をもっているはずですが、このパラメーターは、ローカル・システムの場合、すなわちシステム識別コード・フィールドが\*NONEの時には無効です。

指定できる値は次の通りです。

- **\*SAME:**現在PPT項目に指定された値を入力します。

- **\*NONE:**使用する一時変更トランザクション識別コードがありません。
- **トランザクションID:**トランザクションIDは最大4桁の長さとしてすることができます。キーボード上の任意の文字を入力できますが、小文字および特殊文字はアポストロフィで囲まなければなりません。

アポストロフィを入力するための十分なスペースがない時には、追加の文字を入力できるようにする拡張フィールド・サイズを取得するために、最初の文字位置にアンパーサンド(&)を入力してください。ブランクは受け入れられますが、項目が制御領域に対して定義されている時には、ブランクの後の文字は無視されます。たとえば、'AB G'は制御領域内では'AB'として扱われます。

16進数文字はアポストロフィで囲まなければならない、大文字のXが先行していなければなりません。たとえば、X'A1A2A3A4'です。16進数値は受け入れられますが、値が印刷可能文字でない場合には、その項目は制御領域に定義される時に拒否されます。

上

---

## 状況 (PGMSTS)

プログラム識別コードを使用できるかどうかを示します。

指定できる値は次の通りです：

- **\*SAME:**現在PPT項目に指定されている値を保存します。
- **\*ENABLED:**プログラム識別コードを使用することができます。
- **\*DISABLED:**プログラム識別コードを使用できません。

上

---

## 呼び出し規則 (PGMLNG)

プログラム・オブジェクトを呼び出すために使用されるプログラム言語規則を入力してください。これによって、CICSがプログラム・オブジェクトにパラメーターを渡す方法が決定されます。

指定できる値は次の通りです。

- **\*SAME:**現在PPT項目に指定されている値を保持します。
- **\*COBOL:** CICSは、CICS COBOL呼び出し規則を使用してプログラム・オブジェクトを呼び出します。
- **\*C:** CICS は、CICS C呼び出し規則を使用してプログラム・オブジェクトを呼び出します。

上

---

## 例

なし

上

---

## エラー・メッセージ

不明



## CICS SIT項目の変更 (CHGCICSSIT)

実行可能場所:

- バッチ・ジョブ (\*BATCH)
- 対話式ジョブ (\*INTERACT)
- バッチ・プログラム (\*BPGM)
- 対話式プログラム (\*IPGM)
- バッチ REXX プロシージャ (\*BREXX)
- 対話式 REXX プロシージャ (\*IREXX)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (\*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

SITの項目を変更するためには、CICSシステム初期設定テーブル変更(CHGCICSSIT)コマンドを使用してください。

システム初期設定テーブル(SIT)は、システムの初期始動条件および制御パラメーターを指定するために使用されます。常に1セットの条件だけがシステムに適用されるので、グループ当たりおよびグループ・リスト・テーブル(GLT)当たり、1つのSIT項目しか使用することはできません。

注: SITに対する変更は、CICSシステムのパフォーマンスおよび実行時特性に影響することを理解していなければなりません。SIT項目に行なわれた変更は、実用環境に入れる前に十分にテストして理解しておく必要があります。

上

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
LIB	ライブラリー	通信名, *LIBL, *CURLIB	必須, 定位置 1
GROUP	グループ	通信名	必須, 定位置 2
GLTGRP	GLT グループ	通信名, *SAME, *NONE	オプション, 定位置 3
WRKARASIZE	共通作業域のサイズ	0-3584, *SAME	オプション, 定位置 4
APPLID	アプリケーション	通信名, *SAME, DBDCCICS	オプション, 定位置 5
DATFORM	日付の形式	*SAME, *MMDDYY, *DDMMYY, *YYMMDD	オプション, 定位置 6
DUMP	CICSシステム・ダンプ使用可	*SAME, *YES, *NO	オプション, 定位置 7
DEVCTL	CICS装置処理	要素リスト	オプション, 定位置 8
	要素 1: CICS 装置マスク	文字値, *SAME, *DFT	
	要素 2: 自動導入非活動限界	0-180000, *SAME	
FILECTL	要素 3: 装置従属接尾部	*SAME, *DDS, *NODDS	オプション, 定位置 9
	ファイル処理	要素リスト	
	要素 1: オープンされているファイル最大数	0-32767, *SAME	
	要素 2: オープン・ファイル非活動限界	0-1440, *SAME	

キーワード	記述	選択項目	ノート
INTRCCTL	内部トレース処理	要素リスト	オプションナル, 定位置 10
	要素 1: トレース・バッファの最大項目数	125-10000, *SAME	
	要素 2: 始動時に活動状態	*SAME, *NO, *YES	
	要素 3: いっぱいの時の折り返し	*SAME, *YES, *NO	
AUXTRCCTL	補助トレース処理	要素リスト	オプションナル, 定位置 11
	要素 1: 始動時に活動状態	*SAME, *NO, *YES	
	要素 2: 自動切り替え	*SAME, *YES, *NO	
	要素 3: 補助トレースAオブジェクト	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: 補助トレースAオブジェクト	通信名, *SAME, *NONE	
	修飾子 2: ライブラリー	通信名, *SAME, *CURLIB	
	要素 4: 補助トレースBオブジェクト	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: 補助トレースBオブジェクト	通信名, *SAME, *NONE	
	修飾子 2: ライブラリー	通信名, *SAME, *CURLIB	
USRTRC	始動時のユーザー・トレース活動中	*SAME, *NO, *YES	オプションナル, 定位置 12
TSCTL	一時記憶域処理	要素リスト	オプションナル, 定位置 13
	要素 1: 経過限界	0-512, *SAME	
	要素 2: データ回復	*SAME, *YES, *NO	
SHRSTG	共用記憶域情報	要素リスト	オプションナル, 定位置 14
	要素 1: LSO記憶域要件	要素リスト	
	要素 1: サイズ	10-16000, *SAME	
	要素 2: エクステント・サイズ	0-16000, *SAME	
	要素 3: 最大エクステント数	0-32767, *SAME	
	要素 2: システム記憶域所要量	要素リスト	
	要素 1: サイズ	46-16000, *SAME	
	要素 2: エクステント・サイズ	0-16000, *SAME	
	要素 3: 最大エクステント数	0-32767, *SAME	
	要素 3: ユーザー記憶域所要量	要素リスト	
	要素 1: サイズ	3-16000, *SAME	
	要素 2: エクステント・サイズ	0-16000, *SAME	
	要素 3: 最大エクステント数	0-32767, *SAME	
NONSHRSTG	非共用記憶域処理	要素リスト	オプションナル, 定位置 15
	要素 1: LSO記憶域要件	要素リスト	
	要素 1: サイズ	7-16000, *SAME	
	要素 2: エクステント・サイズ	0-16000, *SAME	
	要素 3: 最大エクステント数	0-32767, *SAME	
	要素 2: システム記憶域所要量	要素リスト	
	要素 1: サイズ	7-16000, *SAME	
	要素 2: エクステント・サイズ	0-16000, *SAME	
	要素 3: 最大エクステント数	0-32767, *SAME	
	要素 3: ユーザー記憶域所要量	要素リスト	
	要素 1: サイズ	5-16000, *SAME	
	要素 2: エクステント・サイズ	0-16000, *SAME	
	要素 3: 最大エクステント数	0-32767, *SAME	
ITVCTL	インターバル制御機能処理	要素リスト	オプションナル, 定位置 16
	要素 1: 活動状態のCICS シェルの最大数	1-32767, *SAME	
	要素 2: 活動状態のCICS シェルの最小数	1-32767, *SAME	

キーワード	記述	選択項目	ノート
TDCTL	一時データ情報	要素リスト	オプションナル, 定位置 17
	要素 1: ATIユーザー・プロファイル	単純名, *SAME, *INVOKER	
	要素 2: データ回復	*SAME, *YES, *NO	
DSCOMP	データ・ストリーム圧縮	*SAME, *ALL, *NONE, 3270, 5250	オプションナル, 定位置 18
TCPPORT	TCPポート番号	1-65535, *SAME, *NONE, *CICS	オプションナル, 定位置 19
INLTRN	初期トランザクション	通信名, *SAME, *NO, *EXT	オプションナル, 定位置 20

上

---

## ライブラリー (LIB)

グループが入っているライブラリーの名前を入力してください。考えられる値は次の通りです。

- **\*LIBL:** グループが入っている最初のライブラリーを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。
- **\*CURLIB:** 現行ライブラリーにグループが入っています。現行ライブラリーが指定されない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。
- **ライブラリー名:** グループが入っているライブラリーの名前。

上

---

## グループ (GROUP)

変更するSIT項目が入っているグループの名前を入力してください。

**グループ名:** グループ名は最大10桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## GLT グループ (GLTGRP)

グループ・リスト・テーブルが入っているグループの名前を入力してください。グループ・リスト・テーブルに指定されているグループはすべてCICS制御領域の開始時に使用されるものです。

指定できる値は次の通りです:

- **\*SAME:** 現在SIT項目に指定されている値を保存します。
- **\*NONE:** グループ・リスト・テーブルは使用されません。
- **グループ名:** グループ名は最大10桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## 共通作業域のサイズ (WRKARASIZE)

共通システム域(CSA)の共通作業域(CWA)部分のサイズを入力してください。

指定できる値は次の通りです：

- **\*SAME:**現在SIT項目に指定されている値を保存します。
- **512**共通作業域は512バイトです。
- **CWAサイズ:** 0-3584の範囲の数値。

上

---

## アプリケーション (APPLID)

CICS制御領域のVTAMアプリケーション識別コードを入力してください。

指定できる値は次の通りです：

- **\*SAME:**現在SIT項目に指定されている値を保存します。
- **DBDCCICS:**これが、CICS制御領域について使用される省略時のVTAMアプリケーション識別コードです。
- **VTAMアプリケーション:** VTAMアプリケーション識別コードは最大8桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @,または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## 日付の形式 (DATFORM)

EXEC CICS FORMATTIMEコマンドが出された時にCICS制御領域のシステム日付がどのように形式設定されるかを示します。

指定できる値は次の通りです：

- **\*SAME:**現在SIT項目に指定されている値を保存します。
- **\*MMDDYY:**月, 日, 年。
- **\*DDMMYY:**日, 月, 年。
- **\*YYMMDD:**年, 月, 日。

上

---

## CICSシステム・ダンプ使用可 (DUMP)

CICS制御領域のダンプを取ることができるかどうかを示します。

指定できる値は次の通りです：

- **\*SAME:**現在SIT項目に指定されている値を保存します。
- **\*YES:** CICS制御領域ダンプを取ることができます。
- **\*NO:** CICS制御領域ダンプを取ることができません。



## CICS装置処理 (DEVCTL)

端末制御機能で使用されるパラメーターを入力してください。

指定できる値は次の通りです。

### • 要素 1 : CICS装置マスク

ユーザーがCICS制御領域にサインオンする時にCICS端末装置を生成するために、i5/OS装置名のどのカラムを使用するかを識別します。数字は、ゼロと相対するオフセットを使用して識別されます。すなわち 1 は、i5/OS装置名の 2 番目の数字です。

注: 文字の 1 つが非数値の時には、文字は端末識別コードのその位置に使用されます。たとえば、端末装置マスク= 0A5B, i5/OS装置名= XYZI234567, CICS 端末識別コード= XA3B。

- \*SAME: 現在SIT項目に指定されている値を保持します。
- \*DFT: CICS端末装置マスクは、i5/OS装置記述の最後の 4 カラムの非ブランク文字から構成されます。
- 端末装置マスク: 最大長は 4 カラムです。文字は英数字または特殊文字¥, @,または#の 1 つとすることができます。

### 要素 2 : 自動導入非活動限界

CICSシェルが終了した後のアイドル時間。この後でCICS自動導入端末装置が削除されます。形式は HHMMSS です。

- \*SAME: 現在SIT項目に指定されている値を保持します。
- HHMMSS: 0-180000の範囲の数値。指定された値が 0 の時には、セッションの終了と同時に自動導入端末装置を削除します。
- 要素3: 装置依存の接尾部づけ。

装置依存の接尾部づけが使用可能かどうか。

- \*SAME:現在SIT項目に指定されている値を保存します。
- \*DDS:装置依存の接尾部づけが使用可能です。BMSは常にマップ・セットの接尾部付きバージョンをロードしようとします。使用される接尾部は、次の方法によって決まります。トランザクションが代替画面サイズを使用している場合には、BMSは代替接尾部をもっているマップ・バージョンをロードしようとします。ロードが正常に実行されない（またはトランザクションが代替画面サイズを使用していない）場合には、BMSは省略時のマップ・セットの接尾部をもっているバージョンをロードしようとします。これも正常に実行されない場合には、BMSは接尾部のないバージョンをロードしようとします。
- \*NODDS: BMSはマップ・セットの接尾部付きバージョンをロードしません。このオプションの指定により、接尾部付きバージョンの検索が避けられます。

---

## ファイル処理 (FILECTL)

ファイル制御機能によって使用されるパラメーターを入力してください。

指定できる値は次の通りです:

- **要素 1 : オープンされている最大ファイル数**

タスク終了時にCICSシェルに対してオープンされたままにするファイルの最大数。

- **\*SAME:**現在SIT項目に指定されている値を保存します。
- **最大オープン数 :** 0-32767の範囲の数値。指定された値が0の時には、無制限の数のCICSファイルを開かれたままにすることができます。

- **要素 2 : オープンされているファイルの非活動限界**

非活動のファイルを開かれたままにできる時間 (分数)。

- **\*SAME:**現在SIT項目に指定されている値を保存します。
- **分数 :** 0-1440 (24時間) の範囲の数値。指定された値が0の時には、活動のないファイルを開かれたままにできる時間に制限はありません。

上

---

## 内部トレース処理 (INTTRCCTL)

内部トレース機能によって使用される制御パラメーターを入力してください。

指定できる値は次の通りです:

- **要素 1 : トレース・バッファの最大項目数**

内部トレース・バッファに使用可能な項目の最大数。ここに入力された数値は、AUXTRCCTL 任意指定パラメーター要素 3 および 4 に指定された各補助トレース空間オブジェクトの最大項目数も制御します。

- **\*SAME:**現在SIT項目に指定されている値を保存します。
- **トレース・バッファ項目数 :** 125-10000の範囲の数値。

- **要素 2 : 始動時に活動状態**

CICS制御領域が開始された時に内部トレースを活動状態にするかどうかを指示します。

- **\*SAME:**現在SIT項目に指定されている値を保存します。
- **\*NO:** トレースは活動状態になりません。
- **\*YES:** トレースが活動状態になります。

- **要素 3 : いっぱいの時の折り返し**

内部トレース・バッファがいっぱいになった時に内部トレースを折り返すかどうかを指示します。

- **\*SAME:**現在SIT項目に指定されている値を保存します。
- **\*YES:**内部トレース項目は折り返されます。
- **\*NO:**内部トレースは停止します。

---

## 補助トレース処理 (AUXTRCCTL)

CICS制御領域内で補助トレース機能によって使用される制御パラメーターを入力してください。

考えられる値は次の通りです。

### 要素 1 : 始動時に活動状態

CICS制御領域が開始された時に補助トレースを活動状態にするかどうかを指示します。

- **\*SAME:** 現在SIT項目に指定されている値を保持します。
- **\*NO:** トレースは活動状態になりません。
- **\*YES:** トレースが活動状態になります。

### 要素 2 : 自動切り替え

補助トレース・ユーザー・スペースがいっぱいになった時に行う動作を指示します。

- **\*SAME:** 現在SIT項目に指定されている値を保持します。
- **\*YES:** トレース・ユーザー・スペースが切り替えられます。
- **\*NO:** 補助トレースは停止します。

### 要素 3 : 補助トレース・ファイル 1

補助トレース機能によって使用される最初のi5/OSユーザー・スペース・オブジェクトの名前。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

- **\*SAME:** 現在SIT項目に指定されている値を保持します。
- **\*CURLIB:** i5/OSユーザー・スペース・オブジェクトを見つけるために、CICS制御領域と対応するジョブの現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。
- **ライブラリー名:** i5/OSユーザー・スペース・オブジェクトが入っているライブラリーの名前を指定してください。

使用できるファイル名の値は次の通りです。

- **\*SAME:** 現在SIT項目に指定されている値を保持します。
- **\*NONE:** 補助トレース機能によって使用されるi5/OSユーザー・スペースはありません。
- **補助 1 ファイル:** i5/OSユーザー・スペース・オブジェクトの名前を指定してください。

### 要素 4 : 補助トレース・ファイル 2

補助トレース機能によって使用される2番目のi5/OSユーザー・スペースの名前。

**注:** これは、要素 3 (補助トレース・ファイル 1) で指定されたi5/OSユーザー・スペース・オブジェクトと同じにすることはできません。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

- **\*SAME:** 現在SIT項目に指定されている値を保持します。

- **\*CURLIB:** i5/OSユーザー・スペース・オブジェクトを見つけるために、CICS制御領域と関連するジョブの現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。
- **ライブラリー名:** i5/OSユーザー・スペース・オブジェクトが入っているライブラリーの名前を指定してください。

使用できるファイル名の値は次の通りです。

- **\*SAME:** 現在SIT項目に指定されている値を保持します。
- **\*NONE:** 補助トレース機能によって使用されるi5/OSユーザー・スペースはありません。
- **補助2ファイル:** i5/OSユーザー・スペース・オブジェクトの名前を指定してください。

上

---

## 始動時のユーザー・トレース活動中 (USRTRC)

CICS制御領域が開始された時にユーザー・トレース項目を作成できるかどうかを示します。

指定できる値は次の通りです：

- **\*SAME:** 現在SIT項目に指定されている値を保存します。
- **\*NO:** ユーザー・トレース項目は作成されません。
- **\*YES:** ユーザー・トレース項目が作成されます。

上

---

## 一時記憶域処理 (TSCTL)

一時記憶域機能で 사용되는制御パラメーターを入力してください。

使用できる値は、次の通りです。

### 要素1：TS経過限界

制御領域の緊急再始動時に、一時記憶域回復プログラムによって使用される一時記憶域データの経過限界。指定された限界より古いデータは回復されません。値は日数で指定されます。

- **\*SAME:** 現在SIT項目に指定されている値を保存します。
- **一時記憶域経過：** 0-512の範囲の数値。指定された値が0の時には、すべてのデータが回復されます。

### 要素2：一時記憶域待ち行列の回復

CICS制御領域の緊急再始動時に、一時記憶域待ち行列を回復するかどうかを指示します。

- **\*SAME:** 現在SIT項目に指定されている値を保存します。
- **\*YES:** 一時記憶域待ち行列を回復します。
- **\*NO:** 一時記憶域待ち行列を回復しません。

上

---

## 共用記憶域情報 (SHRSTG)

共用記憶域要件を入力してください。

注: 各3タイプの共用記憶域の考えられる最大サイズは、16,775,216です。最大サイズを計算するためには、次のものを加えてください。サイズ\* 1024,およびエクステント・サイズ\*最大エクステント\* 1024。

使用可能なLSO記憶域要件の値は次の通りです:

### 要素1: LSOサイズ

Kバイトで表したCICSローカル空間オブジェクト(LSO)のサイズ。

- \*SAME:現在SIT項目に指定されている値を保存します。
- LSOサイズ: 7-16000の範囲の数値。

### 要素2: LSOエクステント・サイズ

Kバイトで表したCICS LSOエクステントのサイズ。

- \*SAME:現在SIT項目に指定されている値を保存します。
- LSOエクステント・サイズ: 0-16000の範囲の数値。

### 要素3: LSO最大エクステント

CICS LSO最大拡張可能回数。

- \*SAME:現在SIT項目に指定されている値を保存します。
- LSOエクステント: 0-32767の範囲の数値。

### 要素4: システム・サイズ

Kバイトで表したCICSシステム空間オブジェクトのサイズ。

- \*SAME:現在SIT項目に指定されている値を保存します。

使用可能なシステム記憶域所要量の値は、次の通りです:

- システム・サイズ: 7-16000の範囲の数値。

### 要素5: システム・エクステント・サイズ

Kバイトで表したCICSシステム空間オブジェクトのエクステントのサイズ。

- \*SAME:現在SIT項目に指定されている値を保存します。
- システム・エクステント・サイズ: 0-16000の範囲の数値。

### 要素6: システム最大エクステント

CICSシステム空間オブジェクト最大拡張可能回数。

- \*SAME:現在SIT項目に指定されている値を保存します。
- システム・エクステント: 0-32767の範囲の数値。

### 要素7: ユーザー・サイズ

Kバイトで表したCICSユーザー空間オブジェクトのサイズ。

- \*SAME:現在SIT項目に指定されている値を保存します。

使用可能なユーザー記憶域所要量の値は、次の通りです：

- **ユーザー・サイズ**： 5-16000の範囲の数値。

#### 要素 8：ユーザー・エクステント・サイズ

Kバイトで表したCICSユーザー空間オブジェクトのエクステントのサイズ。

- \*SAME:現在SIT項目に指定されている値を保存します。
- **ユーザー・エクステント・サイズ**： 0-16000の範囲の数値。0-16000の範囲の数値。

#### 要素 9：ユーザー最大エクステント

CICSユーザー空間オブジェクト最大拡張可能回数。

- \*SAME:現在SIT項目に指定されている値を保存します。
- **ユーザー・エクステント**： 0-32767の範囲の数値。

上

---

## 非共用記憶域処理 (NONSHRSTG)

非共用記憶域要件を入力してください。

注： 3タイプの各非共用記憶域を16,775,216とすることができる、最大サイズ。最大サイズを計算するためには、次のものを加えてください。サイズ\* 1024,およびエクステント・サイズ\*最大エクステント\* 1024。

使用可能なLSO所要量の値は、次の通りです：

- **要素 1：LSOサイズ**

Kバイトで表したCICSローカル空間オブジェクト(LSO)のサイズ。

- \*SAME:現在SIT項目に指定されている値を保存します。
- **LSOサイズ**： 7-16000の範囲の数値。

#### 要素 2：LSOエクステント・サイズ

Kバイトで表したCICS LSOエクステントのサイズ。

- \*SAME:現在SIT項目に指定されている値を保存します。
- **LSOエクステント・サイズ**： 0-16000の範囲の数値。

#### 要素 3：LSO最大エクステント

CICS LSO最大拡張可能回数。

- \*SAME:現在SIT項目に指定されている値を保存します。
- **LSOエクステント**： 0-32767の範囲の数値。

使用可能なシステム所要量の値は、次の通りです：

- **要素 4：システム・サイズ**

Kバイトで表したCICSシステム空間オブジェクトのサイズ。

- \*SAME:現在SIT項目に指定されている値を保存します。

- システム・サイズ： 7-16000の範囲の数値。

#### 要素5：システム・エクステント・サイズ

Kバイトで表したCICSシステム空間オブジェクトのエクステントのサイズ。

- \*SAME:現在SIT項目に指定されている値を保存します。
- システム・エクステント・サイズ： 0-16000の範囲の数値。

#### 要素6：システム最大エクステント

CICSシステム空間オブジェクト最大拡張可能回数。

- \*SAME:現在SIT項目に指定されている値を保存します。
- システム・エクステント： 0-32767の範囲の数値。

使用可能なユーザー所要量の値は、次の通りです：

- 要素7：ユーザー・サイズ

Kバイトで表したCICSユーザー空間オブジェクトのサイズ。

- \*SAME:現在SIT項目に指定されている値を保存します。
- ユーザー・サイズ： 5-16000の範囲の数値。

#### 要素8：ユーザー・エクステント・サイズ

Kバイトで表したCICSユーザー空間オブジェクトのエクステントのサイズ。

- \*SAME:現在SIT項目に指定されている値を保存します。
- ユーザー・エクステント・サイズ： 0-16000の範囲の数値。

#### 要素9：ユーザー最大エクステント

CICSユーザー空間オブジェクト最大拡張可能回数。

- \*SAME:現在SIT項目に指定されている値を保存します。
- ユーザー・エクステント： 0-32767の範囲の数値。

上

---

## インターバル制御機能処理 (ITVCTL)

間隔制御機能で使用されるパラメーターを入力してください。

指定できる値は次の通りです：

- 要素1：活動状態のCICSシェルの最大数

同時に活動状態にできる、間隔制御機能によって使用されるバッチ・ユーザー・シェルの最大数。

- \*SAME:現在SIT項目に指定されている値を保存します。
- バッチ・シェルの最大数： 1-32767の範囲の数値。

#### 要素2：活動状態のCICSシェルの最小数

活動状態のまま残る、間隔制御機能によって使用されるバッチ・ユーザー・シェルの数。



- \*SAME:現在SIT項目に指定されている値を保存します。
- バッチ・シェルの最小数：1-要素1（バッチ・シェルの最大値）の範囲の数値。

上

---

## 一時データ情報 (TDCTL)

一時データ機能で使用される制御パラメーターを入力してください。

指定できる値は次の通りです。

### 要素1：ATIユーザー・プロファイル

一時データ・トリガー・レベルに達した時に、自動的に開始されるトランザクションと対応するi5/OSユーザー・プロファイル。

- \*SAME: 現在SIT項目に指定されている値を保持します。
- \*INVOKER:一時データ・トリガー・レベルに達する原因となったCICSシェルと対応するi5/OSユーザー・プロファイルを使用します。
- ユーザー・プロファイル：ユーザープロファイル名は最大10カラムの長さとしてすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @,または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

### 要素2：データ回復

CICS制御領域の緊急再始動時に一時データ待ち行列を回復するかどうかを指示します。

- \*SAME: 現在SIT項目に指定されている値を保持します。
- \*YES: 一時データ待ち行列を回復します。
- \*NO: 一時データ待ち行列を回復しません。

上

---

## データ・ストリーム圧縮 (DSCOMP)

データ・ストリーム圧縮を使用可能にする装置タイプを示します。

指定できる値は次の通りです：

- \*SAME:現在システム初期設定テーブル項目に指定されている値を保存します。
- \*ALL:すべての装置タイプに対してデータ・ストリーム圧縮が使用可能であることを指定します。
- \*NONE:任意の装置タイプに対してデータ・ストリーム圧縮が使用可能でないことを指定します。
- 3270: 3270装置タイプに対しデータ・ストリーム圧縮が使用可能であることを指定します。
- 5250: 5250装置タイプに対しデータ・ストリーム圧縮が使用可能であることを指定します。

上



---

## TCPポート番号 (TCPPORT)

CICS TCP/IP LISTENERを制御領域の始動時に開始する必要があるかどうかと、開始する場合にCICSクライアントがそのLISTENERへの接続に使用するTCPポートを指定します。

指定できる値は次の通りです:

- **\*SAME:** 現在SIT項目に指定されている値を保存します。
- **\*NONE:** CICS TCP/IP LISTENERは使用されません。
- **\*CICS:** CICS TCP/IP LISTENERは、CICSクライアントがサービス・テーブルのIBM-CICS項目に指定されたポート番号のTCP/IPを使用して接続できるように、制御領域の始動時に開始されます。
- **TCPポート番号:** 1-65535の範囲の数値。このパラメーターに値を指定すると、CICS TCP/IP LISTENERは、CICSクライアントが指定されたポート番号のTCP/IPを使用して接続できるように、制御領域の始動時に開始されます。

上

---

## 初期トランザクション (INLTRN)

CICS制御領域で初期設定処理が完了した直後に呼び出されるトランザクションの名前を入力してください。

— トランザクションは別個のバッチ・ジョブで実行されます。デフォルトでは、QBATCHサブシステムの下です。ジョブ名はトランザクションの場合「AEGINLTRN」ですが、CICS以外のプログラムの場合は「AEGEXTPGM」が使用されます。

— トランザクションはプログラム管理テーブル(PCT)に定義された項目を必要とし、そのプログラムは処理プログラム・テーブル(PPT)に定義された項目を必要とし、いずれもローカル・システムに保管されている必要があります。

— CICS以外のプログラム・オブジェクトは「EXTPGM」という名前であり、そのライブラリーは、CICS制御領域が実行されるジョブのライブラリー・リストに存在している必要があります。

単一値

- **\*SAME:** 現在SIT項目に指定されている値を保持します。
- **\*NO:** CICS制御領域が開始された後で、トランザクションが自動的に呼び出されません。
- **\*EXT:** CICS以外のプログラム「EXTPGM」は、CICS制御領域が開始された後で自動的に呼び出されず、CICS以外のプログラムは、通常のバッチ・ジョブで実行されます。
- **トランザクション名:** トランザクションの名前を指定してください。トランザクションは、バッチ・ジョブの下のシェルで実行されます。

上

---

## 例

なし

上

---

## エラー・メッセージ

不明

上

---

## CICS状況変更 (CHGCICSSTS)

実行可能場所:

- バッチ・ジョブ (\*BATCH)
- 対話式ジョブ (\*INTERACT)
- バッチ・プログラム (\*BPGM)
- 対話式プログラム (\*IPGM)
- バッチ REXX プロシージャ (\*BREXX)
- 対話式 REXX プロシージャ (\*IREXX)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (\*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

このコマンドは、特定の制御領域の特定のCICS資源の状況を変更します。

上

---

### パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
CTLRGN	制御領域	総称名, 名前, *ALL	必須, 定位置 1
OPTION	オプション	文字値	必須, 定位置 2
RSC	資源 I D	文字値	必須, 定位置 3
STS	状況	値 (最大 50 回の繰り返し): 文字値	必須, 定位置 4

上

---

### 制御領域(CTLRGN)

制御領域の名前

上

---

### オプション(OPTION)

CICS資源のタイプ。

このパラメーターに指定できる値の完全なリストについては、CICSの文書を参照してください。

上

---

## 資源 I D(RSC)

処理する資源名を指定します。

上

---

## 状況(STS)

新規状況を指定します。

すべての状況値の累積結果は指定された資源に適用されます。

互いに排他的な値が指定された場合には、最後の値が処理されます。

たとえば、\*ADDと\*NOADDが指定された場合には、結果は\*NOADDだけを指定したのと同じになります。

適用可能なすべての値が特定資源に適用できるわけではありません。適用不能な値を資源に対して使用した場合には、状況の変更の試みが拒否されます。この場合には、許される値が指定されていても、状況の変更は処理されません。

値が適用可能であるかどうかを判別するためには、CICSの文書を参照してください。

上

---

## 例

なし

上

---

## エラー・メッセージ

不明

上

## CICS TCS項目の変更 (CHGCICSTCS)

実行可能場所:

- バッチ・ジョブ (\*BATCH)
- 対話式ジョブ (\*INTERACT)
- バッチ・プログラム (\*BPGM)
- 対話式プログラム (\*IPGM)
- バッチ REXX プロシージャ (\*BREXX)
- 対話式 REXX プロシージャ (\*IREXX)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD  
API (\*EXEC) の使用

パラメーター

例  
エラー・メッセージ

スレッド・セーフ: いいえ

TCSの項目を変更するためには、CICS端末管理システム・テーブル変更(CHGCICSTCS)コマンドを使用してください。

各TCS項目は、リモートCICSシステムの特徴、およびローカルとリモート・システムとの接続の明細を定義します。このテーブルの項目は次の通りです：

- リモート・システムとのリンクを定義します。これは、機能積み込み、分散プログラム・リンク(DPL)、または分散トランザクション処理用にローカル・アプリケーションによって使用することができます。また、トランザクション経路指定用にシステムが使用することもできます。
- リモート資源が存在しているシステムを識別するために、他のテーブル項目のSYSIDオプションで使用することができます。
- リモート資源のロケーションを識別するために、EXEC CICSコマンドのSYSIDオプションで使用することができます。

上

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
LIB	ライブラリー	通信名, *LIBL, *CURLIB	必須, 定位置 1
GROUP	グループ	通信名	必須, 定位置 2
SYSID	リモート CICS システム	通信名	必須, 定位置 3
NETWORK	ネットワーク	通信名, *SAME, *SYSID	オプション, 定位置 4
MODE	モード	通信名, *SAME, *NETATR	オプション, 定位置 5
CDEPAGE	コード ページ	1-65535, *SAME, *SYSVAL	オプション, 定位置 6
SYSSTS	状況	*SAME, *ENABLED, *DISABLED	オプション, 定位置 7
SNDPFX	アウトバウンド・セッション接 頭部	通信名, *SAME, *NONE	オプション, 定位置 8
SNDLMT	使用可能なアウトバウンド・セ ッション	0-999, *SAME	オプション, 定位置 9

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
RCVPFX	インバウンド・セッション接頭部	通信名, <u>*SAME</u> , *NONE	オプション, 定位置 10
RCVLMT	使用可能なインバウンド・セッション	0-999, <u>*SAME</u>	オプション, 定位置 11
INDSYS	間接 CICS システム	通信名, <u>*SAME</u> , *NONE	オプション, 定位置 12
RMTNETID	リモート・ネットワーク標識	通信名, <u>*SAME</u> , *NETATR, *LOC, *NONE	オプション, 定位置 13

上

---

## ライブラリー (LIB)

グループが入っているライブラリーの名前を入力してください。考えられる値は次の通りです。

- **\*LIBL:** グループが入っている最初のライブラリーを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。
- **\*CURLIB:** 現行ライブラリーにグループが入っています。現行ライブラリーが指定されない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。
- **ライブラリー名:** グループが入っているライブラリーの名前。

上

---

## グループ (GROUP)

変更するTCS項目が入っているグループの名前。

- **グループ名:** グループ名は最大10桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## リモート CICS システム (SYSID)

CICS制御領域と通信できるリモートCICSシステムを識別するために使用されるシステム識別コード。これはTCS項目の名前です。

- **システム識別コード:** システム識別コードは最大4桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## ネットワーク (NETWORK)

他のCICSシステムを識別するために使用されるネットワーク名。これは、CICSシステムを始動するために使用されるCICSシステム初期設定テーブルに指定されているAPPLIDと同じものでなければなりません。

指定できる値は次の通りです:

- **\*SAME:**現在TCSテーブル項目に指定されている値が同じまま残ります。
- **\*SYSID:**4つのブランクの接尾語付きのCICSシステム識別コードがネットワーク名として使用されます。
- **ネットワーク:**ネットワークは最大8文字とすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @,または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## モード (MODE)

モード名として渡される名前。

考えられる値は次の通りです。

- **\*SAME:**現在TCSテーブル項目に指定されている値が同じまま残ります。
- **\*NETATR:**ネットワーク属性に指定された通りの省略時のモード名が使用されます。
- **モード名:**最大長は8桁です。最初の文字は英字または特殊文字¥, @,または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## コードページ (CDEPAGE)

データの変換に使用するコード・ページ。

考えられる値は次の通りです。

- **\*SAME:**現在TCSテーブル項目に指定されている値が同じまま残ります。
- **\*SYSVAL:** System i5のコード・ページを使用します。
- **コード・ページ:**1以上で65535以下の数字でなければなりません。

上

---

## 状況 (SYSSTS)

CICS端末管理システム・テーブル項目がCICS実行時資源テーブル定義の接続管理機能に対して定義される時、CICSユーザーがCICS制御領域内でCICS /400システム識別コードを使用できるかどうかを示します。

指定できる値は次の通りです:

- **\*SAME:**現在TCSテーブル項目に指定されている値が同じまま残ります。
- **\*ENABLED:** CICSユーザーがCICSシステム識別コードを使用することができます。

- **\*DISABLED:** CICSユーザーはCICSシステム識別コードを使用することができません。

上

---

## アウトバウンド・セッション接頭部 (SNDPFX)

アウトバウンド・セッション（回線接続）が固有のセッション名を確立するために会話識別コードの最初の部分として使用される接頭部。

注: SNDPFXがRCVPFXの値と同じ値をもっている時には、SNDLMTは1にセットされ、RCVLMTは0にセットされます。

指定できる値は次の通りです:

- **\*SAME:**現在TCSテーブル項目に指定されている値が同じまま残ります。
- **\*NONE:**アウトバウンド・セッションはありません。
- **アウトバウンド・セッション接頭部:** 最大長は2桁です。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## 使用可能なアウトバウンド・セッション (SNDLMT)

接続済みのCICSシステムが使用できる、同時に活動状態が可能なアウトバウンド・セッション（回線接続）の数。

指定できる値は次の通りです:

- **\*SAME:**現在TCSテーブル項目に指定されている値が同じまま残ります。
- **使用可能なアウトバウンド・セッション:** 0以上で999以下の数字でなければなりません。

注: SNDPFXが1文字の時には、値は999より大きくしてはいけません。そうでない場合は、値は99より大きくしてはいけません。

上

---

## インバウンド・セッション接頭部 (RCVPFX)

インバウンド・セッション（回線接続）が固有のセッション名を確立するために会話識別コードの最初の部分として使用される接頭部。

注: SNDPFXがRCVPFXの値と同じ値をもっている時には、SNDLMTは1にセットされ、RCVLMTは0にセットされます。

指定できる値は次の通りです:

- **\*SAME:**現在TCSテーブル項目に指定されている値を保存します。
- **\*NONE:**インバウンド・セッションはありません。



- **インバウンド・セッション接頭部**：最大長は2桁です。最初の文字は英字または特殊文字¥, @,または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## 使用可能なインバウンド・セッション (RCVLMT)

接続済みのCICSシステムが使用できる、同時に活動状態が可能なインバウンド・セッション（回線接続）の数。

指定できる値は次の通りです：

- **\*SAME**:現在TCSテーブル項目に指定されている値が同じまま残ります。
- **使用可能なインバウンド・セッション**：1以上で999以下の数字でなければなりません。

注：RCVPFXが1文字の時には、値は999より小さいか等しくなければなりません。そうでない場合は、値は99より小さいか等しくなければなりません。

上

---

## 間接 CICS システム (INDSYS)

このCICSシステムが他のCICSシステムを使用してCICS制御領域との通信を中継するかどうかを示します。

指定できる値は次の通りです：

- **\*SAME**:現在TCSテーブル項目に指定されている値が同じまま残ります。
- **\*NONE**: CICSシステムは直接CICS制御領域と通信することができます。
- **システム識別コード**：システム識別コードは最大4桁の長さとしてすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @,または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## リモート・ネットワーク標識 (RMTNETID)

他のCICSシステムに対して使用するリモート・ネットワーク識別コードを入力してください。

指定できる値は次の通りです：

- **\*SAME**:現在この項目に指定されている値を保存します。
- **\*NETATR**:ネットワーク属性に指定されたリモート・ネットワーク識別コードが使用されます。
- **\*LOC**:他のCICSシステムのリモート・ネットワーク識別コードを使用することができます。複数のリモート・ネットワーク識別コードが他のCICSシステムと関連している場合には、システムは自動的にリモート・ネットワーク識別コードを選択します。
- **\*NONE**:リモート・ネットワーク識別コードは使用されません。
- **リモート・ネットワークID**:リモート・ネットワーク識別コードは最大8文字としてすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @,または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## 例

なし

上

---

## エラー・メッセージ

不明

上

## CICS TCT項目の変更 (CHGCICSTCT)

実行可能場所:

- バッチ・ジョブ (\*BATCH)
- 対話式ジョブ (\*INTERACT)
- バッチ・プログラム (\*BPGM)
- 対話式プログラム (\*IPGM)
- バッチ REXX プロシージャ (\*BREXX)
- 対話式 REXX プロシージャ (\*IREXX)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (\*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

TCTの項目を変更するためには、CICS端末管理テーブル変更(CHGCICSTCT)コマンドを使用してください。

各TCT項目は、次の1つを定義します。

- このシステムで実行されるトランザクションによって使用されることのある表示端末または印刷装置の特性。端末装置はローカルまたはリモートとすることができます。
- 自動導入（自動導入）用のモデル端末装置。大部分の端末装置は共通の複数の特性をもっていて、それらの資源定義は同一であるので、TCTを多数の端末装置に適用することができます。このモデルは、システムが開始される時に必要な端末装置定義を作成するために、CICSによって使用されます。
- トランザクションの自動開始用に使用される端末装置。

上

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
LIB	ライブラリー	通信名, *LIBL, *CURLIB	必須, 定位置 1
GROUP	グループ	通信名	必須, 定位置 2
CICSDEV	CICS装置	通信名	必須, 定位置 3
SYSID	リモート CICS システム	通信名, *SAME, *NONE	オプション, 定位置 4
RMTDEV	リモート CICS装置	通信名, *SAME, *CICSDEV	オプション, 定位置 5
DEVTYPE	装置 タイプ	*SAME, 5250, 3270, 3270P, 3270J, 3270JP, 3151, SCS	オプション, 定位置 6
PRTFILE	印刷ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 7
	修飾子 1: 印刷ファイル	名前, *SAME	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *SAME, *LIBL, *CURLIB	
DEVD	装置記述	名前, *SAME	オプション, 定位置 8
DEVMODEL	自動導入モデル	*SAME, *TERMINAL, *MODEL, *BOTH	オプション, 定位置 9
NETWORK	ネットワーク	通信名, *SAME, *CICSDEV	オプション, 定位置 10
ALTSUFFIX	代替マップ設定接尾部	0-9, *NONE, *SAME	オプション, 定位置 11
DEVSTS	状況	*SAME, *ENABLED, *DISABLED	オプション, 定位置 12

キーワード	記述	選択項目	ノート
ATISTS	ATIのサポート	<u>*SAME</u> , *NO, *YES	オプション, 定位置 13
TTISTS	トランザクション開始サポート	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション, 定位置 14
USRARASIZE	ユーザー域のサイズ	0-255, <u>*SAME</u>	オプション, 定位置 15
DEVCHRID	文字識別コード	要素リスト	オプション, 定位置 16
	要素 1: コード ページ	1-65535, <u>*SAME</u> , *SYSVAL	
	要素 2: グラフィック 文字セット	1-65535, <u>*SAME</u> , *SYSVAL	
TRANSID	トランザクション	文字値, <u>*SAME</u> , *ANY	オプション, 定位置 17
KATAKANA	半角カタカナのサポート	<u>*SAME</u> , *NO, *YES	オプション, 定位置 18
SOSI	ユーザー指定 DBCSデータ	<u>*SAME</u> , *NO, *YES	オプション, 定位置 19
UNATTEND	不在時モード	<u>*SAME</u> , *NO, *YES	オプション, 定位置 20
UCTRN	自動大文字変換	<u>*SAME</u> , *NO, *YES, *TRANID	オプション, 定位置 21
ALTSCN	代替画面サイズ	<u>*SAME</u> , *NONE, 24X80, 27X132	オプション, 定位置 22
VALIDATION	妥当性検査機能	<u>*SAME</u> , *NO, *YES	オプション, 定位置 23
LIGHTPEN	ライト・ペンのサポート	<u>*SAME</u> , *NO, *YES	オプション, 定位置 24
SHIP	別のCICSシステムへの送信	<u>*SAME</u> , *NO, *YES	オプション, 定位置 25
DEVACQ	ATI獲得	<u>*SAME</u> , *NO, *YES	オプション, 定位置 26
DSCOMP	データ・ストリーム圧縮	<u>*SAME</u> , *SITVAL, *NO	オプション, 定位置 27

上

---

## ライブラリー (LIB)

グループが入っているライブラリーの名前を入力してください。考えられる値は次の通りです。

- **\*LIBL:** グループが入っている最初のライブラリーを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。
- **\*CURLIB:** 現行ライブラリーにグループが入っています。現行ライブラリーが指定されない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。
- **ライブラリー名:** グループが入っているライブラリーの名前。

上

---

## グループ (GROUP)

変更するTCT項目が入っているグループの名前。

- **グループ名:** グループ名は最大10桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## CICS装置 (CICSDEV)

装置を処理するために使用される端末。このフィールドはこのTCT項目を識別するために使用されます。

- **端末ID:** 端末IDは最大4桁の長さとしてすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @,または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## リモート CICS システム (SYSID)

リモート装置のTCSテーブルに定義されているシステム識別コード。

注: 制御領域が同じシステム識別コードをもっている時に、この項目はSYSID(\*NONE)が指定されたかのように、実行時資源テーブル定義端末管理機能に導入されます。

使用可能なSYSID値は次の通りです。

- **\*SAME:** 現在TCT項目に指定されている値が同じままに残されます。
- **\*NONE:** 端末装置は、使用中の同じ制御領域に対して定義されます。
- **システム識別コード:** システム識別コードは最大4桁の長さとしてすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @,または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## リモート CICS装置 (RMTDEV)

端末がリモート・システム上で認識される識別コード。このパラメーターはSYSID(\*NONE)が指定された時には無効です。

使用可能なRMTDEV値は次の通りです。

- **\*SAME:** 現在TCT項目に指定されている値が同じままに残されます。
- **\*CICSDEV:** TCTと対応する端末装置が使用されます。
- **リモート端末:** リモート端末は最大4桁の長さとしてすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @,または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## 装置タイプ (DEVTYPE)

端末のタイプを示します。

使用可能なDEVTYPE値は次の通りです。

- **\*SAME:** 現在TCT項目に指定されている値が同じままに残されます。
- **5250:** 5250データ・ストリームをサポートする端末装置。
- **3270:** 3270データ・ストリームをサポートする端末装置。
- **3270P:** 3270データ・ストリームをサポートする印刷装置。
- **3270J:** 2バイト使用可能表示装置。

- **3270JP**: 2 バイト使用可能印刷装置。
- **3151**: ASCII表示装置。
- **SCS**: SCSデータ・ストリームをサポートする印刷装置。

上

---

## 印刷ファイル (PRTFILE)

端末が使用する印刷ファイルの名前。これは、DEVTYPEがSCS, 3270P,または3270JPとして指定された時のみ有効です。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

- **\*SAME**: 現在TCT項目に指定されている値が同じままに残されます。
- **\*LIBL**: ファイルを見つけるために、制御領域と対応するジョブのライブラリー・リストが使用されます。
- **\*CURLIB**: ファイルを見つけるために、制御領域と対応するジョブの現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。
- **ライブラリー名**: ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

使用できるファイル名の値は次の通りです。

- **\*SAME**: 現在TCT項目に指定されている値が同じままに残されます。
- **印刷ファイル名**: ファイルの名前を指定してください。

上

---

## 装置記述 (DEVD)

端末装置と関連付けられているi5/OS装置名。これは、SYSID(\*NONE)が指定されて、DEVTYPE(SCS)およびDEVMODEL(\*MODEL)が指定されない時のみ必要です。

使用可能なDEVD値は次の通りです。

- **\*SAME**: 現在TCT項目に指定されている値が同じままに残されます。
- **装置記述**: 装置記述は最大10桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @,または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## 自動導入モデル (DEVMODEL)

さらに端末を自動導入するためにこの端末をモデルとして使用できるかどうかを示します。これは、DEVTYPE(5250), DEVTYPE(3270), DEVTYPE(3270J),またはDEVTYPE(3151) が指定された時のみ有効です。

使用可能なDEVMODEL値は次の通りです。

- **\*SAME:**現在TCT項目に指定されている値を保存します。
- **\*TERMINAL:**端末装置は、自動導入以降の端末装置に対するモデルとして使用することはできません。
- **\*MODEL:**端末装置は、自動導入端末装置に対するモデルとしてしか使用することはできません。
- **\*BOTH:**端末装置は、自動導入以降の端末装置に対するモデルとして使用することができます。

上

---

## ネットワーク (NETWORK)

論理装置がネットワーク内のどこでも認識されるように論理装置を識別するために使用される記号ネットワーク名。この名前はVTAMシステム定義に与えられ、ノード初期設定ブロック(NIB)を作成するために使用されます。これはDEVMODEL(\*MODEL)が指定された時には無効です。

使用できるネットワークの値は次の通りです。

- **\*SAME:**現在TCT項目に指定されている値を保存します。
- **\*CICSDEV:**4つのブランクの接尾語付きの端末装置が記号ネットワーク名として使用されます。
- **ネットワーク:**ネットワークは最大8文字とすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @,または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## 代替マップ設定接尾部 (ALTSUFFIX)

この装置の代替接尾部を指定する数値を入力してください。

指定できる値は次の通りです:

- **\*SAME:**現在TCTに定義されている値が同じままに残ります。
- **\*NONE:**装置はユーザー定義の代替接尾部をもちません。
- **0-9:**トランザクションが代替画面サイズを使用している場合には、この数値接尾部がBMSによってマップ・セット名に付加されます。(あるいは省略時の値と代替画面サイズが同じ場合)。

上

---

## 状況 (DEVSTS)

TCT項目が実行時資源テーブル定義の端末制御機能に対して定義された時に制御領域が端末を使用できるかどうかを示します。

使用可能なDEVSTS値は次の通りです。

- **\*SAME:**現在TCT項目に指定されている値を保存します。
- **\*ENABLED:**制御領域によって端末装置を使用することができます。
- **\*DISABLED:**制御領域によって端末装置を使用することはできません。

上

---

## ATIのサポート (ATISTS)

制御領域によって自動的に開始されるトランザクションが端末を使用できるか、あるいは端末がISCセッションであるかを示します。ISCセッションは、他のCICSシステムと通信するために端末を代替機能として使用するトランザクションのためのものです。

使用可能なATISTS値は次の通りです。

- **\*SAME:**現在TCT項目に指定されている値を保存します。
- **\*NO:**制御領域ATI機能によって端末装置を使用することはできません。
- **\*YES:**制御領域ATI機能によって端末装置を使用することができます。

上

---

## トランザクション開始サポート (TTISTS)

端末がトランザクションを開始できるかどうかを示します。

注: ATISTS(\*NO)が指定された時には、このパラメーターは\*YESでなければなりません。

使用可能なTTISTS値は次の通りです。

- **\*SAME:**現在TCT項目に指定されている値を保存します。
- **\*YES:**端末装置はトランザクションを開始することができます。
- **\*NO:**端末装置はトランザクションを開始することができません。

上

---

## ユーザー域のサイズ (USRARASIZE)

端末と関連したユーザー域の長さ。

使用可能なUSRARASIZE値は次の通りです。

- **\*SAME:**現在TCT項目に指定されている値を保存します。
- **ユーザー域の長さ:**ユーザー域の長さは0以上で255以下の数字でなければなりません。

上

---

## 文字識別コード (DEVCHRID)

端末で使用するコード・ページおよび文字セット。

使用可能なDEVCHRID値は次の通りです。

- **要素 1 : コード・ページ**

使用されるコード・ページ。

- **\*SAME:**現在TCT項目に指定されている値を保持します。
- **\*SYSVAL:** System i5のコード・ページを使用します。
- **コード・ページ:**コード・ページ番号は1以上で65535以下の数字でなければなりません。



## 要素2：文字セット

使用されるグラフィック文字セット。

- **\*SAME:**現在TCT項目に指定されている値を保持します。
- **\*SYSVAL:** System i5の文字セットを使用します。
- **文字セット:**文字セットは1以上で65535以下の数字でなければなりません。

上

---

## トランザクション (TRANSID)

PCTに定義されているトランザクション識別コード（これが端末で実行可能な唯一のトランザクションである時）。

使用可能なTRANSID値は次の通りです。

- **\*SAME:**現在TCT項目に指定されている値を保存します。
- **\*ANY:**端末装置で任意のトランザクションを実行することができます。
- **トランザクションID:**トランザクションIDは最大4桁の長さとすることができます。キーボード上の任意の文字を入力できますが、小文字および特殊文字はアポストロフィで囲まなければなりません。

アポストロフィを入力するための十分なスペースがない時には、追加の文字を入力できるようにする拡張フィールド・サイズを取得するために、最初の文字位置にアンパーサンド(&)を入力してください。ブランクは受け入れられますが、項目が制御領域に対して定義されている時には、ブランクの後の文字は無視されます。たとえば、'AB G'は制御領域内では'AB'として扱われます。

16進数文字はアポストロフィで囲まなければならず、大文字のXが先行していなければなりません。たとえば、X'A1A2A3A4'です。16進数値は受け入れられますが、値が印刷可能文字でない場合には、その項目は制御領域に定義される時に拒否されます。

上

---

## 半角カタカナのサポート (KATAKANA)

端末が2バイト文字をサポートする必要があるかどうかを示します。

使用可能なKATAKANAの値は次の通りです。

- **\*SAME:**現在TCT項目に指定されている値を保存します。
- **\*NO:**端末装置は2バイト文字をサポートしません。
- **\*YES:**端末装置は2バイト文字をサポートします。

上

---

## ユーザー指定 DBCSデータ (SOSI)

端末が混合EBCDIC/DBCSフィールド機能を備えているかどうかを示します。

使用可能なSOSI値は次の通りです。

- **\*SAME:**現在TCT項目に指定されている値を保存します。
- **\*NO:**端末装置は、EBCDIC/DBCS混合フィールド機能をもっていません。
- **\*YES:**端末装置は、EBCDIC/DBCS混合フィールド機能をもっています。

上

---

## 不在時モード (UNATTEND)

端末の操作モードが不在時であるかどうかを示します。

使用可能なUNATTEND値は次の通りです。

- **\*SAME:**現在TCT項目に指定されている値を保存します。
- **\*NO:**端末装置は操作の在席時モードをもっています。
- **\*YES:**端末装置は操作の不在時モードをもっています。

上

---

## 自動大文字変換 (UCTRN)

端末入力を大文字に変換するかどうかを示します。

使用可能なUCTRN値は次の通りです：

- **\*SAME:**現在TCT項目に指定されている値が適用されることを指定します。
- **\*NO:**端末装置から小文字で入力されたデータを大文字に変換しないことを指定します。指定のプログラムの実行の場合には、プログラム管理テーブルのUCTRN設定値によってこれを一時変更することができます。
- **\*YES:**端末装置から小文字で入力されたデータを大文字に変換することを指定します。
- **\*TRANID:**端末装置から小文字で入力されたトランザクション識別コードを大文字に変換することを指定します。他のすべての入力はUCTRN=\*NOとして処理されます。

上

---

## 代替画面サイズ (ALTSCN)

端末装置と関連する代替画面の高さおよび幅を示します。

使用可能なALTSCN値は次の通りです。

- **\*SAME:**現在TCTテーブルに指定されている値を保存します。
- **\*NONE:**代替画面サイズは使用されません。
- **24X80:**代替画面サイズとして24行および80桁が使用されます。
- **27X132:**代替画面サイズとして27行および132桁が使用されます。

---

## 妥当性検査機能 (VALIDATION)

端末が妥当性検査機能を備えているかどうかを示します。これは全桁入力と入力必須から成ります。

使用可能なVALIDATION値は次の通りです。

- **\*SAME:**現在TCT項目に指定されている値を保存します。
- **\*NO:**端末装置は妥当性検査機能をもっていません。
- **\*YES:**端末装置は妥当性検査機能をもっています。

---

## ライト・ペンのサポート (LIGHTPEN)

端末がライト・ペン機能を備えているかどうかを示します。

使用可能なLIGHTPEN値は次の通りです。

- **\*SAME:**現在TCT項目に指定されている値を保存します。
- **\*NO:**端末装置はライト・ペン機能をもっていません。
- **\*YES:**端末装置はライト・ペン機能をもっています。

---

## 別のCICSシステムへの送信 (SHIP)

端末定義をリモートCICSシステムにシップできるかどうかを示します。

使用可能なSHIPの値は次の通りです。

- **\*SAME:**現在TCT項目に指定されている値を保存します。
- **\*NO:**端末装置定義をリモートCICSシステムへシップすることはできません。
- **\*YES:**端末装置定義をリモートCICSシステムへシップすることができます。

---

## ATI獲得 (DEVACQ)

制御領域によって自動的に開始されるトランザクションが端末を獲得するかどうかを示します。

使用可能なDEVACQ値は次の通りです。

- **\*SAME:**現在TCT項目に指定されている値を保存します。
- **\*NO:**制御領域ATI機能は、端末装置が確立状態になるまでトランザクションの開始を待機します。
- **\*YES:** 制御領域ATI機能は、トランザクションの開始前にまだ端末装置が確立状態になっていない場合には、端末装置を確立します。

---

## データ・ストリーム圧縮 (DSCOMP)

この端末に対してデータ・ストリーム圧縮を実行できるかどうかを示します。

指定できる値は次の通りです:

- **\*SAME:** 端末管理テーブル項目に現在指定されている値を保存します。
- **\*SITVAL:** システム初期設定テーブルのDSCOMPキーワードに指定された値によって、データ・ストリーム圧縮がこの端末装置で実行できることを指定します。
- **\*NO:** この端末装置でデータ・ストリーム圧縮を実行してはならないことを指定します。

上

---

## 例

なし

上

---

## エラー・メッセージ

不明

上

## CICS TST項目の変更 (CHGCICSTST)

実行可能場所:

- バッチ・ジョブ (\*BATCH)
- 対話式ジョブ (\*INTERACT)
- バッチ・プログラム (\*BPGM)
- 対話式プログラム (\*IPGM)
- バッチ REXX プロシージャ (\*BREXX)
- 対話式 REXX プロシージャ (\*IREXX)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (\*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター

例  
エラー・メッセージ

TSTの項目を変更するためには、CICS一時記憶テーブル変更(CHGCICSTST)コマンドを使用してください。

一時記憶域待ち行列は、後の検索用にデータを保管するためにアプリケーション・プログラムによって使用されるファイルです。

一時記憶テーブル(TST)項目は、回復可能な一時記憶域待ち行列またはリモート一時記憶域待ち行列を定義することがあります。ローカルの回復不能一時記憶域待ち行列で、TST項目は不要です。

一時記憶域待ち行列は、後の検索用にデータを保管するためにアプリケーション・プログラムによって使用されるファイルです。回復可能なすべての記憶域待ち行列、およびすべてのリモート一時記憶域待ち行列に対して、一時記憶テーブル(TST)項目を作成しなければなりません。ローカルの回復不能一時記憶域待ち行列では、TSTを作成する必要はありません。

TST項目は、フルネームに対する接頭部として使用できる総称名で作成することができ、これはアプリケーション・プログラムによってEXEC CICS一時記憶域コマンドに指定されます。この接頭部によって、1つの項目を作成して多くの一時記憶域待ち行列に適用することができます。CICSは、接頭部と関連したTST項目を使用することになります。したがって、TS待ち行列名に、あいまいな点がないように注意しなければなりません。

上

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
LIB	ライブラリー	通信名, *LIBL, *CURLIB	必須, 定位置 1
GROUP	グループ	通信名	必須, 定位置 2
TSQUEUE	待ち行列	通信名	必須, 定位置 3
TYPE	タイプ	*SAME, *RECOVERABLE, *REMOTE	オプション, 定位置 4
SYSID	リモート CICS システム	通信名, *SAME	オプション, 定位置 5
RMTQUEUE	リモート 待ち 行列名	通信名, *SAME, *TSQUEUE	オプション, 定位置 6

上

---

## ライブラリー (LIB)

グループが入っているライブラリーの名前を入力してください。考えられる値は次の通りです。

- **\*LIBL:** グループが入っている最初のライブラリーを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。
- **\*CURLIB:** 現行ライブラリーにグループが入っています。現行ライブラリーが指定されない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。
- **ライブラリー名:** グループが入っているライブラリーの名前。

上

---

## グループ (GROUP)

変更するTST項目が入っているグループの名前を入力してください。

- **グループ名:** グループ名は最大10桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## 待ち行列 (TSQUEUE)

待ち行列の完全名または部分的な総称名のいずれかを入力してください。これは、EXEC CICS一時記憶域コマンドの中で使用される名前です。この名前は、このTST項目を識別するためにも使用されます。

- **待ち行列接頭部:** 待ち行列接頭部は最大8桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

総称名では、ABCなどの待ち行列名の一部分が使用されます。

上

---

## タイプ (TYPE)

一時記憶域待ち行列が回復可能であるかまたはリモートであることを示します。

指定できる値は次の通りです:

- **\*SAME:** TST項目に現在指定されている値を保存します。
- **\*RECOVERABLE:** 一時記憶域待ち行列は回復可能です。
- **\*REMOTE:** 一時記憶域待ち行列はリモートです。

上

---

## リモート CICS システム (SYSID)

一時記憶域待ち行列を所有しているシステムの識別コードを入力してください。システムはTCS項目をもっているはずですが、このフィールドは、リモート待ち行列の場合、すなわちタイプ・フィールドが\*REMOTEの時にのみ有効です。

指定できる値は次の通りです:

- \*SAME: TST項目に現在指定されている値を保存します。
- **システム識別コード**: システム識別コードは最大4桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @,または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## リモート待ち行列名 (RMTQUEUE)

一時記憶域待ち行列がリモート・システム上で認識される名前を入力してください。このフィールドは、リモート待ち行列の場合、すなわちタイプ・フィールドが\*REMOTEの時にのみ有効です。

可能なRMTQUEUE値は次の通りです。

- \*SAME: TST項目に現在指定されている値を保存します。
- \*TSQUEUE: ローカルとリモートの一時記憶域待ち行列名は同じです。TSQUEUEフィールドの名前が使用されます。
- **リモート待ち行列**: 一時記憶域待ち行列名は最大8桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @,または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## 例

なし

上

---

## エラー・メッセージ

不明

上





## CICS ILE Cオブジェクトの作成 (CRTICSC)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

CICS C作成(CRTICSC)コマンドはCICS変換プログラムを呼び出し、これはCICS ステートメントが入っているCソースを変換して、一時ソース・メンバーを作成します。ソース・プログラムにも構造化照会言語 (SQL)コマンドが入っている場合には、その正常変換の後にSQL事前コンパイラーを任意に呼び出します。CICSの変換および任意のSQL事前コンパイルの後にILE Cコンパイラーを任意に呼び出して、ソースをコンパイルすることができます。

注: CRTSQLCIコマンドを実行し、OPTIONパラメーターに\*NOGENオプションを指定することによって、最初にSQLステートメントを事前コンパイルすることができます。これによって、SQL事前コンパイラー出力がライブラリーQTEMPのQSQLTEMPに入れられます。次に、QTEMP/QSQLTEMPとしてSRCFILEを指定して、CRTICSCコマンドを実行しなければなりません。SRCMBR名は、SQL事前コンパイル済みプログラム・ソースのこのファイル調べて判別することができます。CRTICSCの残りのパラメーターは通常通りに入力することができます。

上

### パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
OBJ	オブジェクト	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: オブジェクト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
SRCFILE	ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: ソース・ファイル	名前, QCSRC	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SRCMBR	ソース・メンバー	名前, *OBJ	オプション, 定位置 3
OBJTYPE	コンパイル・タイプ	*MODULE, *PGM	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *SRCMBRTXT	オプション
OUTPUT	Cコンパイラー出力	*NONE, *PRINT	オプション
DBGVIEW	Cデバッグ・ビュー	*NONE, *ALL, *STMT, *SOURCE, *LIST	オプション
MSGLMT	Cコンパイラー・メッセージ	要素リスト	オプション
	要素 1: メッセージ限界	1-32767, *NOMAX	
	要素 2: メッセージ限界重大度	10, 20, 30	

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
CICSOPT	CICSオプション	値 (最大 19 回の繰り返し): * <u>NOSOURCE</u> , *NOSRC, *SOURCE, *SRC, *NOVBREF, *VBREF, *NOXREFCICS, *XREFCICS, *NODEBUG, *DEBUG, *NOGEN, *GEN, *NOSECLVL, *SECLVL, *NOGRAPHIC, *GRAPHIC, *NOPP, *PP	オプション
OUTFILE	CICS出力ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: CICS出力ファイル	名前, <u>QACYCICS</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>QTEMP</u> , *LIBL, *CURLIB	
OUTMBR	CICS出力メンバー	名前, * <u>OBJ</u>	オプション
CICSGENLVL	CICSメッセージ・レベル	0-40, <u>10</u>	オプション
MARGINS	ソース・マージン	要素リスト	オプション
	要素 1: 左マージン	1-80, <u>1</u>	
	要素 2: 右マージン	10-100, <u>80</u>	
TGTRLS	ターゲット・リリース	文字値	オプション
ACTGRP	活性化グループ	名前, <u>QILE</u> , *NEW, *CALLER	オプション
ALWRINZ	再初期設定可能	* <u>NO</u> , *YES	オプション
SQLOPT	SQLオプション	値 (最大 16 回の繰り返し): * <u>NOSOURCE</u> , *NOSRC, *SOURCE, *SRC, *XREF, *NOXREF, *GEN, *NOGEN, *SYSVAL, *PERIOD, *COMMA, *SECLVL, *NOSECLVL, *SQL, *SYS	オプション
INCFILE	SQL INCLUDEファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: SQL INCLUDEファイル	名前, * <u>SRCFILE</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, * <u>LIBL</u> , *CURLIB	
COMMIT	SQLコミットメント制御	* <u>CHG</u> , *CS, *ALL, *NONE	オプション
ALWCPYDTA	SQLデータのコピー可能	* <u>YES</u> , *OPTIMIZE, *NO	オプション
ALWBLK	SQLブロック化可能	* <u>READ</u> , *NONE, *ALLREAD	オプション
DLYPRP	SQL PREPARE遅延	* <u>NO</u> , *YES	オプション
CLOSQCSR	SQLカーソルのクローズ	* <u>ENDACTGRP</u> , *ENDMOD	オプション
SQLGENLVL	SQLメッセージ・レベル	0-40, <u>10</u>	オプション
SAAFLAG	SQL SAAフラグ付け	* <u>NOFLAG</u> , *FLAG	オプション
FLAGSTD	SQL ANSフラグ付け	* <u>NONE</u> , *ANS	オプション
DATFMT	SQL日付形式	* <u>JOB</u> , *USA, *ISO, *EUR, *JIS, *MDY, *DMY, *YMD, *JUL	オプション
TIMFMT	SQL時刻形式	* <u>HMS</u> , *USA, *ISO, *EUR, *JIS	オプション
TIMSEP	SQL時刻区切り記号	' ', ':', '.', ',', * <u>JOB</u> , *BLANK	オプション
DATSEP	SQL日付区切り記号	' ', ':', '.', '/', '-', * <u>JOB</u> , *BLANK	オプション
DFTRDBCOL	SQL省略時のコレクション	名前, * <u>NONE</u>	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノート
REPLACE	オブジェクトの置き換え	*YES, *NO	オプション

上

---

## オブジェクト (OBJ)

作成中のオブジェクトの名前および修飾子を指定します。

オブジェクトの名前は次のライブラリー値の1つによって修飾することができます。

- \*CURLIB:オブジェクトがジョブの現行ライブラリー内に作成されることを指定します。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーを指定しない場合には、ジョブはQGPL内に作成されます。
- **ライブラリー名:**そこにオブジェクトを作成するライブラリーの名前を指定します。

**オブジェクト名:**作成されるオブジェクトの名前を指定します。

注: 指定するオブジェクト名が既存のオブジェクトと同じで、REPLACEパラメーターが\*YES（省略時の値）として指定された場合には、新しいオブジェクトは既存のオブジェクトを置き換えます。

上

---

## ソース・ファイル (SRCFILE)

EXEC CICSまたはEXEC SQLステートメントと一緒にCソース・コードが入っているソース・ファイルの修飾名を指定します。

ソース・ファイルは、次のライブラリー値の1つによって修飾することができます。

- \*LIBL:ソース・ファイルを探すためにライブラリー・リストが使用されることを指定します。
- \*CURLIB:ソース・ファイルを探すために、ジョブの現行ライブラリーが使用されることを指定します。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。
- **ライブラリー名:**ソース・ファイルが入っているライブラリーを指定します。

QCSRC:Cソース・ファイル名が指定されない場合には、指定されたソース・ファイルQCSRCにCソースが入っていることを指定します。

**ソース・ファイル名:**Cソース・コードが入っているソース・ファイルの名前を指定します。

上

---

## ソース・メンバー (SRCMBR)

Cソースが入っているソース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

- \*OBJ:Cソースは、このコマンドのOBJパラメーターに指定されたものと同じメンバー名をもつソース・ファイル・メンバー内にあることを指定します。
- **ソース・ファイル・メンバー名:**Cソース・コードが入っているソース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

---

## コンパイル・タイプ (OBJTYPE)

作成されるオブジェクトのタイプを指定します。

指定できる値は次の通りです:

- **\*MODULE**:モジュールの作成のためにCICS事前コンパイラーがCRTCMODコマンドを出すことを指定します。
- **\*PGM**:結合プログラムの作成のためにCICS事前コンパイラーがCRTBNDCコマンドを出すことを指定します。
- **注**:
  - CICSOPTオプションに\*NOGENを指定した場合には、CICS一時ソース・メンバーだけが作成され、モジュールまたはプログラムは作成されません。

上

---

## テキスト記述 (TEXT)

コンパイルされたモジュールまたはプログラムとその機能を記述するテキストを入力することができます。

- **\*SRCMBRTXT**:モジュールまたはプログラムを作成するために、使用しているソース・ファイル・メンバーからテキストが取り出されることを指定します。データベース・ソース・メンバー・テキストの追加または変更は、原始ステートメント入力ユーティリティー(STRSEU)コマンドを使用して、あるいは物理ファイル・メンバー追加(ADDPFM)コマンドまたは物理ファイル・メンバー変更(CHGPFM)コマンドを使用して実行することができます。ソース・ファイルがインライン・ファイルまたは装置ファイルである場合にはテキストはブランクです。
- **\*BLANK**:テキストは指定されません。
- **記述**: 50桁を超えないアポストロフィで囲まれたテキストを指定してください。

上

---

## Cコンパイラー出力 (OUTPUT)

コンパイル・リストを生成するかどうかを指定します。

指定できる値は次の通りです:

- **\*NONE**:コンパイル・リストが生成されないことを指定します。
- **\*PRINT**:コンパイル・リストが生成されることを指定します。

上

---

## Cデバッグ・ビュー (DBGVIEW)

コンパイルされたモジュールまたはプログラムで使用可能なデバッグ・レベル、およびソース・レベル・デバッグで使用可能なソース・ビューを指定します。

DBGVIEWパラメーターで使用できる値は次の通りです。

- \*NONE:コンパイルされたモジュールまたはプログラムのデバッグでは、すべてのデバッグ・オプションを非活性化します。これが省略時の値です。
- \*ALL:コンパイルされたモジュールまたはプログラムのデバッグで、すべてのデバッグ・オプションを活性化して、ソース・ビューをリスト・ビューとともに生成します。
- \*STMT:プログラム・ステートメント番号および記号識別名を使用して、コンパイルされたモジュールまたはプログラムをデバッグすることができます。
- \*SOURCE:コンパイルされたモジュールまたはプログラムのデバッグで、ソース・ビューを生成します。
- \*LIST:コンパイルされたモジュールまたはプログラムのデバッグで、リスト・ビューを生成します。

上

---

## CICS ILE Cオブジェクトの作成 (MSG LMT)

Cコンパイルの停止の前に、許されるメッセージの最大数を指定します。

メッセージ限界:許されるメッセージ数を指定します。

- \*NOMAX:指定されたメッセージ重大度レベルで出されたメッセージの数とは関係なく、コンパイルは続行されます。これが省略時の値です。
- 最大メッセージ限界:コンパイルの停止の前に、指定されたメッセージ重大度レベルまたはそれ以上のレベルで許されるメッセージの最大数を指定します。有効な値の範囲は1-32767です。

メッセージ重大度:コンパイルの停止の前に、許されるメッセージ重大度を指定します。

- 0:コンパイルの停止の前に、重大度0またはそれ以上のメッセージの メッセージ限界 が許されることを指定します。
- 10:コンパイルの停止の前に、重大度10またはそれ以上のメッセージの メッセージ限界 が許されることを指定します。
- 30:コンパイルの停止の前に、重大度30またはそれ以上のメッセージの メッセージ限界 が許されることを指定します。

上

---

## CICSオプション (CICS OPT)

CソースをCICS変換する時に、次の1つまたは複数のオプションを使用するかどうかを指定します。オプションが2回以上指定されたか、あるいは2つのオプションが矛盾している場合には、最後に指定されたオプションが使用されます。オプションが指定されない場合には、省略時の値が使用されます。

ソース・リスト・オプション

- \*NOSRC:または\*NOSOURCE: CICS変換プログラムがソース・リストを作成しないことを指定します。
- \*SRC:または\*SOURCE: CICS変換プログラムが、すべてのソースおよびエラー・メッセージから構成されているソース・リストを作成することを指定します。

## 相互参照オプション

- \*NOVBREF:または\*NOXREFCICS: CICS変換プログラムはEXEC CICS名の相互参照を作成しないことを指定します。
- \*VBREF:または\*XREFCICS: CICS変換プログラムはプログラム中のEXEC CICS名と、それらを参照するプログラム中のステートメント番号との間に相互参照を作成することを指定します。

## デバッグ・オプション

- \*NODEBUG: CICS変換プログラムはCICS実行診断機能(EDF)によって表示されるCICSに対してパススルーされるコードを作成しないことを指定します。
- \*DEBUG: CICS変換プログラムが、EDFによって表示されるCICSにパススルーされることになるコードを作成することを指定します。

## プログラム作成オプション

- \*GEN: CICSの正常変換の後に、SQL事前コンパイラーまたはILE C コンパイラーを呼び出すことを指定します。

注: SQL事前コンパイラーが呼び出されるのは、CICSの変換段階中に、CICS変換中のCソース・コード内でEXEC SQLステートメントが検出された場合だけです。

- \*NOGEN:コンパイルはCICS変換の終わりで打ち切ることを指定します。

## 第2レベル・ヘルプ・テキスト

- \*NOSECLVL:第2レベル・ヘルプ・テキストが印刷されないことを指定します。
- \*SECLVL:第2レベル・ヘルプ・テキストが第1レベル・ヘルプ・テキストとともに印刷されることを指定します。

注: エラーが起こるたびに、第1レベル・ヘルプ・テキストが印刷されることを指定します。

## 漢字使用可能性

- \*GRAPHIC:変換プログラムが漢字データを受け入れることを指定します。このデータを表示できるのは、7-72桁目の範囲内だけです。漢字データの使用の制約事項および例については、CICS PROGRAMMING GUIDEを参照してください。
- \*NOGRAPHIC:変換プログラムが漢字データを受け入れないことを指定します。

上

---

## ライブラリー (OUTFILE)

中間事前コンパイラー出力の修飾名を指定します。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

- \*LIBL:ジョブのライブラリー・リストのユーザーとシステム部分のすべてのライブラリーが検索されることを指定します。
- \*CURLIB:現行ライブラリーが検索されることを指定します。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。
- **ライブラリー名:**中間事前コンパイラー出力を入れるライブラリーの名前を指定します。

**ソース・ファイル名:**中間事前コンパイラー出力が入っているソース・ファイルの名前を指定します。

QTEMP/QACYCICS: 出力ソース・ファイル名が指定されていない場合には、指定されたソース・ファイル QTEMP/QACYCICSに中間事前コンパイラ出力が入れられます。

上

---

## CICS出力メンバー (OUTMBR)

中間プリコンパイラ出力を含むソース・ファイル・メンバーの名前を指定します。このパラメーターが指定されない場合には、PGM パラメーターに指定されたプログラム名が使用されます。

- **\*PGM:**中間プリコンパイラ出力が、PGMパラメーターに指定されたのと同じメンバー名をもつよう、指定します。
- **ソース・メンバー名:**中間プリコンパイラ出力をコピーする必要があるそのコピー先のソース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

上

---

## CICSメッセージ・レベル (CICSGENLVL)

CICS事前コンパイラ・エラーのレベルを指定します。このパラメーターに指定された値より大きい重大度レベルのエラーが起こった場合には、SQL事前コンパイラが呼び出されない（CICS事前コンパイラがソース内でSQLを見つけた場合）か、あるいはCコンパイラが呼び出されません。

指定できる値は、次の通りです。

- 10:重大度レベルの値を指定しない場合には、省略時の重大度レベルは10です。
- 重大度レベル： 0-40の範囲の数値を指定します。示される値の一部は次の通りです。
  - 10 警告のレベルの値です。
  - 20 一般的なエラー・メッセージのレベルの値です。
  - 30 重大エラー・メッセージのレベルの値です。
  - 40 システム検出エラー・メッセージのレベルの値です。

**注:** CICSGENLVLの値が適用されるのは、CICS変換エラーの結果として生成されるメッセージに対してだけです。指定されたCICSGENLVL値は、SQL事前コンパイラまたはCコンパイラには渡されません。

上

---

## ソース・マージン (MARGINS)

ソース・テキストが入っている事前コンパイラ入力レコードの部分指定します。

指定できる値は次の通りです:

- **左:**ステートメントの開始桁を指定します。有効な値の範囲は1-90です。
- **右:**ステートメントの終了桁を指定します。有効な値の範囲は10-100です。

上



---

## ターゲット・リリース (TGTRLS)

作成したオブジェクトを使用する予定のオペレーティング・システムのリリース・レベルを指定します。  
\*CURRENTおよび\*PRV値で示されている例と、ターゲット・リリース値を指定する時は、形式VXRXXMXを使用してリリースを指定します。ここで、VXはバージョン、RXはリリース、MXはモディフィケーション・レベルです。たとえば、V5R3M0はバージョン5,リリース3,モディフィケーション0です。

このパラメーターに有効な値はリリースごとに変化します。

考えられる値は次の通りです。

- \*CURRENT:ユーザーのシステム上で現在実行中のオペレーティング・システムのリリースで、オブジェクトが使用されます。また、それ以降のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムでもこのオブジェクトを使用することができます。
- \*PRV:オペレーティング・システムの前のリリースのモディフィケーション・レベル0で、オブジェクトが使用されます。また、それ以降のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムでもこのオブジェクトを使用することができます。
- リリース・レベルリリース・レベルを形式VXRXXMXで指定します。指定されたリリースまたはその次以降のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムでもこのオブジェクトを使用することができます。

有効な値は現行バージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルによって異なり、各新規リリースで変化します。

上

---

## 活動化グループ (ACTGRP)

プログラムが呼び出された時に、これが関連付けられる活動化グループを指定します。OBJTYPEパラメーターが\*BNDPGMで、ソース・プログラムにSQLステートメントが含まれていない時にのみ、これは作動します。

- QILE:このプログラムが呼び出されると、これが名前付き活動化グループQILE中で活動化されます。これが省略時の値です。
- \*NEW:このプログラムが呼び出されると、これが新規活動化グループ中で活動化されます。
- \*CALLER:このプログラムが呼び出されると、これが呼び出し先の活動化グループ中で活動化されます。
- 活動化グループ名:このプログラムが呼び出される時に使用される活動化グループの名前を指定してください。

上

---

## 再初期設定可能 (ALWRINZ)

プログラムの静的記憶域を、活動状態である間に再初期設定できるかどうかを指定します。これは、OBJTYPEパラメーターが\*PGMで、ACTGRPパラメーターの値が\*NEW以外である場合にのみ機能します。

- \*NO:プログラムの静的記憶域は、活動状態である間は再初期設定できません。
- \*YES:プログラムの静的記憶域は、活動状態である間に再初期設定できます。

上



---

## SQLオプション (SQLOPT)

CソースをSQLプリコンパイルする時に、次の1つまたは複数のオプションを使用するかどうかを指定します。オプションが2回以上指定されたか、あるいは2つのオプションが矛盾している場合には、最後に指定されたオプションが使用されます。オプションが指定されない場合には、省略時の値が使用されます。

### ソース・リスト・オプション

- \*NOSRC:または\*NOSOURCE: SQLプリコンパイラーによってソース・リストが作成されないことを指定します。
- \*SRC:または \*SOURCE: SQLプリコンパイラーによって、ソースおよびエラー・メッセージから構成されているソース・リストが作成されることを指定します。

### 相互参照オプション

- \*NOXREF: SQLプリコンパイラーがEXEC SQL名の相互参照を作成しないことを指定します。
- \*XREF: SQLプリコンパイラーがプログラムの項目と、その項目を参照するプログラムのステートメントの番号の間に相互参照を作成することを指定します。

### プログラム作成オプション

- \*GEN: SQLの正常なプリコンパイルの後に、Cコンパイラーを呼び出すことを指定します。
- \*NOGEN:コンパイルは、SQLプリコンパイルの終わりで打ち切ることを指定します。

### 小数点オプション

- \*SYSVAL:小数点として使用される値がQDECFMTシステム値からのものであることを指定します。
- \*PERIOD:小数点として使用される値がピリオドであることを指定します。
- \*COMMA:小数点として使用される値がコンマであることを指定します。

注: リスト内の数字定数 (SELECT文節, VALUES文節などにある) はコンマの後に空白を続けて区切らなければなりません。たとえば, VALUES(1,1, 2,23, 4,1)はVALUES(1.1,2.23,4.1)と同じで, この場合の小数点はピリオドです。

### 命名規則オプション

- \*SYS: i5/OS命名規則が使用されることを指定します ( ライブラリー名/ファイル名 )。
- \*SQL: SQLの命名規則が使用されることを指定します ( コレクション名. テーブル名 )。

### 第2レベル・ヘルプ・テキスト

- \*NOSECLVL:第2レベル・ヘルプ・テキストが印刷されないことを指定します。
- \*SECLVL:第2レベル・ヘルプ・テキストが第1レベル・ヘルプ・テキストとともに印刷されることを指定します。

注: エラーが起こるたびに, 第1レベル・ヘルプ・テキストが印刷されます。

上

---

## SQL INCLUDEファイル (INCFILE)

SQL INCLUDEステートメントと一緒にプログラムに組み込まれたメンバーが入っている、ソース・ファイルの修飾名を指定します。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

- \*LIBL: ソース・ファイルを探すためにライブラリー・リストが使用されることを指定します。
- \*CURLIB: ソース・ファイルを探すために、ジョブの現行ライブラリーが使用されることを指定します。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。
- ライブラリー名: ソース・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定します。
- \*SRCFILE: SRCFILEパラメーターに指定した修飾されたソース・ファイルを指定し、これにはSQL INCLUDEステートメントに指定されたソース・ファイル・メンバーが入っています。
- ソース・ファイル名: SQL INCLUDEステートメントに指定されたソース・ファイル・メンバーが入っているソース・ファイルの名前を指定します。ここで指定するソース・ファイルのレコード長は、SRCFILEパラメーターに指定したソース・ファイルのレコード長と同じでなければなりません。

上

---

## SQLコミットメント制御 (COMMIT)

コンパイルされたプログラムのSQLステートメントをコミットメント制御によって実行するかどうかを指定します。ホスト言語ソースで参照されるファイルは、このパラメーターによって影響されません。SQLステートメントで参照されるSQL テーブル、ビュー、およびSQLパッケージだけが影響されます。

- \*CHG (変更) : SQL COMMENT ON, CREATE, DROP, GRANT, LABEL ON, およびREVOKEステートメントで参照されるオブジェクト、および更新、削除、および挿入された行が、作業単位 (トランザクション) の終わりまでロックされることを指定します。その他のジョブのコミットされていない変更を調べることができます。
- \*CS (カーソルの固定性) : SQL COMMENT ON, CREATE, DROP, GRANT, LABEL ON, およびREVOKEステートメントで参照されるオブジェクト、および更新、削除、および挿入された行が、作業単位 (トランザクション) の終わりまでロックされることを指定します。選択されたが更新されていない行は、次の行が選択されるまでロックされます。その他のジョブのコミットされていない変更を調べることができません。
- \*ALL: SQL COMMENT ON, CREATE, DROP, GRANT, LABEL ON, およびREVOKE ステートメントで参照されるオブジェクト、および更新、削除、および挿入された行が、作業単位 (トランザクション) の終わりまでロックされることを指定します。その他のジョブのコミットされていない変更を調べることができません。
- \*NONE: コミットメント制御が使用されないことを指定します。COMMITおよびROLLBACKステートメントを使用することはできません。その他のジョブのコミットされていない変更を調べることができます。プログラムにSQL DROP COLLECTIONステートメントが入っている場合には、\*NONEを使用しなければなりません。

注: \*CHG, \*CS, または\*ALLが指定された場合には、アプリケーション・プログラムにDROP COLLECTIONを組み込むことはできません。SQL開始(STRSQL)コマンドのこのパラメーターの省略時の値は\*NONEです。

上

---

## SQLデータのコピー可能 (ALWCOPYDTA)

SELECTステートメントでデータのコピーを使用できるかどうかを指定します。

- \*YES: SELECTステートメントを実行するために、必要があれば、データのコピーだけを使用することができます。
- \*OPTIMIZE:データベースから直接検索されたデータを使用するか、データのコピーを使用するかを、システムが選択します。この判別は、どの選択によってベスト・パフォーマンスが得られるかによって決まります。

この値は、照会全体に必要な時間を減らします。結果のテーブルの最初の行を戻す前にデータのコピーを作成しなければならないために、最初の行を検索する時間が長くなる場合があります。

注: COMMITパラメーターに\*CSまたは\*ALLが指定された場合には、SQL実行時ではこのパラメーターを無視して、現行データを使用します。

- \*NO:データのコピーを使用することはできません。SELECTステートメントの文節でデータのコピーが必要な場合には、このオプションによって負のSQLCODE を戻すことができます。SELECTステートメントが正常に実行された場合には、現行データが使用されました。

上

---

## SQLブロック化可能 (ALWBLK)

データベース管理プログラムがレコード・ブロック化、および読み取り専用カーソルでブロック化を使用できるエクステントを使用ができるかどうかを指定します。

\*READ:次の時に、カーソルのデータの読み取り専用検索のレコードがブロック化されます。

- コミットメント制御が使用されないことを指示するために、COMMITパラメーターに\*NONEが指定される時
- カーソルがFOR FETCH ONLY文節で宣言されているか、あるいはカーソルで位置指定されたUPDATEまたはDELETEステートメントを実行できる動的ステートメントがない時

上記の条件に合っていて、多くのレコードを検索する照会では、\*READを指定すると、パフォーマンス全体を向上させることができます。

\*NONE:カーソルのデータの検索では、行はブロック化されません。\*NONE を指定した場合。

- 検索されたデータが現行のものであることを保証します。
- 照会でデータの最初の行の検索に必要な時間が短縮されることがあります。
- 照会をクローズする前に、最初の数行だけを検索する時、プログラムが使用しない1ブロックのデータをデータベース管理プログラムで検索しないようにします。
- 多くの行を検索する照会のパフォーマンス全体を低下することができます。

上

---

## SQL PREPARE遅延 (DLYPRP)

PREPAREステートメントの動的ステートメント妥当性検査を、OPEN、EXECUTE、またはDESCRIBEステートメントの実行まで遅延するかどうかを指定します。妥当性検査を遅延すると、重複した妥当性検査の排除によってパフォーマンスが向上されます。

- \*NO:動的ステートメントの妥当性検査は遅延されません。動的ステートメントが準備された時には、そのアクセス・プランの妥当性検査が行われます。OPEN またはEXECUTEステートメントで動的ステートメントが使用された場合には、そのアクセス・プランの妥当性検査が再び実行されます。動的ステートメントによって参照されるオブジェクトの権限または存在は変わることがあるので、OPENまたはEXECUTE ステートメントを出した後にSQLCODEまたはSQLSTATEをさらにチェックして、動的ステートメントがまだ有効であることを確認しなければなりません。
- \*YES:動的ステートメント妥当性検査は、動的ステートメントがOPEN、EXECUTE、またはDESCRIBE SQLステートメントで使用されるまで遅延されます。動的ステートメントが使用される時には、妥当性検査は完了され、アクセス・プランが作成されます。事前コンパイルされたプログラムのこのパラメータに\*YESを指定する場合には、OPEN、EXECUTE、またはDESCRIBEステートメントを実行した後でSQLCODEおよびSQLSTATEをチェックして、動的ステートメントが有効であることを確認しなければなりません。\*YESを指定した場合、PREPAREステートメントでINTO文節を使用する場合、あるいはそのステートメントでOPENを出す前にDESCRIBEステートメントが動的ステートメントを使用する場合には、パフォーマンスは向上されません。

上

---

## SQLカーソルのクローズ (CLOSQLCSR)

SQLカーソルを暗黙にクローズする時点、SQL準備ステートメントを暗黙に破棄する時点、およびCLOSE、COMMIT (HOLDなし)、またはROLLBACK (HOLDなし) のSQLステートメントを出すことによって、LOCK TABLEロックおよびSQLカーソルを明示的にクローズする時点を指定します。

指定できる値は、次の通りです。

- \*ENDACTGRP:活性化グループを終了する時に、SQLカーソルがクローズされ、SQL準備ステートメントが破棄され、LOCK TABLEロックが解放されることを指定します。
- \*ENDMOD:モジュールを終了する時に、SQLカーソルがクローズされ、SQL 準備ステートメントが破棄されることを指定します。活性化グループを終了する時に、LOCK TABLEロックが解放されます。

上

---

## SQLメッセージ・レベル (SQLGENLVL)

SQL事前コンパイラ・エラーのレベルを指定します。パラメータに指定された値以上の重大度レベルのエラーが起こった場合には、ILE Cコンパイラは呼び出されません。

指定できる値は、次の通りです。

- 10:値を指定しない場合には、省略時の重大度レベルは10です。
- 重大度レベル： 0-40の範囲の数値を指定します。示される値の一部は次の通りです。
  - 10 警告のレベルの値です。
  - 20 一般的なエラー・メッセージのレベルの値です。
  - 30 重大エラー・メッセージのレベルの値です。

- 40 システム検出エラー・メッセージのレベルの値です。

注: SQLGENLVLの値が適用されるのは、SQL事前コンパイル・エラーの結果として生成されるメッセージに対してだけです。指定されたSQLGENLVL値は、ILE Cコンパイラーには渡されません。

上

---

## SQL SAAフラグ付け (SAAFLAG)

システム・アプリケーション体系レベル2データベース標準でないSQLステートメントにフラグを付けるかどうかを指定します。このパラメーターによって、ユーザーはSQLステートメントにフラグを付け、それらがシステム・アプリケーション体系レベル2データベース標準に適合していることを確認することができます。

- \*NOFLAG:事前コンパイラーはシステム・アプリケーション体系標準について検査 しない ことを指定します。
- \*FLAG:事前コンパイラーはシステム・アプリケーション体系標準について検査することを指定します。

上

---

## SQL ANSフラグ付け (FLAGSTD)

標準外ステートメントにフラグを付けるかどうかを指定します。このパラメーターによって、SQLステートメントにフラグを付けて、これらがANSI X3.135-1-1989, ANSI X3.168-1989, ISO 9075-1989, およびFIPS 127.1の標準に適合しているかどうかを確認することができます。

- \*NONE:事前コンパイラーはANSI標準について検査 しない ことを指定します。
- \*ANS:事前コンパイラーはANSI標準について検査することを指定します。

上

---

## SQL日付形式 (DATFMT)

日付の結果のカラムへのアクセスに使用される形式を指定します。すべての出力日付フィールドは、指定された形式で戻されます。入力日付ストリングでは、指定された値を使用して、その日付が正しい形式であるかどうかを判別します。

注: \*USA, \*ISO, \*EUR,または\*JISの形式を使用する入力日付ストリングは常に有効です。IBM System i5以外のシステム上にあるリレーショナル・データベースに接続する場合には、\*USA, \*ISO, \*EUR,または\*JISを使用しなければなりません。

- \*JOB:プリコンパイル時のジョブに使用した形式を指定します。ジョブ表示(DSPJOB)コマンドを使用して、そのジョブの現行の日付形式を判別してください。
- \*USA:米国日付形式MM/DD/YYYYが使用されます。
- \*ISO:国際標準化機構(ISO)日付の形式YYYY-MM-DDが使用されます。
- \*EUR:欧州日付形式DD.MM.YYYYが使用されます。
- \*JIS:日本工業規格日付形式YYYY-MM-DDが使用されます。
- \*MDY:日付の形式MM/DD/YYが使用されます。
- \*DMY:日付の形式DD/MM/YYが使用されます。



- \*YMD:日付の形式YY/MM/DDが使用されます。
- \*JUL:年間通算日形式YY/DDDが使用されます。

上

---

## SQL時刻形式 (TIMFMT)

時刻の結果のカラムへのアクセスに使用される形式を指定します。すべての出力時刻フィールドは、指定された形式で戻されます。入力時刻ストリングでは、指定された値を使用して、その時刻が正しい形式で指定されたかどうかを判別します。

注: \*USA, \*ISO, \*EUR,または\*JISの形式を使用する入力時刻ストリングは常に有効です。IBM System i5以外のシステム上にあるリレーショナル・データベースに接続する場合には、時刻形式は、コロンまたはピリオドの時刻区切り記号付きの\*USA, \*ISO, \*EUR, \*JIS,または\*HMSでなければなりません。

- \*HMS: HH:MM:SSの形式が使用されます。
- \*USA:米国の時刻形式HH:MM XXが使用され、このXXはAMまたはPMです。
- \*ISO:国際標準化機構(ISO)の時刻形式HH.MM.SSが使用されます。
- \*EUR:欧州の時刻形式HH.MM.SSが使用されます。
- \*JIS:日本工業規格の時刻形式HH:MM:SSが使用されます。

上

---

## SQL時刻区切り記号 (TIMSEP)

時刻の結果の欄へのアクセス時に使用される区切り記号を指定します。

注: このパラメーターが適用されるのは、TIMFMTパラメーターに\*HMSが指定された場合だけです。

- \*JOB事前コンパイル時のジョブに指定された時刻区切り記号が使用されます。ジョブ表示(DSPJOB)コマンドを使用して、ジョブの現在の値を判別してください。
- " ":時刻区切り記号としてコロン(:)が使用されます。
- ".":時刻区切り記号としてピリオド(.)が使用されます。
- ",":時刻区切り記号としてコンマ(,)が使用されます。
- " ":時刻区切り記号としてブランク・スペースが使用されます。
- \*BLANK 時刻区切り記号としてブランクが使用されます。

上

---

## SQL日付区切り記号 (DATSEP)

日付の結果の欄へのアクセスに使用される区切り記号を指定します。

- \*JOB事前コンパイル時のジョブの日付区切り記号が使用されます。ジョブ表示(DSPJOB)コマンドを使用して、ジョブの現在の値を判別してください。
- "/":日付区切り記号としてスラッシュ(/)が使用されます。
- ".":日付区切り記号としてピリオド(.)が使用されます。
- ",":日付区切り記号としてコンマ(,)が使用されます。

- "-":日付区切り記号としてハイフン(-)が使用されます。
- " ":日付区切り記号としてblank・スペースが使用されます。
- \*BLANK 時刻区切り記号としてblankが使用されます。

上

---

## SQL省略時のコレクション (DFTRDBCOL)

テーブル、ビュー、索引、およびSQLパッケージの修飾されていない名前で使用されるコレクション識別コードの名前を指定します。このパラメーターが適用されるのは、静的SQLステートメントに対してだけです。

- \*NONE: SQLOPTパラメーターに指定された命名規則が使用されます。
- コレクション名: SQLOPTパラメーターに指定された命名規則の代わりに、コレクション識別コードの名前が使用されることを指定します。

上

---

## オブジェクトの置き換え (REPLACE)

同じライブラリー内に同じ名前およびタイプの既存のCICSモジュールまたはプログラムが存在する時に、CICSモジュールまたはプログラムを作成するかどうかを指定します。このパラメーターの値がCRTSQLCI, CRTCMOD,またはCRTBNDCのコマンドに渡されます。

- \*YES CICSモジュールまたはプログラムが作成され、指定されたライブラリーの中の同じ名前およびタイプの既存のオブジェクトがQRPLOBJに移動されることを指定します。\*YESの値がCRTSQLCI, CRTCMOD,またはCRTBNDCのコマンドに渡されます。
- \*NO指定されたライブラリーの中に同じ名前およびタイプのオブジェクトがすでに存在している場合は、CICSモジュールまたはプログラムは作成されないことを指定します。

上

---

## 例

なし

上

---

## エラー・メッセージ

不明

上





## CICSプログラムの作成 (CRTICSCBL)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

CICS COBOL作成(CRTICSCBL)コマンドは、CICSプリコンパイラーを呼び出し、これはCICSステートメントが入っているOPMまたはILE COBOLソースのどちらかをプリコンパイルして、一時ソース・メンバーを作成します。(この時点では、COBOLソース内でCOBOLコピーブックは拡大されません。)ソース・プログラムは、構造化照会言語(SQL)コマンドももっている場合には、正常なCICSプリコンパイルの後にSQLプリコンパイラーを任意に呼び出します。結果のプリコンパイラー出力は一時ソース・メンバーに入れられません。CICSプリコンパイルおよび任意のSQLプリコンパイルの後に、COBOLコンパイラーを任意に呼び出して、プログラムをコンパイルすることができます。

注: CRTSQLCBLコマンドを実行し、OPTIONパラメーターに\*NOGENオプションを指定することによって、最初にSQLステートメントをプリコンパイルすることができます。これによって、SQLプリコンパイラー出力がライブラリーQTEMPのQSQLTEMPに入れられます。次に、QTEMP/QSQLTEMPとしてSRCFILEを指定して、CRTICSCBLコマンドを実行しなければなりません。SRCMBR名は、SQLプリコンパイル済みプログラム・ソースのこのファイル調べて判別することができます。CRTICSCBLの残りのパラメーターは通常通りに入力することができます。

アプリケーション・プログラムをこの方法でコンパイルすることは望ましいことではありませんが、必要な場合には、これを実行することができます。

上

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
PGM	プログラム	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
SRCFILE	ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: ソース・ファイル	名前, QLBSRC	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SRCMBR	ソース・メンバー	名前, *PGM	オプション, 定位置 3
COMMIT	コミットメント制御	*CHG, *CS, *ALL, *NONE	オプション
OBJTYPE	コンパイル・タイプ	*PGM, *BNDPGM, *MODULE	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *SRCMBRTXT, *BLANK	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
CICSOPT	CICSオプション	値 (最大 11 回の繰り返し): <u>*NOSOURCE</u> , *NOSRC, *SOURCE, *SRC, *NOVBREF, *VBREF, *NOXREFCICS, *XREFCICS, *NODEBUG, *DEBUG, *QUOTE, *APOST, *NOGEN, *GEN, *NOSECLVL, *SECLVL, *GRAPHIC, *NOPICXGRAPHIC, *PICXGRAPHIC, *NOPICGGRAPHIC, *PICGGRAPHIC	オプション, 定位置 4
SQLOPT	SQLオプション	値 (最大 10 回の繰り返し): <u>*NOSOURCE</u> , *NOSRC, *SOURCE, *SRC, *XREF, *NOXREF, *GEN, *NOGEN, *JOB, *SYSVAL, *PERIOD, *COMMA, *QUOTESQL, *APOSTSQL, *QUOTE, *APOST, *SECLVL, *NOSECLVL, *SQL, *SYS	オプション, 定位置 5
CBLOPT	COBOLオプション	値 (最大 8 回の繰り返し): <u>*NOSOURCE</u> , *NOSRC, <u>*SOURCE</u> , *SRC, *RANGE, *NORANGE, *NOOPTIMIZE, *OPTIMIZE, *LSTDBG, *NOLSTDBG, *NOSTDTRUNC, *STDTRUNC, *NOXREF, *XREF, *NOMAP, *MAP, *NOUNREF, *UNREF	オプション, 定位置 6
OUTFILE	CICS出力ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: CICS出力ファイル	名前, <u>QACYCICS</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>QTEMP</u> , *LIBL, *CURLIB	
OUTMBR	CICS出力メンバー	名前, <u>*PGM</u>	オプション
TGTRLS	ターゲット・リリース	文字値	オプション
ACTGRP	活動化グループ	名前, <u>QILE</u> , *NEW, *CALLER	オプション
INCFILE	INCLUDEファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: INCLUDEファイル	名前, <u>*SRCFILE</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
ALWCPYDTA	データのコピー可能	<u>*YES</u> , *OPTIMIZE, *NO	オプション
ALWBLK	ブロック化可能	<u>*READ</u> , *NONE, *ALLREAD	オプション
DLYPRP	PREPARE遅延	<u>*NO</u> , *YES	オプション
CLOSQCSR	SQLカーソルのクローズ	<u>*OBJTYPE</u> , *ENDPGM, *ENDSQL, *ENDJOB, *ENDACTGRP, *ENDMOD	オプション
CICSGENLVL	CICS生成重大度レベル	<u>10</u> , 20, 30, 40	オプション
CBLGENLVL	COBOL生成重大度レベル	0-29, <u>29</u>	オプション
SQLGENLVL	SQL生成重大度レベル	<u>10</u> , 20, 30, 40	オプション
SAAFLAG	SAAフラグ付け	<u>*NOFLAG</u> , *FLAG	オプション
FLAGSTD	ANSフラグ付け	<u>*NONE</u> , *ANS	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
FLAG	フラグ重大度	0-99, <u>0</u>	オプション
SRTSEQ	分類順序	単一値: <u>*HEX</u> , *JOB, *JOB RUN, *LANGIDUNQ, *LANGIDSHR その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 分類順序	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
LANGID	言語ID	文字値	オプション
DATFMT	日付形式	<u>*JOB</u> , *USA, *ISO, *EUR, *JIS, *MDY, *DMY, *YMD, *JUL	オプション
TIMFMT	時刻形式	<u>*HMS</u> , *USA, *ISO, *EUR, *JIS	オプション
TIMSEP	時刻区切り文字	' ', ':', ',', '.', * <u>JOB</u> , *BLANK	オプション
DATSEP	日付区切り文字	' ', ':', ',', '.', '/', '-', * <u>JOB</u> , *BLANK	オプション
REPLACE	置き換え	* <u>YES</u> , *NO	オプション
DFTRBCOL	省略時のコレクション	名前, <u>*NONE</u>	オプション

上

## プログラム (PGM)

コンパイル済みプログラムが認識される修飾名を指定します。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

- \*CURLIB:ライブラリーを指定しない場合には、現行のライブラリー内にプログラムが作成されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。
- **ライブラリー名:**コンパイル済みプログラムが作成されるライブラリーの名前を指定してください。

**プログラム名:** CICSステートメントが入っている、作成中のプログラムの名前を指定してください。

注: 指定するプログラム名が既存のプログラムと同じ場合は、REPLACEパラメーターが\*YES (省略時の値)として指定されている場合には、新しく指定したプログラムが既存のものと置き換わります。OBJTYPEパラメーターに\*MODULEが指定されている場合には、このパラメーターに指定される修飾名は、作成されるモジュール・オブジェクトの名前となります。

上

## ソース・ファイル (SRCFILE)

EXEC CICSまたはEXEC SQLステートメントと一緒にCOBOLソースが入っているソース・ファイルの修飾名を指定します。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

- \*LIBL:ソース・ファイルを探すためにライブラリー・リストが使用されることを指定します。

- **\*CURLIB:**ソース・ファイルを探すために、ジョブの現行ライブラリーが使用されることを指定します。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。
- **ライブラリー名:**ソース・ファイルが入っているライブラリーを指定します。

QLBLSRC: COBOLソース・ファイル名が指定されない場合には、指定されたソース・ファイルQLBLSRCにCOBOLソースが入っています。

**ソース・ファイル名:** COBOLソース・コードが入っているソース・ファイルの名前を指定します。このソース・ファイルのレコード長は92バイトでなければなりません。ソース・ファイルはデータベース・ファイル装置ファイル、またはインライン・データ・ファイルとすることができます。

上

---

## ソース・メンバー (SRCMBR)

COBOLソースが入っているソース・ファイル・メンバーの名前を指定します。このパラメーターが指定されるのは、SRCFILEパラメーターのソース・ファイル名がデータベース・ファイルの名前である場合だけです。

- **\*PGM:** COBOLソースは、事前コンパイラー・コマンドのPGM パラメーターに指定されたものと同じメンバー名をもつソース・ファイル・メンバー内にあることを指定します。
- **ソース・ファイル・メンバー名:**COBOLソースが入っているソース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

上

---

## コミットメント制御 (COMMIT)

コンパイルされたプログラムのSQLステートメントをコミットメント制御によって実行するかどうかを指定します。ホスト言語ソースで参照されるファイルは、このパラメーターによって影響されません。SQLステートメントで参照されるSQL テーブル、ビュー、およびSQLパッケージだけが影響されます。

- **\*CHG (変更) :** SQL COMMENT ON, CREATE, DROP, GRANT, LABEL ON, およびREVOKEステートメントで参照されるオブジェクト、および更新、削除、および挿入された行が、作業単位（トランザクション）の終わりまでロックされることを指定します。その他のジョブのコミットされていない変更を調べることができます。
- **\*CS (カーソルの固定性) :** SQL COMMENT ON, CREATE, DROP, GRANT, LABEL ON, およびREVOKEステートメントで参照されるオブジェクト、および更新、削除、および挿入された行が、作業単位（トランザクション）の終わりまでロックされることを指定します。選択されたが更新されていない行は、次の行が選択されるまでロックされます。その他のジョブのコミットされていない変更を調べることはできません。
- **\*ALL:** SQL COMMENT ON, CREATE, DROP, GRANT, LABEL ON, およびREVOKE ステートメントで参照されるオブジェクト、および更新、削除、および挿入された行が、作業単位（トランザクション）の終わりまでロックされることを指定します。その他のジョブのコミットされていない変更を調べることはできません。
- **\*NONE:**コミットメント制御が使用されないことを指定します。COMMITおよびROLLBACKステートメントを使用することはできません。その他のジョブのコミットされていない変更を調べることができます。プログラムにSQL DROP COLLECTIONステートメントが入っている場合には、\*NONEを使用しなければなりません。

注: \*CHG, \*CS,または\*ALLが指定された場合には、アプリケーション・プログラムにDROP COLLECTIONを組み込むことはできません。SQL開始(STRSQL)コマンドのこのパラメーターの省略時の値は\*NONEです。

上

---

## コンパイル・タイプ (OBJTYPE)

作成するオブジェクトのタイプを指定します。

考えられる値は次の通りです。

- \*PGM:変換されたCICSソースがCRTCLBLPGMコマンドに渡されて、OPM COBOLプログラム・オブジェクトが作成されることを指定します。
- \*BNDPGM:変換されたCICSソースがCRTBNDCBLコマンドに渡されて、ILE COBOLプログラム・オブジェクトが作成されることを指定します。
- \*MODULE:変換されたCICSソースがCRTCLBLMODコマンドに渡されて、ILE COBOLモジュール・オブジェクトが作成されることを指定します。

上

---

## テキスト記述 (TEXT)

コンパイルされたモジュールまたはプログラムとその機能を記述するテキストを入力することができます。

- \*SRCMBRTXT:モジュールまたはプログラムを作成するために、使用しているソース・ファイル・メンバーからテキストが取り出されることを指定します。データベース・ソース・メンバー・テキストの追加または変更は、原始ステートメント入力ユーティリティー(STRSEU)コマンドを使用して、あるいは物理ファイル・メンバー追加(ADDPFM)コマンドまたは物理ファイル・メンバー変更(CHGPFM)コマンドを使用して実行することができます。ソース・ファイルがインライン・ファイルまたは装置ファイルである場合にはテキストはブランクです。
- \*BLANK:テキストは指定されません。
- **記述**: 50桁を超えないアポストロフィで囲まれたテキストを指定してください。

上

---

## CICSオプション (CICSOPT)

OPMまたはILE COBOLソースをCICSプリコンパイルする時に、次の1つまたは複数のオプションを使用するかどうかを指定します。オプションが2回以上指定されたか、あるいは2つのオプションが矛盾している場合には、コンパイル・タイプと競合しない最後に指定されたオプションが使用されます。オプションが指定されない場合には、省略時の値が使用されます。

ソース・リスト・オプション

- \*NOSRC:または\*NOSOURCE:ソース・リストがCICSプリコンパイラーによって作成されないことを指定します。
- \*SRC:または\*SOURCE:すべてのソース入力およびエラー・メッセージから構成されているソース・リストが、CICSプリコンパイラーによって作成することを指定します。

## ストリング区切り文字およびリテラル・オプション

- \*QUOTE: CICSステートメント内、およびCOBOLステートメントの非数値リテラルおよびブール・リテラルでストリング区切り文字に2重引用符(")が使用されることを指定します。
- \*APOST: CICSステートメント内、およびCOBOLステートメントの非数値リテラルおよびブール・リテラルでストリング区切り文字にアポストロフィ(')が使用されることを指定します。

## 相互参照オプション

- \*NOVBREFまたは\*NOXREFCICS: CICSプリコンパイラーはEXEC CICS名の相互参照を作成しないことを指定します。
- \*VBREF:または\*XREFCICS: CICSプリコンパイラーはプログラム中のEXEC CICS名と、それらを参照するプログラム中のステートメント番号との間に相互参照を作成することを指定します。

## デバッグ・オプション

- \*NODEBUG: プリコンパイラーは、CICS実行診断機能(EDF)によって表示されるCICSにパススルーされることになるコードを作成しません。
- \*DEBUG: プリコンパイラーは、EDFによって表示されるCICSにパススルーされることになるコードを作成しません。

## SQLコンパイラー・オプション

- \*GEN: CICSの正常なプリコンパイルの後に、SQLプリコンパイラーまたはCOBOLコンパイラーが呼び出されます。

注: SQLプリコンパイラーが呼び出されるのは、CICSのプリコンパイル段階中に、CICSプリコンパイル中のCOBOLソース・コード内でEXEC SQLステートメントが検出された場合だけです。

- \*NOGEN: ジョブはCICSプリコンパイルの終わりで打ち切ります。

## 第2レベル・ヘルプ・テキスト

- \*NOSECLVL: 第2レベル・ヘルプ・テキストは印刷されません。
- \*SECLVL: 第2レベル・ヘルプ・テキストが第1レベル・ヘルプ・テキストとともに印刷されます。

注: エラーが起こるたびに、第1レベル・ヘルプ・テキストが印刷されます。

## 漢字使用可能性

- \*GRAPHIC: プリコンパイラーは漢字データを受け入れます。このデータを表示できるのは、7-72桁目の範囲内だけです。漢字データの使用の制約事項および例については、CICS APPLICATION PROGRAMMING GUIDEを参照してください。

\*NOPICXGRAPHIC: DBCS図形データ・タイプがFILLER フィールドとして宣言されます。このオプションは、ILE COBOLオブジェクトでのみ有効です。

\*PICXGRAPHIC: 固定長DBCS図形データ・タイプが固定長英数字フィールドとして宣言され、ILE COBOLソース・プログラムにアクセスすることができます。このオプションは、ILE COBOLオブジェクトでのみ有効です。

\*VARCHARオプションも使用されている時には、可変長DBCS図形データ・タイプが固定長グループ項目として宣言され、ILE COBOLソース・プログラムにアクセスすることができます。



\*PICGGRAPHIC:固定長DBCS図形データ・タイプが固定長Gタイプ・フィールドとして宣言され、ILE COBOLソース・プログラムにアクセスすることができます。このオプションは、ILE COBOLオブジェクトでのみ有効です。

\*VARCHARオプションも使用されている時には、可変長DBCS図形データ・タイプが固定長グループ項目(Gタイプ・フィールドの前の数値フィールドで構成されている)として宣言され、ILE COBOLソース・プログラムにアクセスすることができます。

\*NOPICGGRAPHIC: DBCS図形データ・タイプがFILLERフィールドとして宣言されます。このオプションは、ILE COBOLオブジェクトでのみ有効です。

上

---

## SQLオプション (SQLOPT)

OPMまたはILE COBOLソースをSQLプリコンパイルする時に、次の1つまたは複数のオプションを使用するかどうかを指定します。オプションが2回以上指定されたか、あるいは2つのオプションが矛盾している場合には、コンパイル・タイプと競合しない最後に指定されたオプションが使用されます。オプションが指定されない場合には、省略時の値が使用されます。

### ソース・リスト・オプション

- \*NOSRC:または\*NOSOURCE: SQLプリコンパイラによってソース・リストが作成されないことを指定します。
- \*SRC:または \*SOURCE: SQLプリコンパイラによって、ソースおよびエラー・メッセージから構成されているソース・リストが作成されることを指定します。

### 相互参照オプション

- \*NOXREF: SQLプリコンパイラがEXEC SQL名の相互参照を作成しないことを指定します。
- \*XREF: SQLプリコンパイラがプログラムの項目と、その項目を参照するプログラムのステートメントの番号の間に相互参照を作成することを指定します。

### プログラム作成オプション

- \*GEN: SQLの正常なプリコンパイルの後に、COBOL コンパイラが呼び出されます。
- \*NOGEN:コンパイルは、SQLプリコンパイルの終わりで完了します。

### 小数点オプション

- \*JOB:プリコンパイル時のジョブに指定された小数点の表記が使用されます。このオプションは、ILE COBOLオブジェクトでのみ有効です。

注: 小数点として使用する値がコンマであることをQDECFMTが指定している場合には、リスト中の数字定数 (SELECT文節およびVALUES文節などにある) はコンマの後に空白を続けて区切らなければなりません。たとえば、VALUES(1,1, 2,23, 4,1)はVALUES(1.1,2.23,4.1)と同じで、この場合の小数点はピリオドです。

\*SYSVAL:小数点として使用される値はQDECFMTシステム値からのものであることを指定します。

注: 小数点として使用する値がコンマであることをQDECFMTが指定している場合には、リスト中の数字定数 (SELECT文節またはVALUES文節などにある) はコンマの後に空白を続けて区切らなければなりません。たとえば、VALUES(1,1, 2,23, 4,1)はVALUES (1.1,2.23,4.1)と同じで、この場合の小数点はピリオドです。

- \*PERIOD:小数点として使用される値がピリオドであることを指定します。
- \*COMMA:小数点として使用される値がコンマであることを指定します。

注: リスト内の数字定数 (SELECT文節、VALUES文節などにある) はコンマの後に空白を続けて区切らなければなりません。たとえば、VALUES(1,1, 2,23, 4,1)はVALUES(1.1,2.23,4.1)と同じで、この場合の小数点はピリオドです。

### SQLストリング区切り文字オプション

- \*QUOTESQL: SQLステートメント内のストリング区切り文字に2重引用符(")が使用されることを指定します。
- \*APOSTSQL: SQLステートメント内ストリング区切り文字にアポストロフィ(')が使用されることを指定します。

注: このオプションとCICSOPTのストリング区切り文字オプションが同じ区切り文字に設定されない場合には、予期しない結果が起こる場合があります。

### COBOLストリング区切り文字オプション

- \*QUOTE:COBOLステートメントで非数値リテラルおよびブール・リテラルに使用される文字は、引用符(")です。
- \*APOST:COBOLステートメントで非数値リテラルおよびブール・リテラルに使用される文字は、アポストロフィ(')です。

### 命名規則オプション

- \*SYS: i5/OS命名規則が使用されることを指定します ( ライブラリー名 / ファイル名 )。
- \*SQL: SQLの命名規則が使用されることを指定します ( コレクション名 . テーブル名 )。

### 第2レベル・ヘルプ・テキスト

- \*NOSECLVL:第2レベル・ヘルプ・テキストは印刷されません。
- \*SECLVL:第2レベル・ヘルプ・テキストが第1レベル・ヘルプ・テキストとともに印刷されます。

注: エラーが起こるたびに、第1レベル・ヘルプ・テキストが印刷されます。

上

---

## COBOLオプション (CBLOPT)

オブジェクト・プログラムを作成する時に使用するオプションを指定します。COBOL で問題が起こった場合には、リストが必要となることがあります。CICSとCOBOL のファイル・アクセスを混合すると、予測できない結果が起こる場合があることに注意してください。

使用できる値は、次にリストされています。サポートされるオプションの完全なリストについては、CICSの資料を参照してください。

### ソース・リスト・オプション



- \*NOSRC:または\*NOSOURCE:ソース・リストがコンパイラーによって作成されないことを指定します。
- \*SRCまたは\*SOURCE:すべてのソース入力およびエラー・メッセージから構成されるソース・リストがコンパイラーによって作成されることを指定します。

#### 確認の範囲

- \*RANGE:実行時に、システムは添え字が正しい範囲内にあることを確認しますが、索引の範囲を確認しません。また、参照変更およびコンパイラー生成のサブストリング操作も検査します。
- \*NORANGE:実行時に、範囲を確認しません。

#### 最適化

- \*NOOPTIMIZE:コンパイラーはプログラム用の標準最適化だけを実行します。
- \*OPTIMIZE:作成されるプログラム・オブジェクトはより効果的に実行され、必要な記憶域も少なくてもすむ可能性があります。ただし、\*OPTIMIZEを指定すると、プログラムをコンパイルするのに必要な時間が実質的に増える場合があります。

#### CODE for i5/OSのオプション

- \*NOLSTDBG:このオプションは、IBM CoOperative Development Environment for i5/OS製品を使用する時に、プログラム式ワークステーションに表示する情報の種類を決定します。

コンパイラーはリスト・ビュー、またはリスト・レベル・デバッグ情報を作成しません。

- \*LSTDBG:このオプションは、IBM CoOperative Development Environment for i5/OS製品を使用する時に、プログラム式ワークステーションに表示する情報の種類を決定します。

コンパイラーはリスト・ビュー、ソース・レベル・エラー情報、およびリスト・レベル・デバッグ情報を作成します。

#### データ切り捨て

- \*STDTRUNC:このオプションは、USAGE BINARYデータにのみ適用されます。\*STDTRUNCが選択されていると、USAGE BINARYデータがBINARY 受信フィールドのPICTURE文節の桁数に切り捨てられます。このオプションは、ILE COBOLオブジェクトでのみ有効です。
- \*NOSTDTRUNC:このオプションは、USAGE BINARYデータにのみ適用されます。\*NOSTDTRUNCが選択されていると、BINARY受信フィールドはハーフワード、フルワード、またはダブルワード境界でのみ切り捨てられます。BINARY送信フィールドも、ハーフワード、フルワード、またはダブルワードとして扱われます。このように、フィールドの完全な2進数の内容は重要です。また、DISPLAYステートメントはBINARYフィールドの内容全体を切り捨てずに変換します。このオプションは、ILE COBOLオブジェクトでのみ有効です。

#### 相互参照

- \*NOXREF:コンパイラーはCOBOLソース・プログラムの相互参照リストを作成しません。
- \*XREF:コンパイラーはCOBOLソース・プログラムの相互参照リストを作成します。

#### データ部マップ

- \*NOMAP:コンパイラーはデータ部マップをリストしません。
- \*MAP:コンパイラーはデータ部マップをリストします。

#### 非参照データ項目

- \*NOUNREF:非参照データ項目はコンパイル済みプログラムに組み込まれません。これにより使用される記憶域が削減され、大きなプログラムをコンパイルできるようになります。\*NOUNREFオプションを選

扱った場合、デバッグ中に非参照データ項目を表示したり、割り当てたりはできません。非参照データ項目は、\*XREFオプションで作成される相互参照リストには組み込まれます。

- \*UNREF:非参照データ項目はコンパイル済みプログラムに組み込まれます。

上

---

## CICS出力ファイル (OUTFILE)

中間事前コンパイラ出力の修飾名を指定します。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

- \*LIBL:ジョブのライブラリー・リストのユーザーとシステム部分のすべてのライブラリーが検索されることを指定します。
- \*CURLIB:現行ライブラリーが検索されることを指定します。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。
- ライブラリー名:中間事前コンパイラ出力を入れるライブラリーの名前を指定します。

ソース・ファイル名:中間事前コンパイラ出力が入っているソース・ファイルの名前を指定します。

QTEMP/QACYCICS: 出力ソース・ファイル名が指定されていない場合には、指定されたソース・ファイルQTEMP/QACYCICSに中間事前コンパイラ出力が入られます。

上

---

## CICS出力メンバー (OUTMBR)

中間プリコンパイラ出力を含むソース・ファイル・メンバーの名前を指定します。このパラメーターが指定されない場合には、PGM パラメーターに指定されたプログラム名が使用されます。

- \*PGM:中間プリコンパイラ出力が、PGMパラメーターに指定されたのと同じメンバー名をもつよう、指定します。
- ソース・メンバー名:中間プリコンパイラ出力をコピーする必要があるそのコピー先のソース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

上

---

## ターゲット・リリース (TGTRLS)

作成したオブジェクトを使用する予定のオペレーティング・システムのリリース・レベルを指定します。

\*CURRENTおよび\*PRV値で示されている例と、ターゲット・リリース値を指定する時は、形式VXRXXMXを使用してリリースを指定します。ここで、VXはバージョン、RXはリリース、MXはモディフィケーション・レベルです。たとえば、V5R3M0はバージョン5,リリース3,モディフィケーション0です。

このパラメーターに有効な値はリリースごとに変化します。

考えられる値は次の通りです。

- \*CURRENT:ユーザーのシステム上で現在実行中のオペレーティング・システムのリリースで、オブジェクトが使用されます。また、それ以降のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムでもこのオブジェクトを使用することができます。

- **\*PRV:**オペレーティング・システムの前のリリースのモディフィケーション・レベル0で、オブジェクトが使用されます。また、それ以降のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムでもこのオブジェクトを使用することができます。
- **リリース・レベル**リリース・レベルを形式VXRXXMXで指定します。指定されたリリースまたはその次以降のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムでもこのオブジェクトを使用することができます。

有効な値は現行バージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルによって異なり、各新規リリースで変化します。

上

---

## 活動化グループ (ACTGRP)

プログラムが呼び出された時に、これが関連付けられる活動化グループを指定します。OBJTYPEパラメーターが\*BNDPGMで、ソース・プログラムにSQLステートメントが含まれていない時のみ、これは作動します。

- **QILE:**このプログラムが呼び出されると、これが名前付き活動化グループQILE中で活動化されます。これが省略時の値です。
- **\*NEW:**このプログラムが呼び出されると、これが新規活動化グループ中で活動化されます。
- **\*CALLER:**このプログラムが呼び出されると、これが呼び出し先の活動化グループ中で活動化されます。
- **活動化グループ名:**このプログラムが呼び出される時に使用される活動化グループの名前を指定してください。

上

---

## INCLUDEファイル (INCFILE)

SQL INCLUDEステートメントと一緒にプログラムに組み込まれたメンバーが入っている、ソース・ファイルの修飾名を指定します。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

- **\*LIBL:**ソース・ファイルを探すためにライブラリー・リストが使用されることを指定します。
- **\*CURLIB:**ソース・ファイルを探すために、ジョブの現行ライブラリーが使用されることを指定します。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。
- **ライブラリー名:**ソース・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定します。
- **\*SRCFILE:** SRCFILEパラメーターに指定した修飾されたソース・ファイルを指定し、これにはSQL INCLUDEステートメントに指定されたソース・ファイル・メンバーが入っています。
- **ソース・ファイル名:** SQL INCLUDEステートメントに指定されたソース・ファイル・メンバーが入っているソース・ファイルの名前を指定します。ここで指定するソース・ファイルのレコード長は、SRCFILEパラメーターに指定したソース・ファイルのレコード長と同じでなければなりません。

上

---

## データのコピー可能 (ALWCPYDTA)

SELECTステートメントでデータのコピーを使用できるかどうかを指定します。

- \*YES: SELECTステートメントを実行するために、必要があれば、データのコピーだけを使用することができます。
- \*OPTIMIZE:データベースから直接検索されたデータを使用するか、データのコピーを使用するかを、システムが選択します。この判別は、どの選択によってベスト・パフォーマンスが得られるかによって決まります。

この値は、照会全体に必要な時間を減らします。結果のテーブルの最初の行を戻す前にデータのコピーを作成しなければならないために、最初の行を検索する時間が長くなる場合があります。

注: COMMITパラメーターに\*CSまたは\*ALLが指定された場合には、SQL実行時ではこのパラメーターを無視して、現行データを使用します。

- \*NO:データのコピーを使用することはできません。SELECTステートメントの文節でデータのコピーが必要な場合には、このオプションによって負のSQLCODE を戻すことができます。SELECTステートメントが正常に実行された場合には、現行データが使用されました。

上

---

## ブロック化可能 (ALWBLK)

データベース管理プログラムがレコード・ブロック化、および読み取り専用カーソルでブロック化を使用できるエクステントを使用ができるかどうかを指定します。

\*READ:次の時に、カーソルのデータの読み取り専用検索のレコードがブロック化されます。

- コミットメント制御が使用されないことを指示するために、COMMITパラメーターに\*NONEが指定される時
- カーソルがFOR FETCH ONLY文節で宣言されているか、あるいはカーソルで位置指定されたUPDATEまたはDELETEステートメントを実行できる動的ステートメントがない時

上記の条件に合っていて、多くのレコードを検索する照会では、\*READを指定すると、パフォーマンス全体を向上させることができます。

\*NONE:カーソルのデータの検索では、行はブロック化されません。\*NONE を指定した場合。

- 検索されたデータが現行のものであることを保証します。
- 照会でデータの最初の行の検索に必要な時間が短縮されることがあります。
- 照会をクローズする前に、最初の数行だけを検索する時、プログラムが使用しない1ブロックのデータをデータベース管理プログラムで検索しないようにします。
- 多くの行を検索する照会のパフォーマンス全体を低下することができます。

上

---

## PREPARE遅延 (DLYPRP)

PREPAREステートメントの動的ステートメント妥当性検査を、OPEN、EXECUTE、またはDESCRIBEステートメントの実行まで遅延するかどうかを指定します。妥当性検査を遅延すると、重複した妥当性検査の排除によってパフォーマンスが向上されます。

- **\*NO:**動的ステートメントの妥当性検査は遅延されません。動的ステートメントが準備された時には、そのアクセス・プランの妥当性検査が行われます。OPEN またはEXECUTEステートメントで動的ステートメントが使用された場合には、そのアクセス・プランの妥当性検査が再び実行されます。動的ステートメントによって参照されるオブジェクトの権限または存在は変わることがあるので、OPENまたはEXECUTE ステートメントを出した後にSQLCODEまたはSQLSTATEをさらにチェックして、動的ステートメントがまだ有効であることを確認しなければなりません。
- **\*YES:**動的ステートメント妥当性検査は、動的ステートメントがOPEN、EXECUTE、またはDESCRIBE SQLステートメントで使用されるまで遅延されます。動的ステートメントが使用される時には、妥当性検査は完了され、アクセス・プランが作成されます。事前コンパイルされたプログラムのこのパラメータに\*YESを指定する場合には、OPEN、EXECUTE、またはDESCRIBEステートメントを実行した後でSQLCODEおよびSQLSTATEをチェックして、動的ステートメントが有効であることを確認しなければなりません。\*YESを指定した場合、PREPAREステートメントでINTO文節を使用する場合、あるいはそのステートメントでOPENを出す前にDESCRIBEステートメントが動的ステートメントを使用する場合には、パフォーマンスは向上されません。

上

---

## SQLカーソルのクローズ (CLOSQLCSR)

SQLカーソルを暗黙にクローズする時点、SQL準備ステートメントを暗黙に破棄する時点、およびLOCK TABLEロックを解放する時点を指定します。SQLカーソルは、CLOSE、COMMIT (HOLDなし)、またはROLLBACK (HOLDなし) のSQLステートメントを出すことによって明示的にクローズされます。

- **\*OBJTYPE:** \*OBJTYPEパラメータで定義される値に従ってSQL カーソルが処理されることを指定します。\*PGMを指定した場合には、CRTCBPLPGMは\*ENDPGMを使用します。\*BNDPGMを指定した場合には、CRTBNDCBLは\*ENDACTGRPを使用します。
- **\*ENDPGM:**プログラムを終了する時に、SQLカーソルがクローズされ、SQL準備ステートメントが破棄され、LOCK TABLEロックが解放されることを指定します。
- **\*ENDSQL:** SQLカーソルは、呼び出しと、別のSQL OPENを実行しないで取り出しできる間オープンのままになることを指定します。呼び出しスタック上の高位プログラムの1つでは、少なくとも1つのSQLステートメントを実行しなければなりません。呼び出しスタック上の最初のSQLプログラムが終了した時に、SQLカーソルがクローズされ、SQL準備ステートメントが破棄され、LOCK TABLEロックが解放されます。最初に呼び出されるSQLプログラム（呼び出しスタック上の最初のSQLプログラム）であるプログラムに\*ENDSQLが指定されている場合には、そのプログラムは、\*ENDPGMが指定されているかのように取り扱われます。
- **\*ENDJOB:** SQLカーソルは、呼び出しと、別のSQL OPENを実行しないで取り出しできる間オープンのままになることを指定します。呼び出しスタック上の高位プログラムで、SQLステートメントを実行する必要はありません。呼び出しスタック上の最初のSQLプログラムが終了した時に、SQLカーソルはオープンされたままとなり、SQL準備ステートメントが保存され、LOCK TABLEロックは保留されます。ジョブが終了した時に、SQLカーソルがクローズされ、SQL準備ステートメントが破棄され、LOCK TABLEロックが解除されます。分散データベースを実行中で、リモートに接続されている場合には、その接続は中止されます。



- \*ENDACTGRP:活動化グループを終了する時に、SQLカーソルがクローズされ、SQL準備ステートメントが暗黙的に破棄され、LOCK TABLEロックが解放されます。このオプションは、ILE COBOLオブジェクトでのみ有効です。
- \*ENDMOD:モジュールを終了する時に、SQLカーソルがクローズされ、SQL準備ステートメントが暗黙的に破棄されます。呼び出しスタック上の最初のSQLプログラムが終了した時に、LOCK TABLE ロックが解放されます。このオプションは、ILE COBOLオブジェクトでのみ有効です。

上

---

## CICS生成重大度レベル (CICSGENLVL)

CICS事前コンパイラー・エラーのレベルを指定します。このパラメーターに指定された値より大きい重大度レベルのエラーが起こった場合には、SQL事前コンパイラーが呼び出されない（CICS事前コンパイラーがソース内でSQLを見つけた場合）か、あるいは COBOLコンパイラーが呼び出されません。

- 10:重大度レベルの値を指定しない場合には、省略時の重大度レベルは10です。
- 重大度レベル： 0-40の範囲の数値を指定します。示される値の一部は次の通りです。
  - 10 警告のレベルの値です。
  - 20 一般的なエラー・メッセージのレベルの値です。
  - 30 重大エラー・メッセージのレベルの値です。
  - 40 システム検出エラー・メッセージのレベルの値です。

注: CICSGENLVLの値が適用されるのは、CICS事前コンパイル・エラーの結果として生成されるメッセージに対してだけです。指定されたCICSGENLVL値は、SQL事前コンパイラーまたはCOBOLコンパイラーには渡されません。

上

---

## COBOL生成重大度レベル (CBLGENLVL)

COBOLコンパイラー・エラーのレベルを指定します。このパラメーターに指定された値以上の重大度レベルのエラーが起こったのは、COBOLプログラム・オブジェクトは作成されません。

- 29:重大度レベルの値を指定しない場合には、省略時の重大度レベルは29となります。
- 重大度レベル： 0-29の範囲の数値を指定します。

上

---

## SQL生成重大度レベル (SQLGENLVL)

SQL事前コンパイラー・エラーのレベルを指定します。パラメーターに指定された値以上の重大度レベルのエラーが起こった場合には、COBOLコンパイラーは呼び出されません。

- 10:値を指定しない場合には、省略時の重大度レベルは10です。
- 重大度レベル： 0-40の範囲の数値を指定します。示される値の一部は次の通りです。
  - 10 警告のレベルの値です。
  - 20 一般的なエラー・メッセージのレベルの値です。
  - 30 重大エラー・メッセージのレベルの値です。

- 40 システム検出エラー・メッセージのレベルの値です。

注: SQLGENLVLの値が適用されるのは、SQL事前コンパイル・エラーの結果として生成されるメッセージに対してだけです。指定されたSQLGENLVL値は、COBOLコンパイラーには渡されません。

上

---

## SAAフラグ付け (SAAFLAG)

システム・アプリケーション体系レベル2データベース標準でないSQLステートメントにフラグを付けるかどうかを指定します。このパラメーターによって、ユーザーはSQLステートメントにフラグを付け、それらがシステム・アプリケーション体系レベル2データベース標準に適合していることを確認することができます。

- \*NOFLAG:事前コンパイラーはシステム・アプリケーション体系標準について検査 しない ことを指定します。
- \*FLAG:事前コンパイラーはシステム・アプリケーション体系標準について検査することを指定します。

上

---

## ANSフラグ付け (FLAGSTD)

標準外ステートメントにフラグを付けるかどうかを指定します。このパラメーターによって、SQLステートメントにフラグを付けて、これらがANSI X3.135-1-1989, ANSI X3.168-1989, ISO 9075-1989, およびFIPS 127.1の標準に適合しているかどうかを確認することができます。

- \*NONE:事前コンパイラーはANSI標準について検査 しない ことを指定します。
- \*ANS:事前コンパイラーはANSI標準について検査することを指定します。

上

---

## フラグ重大度 (FLAG)

印刷されるメッセージの最小重大度レベルを指定します。使用できる値の範囲は次の通りです。

- 0すべてのメッセージが印刷されます。
- 重大度レベル:印刷されるメッセージの最小重大度レベルを指定する1または2桁の数値を入力してください。指定された値またはそれ以上の重大度レベルをもつメッセージがリストされます。

上

---

## 分類順序 (SRTSEQ)

NLSSORTがALPHABET文節の英字名と関連している時に、使用する分類順序を指定します。SRTSEQパラメーターをLANGIDパラメーターと組み合わせて使用して、プログラムで使用するシステム定義またはユーザー定義の分類順序テーブルを判別します。指定できる値は次の通りです。

- \*HEX:分類順序テーブルは使用されずに、その文字の16進数値を使用して、分類順序を判別します。
- \*JOB:プログラムの分類順序はコンパイル時に解決されて、プログラムと関連づけられます。分類順序テーブルはコンパイル時に存在していなければなりません。

- \*JOB RUN:プログラムの分類順序はコンパイル時に解決されて、プログラムと関連づけられます。コンパイル時には、コンパイラーは、コンパイル・ジョブの分類順序をプログラムと関連付けします。実行時には、この分類順序は、実行時にジョブと関連付けられた分類順序によって置き換えられます。
- \*LANGIDUNQ:使用している分類順序テーブルには、コード・ページに各文字の固有の重みが入っていないことを指定します。使用される分類順序テーブルは、LANGIDパラメーターに指定された言語と対応した重み付きの固有のテーブルとなります。
- \*LANGIDSHR:使用している分類順序テーブルには、コード・ページに複数文字の同じ重みを入れることができることを指定します。使用される分類順序テーブルは、LANGIDパラメーターに指定された言語と対応した重み付きの共用テーブルとなります。
- テーブル名使用する分類順序テーブルの名前を入力します。このテーブルには、指定されたコード・ページにすべての文字の重みが入っています。重みは、コード点に定義される文字と関連付けられています。分類順序テーブル名の使用時には、そのテーブルが入っているライブラリーを指定することができます。有効な値は次の通りです。
  - \*LIBL:分類順序テーブルが入っているライブラリーを見つけるために、ライブラリー・リストが検索されます。
  - \*CURLIB:現行ライブラリーが検索されます。現行ライブラリーとしてライブラリーが割り当てられていない場合には、QGPLが使用されます。
  - ライブラリー名:順序ではなく、分類のテーブルが入っているライブラリーの名前を入力します。
- 注: SRTSEQに有効なPROCESSステートメント・オプションはSRTSEQ(HEX), SRTSEQ(JOB), SRTSEQ(JOBRUN), STRSEQ(LANGIDUNQ), SRTSEQ(LANGIDSHR), SRTSEQ("テーブル名"), SRTSEQ("ライブラリー名/テーブル名"), SRTSEQ("LIBL/テーブル名"), およびSRTSEQ("CURLIB/テーブル名")です。

上

---

## 言語ID (LANGID)

分類順序と一緒に使用される言語識別コードを指定します。LANGIDパラメーターを使用するのは、有効となっているSRTSEQ値が\*LANGIDUNQまたは\*LANGIDSHR である時だけです。指定できる値は次の通りです:

- \*JOB RUN:プログラムの言語識別コードは実行時に解決されています。コンパイルされたプログラムを実行する時には、そのジョブの言語識別コードが使用されます。この値によってプログラムを一度コンパイルして、実行時に異なった言語識別コードで使用することができます。
- \*JOB:プログラムの言語識別コードはコンパイル時に解決されます。
- 言語識別コード:有効な3桁の言語識別コードを入力します。
- 注: LANGIDの有効なPROCESSステートメント・オプションはLANGID(JOBRUN), LANGID(JOB), およびLANGID("言語識別コード")です。

上

---

## 日付形式 (DATFMT)

日付の結果のカラムへのアクセスに使用される形式を指定します。すべての出力日付フィールドは、指定された形式で戻されます。入力日付stringでは、指定された値を使用して、その日付が正しい形式であるかどうかを判別します。



注: \*USA, \*ISO, \*EUR,または\*JISの形式を使用する入力日付ストリングは常に有効です。IBM System i5以外のシステム上にあるリレーショナル・データベースに接続する場合には、\*USA, \*ISO, \*EUR,または\*JISを使用しなければなりません。

- \*JOB:プリコンパイル時のジョブに使用した形式を指定します。ジョブ表示(DSPJOB)コマンドを使用して、そのジョブの現行の日付形式を判別してください。
- \*USA:米国日付形式MM/DD/YYYYが使用されます。
- \*ISO:国際標準化機構(ISO)日付の形式YYYY-MM-DDが使用されます。
- \*EUR:欧州日付形式DD.MM.YYYYが使用されます。
- \*JIS:日本工業規格日付形式YYYY-MM-DDが使用されます。
- \*MDY:日付の形式MM/DD/YYが使用されます。
- \*DMY:日付の形式DD/MM/YYが使用されます。
- \*YMD:日付の形式YY/MM/DDが使用されます。
- \*JUL:年間通算日形式YY/DDDが使用されます。

上

---

## 時刻形式 (TIMFMT)

時刻の結果のカラムへのアクセスに使用される形式を指定します。すべての出力時刻フィールドは、指定された形式で戻されます。入力時刻ストリングでは、指定された値を使用して、その時刻が正しい形式で指定されたかどうかを判別します。

注: \*USA, \*ISO, \*EUR,または\*JISの形式を使用する入力時刻ストリングは常に有効です。IBM System i5以外のシステム上にあるリレーショナル・データベースに接続する場合には、時刻形式は、コロンまたはピリオドの時刻区切り記号付きの\*USA, \*ISO, \*EUR, \*JIS,または\*HMSでなければなりません。

- \*HMS: HH:MM:SSの形式が使用されます。
- \*USA:米国の時刻形式HH:MM XXが使用され、このXXはAMまたはPMです。
- \*ISO:国際標準化機構(ISO)の時刻形式HH.MM.SSが使用されます。
- \*EUR:欧州の時刻形式HH.MM.SSが使用されます。
- \*JIS:日本工業規格の時刻形式HH:MM:SSが使用されます。

上

---

## 時刻区切り文字 (TIMSEP)

時刻の結果の欄へのアクセス時に使用される区切り記号を指定します。

注: このパラメーターが適用されるのは、TIMFMTパラメーターに\*HMSが指定された場合だけです。

- \*JOB事前コンパイル時のジョブに指定された時刻区切り記号が使用されます。ジョブ表示(DSPJOB)コマンドを使用して、ジョブの現在の値を判別してください。
- " ":時刻区切り記号としてコロン(:)が使用されます。
- ".":時刻区切り記号としてピリオド(.)が使用されます。
- ",":時刻区切り記号としてコンマ(,)が使用されます。
- " ":時刻区切り記号としてブランク・スペースが使用されます。

- \*BLANK 時刻区切り記号としてブランクが使用されます。

上

---

## 日付区切り文字 (DATSEP)

日付の結果の欄へのアクセスに使用される区切り記号を指定します。

- \*JOB事前コンパイル時のジョブの日付区切り記号が使用されます。ジョブ表示(DSPJOB)コマンドを使用して、ジョブの現在の値を判別してください。
- "/":日付区切り記号としてスラッシュ(/)が使用されます。
- ".":日付区切り記号としてピリオド(.)が使用されます。
- ",":日付区切り記号としてコンマ(,)が使用されます。
- "-":日付区切り記号としてハイフン(-)が使用されます。
- " ":日付区切り記号としてブランク・スペースが使用されます。
- \*BLANK 時刻区切り記号としてブランクが使用されます。

上

---

## 置き換え (REPLACE)

同じライブラリー内に同じ名前の既存のSQLプログラムがある時に、SQLプログラムを作成するかどうかを指定します。このパラメーターの値がCRTCLBLPGMコマンドに渡されます。

- \*YES CICS/SQLプログラムが作成され、指定されたライブラリーの同じ名前の既存プログラムがQRPLOBJに移動されます。\*YESの値は、CICS/SQLプログラムを作成するCRTCLBLPGMコマンドに渡されます。
- \*NO 指定したライブラリーの中に同じ名前のCICS/SQLプログラムがすでにある場合には、CICS/SQLプログラムは作成されません。

上

---

## 省略時のコレクション (DFTRDBCOL)

テーブル、ビュー、索引、およびSQLパッケージの修飾されていない名前で使用されるコレクション識別コードの名前を指定します。このパラメーターが適用されるのは、静的SQLステートメントに対してだけです。

- \*NONE: SQLOPTパラメーターに指定された命名規則が使用されます。
- コレクション名: SQLOPTパラメーターに指定された命名規則の代わりに、コレクション識別コードの名前が使用されることを指定します。

上

---

## 例

なし

---

## エラー・メッセージ

不明



---

## CICSグループの作成 (CRTCICSGRP)

実行可能場所:

- バッチ・ジョブ (\*BATCH)
- 対話式ジョブ (\*INTERACT)
- バッチ・プログラム (\*BPGM)
- 対話式プログラム (\*IPGM)
- バッチ REXX プロシージャ (\*BREXX)
- 対話式 REXX プロシージャ (\*IREXX)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (\*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

グループと関連したすべてのテーブルを作成するためには、CICSグループ作成(CRTCICSGRP)コマンドを使用してください。

上

---

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
LIB	ライブラリー	通信名, *CURLIB	必須, 定位置 1
GROUP	グループ	通信名	必須, 定位置 2
TEXT	記述	文字値, *BLANK	オプション, 定位置 3
RECOVER	回復	*NO, *YES	オプション, 定位置 4
CLRGROUP	ファイルの消去	*NO, *YES	オプション, 定位置 5

上

---

## ライブラリー (LIB)

グループを入れるライブラリーの名前を入力してください。

指定できる値は次の通りです。

- **\*CURLIB:** 現行ライブラリーにグループが入っています。現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。
- **ライブラリー名:** グループが入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

---

## グループ (GROUP)

作成するグループの名前を入力してください。

- **グループ名:**グループ名は最大10桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## 記述 (TEXT)

グループを説明するテキストを入力してください。

指定できる値は次の通りです：

- **\*BLANK:**グループと関連したテキストはありません。
- **テキスト：**グループを記述する最大50桁の文字ストリングを指定してください。先行または後書きのブランクを使用するためには、ストリングをアポストロフィで囲んでください。

上

---

## 回復 (RECOVER)

前に損傷しているグループの復元を試みるかどうかを指定します。

注：このすべての機能は、すべてのテーブルがこのグループに対して使用可能であることを確認します。したがって、このパラメーターは既存のグループにしか影響しません。

指定できる値は次の通りです：

- **\*NO:**グループの回復を試みません。
- **\*YES:**グループの回復を試みます。

上

---

## ファイルの消去 (CLRGROUP)

このグループのすべてのテーブルからすべての項目を消去するかどうかを指定します。

注：このパラメーターは既存のグループにしか影響しません。

指定できる値は次の通りです：

- **\*NO:**グループを消去しません。
- **\*YES:**グループを消去します。

上

---

## 例

なし

上

---

## エラー・メッセージ

不明

上





## CICSマップ作成 (CRTICSMAP)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

CICS MAP (CRTICSMAP)作成コマンドによって、BMS物理およびシンボリック・マップを作成することができます。

上

### パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
CICSMAP	マップ・オブジェクト名	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: マップ・オブジェクト名	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*CURLIB</u>	
SRCFILE	マップ・ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: マップ・ソース・ファイル	名前, <u>QMAPSRC</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , <u>*CURLIB</u>	
SRCMBR	マップ・ソース・メンバー名	名前, <u>*MAP</u>	オプション, 定位置 3
LMAPSRC	記号マップ・ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 4
	修飾子 1: 記号マップ・ソース・ファイル	名前, <u>*DEFAULT</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , <u>*CURLIB</u>	
LMAPMBR	記号マップ・ソース・メンバー	名前, <u>*MAP</u>	オプション, 定位置 5
REPLACE	出力オブジェクトの置き換え	<u>*YES</u> , <u>*NO</u>	オプション, 定位置 6
TGTRLS	ターゲット・リリース	文字値	オプション, 定位置 7
TEXT	テキスト	文字値, <u>*SRCMBRTXT</u> , <u>*BLANK</u>	オプション, 定位置 8

上

### マップ・オブジェクト名 (CICSMAP)

生成した3270または5250 CICS BMSマップの修飾名を指定します。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

- \*CURLIB:出力物理マップが残ることになるライブラリーを指定します。
- ライブラリー名:物理マップが入っているライブラリーの名前を指定します。

マップ名:生成したマップ・ファイルの名前を指定します。

注: 接尾部オペランドが指定されている場合には、その接尾部は自動的に名前に付加されます。

上

---

## マップ・ソース・ファイル (SRCFILE)

3270または5250マップが作成される元となる入力BMSマップ・ソースの修飾名を指定します。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

- \*LIBL:ジョブのライブラリー・リストのユーザーとシステム部分のすべてのライブラリーが検索されます。
- \*CURLIB:現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。
- **ライブラリー名:**BMSマップ・ソース・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

QMAPSRC:BMSマップ・ソース・ファイル名が指定されない場合には、提供されたソース・ファイルQMAPSRCにマップ・ソースが入っています。

**ソース・マップ名:**物理マップ・ファイルが作成される元となるBMSマップ・ソースの名前を指定します。

上

---

## マップ・ソース・メンバー名 (SRCMBR)

CICSマップ・ソースが入っているソース・ファイルの名前を指定します。

- \*MAP: CICSマップ・ソースは、CICSMAPパラメーターに指定されたものと同じメンバー名をもつソース・ファイル・メンバー内にあることを指定します。
- **ソース・マップ・メンバー名:**CICSマップ・ソースが入っているソース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

上

---

## 記号マップ・ソース・ファイル (LMAPSRC)

COBOLコピーブックまたはCヘッダー・ファイルのどちらかとしてシンボリック・マップを入れる出力ソース・ファイルの修飾名を指定します。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

- \*LIBL:ジョブのライブラリー・リストのユーザーとシステム部分のすべてのライブラリーが検索されます。
- \*CURLIB:現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。
- **ライブラリー名:**論理マップが生成されるライブラリーの名前を指定してください。

使用できるシンボリック・ソース・ファイルの値は次の通りです。

- \*DEFAULT:ソース・ファイル名は、マップ・ソース中のLANG パラメーターで指定された値に従って、省略時値となります。

LANG=COBOLの場合には、QLBLSRCのソース・ファイル名が使用されます。

LANG=Cの場合には、Hのソース・ファイル名が使用されます。

マップ・ソースにLANGパラメーターが指定されていない場合には、COBOLとみなされ、ソース・ファイル名はQLBLSRCとなります。

- **ソース・ファイル名:**言語特定ソース・ステートメントをコピーする必要があるそのコピー先のソース・ファイルの名前を指定します。

上

---

## 記号マップ・ソース・メンバー (LMAPMBR)

シンボリック・マップ・ソースが入っているソース・ファイル・メンバーの名前を指定します。このパラメーターが指定されない場合には、CICSMAP パラメーターに指定されたマップ名が使用されます。

**注:** このパラメーターを使用する時には、既存のソース・メンバーと同じソース・メンバーの完全修飾名を指定していないことを確認するよう注意しなければなりません。そうでないと、すでにそこにあったソース・メンバーを置き換えてしまうことになります。

- **\*MAP:**シンボリック・マップのソース・メンバー名がCICSMAP パラメーターで指定した名前と同じであることを指定します。
- **ソース・メンバー名:**シンボリック・マップ・ソース・ファイル・ステートメントをコピーする必要があるそのコピー先のソース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

上

---

## 出力オブジェクトの置き換え (REPLACE)

同じライブラリー内に同じ名前の既存のCICS BMSマップがある時に、CICS BMS マップを作成するかどうかを指定します。

- **\*YES:** CICS BMSマップが作成されます。指定したライブラリーの中に同じ名前のCICS BMSマップがある場合には、これは置き換えられます。
- **\*NO:**指定したライブラリーの中に同じ名前のCICS BMSマップがすでにある場合には、CICS BMSマップは作成されません。

上

---

## ターゲット・リリース (TGTRLS)

作成したオブジェクトを使用する予定のオペレーティング・システムのリリース・レベルを指定します。

\*CURRENTおよび\*PRV値で示されている例と、ターゲット・リリース値を指定する時は、形式VXR<sub>1</sub>MX<sub>2</sub>を使用してリリースを指定します。ここで、VXはバージョン、RXはリリース、MXはモディフィケーション・レベルです。たとえば、V3R6M0はバージョン3リリース6モディフィケーション0です。

このパラメーターに有効な値はリリースごとに変化します。

考えられる値は次の通りです。

- **\*CURRENT:**ユーザーのシステム上で現在実行中のオペレーティング・システムのリリースで、オブジェクトが使用されます。また、それ以降のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムでもこのオブジェクトを使用することができます。

- **\*PRV:**オペレーティング・システムの前のリリースのモディフィケーション・レベル0で、オブジェクトが使用されます。また、それ以降のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムでもこのオブジェクトを使用することができます。
- **リリース・レベル**リリース・レベルを形式VXRXXMXで指定します。指定されたリリースまたはその次以降のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムでもこのオブジェクトを使用することができます。

有効な値は現行バージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルによって異なり、各新規リリースで変化します。

上

---

## テキスト (TEXT)

新規CICS定義を簡潔に説明するテキストを指定します。

- **\*SRCMBRTXT:**テキストは、CICSマップを作成するのに使用しているソース・ファイル・メンバーから取得されます。データベース・ソース・メンバー・テキストの追加または変更は、原始ステートメント入力キューティリティー(**STRSEU**) コマンドを使用して、あるいは物理ファイル・メンバー追加(**ADDPFM**) コマンドまたは物理ファイル・メンバー変更(**CHGPFM**)コマンドを使用して実行することができます。ソース・ファイルがインライン・ファイルまたは装置ファイルである場合にはテキストはブランクです。
- **\*BLANK:**テキストは指定されません。
- **記述:** 50桁を超えないアポストロフィで囲まれたテキストを指定してください。

上

---

## 例

なし

上

---

## エラー・メッセージ

不明

上

---

## CICSグループの削除 (DLTCICSGRP)

実行可能場所:

- バッチ・ジョブ (\*BATCH)
- 対話式ジョブ (\*INTERACT)
- バッチ・プログラム (\*BPGM)
- 対話式プログラム (\*IPGM)
- バッチ REXX プロシージャ (\*BREXX)
- 対話式 REXX プロシージャ (\*IREXX)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (\*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

グループと関連したすべてのテーブルを削除するためには、CICSグループ削除(DLTCICSGRP)コマンドを使用してください。

上

---

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
LIB	ライブラリー	通信名, *LIBL, *CURLIB	必須, 定位置 1
GROUP	グループ	通信名	必須, 定位置 2

上

---

## ライブラリー (LIB)

グループが入っているライブラリーの名前を入力してください。考えられる値は次の通りです。

- **\*LIBL:** グループが入っている最初のライブラリーを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。
- **\*CURLIB:** 現行ライブラリーにグループが入っています。現行ライブラリーが指定されない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。
- **ライブラリー名:** グループが入っているライブラリーの名前。

上

---

## グループ (GROUP)

削除するグループの名前を入力してください。

- **グループ名:**グループ名は最大10桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は, 英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## 例

なし

上

---

## エラー・メッセージ

不明

上

---

## CICSのダンプ (DMPCICS)

実行可能場所:

- バッチ・ジョブ (\*BATCH)
- 対話式ジョブ (\*INTERACT)
- バッチ・プログラム (\*BPGM)
- 対話式プログラム (\*IPGM)
- バッチ REXX プロシージャ (\*BREXX)
- 対話式 REXX プロシージャ (\*IREXX)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (\*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

このコマンドは指定されたCICS制御ブロックをダンプします。

上

---

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
CTRLGN	制御領域	文字値, * <u>CUR</u>	オプション, 定位置 1
OPTION	オプション	文字値, * <u>ALL</u>	オプション, 定位置 2
RSC	資源 I D	文字値, * <u>ALL</u>	オプション, 定位置 3

上

---

## 制御領域(CTRLGN)

制御領域の名前

上

---

## オプション(OPTION)

CICS資源のタイプ。

このパラメーターに指定できる値の完全なリストについては、CICSの文書を参照してください。

上

---

## 資源 I D(RSC)

処理する資源名を指定します。

上

---

## 例

なし

上

---

## エラー・メッセージ

不明

上



---

## CICS CVTの表示 (DSPCICSCVT)

実行可能場所:

- バッチ・ジョブ (\*BATCH)
- 対話式ジョブ (\*INTERACT)
- バッチ・プログラム (\*BPGM)
- 対話式プログラム (\*IPGM)
- バッチ REXX プロシージャ (\*BREXX)
- 対話式 REXX プロシージャ (\*IREXX)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (\*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

CVT項目を表示するためには、CICS変換ベクトル・テーブル表示(DSPCICSCVT) コマンドを使用してください。この項目は表示しかすることができません。項目に対して変更も削除も行なうことはできません。

上

---

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
LIB	ライブラリー	通信名, *LIBL, *CURLIB	オプション, 定位置 1
GROUP	グループ	通信名, *FIRST	オプション, 定位置 2
CMDTYPE	API コマンド タイプ	*FIRST, *ALL, *FILE, *TDQUEUE, *TSQUEUE, *START, *LINK	オプション, 定位置 3
RSRCID	資源 I D	文字値, *FIRST, *ALL	オプション, 定位置 4
OUTPUT	出力の位置	_, *PRINT	オプション, 定位置 5

上

---

## ライブラリー (LIB)

グループが入っているライブラリーの名前を入力します。

考えられる値は次の通りです。

- **\*LIBL:** グループが入っている最初のi5/OSライブラリーを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。
- **\*CURLIB:** 現行ライブラリーにグループが入っています。現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。
- **ライブラリー名:** グループが入っているi5/OSライブラリーの名前を指定してください。

上

---

## グループ (GROUP)

表示するCVT項目が入っているグループの名前を入力してください。

指定できる値は次の通りです：

- **\*FIRST:**グループは指定されません。最初に見つかったグループが使用されます。
- **グループ名:**グループ名は最大10桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## API コマンド タイプ (CMDTYPE)

コマンド・タイプを入力してください。このフィールドは、必要なCVT項目を見つけるために資源識別コード・フィールドと一緒に使用されます。

指定できる値は次の通りです：

- **\*FIRST:**資源定義フィールドの値と一致する最初のCVT項目を表示します。
- **\*ALL:**資源定義フィールドの値と一致するすべてのCVT項目を表示します。
- **\*FILE:**資源定義フィールドの値と一致するすべての\*FILE項目を表示します。
- **\*TDQUEUE:**資源定義フィールドの値と一致するすべての\*TDQUEUE 項目を表示します。
- **\*TSQUEUE:**資源定義フィールドの値と一致するすべての\*TSQUEUE 項目を表示します。
- **\*START:**資源定義フィールドの値と一致するすべての\*START 項目を表示します。
- **\*LINK:**資源定義フィールドの値と一致するすべての\*LINK 項目を表示します。

上

---

## 資源 I D (RSRCID)

資源識別コードを入力してください。このフィールドは、必要なCVT項目を見つけるためにコマンド・タイプ・フィールドと一緒に使用されます。

指定できる値は次の通りです：

- **\*FIRST:**コマンド・タイプ・フィールドの値と一致する最初のCVT項目を表示します。
- **\*ALL:**コマンド・タイプ・フィールドの値と一致するすべてのCVT項目を表示します。
- **資源識別コード:** \*TDQUEUEまたは\*STARTのコマンド・タイプの場合は、資源識別コードの最大長は4文字です。コマンド・タイプ\*FILE, \*TSQUEUE ,または\*LINKの場合には、資源識別コードの最大長は8桁です。キーボード上の任意の文字を入力できますが、小文字および特殊文字はアポストロフィで囲まなければなりません。

アポストロフィを入力するための十分なスペースがない時には、追加の文字を入力できるようにする拡張フィールド・サイズを取得するために、最初の文字位置にアンパーサンド(&)を入力してください。ブランクは受け入れられますが、項目が制御領域に対して定義されている時には、ブランクの後の文字は無視されます。たとえば、'AB G'は制御領域内では'AB'として扱われます。

16進数文字はアポストロフィで囲まなければならない、大文字のXが先行していなければなりません。たとえば、X'A1A2A3A4'です。16進数値は受け入れられますが、値が印刷可能文字でない場合には、その項目は制御領域に定義される時に拒否されます。

- **総称 \*rsrcid:** 資源識別コードの総称名を指定してください。総称名はアスタリスク(\*)が後に続く1つまたは複数の文字の文字ストリングです。たとえば、ABC\*です。総称名を指定した場合には、総称名で始まる資源識別コードをもつすべてのCVT項目、および対応するコマンド・タイプ・フィールドの値が表示されます。総称名アスタリスクが含まれていない場合には、システムは完全な資源識別コードであると見なします。

上

---

## 出力の位置 (OUTPUT)

このコマンドからの出力の場所を入力してください。

指定できる値は次の通りです:

- \*: 出力は表示される (対話式ジョブによって要求された場合) か、あるいはジョブ・スプール出力で印刷 (バッチ・ジョブによって要求された場合) されます。
- **\*PRINT:** 出力はジョブ・スプール出力で印刷されます。

上

---

## 例

なし

上

---

## エラー・メッセージ

不明

上



---

## CICS DCTの表示 (DSPCICSDCT)

実行可能場所:

- バッチ・ジョブ (\*BATCH)
- 対話式ジョブ (\*INTERACT)
- バッチ・プログラム (\*BPGM)
- 対話式プログラム (\*IPGM)
- バッチ REXX プロシージャ (\*BREXX)
- 対話式 REXX プロシージャ (\*IREXX)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (\*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

DCT項目を表示するためには、CICS宛先管理テーブル表示(DSPCICSDCT)コマンドを使用してください。この項目は表示しかできません。変更することも削除することもできません。

上

---

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
LIB	ライブラリー	通信名, *LIBL, *CURLIB	オプション, 定位置 1
GROUP	グループ	通信名, *FIRST	オプション, 定位置 2
DEST	宛先	総称名, 名前, *FIRST, *ALL	オプション, 定位置 3
OUTPUT	出力の位置	*, *PRINT	オプション, 定位置 4

上

---

## ライブラリー (LIB)

グループが入っているライブラリーの名前を入力します。

考えられる値は次の通りです。

- \*LIBL: グループが入っている最初のi5/OSライブラリーを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。
- \*CURLIB: 現行ライブラリーにグループが入っています。現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。
- **ライブラリー名:** グループが入っているi5/OSライブラリーの名前を指定してください。

上

---

## グループ (GROUP)

表示するDCT項目が入っているグループの名前を入力してください。

指定できる値は次の通りです：

- **\*FIRST:** CICSグループは指定されません。最初に見つかったCICSグループが使用されます。
- **グループ名:**グループ名は最大10桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## 宛先 (DEST)

表示するDCT項目の宛先識別コードを入力してください。

指定できる値は次の通りです：

- **\*FIRST:**最初のDCT項目を表示します。
- **\*ALL:**すべてのDCT項目を表示します。
- **宛先:**宛先識別コードは最大4桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字 ¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。
- **総称\*宛先:**宛先識別コードの総称名を指定してください。総称名はアスタリスク(\*)が後に続く1つまたは複数の文字の文字ストリングです。たとえば、ABC\*です。総称名を指定した場合には、総称名で始まる識別コードをもつすべてのDCT項目が表示されます。総称名と一緒にアスタリスクが含まれていない場合には、システムは完全な宛先識別コードであると見なします。

上

---

## 出力の位置 (OUTPUT)

このコマンドからの出力の場所を入力してください。

指定できる値は次の通りです：

- **\***:出力は表示される（対話式ジョブによって要求された場合）か、あるいはジョブ・スプール出力で印刷（バッチ・ジョブによって要求された場合）されます。
- **\*PRINT:**出力はジョブ・スプール出力で印刷されます。

上

---

## 例

なし

上

---

## エラー・メッセージ

不明

上





---

## CICS FCTの表示 (DSPCICSFCT)

実行可能場所:

- バッチ・ジョブ (\*BATCH)
- 対話式ジョブ (\*INTERACT)
- バッチ・プログラム (\*BPGM)
- 対話式プログラム (\*IPGM)
- バッチ REXX プロシージャ (\*BREXX)
- 対話式 REXX プロシージャ (\*IREXX)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (\*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

FCT項目を表示するためには、CICSファイル管理テーブル表示(DSPCICSFCT) コマンドを使用してください。この項目は表示しかできません。変更することも、削除することもできません。

上

---

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
LIB	ライブラリー	通信名, *LIBL, *CURLIB	オプション, 定位置 1
GROUP	グループ	通信名, *FIRST	オプション, 定位置 2
FILEID	CICS ファイル	総称名, 名前, *FIRST, *ALL	オプション, 定位置 3
OUTPUT	出力の位置	*, *PRINT	オプション, 定位置 4

上

---

## ライブラリー (LIB)

グループが入っているライブラリーの名前を入力します。

考えられる値は次の通りです。

- \*LIBL: グループが入っている最初のi5/OSライブラリーを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。
- \*CURLIB: 現行ライブラリーにグループが入っています。現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。
- **ライブラリー名:** グループが入っているi5/OSライブラリーの名前を指定してください。

上

---

## グループ (GROUP)

必要なFCT項目が入っているグループの名前を入力してください。

指定できる値は次の通りです：

- **\*FIRST:**グループは指定されません。最初に見つかったグループが使用されます。
- **グループ名:**グループ名は最大10桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## CICS ファイル (FILEID)

表示するFCT項目の名前を入力してください。

指定できる値は次の通りです：

- **\*FIRST:**最初のFCT項目を表示します。
- **\*ALL:**すべてのFCT項目を表示します。
- **ファイル識別コード:**ファイル識別コードは最大8桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @,または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。
- **総称\*フィールド:** CICSファイル識別コードの総称名を指定してください。総称名はアスタリスク(\*)が後に続く1つまたは複数の文字の文字ストリングです。たとえば、ABC\*です。総称名を指定した場合には、総称名で始まるCICSファイル識別コードをもつすべてのCICSファイル管理テーブル項目が示されます。総称（接頭部）名と一緒にアスタリスクが含まれていない場合には、システムは完全なCICSファイル識別コードであると見なします。

上

---

## 出力の位置 (OUTPUT)

このコマンドからの出力の場所を入力してください。

指定できる値は次の通りです：

- **\***:出力は表示される（対話式ジョブによって要求された場合）か、あるいはジョブ・スプール出力で印刷（バッチ・ジョブによって要求された場合）されます。
- **\*PRINT:**出力はジョブ・スプール出力で印刷されます。

上

---

## 例

なし

上

---

## エラー・メッセージ

不明

上



---

## CICS GLTの表示 (DSPCICSGLT)

実行可能場所:

- バッチ・ジョブ (\*BATCH)
- 対話式ジョブ (\*INTERACT)
- バッチ・プログラム (\*BPGM)
- 対話式プログラム (\*IPGM)
- バッチ REXX プロシージャ (\*BREXX)
- 対話式 REXX プロシージャ (\*IREXX)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (\*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

GLT項目を表示するためには、CICSグループ・リスト・テーブル表示(DSPCICSGLT)コマンドを使用してください。この項目は表示しかできません。変更することも削除することもできません。

上

---

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
LIB	ライブラリー	通信名, *LIBL, *CURLIB	オプション, 定位置 1
GROUP	グループ	通信名, *FIRST	オプション, 定位置 2
INSLIB	導入 ライブラリー	総称名, 名前, *FIRST, *ALL, *LIBL, *CURLIB	オプション, 定位置 3
INSGRP	導入 グループ	総称名, 名前, *FIRST, *ALL	オプション, 定位置 4
OUTPUT	出力の位置	*, *PRINT	オプション, 定位置 5

上

---

## ライブラリー (LIB)

グループが入っているライブラリーの名前を入力します。

考えられる値は次の通りです。

- **\*LIBL:** グループが入っている最初のi5/OSライブラリーを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。
- **\*CURLIB:** 現行ライブラリーにグループが入っています。現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。
- **ライブラリー名:** グループが入っているi5/OSライブラリーの名前を指定してください。

上

---

## グループ (GROUP)

GLT項目を表示するグループの名前。

使用できるグループの値は次の通りです：

- **\*FIRST:**グループは指定されません。最初に見つかったグループが使用されます。
- **グループ名:**グループ名は最大10桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## 導入 ライブラリー (INSLIB)

表示するGLT項目の最初の部分の名前。これは、制御領域の開始時に使用するグループが入っているi5/OSライブラリーとしても知られています。

使用可能なINSLIBの値は次の通りです。

- **\*ALL:** INSGRPフィールド値と一致するすべてのGLT項目を表示します。
- **\*FIRST:** INSGRPフィールド値と一致する最初のGLT項目を表示します。
- **\*LIBL:** **"\*LIBL"**が指定されていて、INSGRPフィールドの値と一致するすべてのGLT項目を表示します。
- **\*CURLIB:**指定された**"\*CURLIB"**をもち、INSGRPフィールド値と一致するすべてのGLT項目を表示します。
- **ライブラリー名:**最大長は10桁です。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。
- **総称\*inplib:** System i5ライブラリーの総称名を指定します。総称名はアスタリスク(\*)が後に続く1個以上の文字の文字ストリングです。たとえば、ABC\*です。総称名を指定した場合には、その総称名で始まるSystem i5ライブラリー名で、INSGRPフィールドの値と一致したすべてのGLT項目が表示されます。総称(接頭部)名と一緒にアスタリスクが含まれていない場合には、システムは完全なSystem i5ライブラリー名であると見なします。

上

---

## 導入グループ (INSGRP)

表示するGLT項目の2番目の部分の名前。これは、制御領域の開始時に使用するグループとしても知られています。

使用可能なINSGRPの値は次の通りです：

- **\*ALL:** INSLIBフィールド値と一致するすべてのGLT項目を表示します。
- **\*FIRST:** INSLIBフィールド値と一致する最初のGLT項目を表示します。
- **グループ名:**グループ名は最大10桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。
- **総称\*INSGRP:**グループの総称名を指定してください。総称名はアスタリスク(\*)が後に続く1つまたは複数の文字の文字ストリングです。たとえば、ABC\*です。総称名を指定した場合には、総称名で始まる

グループ名をもつすべてのGLT項目が表示されます。総称（接頭部）名と一緒にアスタリスクが含まれていない場合には、システムは完全なグループ名であると見なします。

上

---

## 出力の位置 (OUTPUT)

このコマンドからの出力の場所を入力してください。

指定できる値は次の通りです:

- \*:出力は表示される（対話式ジョブによって要求された場合）か、あるいはジョブ・スプール出力で印刷（バッチ・ジョブによって要求された場合）されます。
- **\*PRINT**:出力はジョブ・スプール出力で印刷されます。

上

---

## 例

なし

上

---

## エラー・メッセージ

不明

上





---

## CICS JCTの表示 (DSPCICSJCT)

実行可能場所:

- バッチ・ジョブ (\*BATCH)
- 対話式ジョブ (\*INTERACT)
- バッチ・プログラム (\*BPGM)
- 対話式プログラム (\*IPGM)
- バッチ REXX プロシージャ (\*BREXX)
- 対話式 REXX プロシージャ (\*IREXX)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (\*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

JCT項目を表示するためには、CICSジャーナル管理テーブル表示(DSPCICSJCT) コマンドを使用してください。この項目は表示しかできません。変更することも削除することもできません。

上

---

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
LIB	ライブラリー	通信名, *LIBL, *CURLIB	オプション, 定位置 1
GROUP	グループ	通信名, *FIRST	オプション, 定位置 2
JFILE	番号	1-99, *FIRST, *ALL	オプション, 定位置 3
OUTPUT	出力の位置	*, *PRINT	オプション, 定位置 4

上

---

## ライブラリー (LIB)

グループが入っているライブラリーの名前を入力します。

考えられる値は次の通りです。

- \*LIBL: グループが入っている最初のi5/OSライブラリーを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。
- \*CURLIB: 現行ライブラリーにグループが入っています。現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。
- **ライブラリー名:** グループが入っているi5/OSライブラリーの名前を指定してください。

上

---

## グループ (GROUP)

表示するJCT項目が入っているグループの名前を入力してください。

指定できる値は次の通りです：

- **\*FIRST:**グループは指定されません。最初に見つかったグループが使用されます。
- **グループ名:**グループ名は最大10桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## 番号 (JFILE)

表示するJCT項目の名前。

指定できる値は次の通りです：

- **\*FIRST:**最初のJCT項目を表示します。
- **\*ALL:**すべてのJCT項目を表示します。
- **ジャーナル:**1から99までの範囲の数値。

上

---

## 出力の位置 (OUTPUT)

このコマンドからの出力の場所を入力してください。

指定できる値は次の通りです：

- **\***:出力は表示される（対話式ジョブによって要求された場合）か、あるいはジョブ・スプール出力で印刷（バッチ・ジョブによって要求された場合）されます。
- **\*PRINT:**出力はジョブ・スプール出力で印刷されます。

上

---

## 例

なし

上

---

## エラー・メッセージ

不明

上

---

## CICS PCTの表示 (DSPCICSPCT)

実行可能場所:

- バッチ・ジョブ (\*BATCH)
- 対話式ジョブ (\*INTERACT)
- バッチ・プログラム (\*BPGM)
- 対話式プログラム (\*IPGM)
- バッチ REXX プロシージャ (\*BREXX)
- 対話式 REXX プロシージャ (\*IREXX)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (\*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

PCT項目を表示するためには、CICSプログラム管理テーブル表示(DSPCICSPCT) コマンドを使用してください。この項目は表示しかできません。変更することも、削除することもできません。

上

---

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
LIB	ライブラリー	通信名, *LIBL, *CURLIB	オプション, 定位置 1
GROUP	グループ	通信名, *FIRST	オプション, 定位置 2
TRANSID	トランザクション	文字値, *FIRST, *ALL	オプション, 定位置 3
OUTPUT	出力の位置	*, *PRINT	オプション, 定位置 4

上

---

## ライブラリー (LIB)

グループが入っているライブラリーの名前を入力します。

考えられる値は次の通りです。

- \*LIBL: グループが入っている最初のi5/OSライブラリーを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。
- \*CURLIB: 現行ライブラリーにグループが入っています。現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。
- **ライブラリー名:** グループが入っているi5/OSライブラリーの名前を指定してください。

上

---

## グループ (GROUP)

表示するPCT項目が入っているグループの名前を入力してください。

指定できる値は次の通りです：

- **\*FIRST:** CICSグループは指定されません。最初に見つかったCICSグループが使用されます。
- **グループ名:**グループ名は最大10桁の長さとしてすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとしてすることができます。

上

---

## トランザクション (TRANSID)

表示するPCT項目の名前を入力してください。

指定できる値は次の通りです：

- **\*FIRST:**最初のPCT項目を表示します。
- **\*ALL:**すべてのPCT項目を表示します。
- **トランザクションID:**トランザクションIDは最大4桁の長さとしてすることができます。キーボード上の任意の文字を入力できますが、小文字および特殊文字はアポストロフィで囲まなければなりません。

アポストロフィを入力するための十分なスペースがない時には、追加の文字を入力できるようにする拡張フィールド・サイズを取得するために、最初の文字位置にアンパーサンド(&)を入力してください。ブランクは受け入れられますが、項目が制御領域に対して定義されている時には、ブランクの後の文字は無視されます。たとえば、'AB G'は制御領域内では'AB'として扱われます。

16進数文字はアポストロフィで囲まなければならない、大文字のXが先行していなければなりません。たとえば、X'A1A2A3A4'です。16進数値は受け入れられますが、値が印刷可能文字でない場合には、その項目は制御領域に定義される時に拒否されます。

- **総称\*TRANSID:** CICSトランザクション識別コードの総称名を指定してください。総称名はアスタリスク(\*)が後に続く1つまたは複数の文字の文字ストリングです。たとえば、ABC\*です。総称名を指定した場合には、総称名で始まるトランザクション識別コードをもつすべてのPCT項目が表示されます。総称名と一緒にアスタリスクが含まれていない場合には、システムは完全なトランザクション識別コードであると見なします。

上

---

## 出力の位置 (OUTPUT)

このコマンドからの出力の場所を入力してください。

指定できる値は次の通りです：

- **\***:出力は表示される（対話式ジョブによって要求された場合）か、あるいはジョブ・スプール出力で印刷（バッチ・ジョブによって要求された場合）されます。
- **\*PRINT:**出力はジョブ・スプール出力で印刷されます。

上

---

## 例

なし

上

---

## エラー・メッセージ

不明

上



---

## CICS PPTの表示 (DSPCICSPPT)

実行可能場所:

- バッチ・ジョブ (\*BATCH)
- 対話式ジョブ (\*INTERACT)
- バッチ・プログラム (\*BPGM)
- 対話式プログラム (\*IPGM)
- バッチ REXX プロシージャ (\*BREXX)
- 対話式 REXX プロシージャ (\*IREXX)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (\*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

PPT項目を表示するためには、CICS処理プログラム・テーブル表示(DSPCICSPPT) コマンドを使用してください。この項目は表示しかできません。変更することも、削除することもできません。

上

---

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
LIB	ライブラリー	通信名, *LIBL, *CURLIB	オプション, 定位置 1
GROUP	グループ	通信名, *FIRST	オプション, 定位置 2
PGMID	CICS プログラム	総称名, 名前, *FIRST, *ALL	オプション, 定位置 3
OUTPUT	出力の位置	*, *PRINT	オプション, 定位置 4

上

---

## ライブラリー (LIB)

グループが入っているライブラリーの名前を入力します。

考えられる値は次の通りです。

- \*LIBL: グループが入っている最初のi5/OSライブラリーを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。
- \*CURLIB: 現行ライブラリーにグループが入っています。現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。
- **ライブラリー名:** グループが入っているi5/OSライブラリーの名前を指定してください。

上

---

## グループ (GROUP)

表示するPPT項目が入っているグループの名前を入力してください。

指定できる値は次の通りです：

- **\*FIRST:**グループは指定されません。最初に見つかったグループが使用されます。
- **グループ名:**グループ名は最大10桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## CICS プログラム (PGMID)

表示するPPT項目の名前を入力してください。

指定できる値は次の通りです：

- **\*FIRST:**最初のPPT項目を表示します。
- **\*ALL:**すべてのPPT項目を表示します。
- **プログラムID:**プログラムIDは最大8桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。
- **総称\*プログラムID:**プログラムIDの総称名を指定してください。総称名はアスタリスク(\*)が後に続く1つまたは複数の文字の文字ストリングです。たとえば、ABC\*です。総称名を指定した場合には、総称名で始まるプログラムIDをもつすべてのPPT項目が表示されます。総称名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムは完全なプログラムIDであると見なします。

上

---

## 出力の位置 (OUTPUT)

このコマンドからの出力の場所を入力してください。

指定できる値は次の通りです：

- **\***:出力は表示される（対話式ジョブによって要求された場合）か、あるいはジョブ・スプール出力で印刷（バッチ・ジョブによって要求された場合）されます。
- **\*PRINT:**出力はジョブ・スプール出力で印刷されます。

上

---

## 例

なし

上



---

## エラー・メッセージ

不明

上



---

## CICS SITの表示 (DSPCICSSIT)

実行可能場所:

- バッチ・ジョブ (\*BATCH)
- 対話式ジョブ (\*INTERACT)
- バッチ・プログラム (\*BPGM)
- 対話式プログラム (\*IPGM)
- バッチ REXX プロシージャ (\*BREXX)
- 対話式 REXX プロシージャ (\*IREXX)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (\*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

SIT項目を表示するためには、CICSシステム初期設定テーブル表示(DSPCICSSIT) コマンドを使用してください。この項目は表示しかできません。変更することも削除することもできません。

上

---

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
LIB	ライブラリー	通信名, *LIBL, *CURLIB	オプション, 定位置 1
GROUP	グループ	通信名, *FIRST	オプション, 定位置 2
OUTPUT	出力の位置	*, *PRINT	オプション, 定位置 3

上

---

## ライブラリー (LIB)

グループが入っているライブラリーの名前を入力します。

考えられる値は次の通りです。

- \*LIBL: グループが入っている最初のi5/OSライブラリーを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。
- \*CURLIB: 現行ライブラリーにグループが入っています。現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。
- **ライブラリー名:** グループが入っているi5/OSライブラリーの名前を指定してください。

上

---

## グループ (GROUP)

表示するSIT項目が入っているグループの名前を入力してください。

指定できる値は次の通りです:

- **\*FIRST:**グループは指定されません。最初に見つかったグループが使用されます。
- **グループ名:**グループ名は最大10桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## 出力の位置 (OUTPUT)

このコマンドからの出力の場所を入力してください。

指定できる値は次の通りです:

- \*:出力は表示される（対話式ジョブによって要求された場合）か、あるいはジョブ・スプール出力で印刷（バッチ・ジョブによって要求された場合）されます。
- **\*PRINT:**出力はジョブ・スプール出力で印刷されます。

上

---

## 例

なし

上

---

## エラー・メッセージ

不明

上

---

## CICS状況表示 (DSPCICSSTS)

実行可能場所:

- バッチ・ジョブ (\*BATCH)
- 対話式ジョブ (\*INTERACT)
- バッチ・プログラム (\*BPGM)
- 対話式プログラム (\*IPGM)
- バッチ REXX プロシージャ (\*BREXX)
- 対話式 REXX プロシージャ (\*IREXX)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (\*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

このコマンドは、特定の制御領域のCICS資源についての詳細説明を表示または印刷します。

上

---

### パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
CTRLGN	制御領域	文字値	必須, 定位置 1
OPTION	オプション	文字値	必須, 定位置 2
RSC	資源 I D	文字値, <u>*ALL</u>	オプション, 定位置 3
OUTPUT	出力の位置	*PRINT, * _	オプション, 定位置 4

上

---

### 制御領域(CTRLGN)

制御領域の名前

上

---

### オプション(OPTION)

CICS資源のタイプ。

このパラメーターに指定できる値の完全なリストについては、CICSの文書を参照してください。

上

---

## 資源 I D(RSC)

処理する資源名を指定します。

上

---

## 出力の位置(OUTPUT)

出力の位置を指定します。

上

---

## 例

なし

上

---

## エラー・メッセージ

不明

上

---

## CICS TCSの表示 (DSPCICSTCS)

実行可能場所:

- バッチ・ジョブ (\*BATCH)
- 対話式ジョブ (\*INTERACT)
- バッチ・プログラム (\*BPGM)
- 対話式プログラム (\*IPGM)
- バッチ REXX プロシージャ (\*BREXX)
- 対話式 REXX プロシージャ (\*IREXX)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (\*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

TCS項目を表示するためには、CICS端末管理システム・テーブル表示(DSPCICSTCS )コマンドを使用してください。この項目は表示しかできません。変更することも削除することもできません。

上

---

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
LIB	ライブラリー	通信名, *LIBL, *CURLIB	オプション, 定位置 1
GROUP	グループ	通信名, *FIRST	オプション, 定位置 2
SYSID	リモート CICS システム	総称名, 名前, *FIRST, *ALL	オプション, 定位置 3
OUTPUT	出力の位置	*, *PRINT	オプション, 定位置 4

上

---

## ライブラリー (LIB)

グループが入っているライブラリーの名前を入力します。

考えられる値は次の通りです。

- \*LIBL: グループが入っている最初のi5/OSライブラリーを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。
- \*CURLIB: 現行ライブラリーにグループが入っています。現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。
- **ライブラリー名:** グループが入っているi5/OSライブラリーの名前を指定してください。

上

---

## グループ (GROUP)

表示するTCS項目が入っているリモート・グループの名前。

使用できるグループの値は次の通りです：

- **\*FIRST:**グループは指定されません。最初に見つかったグループが使用されます。
- **グループ名:**グループ名は最大10桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## リモート CICS システム (SYSID)

CICS制御領域と通信できるリモートCICSシステムを識別するために使用されるシステム識別コード。これはTCS項目の名前です。

指定できる値は次の通りです：

- **\*FIRST:**最初のTCS項目を表示します。
- **\*ALL:**すべてのTCS項目を表示します。
- **システム識別コード:**システム識別コードは最大4桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @,または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。
- **総称\*SYSID:**システム識別コードの総称名を指定してください。総称名はアスタリスク(\*)が後に続く1つまたは複数の文字の文字ストリングです。たとえば、ABC\*です。総称名を指定した場合には、総称名で始まるシステム識別コードをもつすべてのTCSテーブル項目が表示されます。総称（接頭部）名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムは完全なシステム識別コードであると見なします。

上

---

## 出力の位置 (OUTPUT)

このコマンドからの出力の場所を入力してください。

指定できる値は次の通りです：

- **\***:出力は表示される（対話式ジョブによって要求された場合）か、あるいはジョブ・スプール出力で印刷（バッチ・ジョブによって要求された場合）されます。
- **\*PRINT:**出力はジョブ・スプール出力で印刷されます。

上

---

## 例

なし

上



---

## エラー・メッセージ

不明

上



---

## CICS TCTの表示 (DSPCICSTCT)

実行可能場所:

- バッチ・ジョブ (\*BATCH)
- 対話式ジョブ (\*INTERACT)
- バッチ・プログラム (\*BPGM)
- 対話式プログラム (\*IPGM)
- バッチ REXX プロシージャ (\*BREXX)
- 対話式 REXX プロシージャ (\*IREXX)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (\*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

TCT項目を表示するためには、CICS端末管理テーブル表示(DSPCICSTCT)コマンドを使用してください。この項目は表示しかできません。変更することも削除することもできません。

上

---

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
LIB	ライブラリー	通信名, *LIBL, *CURLIB	オプション, 定位置 1
GROUP	グループ	通信名, *FIRST	オプション, 定位置 2
CICSDEV	CICS装置	総称名, 名前, *FIRST, *ALL	オプション, 定位置 3
OUTPUT	出力の位置	*, *PRINT	オプション, 定位置 4

上

---

## ライブラリー (LIB)

グループが入っているライブラリーの名前を入力します。

考えられる値は次の通りです。

- \*LIBL: グループが入っている最初のi5/OSライブラリーを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。
- \*CURLIB: 現行ライブラリーにグループが入っています。現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。
- **ライブラリー名:** グループが入っているi5/OSライブラリーの名前を指定してください。

上

---

## グループ (GROUP)

表示するTCT項目が入っているグループの名前を入力してください。

使用可能なGROUPの値は次の通りです。

- **\*FIRST:**グループは指定されません。最初に見つかったグループが使用されます。
- **グループ名:**グループ名は最大10桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## CICS装置 (CICSDEV)

表示するTCT項目の名前。これは、装置の処理に使用される端末としても知られています。

使用可能なCICSDEV値は次の通りです。

- **\*FIRST:**最初のTCT項目を表示します。
- **\*ALL:**すべてのTCT項目を表示します。
- **端末ID:**端末IDは最大4桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。
- **総称 \* CICS装置 :** 端末装置の総称名を指定してください。総称名はアスタリスク(\*)が後に続く1つまたは複数の文字の文字ストリングです。たとえば、ABC\*です。総称名を指定した場合には、総称名で始まる端末識別コードをつすべての項目が表示されます。総称名アスタリスクが含まれていない場合には、システムは完全な端末装置であると見なします。

上

---

## 出力の位置 (OUTPUT)

このコマンドからの出力の場所を入力してください。

指定できる値は次の通りです:

- **\***:出力は表示される（対話式ジョブによって要求された場合）か、あるいはジョブ・スプール出力で印刷（バッチ・ジョブによって要求された場合）されます。
- **\*PRINT:**出力はジョブ・スプール出力で印刷されます。

上

---

## 例

なし

上

---

## エラー・メッセージ

不明

上



---

## CICS TSTの表示 (DSPCICSTST)

実行可能場所:

- バッチ・ジョブ (\*BATCH)
- 対話式ジョブ (\*INTERACT)
- バッチ・プログラム (\*BPGM)
- 対話式プログラム (\*IPGM)
- バッチ REXX プロシージャ (\*BREXX)
- 対話式 REXX プロシージャ (\*IREXX)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (\*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

TST項目を表示するためには、CICS一時記憶域テーブル表示(DSPCICSTST)コマンドを使用してください。この項目は表示しかできません。変更することも削除することもできません。

上

---

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
LIB	ライブラリー	通信名, *LIBL, *CURLIB	オプション, 定位置 1
GROUP	グループ	通信名, *FIRST	オプション, 定位置 2
TSQUEUE	待ち行列	総称名, 名前, *FIRST, *ALL	オプション, 定位置 3
OUTPUT	出力の位置	*, *PRINT	オプション, 定位置 4

上

---

## ライブラリー (LIB)

グループが入っているライブラリーの名前を入力します。

考えられる値は次の通りです。

- \*LIBL: グループが入っている最初のi5/OSライブラリーを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。
- \*CURLIB: 現行ライブラリーにグループが入っています。現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。
- **ライブラリー名:** グループが入っているi5/OSライブラリーの名前を指定してください。

上

---

## グループ (GROUP)

表示するTST項目が入っているグループの名前を入力してください。

指定できる値は次の通りです:

- **\*FIRST:**グループは指定されません。最初に見つかったグループが使用されます。
- **グループ名:**グループ名は最大10桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## 待ち行列 (TSQUEUE)

表示するTST項目の名前を入力してください。これは完全名または総称名のいずれかとすることができます。

指定できる値は次の通りです:

- **\*FIRST:**最初のTST項目を表示します。
- **\*ALL:**すべてのTST項目を表示します。
- **待ち行列接頭部:**待ち行列接頭部は最大8桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。
- **総称\*TSQUEUE:**一時記憶域待ち行列の総称名を指定してください。総称名はアスタリスク(\*)が後に続く1つまたは複数の文字の文字ストリングです。たとえば、ABC\*です。総称名を指定した場合には、総称名で始まるすべてのTST項目が表示されます。総称名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムは完全な一時記憶域待ち行列名であると見なします。

上

---

## 出力の位置 (OUTPUT)

このコマンドからの出力の場所を入力してください。

指定できる値は次の通りです:

- **\***:出力は表示される（対話式ジョブによって要求された場合）か、あるいはジョブ・スプール出力で印刷（バッチ・ジョブによって要求された場合）されます。
- **\*PRINT:**出力はジョブ・スプール出力で印刷されます。

上

---

## 例

なし

上



---

## エラー・メッセージ

不明

上



---

## CICSの終了 (ENDCICS)

実行可能場所:

- バッチ・ジョブ (\*BATCH)
- 対話式ジョブ (\*INTERACT)
- バッチ・プログラム (\*BPGM)
- 対話式プログラム (\*IPGM)
- バッチ REXX プロシージャ (\*BREXX)
- 対話式 REXX プロシージャ (\*IREXX)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (\*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

CICS終了(ENDCICS)コマンドは、CICS制御領域を遮断し、そのCICS 制御領域によって処理中の活動状態の作業に対して何を行うかを指定します。

関連したすべてのCICSシェル（ユーザーまたはバッチ）は、CICS制御領域が遮断を完了する前に遮断しなければなりません。CICSユーザー・シェルは不本意な遮断を通知されます。CICS制御領域を遮断しないでCICSユーザー・シェルを遮断するためには、ENDCICSUSR CLコマンドを参照してください。

このコマンドを実行した後に、遮断中のCICS 制御領域と関連している新しいCICSシェルを開始することはできません。

上

---

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
CTRLGN	制御領域	通信名, <u>CICS</u>	オプション, 定位置 1
OPTION	終了方法	<u>*CNTRLD</u> , *IMMED	オプション, 定位置 2
DELAY	遅延時間 (*CNTRLDの場合)	1-99999, <u>*NOLIMIT</u>	オプション, 定位置 3

上

---

## 制御領域 (CTRLGN)

遮断するCICS制御領域の名前。これはユーザーのCICSシステム管理担当者から入手することができます。CICS制御領域の名前はCICS SYSIDとしても知られています。

- **制御領域:** 最初の文字は英字または特殊文字¥, @,または#の1つでなければなりません。残りの文字は英数字または特殊文字¥, @,または#の1つとすることができます。

上

---

## 終了方法 (OPTION)

CICS制御領域を遮断するために使用される方式を識別します。

使用可能なOPTIONの値は次の通りです：

- **\*CNTRLD**: 関連したすべてのCICSシェルは、アイドル状態である時、あるいは現在実行中のCICSトランザクションが完了した時に、自動的に遮断されます。
- **\*IMMED**: 関連したすべてのCICSシェルはただちに遮断されます。これは、実行中のCICSトランザクションは終結処置を実行できないことを意味します。このオプションによって望ましくない結果が生ずることがあり、したがって、このオプションは、制御された遮断の試みが正常に実行されなかった場合にのみ使用しなければなりません。

上

---

## 遅延時間 (\*CNTRLDの場合) (DELAY)

管理されたCICS制御領域の遮断を完了するために使用可能な時間（秒数）を指示します。この時間を超え、CICS制御領域の遮断を完了していない場合には、CICS制御領域と関連したすべての関連のCICSシェルは終了します。

使用可能なDELAYの値は次の通りです：

- **\*NOLIMIT**: 管理された遮断を完了するための時間は制限されません。
- **遅延時間**: 有効な値の範囲は1-99999です。

上

---

## 例

なし

上

---

## エラー・メッセージ

不明

上

## CICSユーザー終了 (ENDCICSUSR)

実行可能場所:

- バッチ・ジョブ (\*BATCH)
- 対話式ジョブ (\*INTERACT)
- バッチ・プログラム (\*BPGM)
- 対話式プログラム (\*IPGM)
- バッチ REXX プロシージャ (\*BREXX)
- 対話式 REXX プロシージャ (\*IREXX)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (\*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

CICSユーザーの終了(ENDCICSUSR)コマンドは、CICSシェルを遮断し、そのCICSシェルによって処理中の活動作業に対して生じる状況を指定します。

CICSシェルと関連したi5/OSジョブのみが終了されますが、基礎となっているi5/OSジョブは活動状態のままとなります。たとえば、i5/OSユーザーがメインメニューからSTRCICSUSRコマンドを出した後で、別のi5/OSセッションからENDCICSUSRを出した場合には、STRCICSUSRを出すのに使用したセッションはメインメニューに戻されます。

上

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
JOB	ジョブ名	修飾ジョブ名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ジョブ名	名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	
CTRLGN	制御領域	通信名	必須, 定位置 2
OPTION	終了方法	*CNTRL, *IMMED	オプション, 定位置 3
DELAY	遅延時間 (*CNTRLの場合)	1-99999, <u>30</u>	オプション, 定位置 4

上

## ジョブ名 (JOB)

遮断されるCICSシェルと関連したi5/OSジョブの名前。CICSシェル・ジョブ修飾子を指定しない場合には、i5システムに現在あるすべてのジョブが単一ジョブ名で検索されます。指定したジョブ名が複数見つかった場合には、メッセージが出され、修飾子付きジョブ名を指定しなければなりません。

使用可能なJOB値は次の通りです。

- **ジョブ名:**遮断されるCICSシェルと関連したi5/OSジョブの名前。

- **ユーザー名:**遮断されるCICSシェルと関連したi5/OSユーザーの名前。
- **ジョブ番号:**遮断されるCICSシェルと関連したi5/OSジョブの番号。

上

---

## 制御領域 (CTRLGN)

CICSシェルと関連したCICS制御領域の名前。制御領域の名前はCICSシステムIDとしても知られています。

- **制御領域:**長さは4桁です。最初の文字は英字または特殊文字¥, @,または#の1つでなければなりません。残りの文字は英数字,あるいは¥, @, または#とすることができます。

上

---

## 終了方法 (OPTION)

CICSシェルを遮断するために使用される方式を識別します。

使用可能なOPTION値は次の通りです。

- **\*CNTRLD:** CICSシェルが使用されていない場合,あるいは現在実行されているCICSトランザクションが完了すると,これが遮断されます。
- **\*IMMED:** CICSシェルは即時に遮断されます。実行されているCICS トランザクションは, 終結処理の実行が許可されていません。このオプションによって望ましくない結果が生ずることがあり,したがって, このオプションは, 制御された遮断が正常に実行されなかった場合にのみ使用しなければなりません。

上

---

## 遅延時間 (\*CNTRLDの場合) (DELAY)

管理されたCICSシェルの遮断を完了するために使用可能な時間(秒数)を指示します。この時間を超え, CICSシェル遮断を完了していない場合には, CICS シェルは即時に終了します。

- **遅延時間:**有効な値は, 1から99999の範囲です。

上

---

## 例

なし

上

---

## エラー・メッセージ

不明

上

---

## CICSグループの導入 (INSCICSGRP)

実行可能場所:

- バッチ・ジョブ (\*BATCH)
- 対話式ジョブ (\*INTERACT)
- バッチ・プログラム (\*BPGM)
- 対話式プログラム (\*IPGM)
- バッチ REXX プロシージャ (\*BREXX)
- 対話式 REXX プロシージャ (\*IREXX)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (\*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

CICSグループ導入(INSCICSGRP)コマンドを使用して、グループ内のテーブルのすべての項目を、活動中のCICS 制御領域用の実行時資源テーブル定義に対して定義してください。

制御領域開始 (STRCICSコマンド) または制御領域に対して前に出された INSCICSGRPコマンドのいずれかを経由して、テーブル項目がすでに実行時資源テーブル定義に定義されている場合には、テーブル項目は、既存の実行時資源テーブル定義が現在使用中でない場合には、それを置き換えます。

このコマンドは、グループの次のテーブルを無視します。

- グループ・リスト・テーブル
- システム初期設定テーブル
- 一時記憶テーブル
- 端末管理システム・テーブル

このコマンドは、CICS制御領域用の実行時資源テーブル定義にすでに定義されている、グループ内のテーブル項目を無視します。

- 宛先管理テーブル
- ファイル管理テーブル
- ジャーナル管理テーブル

上

---

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
CTRLGN	CICS制御領域	通信名	必須, 定位置 1
LIB	ライブラリー	通信名, *LIBL, *CURLIB	必須, 定位置 2
GROUP	グループ	通信名	必須, 定位置 3

上

---

## CICS制御領域 (CTRLGN)

実行時資源テーブル定義に対してテーブル項目を定義する活動CICS制御領域の名前を入力してください。

- **制御領域**: 最大4桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は, 英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## ライブラリー (LIB)

グループが入っているライブラリーの名前を入力してください。考えられる値は次の通りです。

- **\*LIBL**: グループが入っている最初のライブラリーを見つけるために, ライブラリー・リストが使用されます。
- **\*CURLIB**: 現行ライブラリーにグループが入っています。現行ライブラリーが指定されない場合には, QGPLライブラリーが使用されます。
- **ライブラリー名**: グループが入っているライブラリーの名前。

上

---

## グループ (GROUP)

導入するグループの名前を入力してください。

- **グループ名**: グループ名は最大10桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は, 英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## 例

なし

上

---

## エラー・メッセージ

不明

上



---

## CICSテーブルの初期化 (INZCICS)

実行可能場所:

- バッチ・ジョブ (\*BATCH)
- 対話式ジョブ (\*INTERACT)
- バッチ・プログラム (\*BPGM)
- 対話式プログラム (\*IPGM)
- バッチ REXX プロシージャ (\*BREXX)
- 対話式 REXX プロシージャ (\*IREXX)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (\*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

CICS初期設定(INZCICS)コマンドにより、前のリリースのCICS資源定義テーブルを見つけるためにシステム上の指定されたライブラリーがスキャンされます。この時、選択されたライブラリー内のCICSテーブルはCICSの現行リリースに変換されます。

CICSの前のリリースより古いテーブルを含んでいるライブラリーは、変換されず、CICSの現行リリースでは使用できません。

上

---

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
LIB	ライブラリー	名前, <u>*ALL</u>	オプション, 定位置 1

上

---

## ライブラリー (LIB)

変換するテーブルが入っているライブラリーの名前を入力してください。

使用できる値は、次の通りです。

- **\*ALL:** 変換する必要があるテーブルを見つけるために、すべてのライブラリーが検索されます。
- **ライブラリー名:** テーブルが入っているライブラリーの名前を指定します。

上

---

## 例

なし

上

---

## エラー・メッセージ

不明

上

## CICSトレースの印刷 (PRTCICSTRC)

### 実行可能場所:

- バッチ・ジョブ (\*BATCH)
- 対話式ジョブ (\*INTERACT)
- バッチ・プログラム (\*BPGM)
- 対話式プログラム (\*IPGM)
- バッチ REXX プロシージャ (\*BREXX)
- 対話式 REXX プロシージャ (\*IREXX)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (\*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

CICSトレースの印刷(PRTCICSTRC)コマンドは、CICS補助トレース・ユーザー・スペースからジョブ向け報告書を作成します。各種のジョブ明細および間隔時間に基づいて報告書に組み込むか、報告書から除外する項目が選択されます。

上

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
TRCURSPC	補助トレース・ユーザー空間	要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: オブジェクト名	文字値	
	要素 2: ライブラリー名	文字値, *LIBL	
TRCFMT	メッセージ/データ形式	*BASIC, *FULL, *NONE	オプション, 定位置 2
OPTION	トレース項目タイプ	値 (最大 5 回の繰り返し): *ALL, *ENTRY, *ERROR, *EVENT, *EXIT, *USER	オプション, 定位置 3
TRANID	CICSトランザクションID	文字値	オプション, 定位置 4
TERMID	CICS端末ID	文字値	オプション, 定位置 5
TRCNUM	CICSトレース番号	値 (最大 25 回の繰り返し): 16 進値	オプション, 定位置 6
JOBNUM	CICSジョブ番号	10 進数	オプション, 定位置 7
PERIOD	トレースの期間	要素リスト	オプション, 定位置 8
	要素 1: 開始時刻および日付	要素リスト	
	要素 1: 開始時刻	時刻, *AVAIL	
	要素 2: 開始日	日付, *BEGIN	
	要素 3: 終了時刻および日付	要素リスト	
	要素 1: 終了時刻	時刻, *AVAIL	
要素 2: 終了日	日付, *END		

上

---

## 補助トレース・ユーザー空間 (TRCUSRSPC)

報告書が関係する補助トレース・ユーザー・スペース・オブジェクトの名前および位置を指定します。

• **要素1：オブジェクト名：**

補助トレース・テーブル・ユーザー・スペース・オブジェクトの名前を指定してください。

- **オブジェクト名：**補助トレース・テーブル・ユーザー・スペース・オブジェクトの名前。

**要素2：ライブラリー名：**

CICS補助トレース・ユーザー・スペース・オブジェクトが存在するライブラリーの名前を指定してください。

- \*LIBL:CICS補助トレース・ユーザー・スペース・オブジェクトを見つけるためにライブラリー・リストが使用されます。
- **ライブラリー名：**補助トレース・ユーザー・スペース・オブジェクトが存在しているライブラリーの名前。

上

---

## メッセージ／データ形式 (TRCFMT)

この報告書に作成に作成される、形式のタイプを指定します。指定できる値は、次の通りです。

- \*FULL:最大4000バイトまでのすべてのトレース・データが印刷されます。
- \*BASIC:それぞれ32バイトの最大3行のトレース・データが印刷されます。
- \*NONE:トレース・データは印刷されません。

上

---

## トレース項目タイプ (OPTION)

印刷される情報を指定します。次のものを組み合わせて、最大5つまで選択することができます。

- \*ALL:報告書にすべてのトレース項目が選択されます。
- \*ENTRY:報告書にENTRYのマークが付いたすべてのトレース項目が選択されます。
- \*ERROR:報告書にERRORのマークが付いたすべてのトレース項目が選択されます。
- \*EVENT:報告書にEVENTのマークが付いたすべてのトレース項目が選択されます。
- \*EXIT:報告書にEXITのマークが付いたすべてのトレース項目が選択されます。
- \*USER:報告書にUSERのマークが付いたすべてのトレース項目が選択されます。

上

---

## CICSトランザクションID (TRANID)

トレース情報を作成するために使用されるトランザクションIDを指定します。

上

---

## CICS端末ID (TERMID)

トレース情報を作成するために使用される端末IDを指定します。

上

---

## CICSトレース番号 (TRCNUM)

トレース情報を作成するために使用されるトレース番号を指定します。最大25個を指定することができます。

上

---

## CICSジョブ番号 (JOBNUM)

選択するジョブの6桁の番号を指定してください。(必要な場合には、先行ゼロを使用して) 6桁すべてを指定しなければなりません。

上

---

## トレースの期間 (PERIOD)

指定されたユーザー・スペース・オブジェクト中の補助トレース項目が示される時間間隔を指定します。このパラメーターは、それぞれ2つの要素をもつ2つのリストからなります。

### • 要素1：開始時刻

補助トレース項目の収集が開始される時刻を指定するためには、次の値の1つを指定してください。指定された時刻および日付より前に収集されたデータは報告書に含まれません。

- \*AVAIL:指定されたユーザー・スペース・オブジェクト内で、指定された開始日に使用可能な補助トレース項目が示されます。
- **開始時刻**：報告書に組み込まれるデータの収集を開始しなければならない時刻を指定してください。時刻は24時間形式で、時刻区切り記号を付けて（または付けずに）指定することができます。
  - 時刻区切り記号がない場合には、4桁または6桁(HHMMまたはHHMMSS)のSTRINGを指定してください。時、分、秒は、それぞれ2桁でなければなりません（必要な場合には先行ゼロを使用）。
  - 時刻区切り記号付きの場合には、そのジョブで、時、分、秒を区切るのに使用する時刻区切り記号が指定された、5桁または8桁のSTRINGを指定してください。このコマンドをコマンド入力行から入力する場合には、このSTRINGをアポストロフィで囲んで指定しなければなりません。ジョブに指定された区切り記号以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。

### 要素2：開始日

補助トレース項目の収集が開始される日付を指定するためには、次の値の1つを使用します。この日付より前に収集されたデータは報告書に含まれません。

- \*BEGIN:トレース・ファイルの先頭から始まるデータ・レコードが報告書に含まれます。
- **開始日**：開始日を指定してください。日付は、ジョブ日付の形式で指定しなければなりません。

### 要素3：終了時刻

終了時刻を指定するためには、次の値の1つを使用してください。この時刻および日付より後に収集されたデータは報告書に含まれません。

- \*AVAIL:指定された終了日に使用可能なログに記録されたデータが示されます。
- 終了時刻印刷される補助トレース項目を決定する、指定された終了日の終了時刻を指定してください。入力できる時刻の形式については、開始時刻を参照してください。

### 要素4：終了日

データ・レコードの収集を終了する日付を指定するためには、次の値の1つを使用してください。指定された日付および時刻より後に収集されたデータは報告書に含まれません。

- \*END:収集期間の最後の日付および時刻までのデータ・レコードが報告書に含まれます。
- 終了日：補助トレース項目が印刷される終了日を指定してください。日付は、ジョブ日付の形式で指定しなければなりません。

上

---

## 例

なし

上

---

## エラー・メッセージ

不明

上

---

## CICS CVT項目の除去 (RMVCICSCVT)

実行可能場所:

- バッチ・ジョブ (\*BATCH)
- 対話式ジョブ (\*INTERACT)
- バッチ・プログラム (\*BPGM)
- 対話式プログラム (\*IPGM)
- バッチ REXX プロシージャ (\*BREXX)
- 対話式 REXX プロシージャ (\*IREXX)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (\*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

CVTから項目を削除するためには、CICS変換ベクトル・テーブル除去(RMVCICSCVT)コマンドを使用してください。項目が除去される前に確認を求められます。

上

---

### パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
LIB	ライブラリー	通信名, *LIBL, *CURLIB	必須, 定位置 1
GROUP	グループ	通信名, *FIRST	必須, 定位置 2
CMDTYPE	API コマンド タイプ	*FIRST, *ALL, *FILE, *TDQUEUE, *TSQUEUE, *START, *LINK	必須, 定位置 3
RSRCID	資源 ID	文字値, *FIRST, *ALL	必須, 定位置 4

上

---

### ライブラリー (LIB)

グループが入っているライブラリーの名前を入力してください。考えられる値は次の通りです。

- **\*LIBL:** グループが入っている最初のライブラリーを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。
- **\*CURLIB:** 現行ライブラリーにグループが入っています。現行ライブラリーが指定されない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。
- **ライブラリー名:** グループが入っているライブラリーの名前。

上

---

## グループ (GROUP)

除去するCVT項目が入っているグループの名前を入力してください。

指定できる値は次の通りです：

- **\*FIRST:**グループは指定されません。最初に見つかったグループが使用されます。
- **グループ名:**グループ名は最大10桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## API コマンド タイプ (CMDTYPE)

コマンド・タイプを入力してください。このフィールドは、必要なCVT項目を見つけるために資源識別コード・フィールドと一緒に使用されます。

指定できる値は次の通りです：

- **\*FIRST:**資源定義フィールドの値と一致する最初のCVT項目を除去します。
- **\*ALL:**資源定義フィールドの値と一致するすべてのCVT項目を除去します。
- **\*FILE:**資源定義フィールドの値と一致するすべての\*FILE項目を除去します。
- **\*TDQUEUE:**資源定義フィールドの値と一致するすべての\*TDQUEUE 項目を除去します。
- **\*TSQUEUE:**資源定義フィールドの値と一致するすべての\*TSQUEUE 項目を除去します。
- **\*START:**資源定義フィールドの値と一致するすべての\*START 項目を除去します。
- **\*LINK:**資源定義フィールドの値と一致するすべての\*LINK 項目を除去します。

上

---

## 資源 I D (RSRCID)

このフィールドは、必要なCVT項目を見つけるためにコマンド・タイプ・フィールドと一緒に使用されます。

指定できる値は次の通りです：

- **\*FIRST:**コマンド・タイプ・フィールドの値と一致する最初のCVT項目を除去します。
- **\*ALL:**コマンド・タイプ・フィールドの値と一致するすべてのCVT項目を除去します。
- **資源識別コード:** \*TDQUEUEまたは\*STARTのコマンド・タイプの場合は、資源識別コードの最大長は4文字です。コマンド・タイプ\*FILE, \*TSQUEUE ,または\*LINKの場合には、資源識別コードの最大長は8桁です。キーボード上の任意の文字を入力できますが、小文字および特殊文字はアポストロフィで囲まなければなりません。

アポストロフィを入力するための十分なスペースがない時には、追加の文字を入力できるようにする拡張フィールド・サイズを取得するために、最初の文字位置にアンパーサンド(&)を入力してください。ブランクは受け入れられますが、項目が制御領域に対して定義されている時には、ブランクの後の文字は無視されます。たとえば、'AB G'は制御領域内では'AB'として扱われます。



16進数文字はアポストロフィで囲まなければならない、大文字のXが先行していなければなりません。たとえば、X'A1A2A3A4'です。16進数値は受け入れられますが、値が印刷可能文字でない場合には、その項目は制御領域に定義される時に拒否されます。

- **総称 \* rsrcid:** 資源識別コードの総称名を指定してください。総称名はアスタリスク(\*)が後に続く1つまたは複数の文字の文字ストリングです。たとえば、ABC\*です。総称名を指定した場合には、総称名で始まる資源識別コードをもつすべてのCVT項目、および対応するコマンド・タイプ・フィールドの値が表示されます。総称名アスタリスクが含まれていない場合には、システムは完全な資源識別コードであると見なします。

上

---

## 例

なし

上

---

## エラー・メッセージ

不明

上



---

## CICS DCT項目の除去 (RMVCICSDCT)

実行可能場所:

- バッチ・ジョブ (\*BATCH)
- 対話式ジョブ (\*INTERACT)
- バッチ・プログラム (\*BPGM)
- 対話式プログラム (\*IPGM)
- バッチ REXX プロシージャ (\*BREXX)
- 対話式 REXX プロシージャ (\*IREXX)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (\*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

DCTから項目を削除するためには、CICS宛先管理テーブル除去(RMVCICSDCT) コマンドを使用してください。項目が除去される前に確認を求められます。

上

---

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
LIB	ライブラリー	通信名, *LIBL, *CURLIB	必須, 定位置 1
GROUP	グループ	通信名, *FIRST	必須, 定位置 2
DEST	宛先	総称名, 名前, *FIRST, *ALL	必須, 定位置 3

上

---

## ライブラリー (LIB)

グループが入っているライブラリーの名前を入力してください。考えられる値は次の通りです。

- **\*LIBL:** グループが入っている最初のライブラリーを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。
- **\*CURLIB:** 現行ライブラリーにグループが入っています。現行ライブラリーが指定されない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。
- **ライブラリー名:** グループが入っているライブラリーの名前。

上

---

## グループ (GROUP)

除去するDCT項目が入っているグループの名前を入力してください。

指定できる値は次の通りです：

- **\*FIRST:** CICSグループは指定されません。最初に見つかったCICSグループが使用されます。
- **グループ名:**グループ名は最大10桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## 宛先 (DEST)

除去するDCT項目の名前を入力してください。

指定できる値は次の通りです：

- **\*FIRST:**最初のDCT項目を除去します。
- **\*ALL:**すべてのDCT項目を除去します。
- **宛先:**宛先識別コードは最大4桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字 ¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。
- **総称\*宛先:**宛先識別コードの総称名を指定してください。総称名はアスタリスク(\*)が後に続く1つまたは複数の文字の文字ストリングです。たとえば、ABC\*です。総称名を指定した場合には、総称名で始まる識別コードをもつすべてのDCT項目が表示されます。総称名と一緒にアスタリスクが含まれていない場合には、システムは完全な宛先識別コードであると見なします。

上

---

## 例

なし

上

---

## エラー・メッセージ

不明

上

---

## CICS FCT項目の除去 (RMVCICSFCT)

実行可能場所:

- バッチ・ジョブ (\*BATCH)
- 対話式ジョブ (\*INTERACT)
- バッチ・プログラム (\*BPGM)
- 対話式プログラム (\*IPGM)
- バッチ REXX プロシージャ (\*BREXX)
- 対話式 REXX プロシージャ (\*IREXX)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (\*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

FCTから項目を削除するためには、CICSファイル管理テーブル除去(RMVCICSFCT) コマンドを使用してください。項目が除去される前に確認を求められます。

上

---

### パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
LIB	ライブラリー	通信名, *LIBL, *CURLIB	必須, 定位置 1
GROUP	グループ	通信名, *FIRST	必須, 定位置 2
FILEID	CICS ファイル	総称名, 名前, *FIRST, *ALL	必須, 定位置 3

上

---

### ライブラリー (LIB)

グループが入っているライブラリーの名前を入力してください。考えられる値は次の通りです。

- **\*LIBL:** グループが入っている最初のライブラリーを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。
- **\*CURLIB:** 現行ライブラリーにグループが入っています。現行ライブラリーが指定されない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。
- **ライブラリー名:** グループが入っているライブラリーの名前。

上

---

## グループ (GROUP)

削除するFCT項目が入っているグループの名前を入力してください。

指定できる値は次の通りです：

- **\*FIRST:**グループは指定されません。最初に見つかったグループが使用されます。
- **グループ名:**グループ名は最大10桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## CICS ファイル (FILEID)

除去するFCT項目の名前を入力してください。

指定できる値は次の通りです：

- **\*FIRST:**最初のFCT項目を除去します。
- **\*ALL:**すべてのFCT項目を除去します。
- **ファイル識別コード:**ファイル識別コードは最大8桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @,または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。
- **総称\*フィールド:** CICSファイル識別コードの総称名を指定してください。総称名はアスタリスク(\*)が後に続く1つまたは複数の文字の文字ストリングです。たとえば、ABC\*です。総称名を指定した場合には、総称名で始まるCICSファイル識別コードをもつすべてのCICSファイル管理テーブル項目が示されます。総称（接頭部）名と一緒にアスタリスクが含まれていない場合には、システムは完全なCICSファイル識別コードであると見なします。

上

---

## 例

なし

上

---

## エラー・メッセージ

不明

上

---

## CICS GLT項目の除去 (RMVCICSGLT)

実行可能場所:

- バッチ・ジョブ (\*BATCH)
- 対話式ジョブ (\*INTERACT)
- バッチ・プログラム (\*BPGM)
- 対話式プログラム (\*IPGM)
- バッチ REXX プロシージャ (\*BREXX)
- 対話式 REXX プロシージャ (\*IREXX)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (\*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

GLTから項目を削除するためには、CICSグループ・リスト・テーブル除去(RMVCICSGLT)コマンドを使用してください。項目が除去される前に確認を求められます。

上

---

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
LIB	ライブラリー	通信名, *LIBL, *CURLIB	必須, 定位置 1
GROUP	グループ	通信名, *FIRST	必須, 定位置 2
INSLIB	導入 ライブラリー	総称名, 名前, *FIRST, *ALL, *LIBL, *CURLIB	必須, 定位置 3
INSGRP	導入 グループ	総称名, 名前, *FIRST, *ALL	必須, 定位置 4

上

---

## ライブラリー (LIB)

グループが入っているライブラリーの名前を入力してください。考えられる値は次の通りです。

- **\*LIBL:** グループが入っている最初のライブラリーを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。
- **\*CURLIB:** 現行ライブラリーにグループが入っています。現行ライブラリーが指定されない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。
- **ライブラリー名:** グループが入っているライブラリーの名前。

上

---

## グループ (GROUP)

除去するGLT項目が入っているグループの名前。

使用できるグループの値は次の通りです：

- **\*FIRST:** グループは指定されません。見つかった最初のグループが使用されます。
- **グループ名:** グループ名は最大10桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## 導入 ライブラリー (INSLIB)

除去するGLT項目の最初の部分を識別します。これは、制御領域の開始時に使用するグループが入っているi5/OS ライブラリーとしても知られています。

使用可能なINSLIBの値は次の通りです。

- **\*FIRST:** INSGRPフィールド値と一致する最初のGLT項目を除去します。
- **\*ALL:** INSGRPフィールド値と一致するすべてのGLT項目を除去します。
- **\*LIBL:** 指定された"\*LIBL"をもち、INSGRPフィールド値と一致するすべてのGLT項目を除去します。
- **\*CURLIB:** "\*CURLIB"が指定されていて、INSGRPフィールド値と一致するすべてのGLT項目を除去します。
- **ライブラリー名:** 最大長は10桁です。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。
- **総称\*inplib:** System i5ライブラリーの総称名を指定します。総称名はアスタリスク(\*)が後に続く1個以上の文字の文字ストリングです。たとえば、ABC\*です。総称名を指定した場合には、その総称名で始まるSystem i5ライブラリー名で、INSGRPフィールドの値と一致したすべてのGLT項目が表示されます。総称(接頭部)名と一緒にアスタリスクが含まれていない場合には、システムは完全なSystem i5ライブラリー名であると見なします。

上

---

## 導入グループ (INSGRP)

除去するGLT項目の2番目の部分を識別します。これは、制御領域の開始時に使用するグループとしても知られています。

使用可能なINSGRPの値は次の通りです：

- **\*FIRST:** INSLIBフィールド値と一致する最初のGLT項目を除去します。
- **\*ALL:** INSLIBフィールド値と一致するすべてのGLT項目を除去します。
- **グループ名:** グループ名は最大10桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。
- **総称\*INSGRP:** グループの総称名を指定してください。総称名はアスタリスク(\*)が後に続く1つまたは複数の文字の文字ストリングです。たとえば、ABC\*です。総称名を指定した場合には、総称名で始まる



グループ名をもつすべてのGLT項目が表示されます。総称（接頭部）名と一緒にアスタリスクが含まれていない場合には、システムは完全なグループ名であると見なします。

上

---

## 例

なし

上

---

## エラー・メッセージ

不明

上



---

## CICS JCT項目の除去 (RMVCICSJCT)

実行可能場所:

- バッチ・ジョブ (\*BATCH)
- 対話式ジョブ (\*INTERACT)
- バッチ・プログラム (\*BPGM)
- 対話式プログラム (\*IPGM)
- バッチ REXX プロシージャ (\*BREXX)
- 対話式 REXX プロシージャ (\*IREXX)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (\*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

JCTから項目を削除するためには、CICSジャーナル管理テーブル除去(RMVCICSJCT)コマンドを使用してください。項目が除去される前に確認を求められます。

上

---

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
LIB	ライブラリー	通信名, *LIBL, *CURLIB	必須, 定位置 1
GROUP	グループ	通信名, *FIRST	必須, 定位置 2
JFILE	番号	1-99, *FIRST, *ALL	必須, 定位置 3

上

---

## ライブラリー (LIB)

グループが入っているライブラリーの名前を入力してください。考えられる値は次の通りです。

- **\*LIBL:** グループが入っている最初のライブラリーを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。
- **\*CURLIB:** 現行ライブラリーにグループが入っています。現行ライブラリーが指定されない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。
- **ライブラリー名:** グループが入っているライブラリーの名前。

上

---

## グループ (GROUP)

除去するJCT項目が入っているグループの名前を入力してください。

指定できる値は次の通りです：

- **\*FIRST:**グループは指定されません。最初に見つかったグループが使用されます。
- **グループ名:**グループ名は最大10桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## 番号 (JFILE)

除去するJCT項目の名前。

指定できる値は次の通りです：

- **\*FIRST:**最初のJCT項目を除去します。
- **\*ALL:**すべてのJCT項目を除去します。
- **ジャーナル:**1から99までの範囲の数値。

上

---

## 例

なし

上

---

## エラー・メッセージ

不明

上

---

## CICS PCT項目の除去 (RMVCICSPCT)

実行可能場所:

- バッチ・ジョブ (\*BATCH)
- 対話式ジョブ (\*INTERACT)
- バッチ・プログラム (\*BPGM)
- 対話式プログラム (\*IPGM)
- バッチ REXX プロシージャ (\*BREXX)
- 対話式 REXX プロシージャ (\*IREXX)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (\*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

PCTから項目を削除するためには、CICSプログラム管理テーブル除去(RMVCICSPCT)コマンドを使用してください。項目が除去される前に確認を求められます。

上

---

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
LIB	ライブラリー	通信名, *LIBL, *CURLIB	必須, 定位置 1
GROUP	グループ	通信名, *FIRST	必須, 定位置 2
TRANSID	トランザクション	文字値, *FIRST, *ALL	必須, 定位置 3

上

---

## ライブラリー (LIB)

グループが入っているライブラリーの名前を入力してください。考えられる値は次の通りです。

- **\*LIBL:** グループが入っている最初のライブラリーを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。
- **\*CURLIB:** 現行ライブラリーにグループが入っています。現行ライブラリーが指定されない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。
- **ライブラリー名:** グループが入っているライブラリーの名前。

上

---

## グループ (GROUP)

除去するPCT項目が入っているグループの名前を入力してください。

使用できるグループの値は次の通りです：

- **\*FIRST:**グループは指定されません。最初に見つかったグループが使用されます。
- **グループ名:**グループ名は最大10桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## トランザクション (TRANSID)

除去するPCT項目の名前を入力してください。

指定できる値は次の通りです：

- **\*FIRST:**最初のPCT項目を除去します。
- **\*ALL:**すべてのPCT項目を除去します。
- **トランザクションID:**トランザクションIDは最大4桁の長さとすることができます。キーボード上の任意の文字を入力できますが、小文字および特殊文字はアポストロフィで囲まなければなりません。

アポストロフィを入力するための十分なスペースがない時には、追加の文字を入力できるようにする拡張フィールド・サイズを取得するために、最初の文字位置にアンパーサンド(&)を入力してください。ブランクは受け入れられますが、項目が制御領域に対して定義されている時には、ブランクの後の文字は無視されます。たとえば、'AB G'は制御領域内では'AB'として扱われます。

16進数文字はアポストロフィで囲まなければならない、大文字のXが先行していなければなりません。たとえば、X'A1A2A3A4'です。16進数値は受け入れられますが、値が印刷可能文字でない場合には、その項目は制御領域に定義される時に拒否されます。

- **総称\*TRANSID:** CICSトランザクション識別コードの総称名を指定してください。総称名はアスタリスク(\*)が後に続く1つまたは複数の文字の文字ストリングです。たとえば、ABC\*です。総称名を指定した場合には、総称名で始まるトランザクション識別コードをもつすべてのPCT項目が表示されます。総称名と一緒にアスタリスクが含まれていない場合には、システムは完全なトランザクション識別コードであると見なします。

上

---

## 例

なし

上

---

## エラー・メッセージ

不明







---

## CICS PPT項目の除去 (RMVCICSPPT)

実行可能場所:

- バッチ・ジョブ (\*BATCH)
- 対話式ジョブ (\*INTERACT)
- バッチ・プログラム (\*BPGM)
- 対話式プログラム (\*IPGM)
- バッチ REXX プロシージャ (\*BREXX)
- 対話式 REXX プロシージャ (\*IREXX)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (\*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

PPTから項目を削除するためには、CICS処理プログラム・テーブル除去(RMVCICSPPT)コマンドを使用してください。項目が除去される前に確認を求められます。

上

---

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
LIB	ライブラリー	通信名, *LIBL, *CURLIB	必須, 定位置 1
GROUP	グループ	通信名, *FIRST	必須, 定位置 2
PGMID	CICS プログラム	総称名, 名前, *FIRST, *ALL	必須, 定位置 3

上

---

## ライブラリー (LIB)

グループが入っているライブラリーの名前を入力してください。考えられる値は次の通りです。

- **\*LIBL:** グループが入っている最初のライブラリーを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。
- **\*CURLIB:** 現行ライブラリーにグループが入っています。現行ライブラリーが指定されない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。
- **ライブラリー名:** グループが入っているライブラリーの名前。

上

---

## グループ (GROUP)

CICS処理プログラム・テーブル項目を除去するCICSグループの名前。

使用できるグループの値は次の通りです：

- **\*FIRST:** CICSグループは指定されません。最初に見つかったCICSグループが使用されます。
- **グループ名:**グループ名は最大10桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## CICS プログラム (PGMID)

除去するPPT項目の識別コードを入力してください。

指定できる値は次の通りです：

- **\*FIRST:**最初のPPT項目を除去します。
- **\*ALL:**すべてのPPT項目を除去します。
- **プログラムID:**プログラムIDは最大8桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。
- **総称\*プログラムID:**プログラムIDの総称名を指定してください。総称名はアスタリスク(\*)が後に続く1つまたは複数の文字の文字ストリングです。たとえば、ABC\*です。総称名を指定した場合には、総称名で始まるプログラムIDをもつすべてのPPT項目が表示されます。総称名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムは完全なプログラムIDであると見なします。

上

---

## 例

なし

上

---

## エラー・メッセージ

不明

上

---

## CICS SIT項目の除去 (RMVCICSSIT)

実行可能場所:

- バッチ・ジョブ (\*BATCH)
- 対話式ジョブ (\*INTERACT)
- バッチ・プログラム (\*BPGM)
- 対話式プログラム (\*IPGM)
- バッチ REXX プロシージャ (\*BREXX)
- 対話式 REXX プロシージャ (\*IREXX)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (\*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

SITから項目を削除するためには、CICSシステム初期設定テーブル除去(RMVCICSSIT)コマンドを使用してください。項目が除去される前に確認を求められます。

上

---

### パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
LIB	ライブラリー	通信名, *LIBL, *CURLIB	必須, 定位置 1
GROUP	グループ	通信名, *FIRST	必須, 定位置 2

上

---

### ライブラリー (LIB)

グループが入っているライブラリーの名前を入力してください。考えられる値は次の通りです。

- **\*LIBL:** グループが入っている最初のライブラリーを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。
- **\*CURLIB:** 現行ライブラリーにグループが入っています。現行ライブラリーが指定されない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。
- **ライブラリー名:** グループが入っているライブラリーの名前。

上

---

### グループ (GROUP)

除去するSIT項目が入っているグループの名前を入力してください。

指定できる値は次の通りです:

- **\*FIRST:** グループは指定されません。最初に見つかったグループが使用されます。

- **グループ名:**グループ名は最大10桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## 例

なし

上

---

## エラー・メッセージ

不明

上

---

## CICS TCS項目の除去 (RMVCICSTCS)

実行可能場所:

- バッチ・ジョブ (\*BATCH)
- 対話式ジョブ (\*INTERACT)
- バッチ・プログラム (\*BPGM)
- 対話式プログラム (\*IPGM)
- バッチ REXX プロシージャ (\*BREXX)
- 対話式 REXX プロシージャ (\*IREXX)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (\*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

TCSから項目を削除するためには、CICS端末管理システム・テーブル除去(RMVCICSTCS)コマンドを使用してください。項目が除去される前に確認を求められます。

上

---

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
LIB	ライブラリー	通信名, *LIBL, *CURLIB	必須, 定位置 1
GROUP	グループ	通信名, *FIRST	必須, 定位置 2
SYSID	リモート CICS システム	総称名, 名前, *FIRST, *ALL	必須, 定位置 3

上

---

## ライブラリー (LIB)

グループが入っているライブラリーの名前を入力してください。考えられる値は次の通りです。

- **\*LIBL:** グループが入っている最初のライブラリーを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。
- **\*CURLIB:** 現行ライブラリーにグループが入っています。現行ライブラリーが指定されない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。
- **ライブラリー名:** グループが入っているライブラリーの名前。

上

---

## グループ (GROUP)

TCSテーブル項目を除去するリモート・グループの名前。

指定できる値は次の通りです:

- **\*FIRST:**グループは指定されません。最初に見つかったグループが使用されます。
- **グループ名:**グループ名は最大10桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## リモート CICS システム (SYSID)

CICS制御領域と通信できるリモートCICSシステムを識別するために使用されるシステム識別コード。これはTCS項目の名前です。

指定できる値は次の通りです:

- **\*FIRST:**最初のTCSテーブル項目を除去します。
- **\*ALL:**すべてのTCSテーブル項目を除去します。
- **システム識別コード:**システム識別コードは最大4桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @,または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。
- **総称\*SYSID:**システム識別コードの総称名を指定してください。総称名はアスタリスク(\*)が後に続く1つまたは複数の文字の文字ストリングです。たとえば、ABC\*です。総称名を指定した場合には、総称名で始まるシステム識別コードをもつすべてのTCSテーブル項目が表示されます。総称（接頭部）名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムは完全なシステム識別コードであると見なします。

上

---

## 例

なし

上

---

## エラー・メッセージ

不明

上

---

## CICS TCT項目の除去 (RMVCICSTCT)

実行可能場所:

- バッチ・ジョブ (\*BATCH)
- 対話式ジョブ (\*INTERACT)
- バッチ・プログラム (\*BPGM)
- 対話式プログラム (\*IPGM)
- バッチ REXX プロシージャ (\*BREXX)
- 対話式 REXX プロシージャ (\*IREXX)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (\*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

TCTから項目を削除するためには、CICS端末管理テーブル除去(RMVCICSTCT) コマンドを使用してください。項目が除去される前に確認を求められます。

上

---

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
LIB	ライブラリー	通信名, *LIBL, *CURLIB	必須, 定位置 1
GROUP	グループ	通信名, *FIRST	必須, 定位置 2
CICSDEV	CICS装置	総称名, 名前, *FIRST, *ALL	必須, 定位置 3

上

---

## ライブラリー (LIB)

グループが入っているライブラリーの名前を入力してください。考えられる値は次の通りです。

- **\*LIBL:** グループが入っている最初のライブラリーを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。
- **\*CURLIB:** 現行ライブラリーにグループが入っています。現行ライブラリーが指定されない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。
- **ライブラリー名:** グループが入っているライブラリーの名前。

上

---

## グループ (GROUP)

除去するTCT項目が入っているライブラリーの名前を入力してください。

使用可能なGROUPの値は次の通りです。

- **\*FIRST:** CICSグループは指定されません。最初に見つかったグループが使用されます。
- **グループ名:**グループ名は最大10桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## CICS装置 (CICSDEV)

除去するTCT項目の名前。これは、装置の処理に使用される端末として知られています。

使用可能なCICSDEV値は次の通りです。

- **\*FIRST:**最初のTCT項目を除去します。
- **\*ALL:**すべてのTCT項目を除去します。
- **端末ID:**端末IDは最大4桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。
- **総称 \* CICS装置 :** 端末装置の総称名を指定してください。総称名はアスタリスク(\*)が後に続く1つまたは複数の文字の文字ストリングです。たとえば、ABC\*です。総称名を指定した場合には、総称名で始まる端末識別コードをつすべての項目が表示されます。総称名アスタリスクが含まれていない場合には、シスムは完全な端末装置であると見なします。

上

---

## 例

なし

上

---

## エラー・メッセージ

不明

上



---

## CICS TST項目の除去 (RMVVICSTST)

実行可能場所:

- バッチ・ジョブ (\*BATCH)
- 対話式ジョブ (\*INTERACT)
- バッチ・プログラム (\*BPGM)
- 対話式プログラム (\*IPGM)
- バッチ REXX プロシージャ (\*BREXX)
- 対話式 REXX プロシージャ (\*IREXX)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (\*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

TSTから項目を除去するためには、CICS一時記憶テーブル除去(RMVVICSTST) コマンドを使用してください。項目が除去される前に確認を求められます。

上

---

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
LIB	ライブラリー	通信名, *LIBL, *CURLIB	必須, 定位置 1
GROUP	グループ	通信名, *FIRST	必須, 定位置 2
TSQUEUE	待ち行列	総称名, 名前, *FIRST, *ALL	必須, 定位置 3

上

---

## ライブラリー (LIB)

グループが入っているライブラリーの名前を入力してください。考えられる値は次の通りです。

- **\*LIBL:** グループが入っている最初のライブラリーを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。
- **\*CURLIB:** 現行ライブラリーにグループが入っています。現行ライブラリーが指定されない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。
- **ライブラリー名:** グループが入っているライブラリーの名前。

上

---

## グループ (GROUP)

除去するTST項目が入っているグループの名前を入力してください。

指定できる値は次の通りです:

- **\*FIRST:**グループは指定されません。最初に見つかったグループが使用されます。
- **グループ名:**グループ名は最大10桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## 待ち行列 (TSQUEUE)

除去するTST項目の名前を入力してください。これは完全名または総称名のいずれかとすることができます。

指定できる値は次の通りです:

- **\*FIRST:**最初のTST項目を除去します。
- **\*ALL:**すべてのTST項目を除去します。
- **待ち行列接頭部:**待ち行列接頭部は最大8桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。
- **総称\*TSQUEUE:**一時記憶域待ち行列の総称名を指定してください。総称名はアスタリスク(\*)が後に続く1つまたは複数の文字の文字ストリングです。たとえば、ABC\*です。総称名を指定した場合には、総称名で始まるすべてのTST項目が表示されます。総称名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムは完全な一時記憶域待ち行列名であると見なします。

上

---

## 例

なし

上

---

## エラー・メッセージ

不明

上

## CICSグループの保管 (SAVCICSGRP)

実行可能場所:

- バッチ・ジョブ (\*BATCH)
- 対話式ジョブ (\*INTERACT)
- バッチ・プログラム (\*BPGM)
- 対話式プログラム (\*IPGM)
- バッチ REXX プロシージャ (\*BREXX)
- 対話式 REXX プロシージャ (\*IREXX)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (\*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

CICSグループ保管(SAVCICSGRP)コマンドにより、SAVOBJシステム・コマンドを使用することによってライブラリー内の指定されたグループが保管されます。TGTRLS が前のリリース値をもっていると、指定されたグループの資源定義テーブルはQTEMP ライブラリー内のCICSの前のリリースに変換され、その後でQTEMPライブラリーから保管されます。

上

### パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
LIB	ライブラリー	名前	必須, 定位置 1
GROUP	グループ	値 (最大 50 回の繰り返し): 名前, *ALL	必須, 定位置 2
SAVF	保管ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 3
	修飾子 1: 保管ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
TGTRLS	ターゲット・リリース	要素リスト	オプション, 定位置 4
	要素 1: ターゲット・リリース	*CURRENT, *PRV, V5R5M0, V5R4M0, V5R3M0	
	要素 2: ターゲット形式	*TGTRLS, *F550, *F540, *F530, *F520, *F510, *F450, *F440	

上

### ライブラリー (LIB)

保管する特定のグループ (1 つまたは複数) 内のテーブルが入っているi5/OSライブラリーの名前を入力してください。

- **ライブラリー名:**グループが入っているi5/OSライブラリーの名前を指定します。

上

---

## グループ (GROUP)

保管するグループ（1つまたは複数）の名前を入力してください。

指定できる値は、次の通りです。

- **\*ALL:**ライブラリー内のすべてのグループが保管されます。
- **グループ名:**グループの名前は最大10桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字、@,または#の1つでなければなりません。残りの文字は英数字または特殊文字、@,または#の1つとすることができます。

上

---

## 保管ファイル (SAVF)

保管したグループを入れるために使用される保管ファイルの名前を（ライブラリー名／保管ファイル名の形式で）入力してください。保管ファイルは空でなければなりません。

- 次のライブラリー値の1つを指定します。
  - **\*LIBL:**保管ファイルを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。
  - **\*CURLIB:**保管ファイルを見つけるために、ジョブの現行のライブラリー・リストが使用されます。現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。
  - **ライブラリー名:**保管ファイルが入っているライブラリーの名前を指定します。
- **保管ファイル名:**保管ファイルの名前を指定します。

上

---

## ターゲット・リリース (TGTRLS)

CICSグループ・オブジェクトが保管されるオペレーティング・システムのリリース・レベルとCICS資源テーブルの形式の両方を指定します。こうした形式は製品リリースごとに変更され、互換性維持のためのみ存在します。

CICSは、公式には前のリリースを最大2つまでサポートするのみです。

考えられる値は次の通りです。

- 要素 1: ターゲット・リリース

CICSグループと関連したオブジェクトを保管するために使用されるリリースを示します。結果のファイルは、オブジェクトの復元(RSTOBJ)コマンドによって復元できます。

VxRxMxという形式が使用されます。Vxはバージョン、Rxはリリース、Mxはモディフィケーション・レベルです。例えば、V6R1M0はバージョン6リリース1モディフィケーション0となります。

- **\*CURRENT:** ユーザーのシステム上で現在実行中のオペレーティング・システムのリリースで、オブジェクトが使用されます。また、それ以降のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムでもこのオブジェクトを使用することができます。

- \*PRV:オペレーティング・システムの前のリリースのモディフィケーション・レベル0で、オブジェクトが使用されます。また、それ以降のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムでもこのオブジェクトを使用することができます。
- リリース・レベル:リリース・レベルをVxRxMx方式で指定します。指定されたリリースまたは後続のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムでもこのオブジェクトを使用することができます。

有効な値は現行のバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルによって異なり、各新規リリースで変化します。

• 要素2: テーブル形式

資源テーブルの変換後の形式を示します。各形式は、V4R4M0までの、CICSの以前のリリースのいずれかと対応しています。

- この値は、互換性維持の目的でのみ提供されます。
- CICSは、公式には前のリリースを最大2つまでサポートするのみです。
- \*TGTRLS: 使用される形式は、ターゲット・リリースで定義された値と一致します。
- 形式リリース: CICSグループの資源テーブルを変換するために使用される形式を指定します。それぞれ、特定のCICSリリースと対応しており、形式はFvrmであり、F440までです。vはバージョン、rはリリース、mはモディフィケーション・レベルです。例えば、\*F510はCICS V5R1M0のことです。

上

---

## 例

なし

上

---

## エラー・メッセージ

不明

上



---

## CICSの開始 (STRCICS)

実行可能場所:

- バッチ・ジョブ (\*BATCH)
- 対話式ジョブ (\*INTERACT)
- バッチ・プログラム (\*BPGM)
- 対話式プログラム (\*IPGM)
- バッチ REXX プロシージャ (\*BREXX)
- 対話式 REXX プロシージャ (\*IREXX)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (\*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

CICS開始(STRCICS)コマンドは、CICS制御領域を開始し、CICS一時記憶域／一時データ・ファイルの回復方法を指定します。さらに、このコマンドはこの制御領域に見つかった前のリリースのCICS資源定義テーブルに対して生じるイベントを指示します。CICS制御領域は、関連したCICSシェル（バッチまたはユーザー）の実行に先立って完全に開始されていなければなりません。CICSユーザー・シェルを開始するためにはSTRCICSUSR CLコマンドを参照してください。

上

---

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
CTLRGN	制御領域	通信名, <u>CICS</u>	オプション, 定位置 1
STRTYPE	始動のタイプ	*COLD, *EMER, <u>*WARM</u>	オプション, 定位置 2
SITLIB	システム初期設定テーブル	通信名, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	オプション, 定位置 3
SITGRP	システム初期設定グループ	通信名, <u>*FIRST</u>	オプション, 定位置 4
CONVERT	変換	<u>*PROMPT</u> , *CVT, *NOCVT	オプション, 定位置 5

上

---

## 制御領域 (CTLRGN)

開始するCICS制御領域の名前。これはユーザーのCICSシステム管理担当者から入手することができます。CICS制御領域の名前はCICS SYSIDとしても知られています。

**制御領域:** 長さは4桁です。最初の文字は英字または特殊文字¥, @,または#の1つでなければなりません。残りの文字は英数字または特殊文字¥, @,または#の1つとすることができます。

上

---

## 始動のタイプ (STRTYPE)

CICS制御領域が開始された時にCICS一時記憶域および一時データ・ファイルの回復方法を指示します。

STRTYPEが必要なのは\*COLDまたは\*EMER開始を実行する必要がある場合だけです。

使用可能なSTRTYPEの値は次の通りです：

- **\*WARM:** CICS一時記憶域および一時データ・ファイルの回復手順は、CICSシステム初期設定テーブルのTSCTL およびTDCTL のそれぞれの値に基づいています。

TSCTLデータ回復（要素2）値に\*NOが指定された時には、CICS一時記憶域待ち行列が消去されます。

TDCTLデータ回復（要素2）値に\*NOが指定された時には、CICS一時データ待ち行列が消去されます。

TSCTLデータ回復（要素2）値に\*YESが指定されている時には、すべての回復可能および回復不能なCICS一時記憶待ち行列が回復されます。TDCTLデータ回復（要素2）値に\*YESが指定されている時には、すべての回復可能および回復不能なCICS一時データ待ち行列が回復されます。

- **\*COLD:** CICS一時記憶域および一時データ待ち行列が消去されます。
- **\*EMER:** CICS一時記憶待ち行列の回復手順は、CICSシステム初期設定テーブルのTSCTL値に基づいています。CICS一時データ待ち行列の回復手順は、CICSシステム初期設定テーブルのTDCTLの値に基づいています。

TSCTLデータ回復（要素2）値に\*NOが指定された時には、すべてのCICS一時記憶域待ち行列が消去されます。TDCTLデータ回復（要素2）値に\*NOが指定された時には、CICS一時データ待ち行列が消去されます。

TSCTLデータ回復（要素2）値に\*YESが指定されている時には、回復される回復可能なCICS一時記憶域待ち行列は、CICSシステム初期設定テーブルのTSCTL **経過限界**（要素1）値によって管理されます。TDCTLデータ回復（要素2）値に\*YESが指定された時には、すべての回復可能なCICS一時データ待ち行列が回復されます。

上

---

## システム初期設定テーブル (SITLIB)

CICS制御領域を初期設定するために使用するCICSシステム初期設定テーブルが入っているライブラリーの名前。

使用可能なSITLIBの値は次の通りです。

- **\*LIBL:** CICSシステム初期設定テーブルが入っている最初のCICS グループを見つけるためにライブラリー・リストが使用されます。
- **\*CURLIB:** CICSシステム初期設定テーブルが入っているCICS/400グループとして、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。
- **ライブラリー名:** CICSシステム初期設定テーブルが入っているCICSグループの名前を指定してください。

上



---

## システム初期設定グループ (SITGRP)

CICS制御領域を初期設定するために使用されるCICS システム初期設定テーブルが入るCICSグループの名前。

- **\*FIRST:** CICSグループは指定されません。最初に見つかったCICS/400 グループが使用されます。
- **グループ名:** 最大長は10桁です。最初の文字は英字または特殊文字 ¥, @,または#の1つでなければなりません。残りの文字は英数字または特殊文字¥, @,または#の1つとすることができます。

上

---

## 変換 (CONVERT)

CICS制御領域に見つかった前のリリース・テーブルに対して生じるイベントを指示します。前のリリースより古いテーブルは変換されません。

使用可能なCONVERTの値は次の通りです：

- **\*PROMPT:** CICSの前のリリースからのテーブルは、それらが現行のリリースに変換されるかどうかについての操作員の応答が必要です。
- **\*CVT:** CICSの前のリリースからのテーブルは現行のリリースに自動的に変換されます。

変換されるテーブルによって、テーブルに入っているすべてのグループの変換が行なわれます。

- **\*NOCVT** CICSの前のリリースからのテーブルは現行のリリースに自動的に変換されません。

CICSシステム初期設定テーブルがCICSの前のリリースからのものである時には、CICS制御領域は開始されません。他のすべてのテーブルによってCICS/400制御領域を開始できますが、テーブルのデータは無視されます。

上

---

## 例

なし

上

---

## エラー・メッセージ

不明

上



---

## CICSユーザーの開始 (STRCICSUSR)

実行可能場所:

- バッチ・ジョブ (\*BATCH)
- 対話式ジョブ (\*INTERACT)
- バッチ・プログラム (\*BPGM)
- 対話式プログラム (\*IPGM)
- バッチ REXX プロシージャ (\*BREXX)
- 対話式 REXX プロシージャ (\*IREXX)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (\*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

CICSユーザー開始(STRCICSUSR)コマンドは、このコマンドを開始したi5/OS ユーザーの活動CICS制御領域と関連したCICSユーザー・シェルを開始します。またこのコマンドで、CICSユーザー・シェルが開始されている時にCICS トランザクションが開始されるかどうかを指定します。

上

---

### パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
CTRLGN	制御領域	通信名, <u>CICS</u>	オプション, 定位置 1
TRANID	トランザクションID	通信名, *DATA, *NONE	オプション, 定位置 2
DATA	初期TIOAデータ	文字値, *NONE	オプション, 定位置 3

上

---

### 制御領域 (CTRLGN)

CICSユーザー・シェルをもつCICS制御領域の名前が関連付けられます。CICS制御領域の名前はCICSシステムIDとしても知られています。

- **制御領域:**長さは4桁です。最初の文字は英字または特殊文字¥, @,または#の1つでなければなりません。残りの文字は英数字,あるいは¥, @, または#とすることができます。

上

---

### トランザクションID (TRANID)

CICSプログラム処理テーブルに定義されたCICSプログラム識別コードを開始するために使用されるCICSトランザクション識別コードの名前。

使用可能なTRANID値は次の通りです:

- \*NONE: 省略時のCICS画面（ブランクになっている）が表示され、4文字のCICSトランザクション識別コードを入力するようにCICSユーザーにプロンプトを出します。

CICSトランザクションが完了した時に、CICS ユーザー・シェルはユーザーからの次のトランザクションを待機して活動状態になっています。この処理は マルチ・ショット CICSトランザクション環境として知られています。

- \*DATA: DATAパラメーターの最初の4文字が、最初のトランザクションとなるCICSトランザクション識別コードとして使用されることを指定します。シェルは初期トランザクションが完了した後で活動状態になったままなので、これも マルチ・ショット CICS トランザクション環境です。
- **トランザクション識別コード** トランザクション識別コードは最大4桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は英数字または特殊文字¥, @, または#の1つとすることができます。この値の使用は、このCICSトランザクションが完了した時に、CICSユーザー・シェルはSTRCICSUSRコマンドを入力した地点に戻り、他トランザクションは実行されないことを意味します。この処理は 単一ショット トランザクション環境として知られています。

上

---

## 初期TIOAデータ (DATA)

最初のRECEIVEコマンドのCICS端末入出力域(TIOA)の事前準備をするのに使用されるデータを示します。

使用可能なDATA値は次の通りです。

- \*NONE:データはCICSトランザクションに渡されません。
- **初期TIOAデータ:**最長3000文字までとすることができます。以下の制約事項がこの値に適用されます。
  - 先頭文字が\*CICSと等しい場合には、結果は予測不可能となります。
  - TRANID(\*DATA)が指定されている場合には、最初の4文字がトランザクションIDと見なされます。

上

---

## 例

なし

上

---

## エラー・メッセージ

不明

上

---

## CICS CVTの処理 (WRKICSCVT)

実行可能場所:

- バッチ・ジョブ (\*BATCH)
- 対話式ジョブ (\*INTERACT)
- バッチ・プログラム (\*BPGM)
- 対話式プログラム (\*IPGM)
- バッチ REXX プロシージャ (\*BREXX)
- 対話式 REXX プロシージャ (\*IREXX)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (\*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

CVTの項目をリストするためには、CICS変換ベクトル・テーブル処理(WRKICSCVT)コマンドを使用してください。その後で項目を変更、除去、コピー、または表示したり、新しい項目をリストに追加することができます。

上

---

### パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
LIB	ライブラリー	通信名, *LIBL, *CURLIB	オプション, 定位置 1
GROUP	グループ	通信名, *FIRST	オプション, 定位置 2
CMDCYPE	API コマンド タイプ	*FIRST, *ALL, *FILE, *TDQUEUE, *TSQUEUE, *START, *LINK	オプション, 定位置 3
RSRCID	資源 I D	文字値, *FIRST, *ALL	オプション, 定位置 4

上

---

### ライブラリー (LIB)

グループが入っているライブラリーの名前を入力します。

考えられる値は次の通りです。

- **\*LIBL:** グループが入っている最初のi5/OSライブラリーを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。
- **\*CURLIB:** 現行ライブラリーにグループが入っています。現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。
- **ライブラリー名:** グループが入っているi5/OSライブラリーの名前を指定してください。

上

---

## グループ (GROUP)

リストするCVT項目が入っているグループの名前を入力してください。

指定できる値は次の通りです：

- **\*FIRST:**グループは指定されません。最初に見つかったグループが使用されます。
- **グループ名:**グループ名は最大10桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## API コマンド タイプ (CMDTYPE)

コマンド・タイプを入力してください。このフィールドは、リストする項目を選択するために資源識別コード・フィールドと一緒に使用されます。

指定できる値は次の通りです：

- **\*ALL:** RSRCIDフィールド値と一致するすべてのCVT項目をリストします。
- **\*FIRST:** RSRCIDフィールド値と一致する最初のCVT項目をリストします。
- **\*FILE:**すべてのファイル・コマンド項目をリストします。
- **\*TDQUEUE:**すべてのTD待ち行列項目をリストします。
- **\*TSQUEUE:**すべてのTS待ち行列項目をリストします。
- **\*START:**すべての開始コマンド項目をリストします。
- **\*LINK:**すべての関係コマンド項目をリストします。

上

---

## 資源 I D (RSRCID)

資源識別コードを入力してください。このフィールドは、リストするCVT項目を選択するためにコマンド・タイプ・フィールドの値と一緒に使用されます。

指定できる値は次の通りです：

- **\*ALL:**コマンド・タイプ・フィールドの値と一致するすべてのCVT項目をリストします。
- **\*FIRST:**コマンド・タイプ・フィールドの値と一致する最初のCVT項目をリストします。
- **資源識別コード:** \*TDQUEUEまたは\*STARTのコマンド・タイプの場合は、資源識別コードの最大長は4文字です。コマンド・タイプ\*FILE, \*TSQUEUE,または\*LINKの場合には、資源識別コードの最大長は8桁です。キーボード上の任意の文字を入力できますが、小文字および特殊文字はアポストロフィで囲まなければなりません。

アポストロフィを入力するための十分なスペースがない時には、追加の文字を入力できるようにする拡張フィールド・サイズを取得するために、最初の文字位置にアンパーサンド(&)を入力してください。ブランクは受け入れられますが、項目が制御領域に対して定義されている時には、ブランクの後の文字は無視されます。たとえば、'AB G'は制御領域内では'AB'として扱われます。

16進数文字はアポストロフィで囲まなければならない、大文字のXが先行していなければなりません。たとえば、X'A1A2A3A4'です。16進数値は受け入れられますが、値が印刷可能文字でない場合には、その項目は制御領域に定義される時に拒否されます。

- **総称 \* rsrcid:** 資源識別コードの総称名を指定してください。総称名はアスタリスク(\*)が後に続く1つまたは複数の文字の文字ストリングです。たとえば、ABC\*です。総称名を指定した場合には、総称名で始まる資源識別コードをもつすべてのCVT項目、および対応するコマンド・タイプ・フィールドの値が表示されます。総称名アスタリスクが含まれていない場合には、システムは完全な資源識別コードであると見なします。

上

---

## 例

なし

上

---

## エラー・メッセージ

不明

上





---

## CICS DCTの処理 (WRKCICSDCT)

実行可能場所:

- バッチ・ジョブ (\*BATCH)
- 対話式ジョブ (\*INTERACT)
- バッチ・プログラム (\*BPGM)
- 対話式プログラム (\*IPGM)
- バッチ REXX プロシージャ (\*BREXX)
- 対話式 REXX プロシージャ (\*IREXX)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (\*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

DCTの項目をリストするためには、CICS宛先管理テーブル処理(WRKCICSDCT) コマンドを使用してください。リスト中の項目を変更、除去、コピー、または表示したり、あるいはリストに新しい項目を追加することができます。

上

---

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
LIB	ライブラリー	通信名, *LIBL, *CURLIB	オプションル, 定位置 1
GROUP	グループ	通信名, *FIRST	オプションル, 定位置 2
DEST	宛先	総称名, 名前, *FIRST, *ALL	オプションル, 定位置 3

上

---

## ライブラリー (LIB)

グループが入っているライブラリーの名前を入力します。

考えられる値は次の通りです。

- \*LIBL: グループが入っている最初のi5/OSライブラリーを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。
- \*CURLIB: 現行ライブラリーにグループが入っています。現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。
- **ライブラリー名:** グループが入っているi5/OSライブラリーの名前を指定してください。

上

---

## グループ (GROUP)

リストするDCT項目が入っているグループの名前を入力してください。

指定できる値は次の通りです：

- **\*FIRST:**グループは指定されません。最初に見つかったグループが使用されます。
- **グループ名:**グループ名は最大10桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## 宛先 (DEST)

リストするDCT項目の名前を入力してください。この名前は、EXEC CICS 一時データ待ち行列コマンドの中で使用される宛先識別コードでもあります。

指定できる値は次の通りです：

- **\*ALL:**すべてのDCT項目をリストします。
- **\*FIRST:**最初のDCT項目をリストします。
- **宛先:**宛先識別コードは最大4桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字 ¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。
- **総称\*宛先:**宛先識別コードの総称名を指定してください。総称名はアスタリスク(\*)が後に続く1つまたは複数の文字の文字ストリングです。たとえば、ABC\*です。総称名を指定した場合には、総称名で始まる識別コードをもつすべてのDCT項目が表示されます。総称名と一緒にアスタリスクが含まれていない場合には、システムは完全な宛先識別コードであると見なします。

上

---

## 例

なし

上

---

## エラー・メッセージ

不明

上

---

## CICS FCTの処理 (WRKCICSFCT)

実行可能場所:

- バッチ・ジョブ (\*BATCH)
- 対話式ジョブ (\*INTERACT)
- バッチ・プログラム (\*BPGM)
- 対話式プログラム (\*IPGM)
- バッチ REXX プロシージャ (\*BREXX)
- 対話式 REXX プロシージャ (\*IREXX)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (\*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

FCTの項目をリストするためには、CICSファイル管理テーブル処理(WRKCICSFCT) コマンドを使用してください。項目を変更、除去、コピー、または表示するか、あるいは新しい項目をリストに追加することができます。

上

---

### パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
LIB	ライブラリー	通信名, *LIBL, *CURLIB	オプション, 定位置 1
GROUP	グループ	通信名, *FIRST	オプション, 定位置 2
FILEID	CICS ファイル	総称名, 名前, *FIRST, *ALL	オプション, 定位置 3

上

---

### ライブラリー (LIB)

グループが入っているライブラリーの名前を入力します。

考えられる値は次の通りです。

- \*LIBL: グループが入っている最初のi5/OSライブラリーを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。
- \*CURLIB: 現行ライブラリーにグループが入っています。現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。
- **ライブラリー名:** グループが入っているi5/OSライブラリーの名前を指定してください。

上

---

## グループ (GROUP)

リストするFCT項目が入っているグループの名前を入力してください。

指定できる値は次の通りです：

- **\*FIRST:**グループは指定されません。最初に見つかったグループが使用されます。
- **グループ名:**グループ名は最大10桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## CICS ファイル (FILEID)

リストするFCT項目の名前を入力してください。これは、EXEC CICSコマンドの中でファイルを識別するために使用される名前でもあります。

指定できる値は次の通りです：

- **\*ALL:**すべてのFCT項目をリストします。
- **\*FIRST:**最初のFCT項目をリストします。
- **ファイル識別コード:**ファイル識別コードは最大8桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @,または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。
- **総称\*フィールド:** CICSファイル識別コードの総称名を指定してください。総称名はアスタリスク(\*)が後に続く1つまたは複数の文字の文字ストリングです。たとえば、ABC\*です。総称名を指定した場合には、総称名で始まるCICSファイル識別コードをもつすべてのCICSファイル管理テーブル項目が示されます。総称（接頭部）名と一緒にアスタリスクが含まれていない場合には、システムは完全なCICSファイル識別コードであると見なします。

上

---

## 例

なし

上

---

## エラー・メッセージ

不明

上

---

## CICS GLTの処理 (WRKCICSGLT)

実行可能場所:

- バッチ・ジョブ (\*BATCH)
- 対話式ジョブ (\*INTERACT)
- バッチ・プログラム (\*BPGM)
- 対話式プログラム (\*IPGM)
- バッチ REXX プロシージャ (\*BREXX)
- 対話式 REXX プロシージャ (\*IREXX)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (\*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター

例

エラー・メッセージ

GLTの項目をリストするためには、CICSグループ・リスト・テーブル処理(WRKCICSGLT)コマンドを使用してください。項目を除去、コピー、または表示するか、あるいは新しい項目をリストに追加することができます。

上

---

### パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
LIB	ライブラリー	通信名, *LIBL, *CURLIB	オプション, 定位置 1
GROUP	グループ	通信名, *FIRST	オプション, 定位置 2
INSLIB	導入 ライブラリー	総称名, 名前, *FIRST, *ALL, *LIBL, *CURLIB	オプション, 定位置 3
INSGRP	導入 グループ	総称名, 名前, *FIRST, *ALL	オプション, 定位置 4

上

---

### ライブラリー (LIB)

グループが入っているライブラリーの名前を入力します。

考えられる値は次の通りです。

- **\*LIBL:** グループが入っている最初のi5/OSライブラリーを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。
- **\*CURLIB:** 現行ライブラリーにグループが入っています。現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。
- **ライブラリー名:** グループが入っているi5/OSライブラリーの名前を指定してください。

上

---

## グループ (GROUP)

リストするGLT項目が入っているグループの名前を入力してください。

指定できる値は次の通りです：

- **\*FIRST:**グループは指定されません。見つかった最初のグループが使用されます。
- **グループ名:**グループ名は最大10桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @,または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## 導入 ライブラリー (INSLIB)

リストするGLT項目の最初の部分の名前を入力してください。これは、CICS制御領域の開始時に使用するグループが入っているi5/OS ライブラリーとしても知られています。

指定できる値は次の通りです。

- **\*ALL:** INSGRPパラメーター値と一致するすべてのGLT項目をリストします。
- **\*FIRST:** INSGRPパラメーター値と一致する最初のGLT項目をリストします。
- **\*LIBL:**指定された"\*LIBL"をもち、INSGRPパラメーター値と一致するすべてのGLT項目をリストします。
- **\*CURLIB:**指定された"\*CURLIB"をもち、INSGRPパラメーター値と一致するすべてのGLT項目をリストします。
- **ライブラリー名:**最大長は10桁です。最初の文字は英字または特殊文字¥, @,または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。
- **総称\*inslib:** System i5ライブラリーの総称名を指定します。総称名はアスタリスク(\*)が後に続く1個以上の文字の文字ストリングです。たとえば、ABC\*です。総称名を指定した場合には、その総称名で始まるSystem i5ライブラリー名で、INSGRPフィールドの値と一致したすべてのGLT項目が表示されます。総称(接頭部)名と一緒にアスタリスクが含まれていない場合には、システムは完全なSystem i5ライブラリー名であると見なします。

上

---

## 導入グループ (INSGRP)

リストするGLT項目の2番目の部分の名前を入力してください。これは、CICS 制御領域の開始時に使用されるグループとしても知られています。

指定できる値は次の通りです：

- **\*ALL:** INSLIBパラメーター値と一致するすべてのGLT項目をリストします。
- **\*FIRST:** INSLIBパラメーター値と一致する最初のGLT項目をリストします。
- **グループ名:**グループ名は最大10桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @,または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

- **総称\*INSGRP:**グループの総称名を指定してください。総称名はアスタリスク(\*)が後に続く1つまたは複数の文字の文字ストリングです。たとえば、ABC\*です。総称名を指定した場合には、総称名で始まるグループ名をもつすべてのGLT項目が表示されます。総称（接頭部）名と一緒にアスタリスクが含まれていない場合には、システムは完全なグループ名であると見なします。

上

---

## 例

なし

上

---

## エラー・メッセージ

不明

上





---

## CICSグループの処理 (WRKCICSGRP)

実行可能場所:

- バッチ・ジョブ (\*BATCH)
- 対話式ジョブ (\*INTERACT)
- バッチ・プログラム (\*BPGM)
- 対話式プログラム (\*IPGM)
- バッチ REXX プロシージャ (\*BREXX)
- 対話式 REXX プロシージャ (\*IREXX)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (\*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

ライブラリーのすべてのグループをリストするためには、CICSグループ処理(WRKICSGRP)コマンドを使用してください。また、このコマンドによって次のことを実行することができます。

- グループを変更、削除、導入、回復、および保管する。
- 新しいグループを作成する。
- グループと関連したテーブル用にWRKCICSコマンドを呼び出す。

上

---

### パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
LIB	ライブラリー	通信名, *LIBL, *CURLIB	オプション, 定位置 1
GROUP	グループ	通信名, *FIRST, *ALL	オプション, 定位置 2

上

---

### ライブラリー (LIB)

グループを入れるライブラリーの名前を入力してください。

指定できる値は次の通りです。

- **\*LIBL:** ライブラリー・リストに指定されているライブラリーに入っているすべてのグループを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。
- **\*CURLIB:** 現行ライブラリーにグループが入っています。現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。
- **ライブラリー名:** グループが入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

---

## グループ (GROUP)

処理するグループの名前を入力してください。

指定できる値は次の通りです。

- **\*ALL:** ライブラリーと関連したすべてのグループがリストされます。
- **\*FIRST:** グループは指定されません。最初に見つかったグループが使用されます。
- **グループ名:** グループ名は最大10桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## 例

なし

上

---

## エラー・メッセージ

不明

上

---

## CICS JCTの処理 (WRKCICSJCT)

実行可能場所:

- バッチ・ジョブ (\*BATCH)
- 対話式ジョブ (\*INTERACT)
- バッチ・プログラム (\*BPGM)
- 対話式プログラム (\*IPGM)
- バッチ REXX プロシージャ (\*BREXX)
- 対話式 REXX プロシージャ (\*IREXX)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (\*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

JCTの項目をリストするためには、CICSジャーナル管理テーブル処理(WRKCICSJCT)コマンドを使用してください。リスト内の項目を変更、除去、コピー、または表示するか、あるいは新しい項目をリストに追加することができます。

上

---

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
LIB	ライブラリー	通信名, *LIBL, *CURLIB	オプション, 定位置 1
GROUP	グループ	通信名, *FIRST	オプション, 定位置 2
JFILE	番号	1-99, *FIRST, *ALL	オプション, 定位置 3

上

---

## ライブラリー (LIB)

グループが入っているライブラリーの名前を入力します。

考えられる値は次の通りです。

- \*LIBL: グループが入っている最初のi5/OSライブラリーを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。
- \*CURLIB: 現行ライブラリーにグループが入っています。現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。
- **ライブラリー名:** グループが入っているi5/OSライブラリーの名前を指定してください。

上

---

## グループ (GROUP)

リストするJCT項目が入っているグループの名前を入力してください。

指定できる値は次の通りです：

- **\*FIRST:**グループは指定されません。最初に見つかったグループが使用されます。
- **グループ名:**グループ名は最大10桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## 番号 (JFILE)

リストするJCT項目の名前を入力してください。これは、ファイルの自動ジャーナル処理に使用されるジャーナル番号でもあります。

指定できる値は次の通りです：

- **\*ALL:**すべてのJCT項目をリストします。
- **\*FIRST:**最初のJCT項目をリストします。
- **ジャーナル:**1から99までの範囲の数値。

上

---

## 例

なし

上

---

## エラー・メッセージ

不明

上

---

## CICS PCTの処理 (WRKCICSPCT)

実行可能場所:

- バッチ・ジョブ (\*BATCH)
- 対話式ジョブ (\*INTERACT)
- バッチ・プログラム (\*BPGM)
- 対話式プログラム (\*IPGM)
- バッチ REXX プロシージャ (\*BREXX)
- 対話式 REXX プロシージャ (\*IREXX)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (\*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

PCTの項目をリストするためには、CICSプログラム管理テーブル処理(WRKCICSPCT)コマンドを使用してください。リスト中の項目を変更、除去、コピー、または表示したり、あるいは新しい項目を追加することができます。

上

---

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
LIB	ライブラリー	通信名, *LIBL, *CURLIB	オプション, 定位置 1
GROUP	グループ	通信名, *FIRST	オプション, 定位置 2
TRANSID	トランザクション	文字値, *FIRST, *ALL	オプション, 定位置 3

上

---

## ライブラリー (LIB)

グループが入っているライブラリーの名前を入力します。

考えられる値は次の通りです。

- \*LIBL: グループが入っている最初のi5/OSライブラリーを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。
- \*CURLIB: 現行ライブラリーにグループが入っています。現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。
- **ライブラリー名:** グループが入っているi5/OSライブラリーの名前を指定してください。

上

---

## グループ (GROUP)

リストするPCT項目が入っているグループの名前を入力してください。

指定できる値は次の通りです：

- **\*FIRST:**グループは指定されません。最初に見つかったグループが使用されます。
- **グループ名:**グループ名は最大10桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## トランザクション (TRANSID)

リストするPCT項目の名前を入力してください。これは、CICSプログラムを開始するEXEC CICSコマンドの中で使用されるトランザクション識別コードです。プログラムはPPTに定義されていなければなりません。

指定できる値は次の通りです：

- **\*ALL:**すべてのPCT項目をリストします。
- **\*FIRST:**最初のPCT項目をリストします。
- **トランザクションID:**トランザクションIDは最大4桁の長さとすることができます。キーボード上の任意の文字を入力できますが、小文字および特殊文字はアポストロフィで囲まなければなりません。

アポストロフィを入力するための十分なスペースがない時には、追加の文字を入力できるようにする拡張フィールド・サイズを取得するために、最初の文字位置にアンパーサンド(&)を入力してください。ブランクは受け入れられますが、項目が制御領域に対して定義されている時には、ブランクの後の文字は無視されます。たとえば、'AB G'は制御領域内では'AB'として扱われます。

16進数文字はアポストロフィで囲まなければならず、大文字のXが先行していなければなりません。たとえば、X'A1A2A3A4'です。16進数値は受け入れられますが、値が印刷可能文字でない場合には、その項目は制御領域に定義される時に拒否されます。

- **総称\*TRANSID:** CICSトランザクション識別コードの総称名を指定してください。総称名はアスタリスク(\*)が後に続く1つまたは複数の文字の文字ストリングです。たとえば、ABC\*です。総称名を指定した場合には、総称名で始まるトランザクション識別コードをもつすべてのPCT項目が表示されます。総称名と一緒にアスタリスクが含まれていない場合には、システムは完全なトランザクション識別コードであると見なします。

上

---

## 例

なし

上

---

## エラー・メッセージ

不明

上





---

## CICS PPTの処理 (WRKCICSPPT)

実行可能場所:

- バッチ・ジョブ (\*BATCH)
- 対話式ジョブ (\*INTERACT)
- バッチ・プログラム (\*BPGM)
- 対話式プログラム (\*IPGM)
- バッチ REXX プロシージャ (\*BREXX)
- 対話式 REXX プロシージャ (\*IREXX)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (\*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

PPTの項目をリストするためには、CICS処理プログラム・テーブル処理(WRKCICSPPT)コマンドを使用してください。リスト中の項目を変更、除去、コピー、または表示したり、あるいは新しい項目を追加することができます。

上

---

### パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
LIB	ライブラリー	通信名, *LIBL, *CURLIB	オプション, 定位置 1
GROUP	グループ	通信名, *FIRST	オプション, 定位置 2
PGMID	CICS プログラム	総称名, 名前, *FIRST, *ALL	オプション, 定位置 3

上

---

### ライブラリー (LIB)

グループが入っているライブラリーの名前を入力します。

考えられる値は次の通りです。

- \*LIBL: グループが入っている最初のi5/OSライブラリーを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。
- \*CURLIB: 現行ライブラリーにグループが入っています。現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。
- **ライブラリー名:** グループが入っているi5/OSライブラリーの名前を指定してください。

上

---

## グループ (GROUP)

リストするPPT項目が入っているグループの名前を入力してください。

指定できる値は次の通りです：

- **\*FIRST:**グループは指定されません。最初に見つかったグループが使用されます。
- **グループ名:**グループ名は最大10桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## CICS プログラム (PGMID)

リストするPPT項目の名前を入力してください。これは、i5/OSプログラム・オブジェクトを開始するために使用されるプログラム識別コードです。

指定できる値は次の通りです。

- **\*ALL:**すべてのPPT項目をリストします。
- **\*FIRST:**最初のPPT項目をリストします。
- **プログラムID:**プログラムIDは最大8桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。
- **総称\*プログラムID:**プログラムIDの総称名を指定してください。総称名はアスタリスク(\*)が後に続く1つまたは複数の文字の文字ストリングです。たとえば、ABC\*です。総称名を指定した場合には、総称名で始まるプログラムIDをもつすべてのPPT項目が表示されます。総称名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムは完全なプログラムIDであると見なします。

上

---

## 例

なし

上

---

## エラー・メッセージ

不明

上

---

## CICS SITの処理 (WRKCICSSIT)

実行可能場所:

- バッチ・ジョブ (\*BATCH)
- 対話式ジョブ (\*INTERACT)
- バッチ・プログラム (\*BPGM)
- 対話式プログラム (\*IPGM)
- バッチ REXX プロシージャ (\*BREXX)
- 対話式 REXX プロシージャ (\*IREXX)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (\*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

SIT項目をリストするためには、CICSシステム初期設定テーブル処理(WRKCICSSIT)コマンドを使用してください。項目を変更、除去、コピー、または表示することができます。

上

---

### パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
LIB	ライブラリー	通信名, *LIBL, *CURLIB	オプション, 定位置 1
GROUP	グループ	通信名, *FIRST	オプション, 定位置 2

上

---

### ライブラリー (LIB)

グループが入っているライブラリーの名前を入力します。

考えられる値は次の通りです。

- \*LIBL: グループが入っている最初のi5/OSライブラリーを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。
- \*CURLIB: 現行ライブラリーにグループが入っています。現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。
- **ライブラリー名:** グループが入っているi5/OSライブラリーの名前を指定してください。

上

---

## ライブラリー (GROUP)

リストするSIT項目が入っているグループの名前を入力してください。

指定できる値は次の通りです:

- **\*FIRST:**グループは指定されません。最初に見つかったグループが使用されます。
- **グループ名:**グループ名は最大10桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## 例

なし

上

---

## エラー・メッセージ

不明

上

---

## CICS状況処理 (WRKCICSSTS)

実行可能場所:

- バッチ・ジョブ (\*BATCH)
- 対話式ジョブ (\*INTERACT)
- バッチ・プログラム (\*BPGM)
- 対話式プログラム (\*IPGM)
- バッチ REXX プロシージャ (\*BREXX)
- 対話式 REXX プロシージャ (\*IREXX)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (\*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

このコマンドは、活動状態のCICS制御領域のリストを表示または印刷し、これらの制御領域と関連した資源を管理することができます。

上

---

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
CTRLGN	制御領域	総称名, 名前, *ALL	必須, 定位置 1
OPTION	オプション	文字値	オプション, 定位置 2
RSC	資源 I D	文字値, *ALL	オプション, 定位置 3
OUTPUT	出力の位置	*PRINT, * _	オプション, 定位置 4

上

---

## 制御領域(CTRLGN)

制御領域の名前

上

---

## オプション(OPTION)

CICS資源のタイプ。

このパラメーターに指定できる値の完全なリストについては、CICSの文書を参照してください。

省略時の値は\*SELECTであり、これによりCTRLGNパラメーターで指定された制御領域のリストが表示されます。

\*SELECTは、CTRLGNパラメーターに総称値がある場合にのみ使用可能なオプションです。

上

---

## 資源 I D(RSC)

処理する資源名を指定します。

上

---

## 出力の位置(OUTPUT)

出力の位置を指定します。

上

---

## 例

なし

上

---

## エラー・メッセージ

不明

上

---

## CICS TCSの処理 (WRKCICSTCS)

実行可能場所:

- バッチ・ジョブ (\*BATCH)
- 対話式ジョブ (\*INTERACT)
- バッチ・プログラム (\*BPGM)
- 対話式プログラム (\*IPGM)
- バッチ REXX プロシージャ (\*BREXX)
- 対話式 REXX プロシージャ (\*IREXX)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (\*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

TCSテーブルの項目をリストするためには、CICS端末管理システム・テーブル処理(WRKICSTCS)コマンドを使用してください。項目を変更、除去、コピー、または表示したり、あるいは新しい項目をリストに追加することができます。

上

---

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
LIB	ライブラリー	通信名, *LIBL, *CURLIB	オプション, 定位置 1
GROUP	グループ	通信名, *FIRST	オプション, 定位置 2
SYSID	リモート CICS システム	総称名, 名前, *FIRST, *ALL	オプション, 定位置 3

上

---

## ライブラリー (LIB)

グループが入っているライブラリーの名前を入力します。

考えられる値は次の通りです。

- \*LIBL: グループが入っている最初のi5/OSライブラリーを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。
- \*CURLIB: 現行ライブラリーにグループが入っています。現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。
- **ライブラリー名:** グループが入っているi5/OSライブラリーの名前を指定してください。

上

---

## グループ (GROUP)

リストするTCSテーブル項目が入っているグループの名前を入力してください。

指定できる値は次の通りです:

- **\*FIRST:**グループは指定されません。最初に見つかったグループが使用されます。
- **グループ名:**グループ名は最大10桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## リモート CICS システム (SYSID)

リストするTCSテーブル項目の名前を入力してください。これは、リモートCICSシステムを識別するために使用されるシステム識別コードです。

指定できる値は次の通りです:

- **\*ALL:**すべてのTCS項目をリストします。
- **\*FIRST:**最初のTCS項目をリストします。
- **システム識別コード:**システム識別コードは最大4桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @,または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。
- **総称\*SYSID:**システム識別コードの総称名を指定してください。総称名はアスタリスク(\*)が後に続く1つまたは複数の文字の文字ストリングです。たとえば、ABC\*です。総称名を指定した場合には、総称名で始まるシステム識別コードをもつすべてのTCSテーブル項目が表示されます。総称（接頭部）名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムは完全なシステム識別コードであると見なします。

上

---

## 例

なし

上

---

## エラー・メッセージ

不明

上



---

## CICS TCTの処理 (WRKCICSTCT)

実行可能場所:

- バッチ・ジョブ (\*BATCH)
- 対話式ジョブ (\*INTERACT)
- バッチ・プログラム (\*BPGM)
- 対話式プログラム (\*IPGM)
- バッチ REXX プロシージャ (\*BREXX)
- 対話式 REXX プロシージャ (\*IREXX)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (\*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

TCTの項目をリストするためには、CICS端末管理テーブル処理(WRKCICSTCT) コマンドを使用してください。リスト中の項目を変更、除去、コピー、または表示したり、あるいはリストに新しい項目を追加することができます。

上

---

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
LIB	ライブラリー	通信名, *LIBL, *CURLIB	オプションル, 定位置 1
GROUP	グループ	通信名, *FIRST	オプションル, 定位置 2
CICSDEV	CICS装置	総称名, 名前, *FIRST, *ALL	オプションル, 定位置 3

上

---

## ライブラリー (LIB)

グループが入っているライブラリーの名前を入力します。

考えられる値は次の通りです。

- \*LIBL: グループが入っている最初のi5/OSライブラリーを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。
- \*CURLIB: 現行ライブラリーにグループが入っています。現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。
- **ライブラリー名:** グループが入っているi5/OSライブラリーの名前を指定してください。

上

---

## グループ (GROUP)

リストするTCT項目が入っているグループの名前を入力してください。

指定できる値は次の通りです:

- **\*FIRST:**グループは指定されません。最初に見つかったグループが使用されます。
- **グループ名:**グループ名は最大10桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## CICS装置 (CICSDEV)

リストするTCT項目の名前を入力してください。これは端末の名前です。

指定できる値は次の通りです:

- **\*ALL:**すべてのTCT項目をリストします。
- **\*FIRST:**最初のTCT項目をリストします。
- **端末ID:**端末IDは最大4桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。
- **総称 \* CICS装置 :** 端末装置の総称名を指定してください。総称名はアスタリスク(\*)が後に続く1つまたは複数の文字の文字ストリングです。たとえば、ABC\*です。総称名を指定した場合には、総称名で始まる端末識別コードをつすべての項目が表示されます。総称名アスタリスクが含まれていない場合には、シスムは完全な端末装置であると見なします。

上

---

## 例

なし

上

---

## エラー・メッセージ

不明

上

---

## CICS TSTの処理 (WRKCICSTST)

実行可能場所:

- バッチ・ジョブ (\*BATCH)
- 対話式ジョブ (\*INTERACT)
- バッチ・プログラム (\*BPGM)
- 対話式プログラム (\*IPGM)
- バッチ REXX プロシージャ (\*BREXX)
- 対話式 REXX プロシージャ (\*IREXX)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (\*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

TSTの項目をリストするためには、CICS一時記憶テーブル処理(WRKCICSTST) コマンドを使用してください。項目を変更、除去、コピー、および表示するか、あるいはリストに新しい項目を追加することができます。

上

---

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
LIB	ライブラリー	通信名, *LIBL, *CURLIB	オプションル, 定位置 1
GROUP	グループ	通信名, *FIRST	オプションル, 定位置 2
TSQUEUE	待ち行列	総称名, 名前, *FIRST, *ALL	オプションル, 定位置 3

上

---

## ライブラリー (LIB)

グループが入っているライブラリーの名前を入力します。

考えられる値は次の通りです。

- \*LIBL: グループが入っている最初のi5/OSライブラリーを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。
- \*CURLIB: 現行ライブラリーにグループが入っています。現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。
- **ライブラリー名:** グループが入っているi5/OSライブラリーの名前を指定してください。

上

---

## グループ (GROUP)

リストするTST項目が入っているグループの名前を入力してください。

指定できる値は次の通りです:

- **\*FIRST:**グループは指定されません。最初に見つかったグループが使用されます。
- **グループ名:**グループ名は最大10桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @, または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。

上

---

## 待ち行列 (TSQUEUE)

リストするTST項目の名前を入力してください。これは一時記憶域EXEC CICSコマンドの中で使用される名前です。

指定できる値は次の通りです:

- **\*ALL:**すべてのTST項目をリストします。
- **\*FIRST:**最初のTST項目をリストします。
- **待ち行列接頭部:**待ち行列接頭部は最大8桁の長さとすることができます。最初の文字は英字または特殊文字¥, @,または#の1つでなければなりません。残りの文字は、英数字または特殊文字¥, @, #の1つとすることができます。
- **総称\*TSQUEUE:**一時記憶域待ち行列の総称名を指定してください。総称名はアスタリスク(\*)が後に続く1つまたは複数の文字の文字ストリングです。たとえば、ABC\*です。総称名を指定した場合には、総称名で始まるすべてのTST項目が表示されます。総称名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムは完全な一時記憶域待ち行列名であると見なします。

上

---

## 例

なし

上

---

## エラー・メッセージ

不明

上

---

## 付録. 特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-8711  
東京都港区六本木 3-2-12  
日本アイ・ビー・エム株式会社  
法務・知的財産  
知的財産権ライセンス渉外

**以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。** IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation  
Software Interoperability Coordinator, Department YBWA  
3605 Highway 52 N  
Rochester, MN 55901  
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、IBM 機械コードのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生的創作物にも、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

© (お客様の会社名) (西暦年). このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。 © Copyright IBM Corp. \_年を入れる\_. All rights reserved.

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

---

## プログラミング・インターフェース情報

本書 (CICS Transaction Server for i5/OS コマンド) には、プログラムを作成するユーザーが IBM CICS Transaction Server for i5/OS のサービスを使用するためのプログラミング・インターフェースが記述されています。

---

## 商標

以下は、International Business Machines Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Advanced Function Printing  
AFP  
AS/400  
CICS  
COBOL/400  
C/400  
DataPropagator  
DB2  
Distributed Relational Database Architecture  
Lotus Domino  
DRDA  
IBM  
Infoprint  
InfoWindow  
i5/OS  
iSeries  
Integrated Language Environment  
Lotus  
LPDA  
OfficeVision  
Print Services Facility  
RPG/400  
System i  
System x  
SystemView  
System/36  
TCS  
Tivoli  
WebSphere  
z/OS

Adobe、Adobe ロゴ、PostScript、および PostScript ロゴは、米国およびその他の国における Adobe Systems Incorporated の商標または登録商標です。

Intel、Intel (ロゴ)、Intel Inside、Intel Inside (ロゴ)、Intel Centrino、Intel Centrino (ロゴ)、Celeron、Intel Xeon、Intel SpeedStep、Itanium、Pentium は、Intel Corporation または子会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標です。



UNIX は、The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

---

## 使用条件

これらの資料は、以下の条件に同意していただける場合に限りご使用いただけます。

**個人使用:** これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布 (頒布、送信を含む) または表示 (上映を含む) することはできません。

**商業的使用:** これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示することはできません。

ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。

IBM は、これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。

---

## コードに関するライセンス情報および特記事項

IBM は、お客様に、すべてのプログラム・コードのサンプルを使用することができる非独占的な著作使用権を許諾します。お客様は、このサンプル・コードから、お客様独自の特別のニーズに合わせた類似のプログラムを作成することができます。

強行法規で除外を禁止されている場合を除き、IBM、そのプログラム開発者、および供給者は「プログラム」および「プログラム」に対する技術的サポートがある場合にはその技術的サポートについて、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、IBM および IBM のサプライヤーならびに IBM ビジネス・パートナーは、その予見の有無を問わず発生した以下のものについて賠償責任を負いません。

1. データの喪失、または損傷。
2. 直接損害、特別損害、付随的損害、間接損害、または経済上の結果的損害
3. 逸失した利益、ビジネス上の収益、あるいは節約すべかりし費用

国または地域によっては、法律の強行規定により、上記の責任の制限が適用されない場合があります。







Printed in Japan